# 10·5 K-1 GP開幕戦でホースト（スリータイム・チャンピオン）VSサップ（ビースト）濃厚！

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年10月10日発行（毎月第2・第4木曜日発行）第4巻・20号・通算79号

# SRS-DX

Special Ring Side

No.79
2002
10·10
毎月第2·4木曜発売
定価680YEN

この男の
パワー（圧力）は
もう誰も
止められない

サップ、
K-1GPと
新日本ドームに
殴り込み

# 今や史上最強のジャンル荒らしだ！

9·7 DEEP 2001有明大会 詳報！

神田INSビル8F　電話／03-3295-4445
発売所・（株）扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号
本体648円

K-1 JAPANシリーズ2002
K-1 ANDY SPIRITS
JAPAN GP決勝戦
9・22★大阪城ホール

# K-1の侵略者、サップ

ボブ・サップの突進に、さすがのマルセイユの悪童も背中を見せてしまう始末。この怪物、どこまで強いんだ

## アビディを子供扱い。う〜ん、残念。特別レフェリー、館長の出番なし

◀K—1ジャパン大阪初上陸！ 会場となった大阪城ホールには、11500人の観客が集まった

◀サップvsアビディ戦には、K—1創立以来、初めて石井館長が特別レフェリーを務めた。赤い蝶ネクタイがgood！

撮影◎真崎貴夫、中島ミノル（望遠）、©K-1

# K―1、格闘技の道場荒らしに今度はアビディが餌食になった！

ガツ～ン!

▶開始早々、コーナーに追い詰めてのパンチの連打でいきなりダウンを奪うサップ

▶さらにロープ際まで、フックをブンブン振り回して突進！

▶この男の闘争本能、止まることなし。アビディは本当に何もできない

▶160キロのサップの巨体を石井館長が体を張って食い止める。途中、サップに横蹴りして引き離すシーンも

サップの恐ろしいところは、前へ前へと突進してくるところだ。コーナー、ロープ際に追い詰めて反則気味に鉄槌を落とす

シリル・アビディに言いたい。君は本当にマルセイユの悪童なの？　悪ガキなの？　札付きの不良だったの？　だったらボブ・サップを潰しにいかんかい！

何をやってんだよ。敵に背中を見せてさあ。恥を知れ、恥を！相手はK―1という競技を破壊しにきてんだよ。だったら先制攻撃を仕掛けて、お前のほうからボブ・サップにケンカを売るんだよ。

オレだったらゴングが鳴った瞬間にフライング気味のドロップキックを、サップにぶちかましたぜ！　それでさあ、レフェリーの石井館長がどういう判断をするのか見物（みもの）じゃねえか？

せっかくさあ、館長がわざわざレフェリーを買って出たんだぜ。その館長の出番をなぜ、作ろうとしないんだよ？　まったく、場の論理を全然、分かっていない。

それじゃあ、お前はいつまでたっても、ただのファイターのままさ。プロデューサーの立場からすると、銭の取れない男だよ。

気の毒だがそういうレッテルを貼られたな。ドロップキックをやってたら、それだけで大スキャンダル。お客は大喜びしてとんでもない事態になっていたんだよ。

のっけから試合は大乱闘さ。そこでサップがどういう反応をしたのか、見たかったよな。たぶんスイッチが入ってサップは大暴走さ。その時、館長さえ手の付けられない状態にするんだよ。

つまり両者、試合ができないほど暴走してノーコンテスト。そうすればアビディ、君の株も上がったんだよな。あ～あ、お前は千載一遇のビッグチャンスを逃したよ。

K-1 JAPANシリーズ2002
K-1 ANDY SPIRITS
JAPAN GP決勝戦
9・22★大阪城ホール

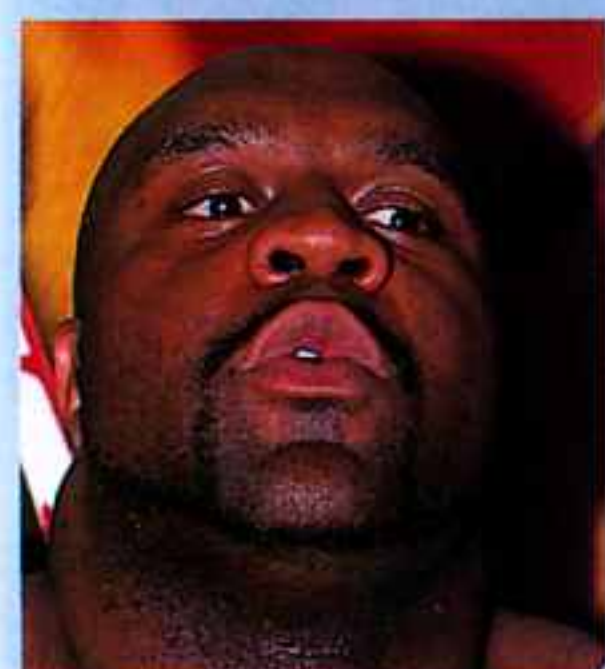
# 怪物の次の標的は、スリータイム・チャンピオンホースト！（10・5K―1GP開幕戦）

▶試合後、石井館長はサップの10・5GP開幕戦出場を決定。対戦相手はなんとスリータイム・チャンピオン、ホーストが濃厚。この怪物をホーストでも止められるのか？

▶試合中にはアビディのいいパンチも入った。でも、サップにはまるで効かない

# これじゃあ、マルセイユの甘ちゃんサップはどこまで強くなるんだ？

こんな弱々しいアビディは初めて見た。まさにK―1そのものを破壊する強さだ

## サップのコメント

「プランどおりの試合ができた。後頭部へのパンチは流れの中で起こったものだ。アビディが背中を向けて逃げるので、オレもイライラしたぜ。逃げずに闘ってくれたら、もっとパンチとかヒザを出せたと思う。まあ、後頭部へのパンチは“オレに道を開けろ！”ってことかな。石井館長のレフェリングは公平だったよ。ファッハハハ」

## アビディのコメント

「K―1の試合は1試合、しかも10秒ぐらいで終わってるんで対策の立てようがなかった。体重差が70キロ以上もあるし、あのようにルールを守らないんで、『プライド』に行ってくれって感じだね。たしかに1回目のダウンは攻撃を受けてのものだったけど、2回目以降の後頭部へのパンチはもっと早くレフェリーに間に入ってほしかった。パンチは効いてないよ」

▲アビディも喧嘩屋のメンツを賭けてリングに上がったのだが……

◀何もできないまま敗れたアビディ。石井館長の出る幕もなかった

▲K―1王者もマジでめざすサップ。こんなタイプのファイターは初めてだ

★第6試合/K―1ルール（3分3R）
○ボブ・サップ（1R1分17秒、KO勝ち）シリル・アビディ●
〈アメリカ/モーリス・スミス・キックボクシング・センター〉〈フランス/チャレンジボクシングマルセイユ〉
※3ノックダウン。アビディはサップのパンチの連打によるダウン3回で3ノックダウン

でも、それは仕方がない。君はK―1という立ち技の打撃格闘技の技術を、やってきただけだから さあ、無理もないんだよ。

もし、君が少しでもプロレスを学んでいたら、こんなミステイクはしなかったと思う。プロレスとはそこで自分が何を求められているのか、それを察知する知恵と能力のことを言うんだよ。

サップは本当のところはインテリなんだよ。しかし自分に求められているものが、狂った猛獣のイメージだとしたら、彼はそれになりきることができるんだよ。

これをプロレスの心得という。K―1ははっきり言ってもはや競技ではない。ジャンルとして競技を超えたものになりつつあるんだよ。

それがつまりエンターテインメントになるということなのだ。この日、大阪のファンが最も期待したサップVSアビディ戦が、もう一つパッとしなかったのは、アビディ、お前が能無しだったからだ。

オレはこれから君のことをマルセイユの甘ちゃんと呼ぶ。そういえば君は甘いマスクをしたおぼっちゃんという感じがするよ。

サップは競技としてのK―1、あるいは競技一般としての格闘技を否定している男なんだよ。彼こそK―1の道場破り。格闘技の道場荒らしなのだ。アビディ、君はその餌食にされたんだよ。

どのツラさげてマルセイユに帰るんだよ。君にとってK―1のリングは、はてしなく遠くなったね。

K―1は生きものなんだよ。ナマものなんだよ。動いているんだよ。そこで出遅れ男になったら終わりなんだよ。（ターザン山本）

# これはベルナルド流の演出だったのか？

## ベルナルドにラスベガスの悪夢再び……打撃の素人エリクソンにまさかの2度ダウン！

打撃のルールはまったく初めてのエリクソンにまさかのダウンを喫したベルナルド。ラスベガスの悪夢が再現されるかと思われたが……

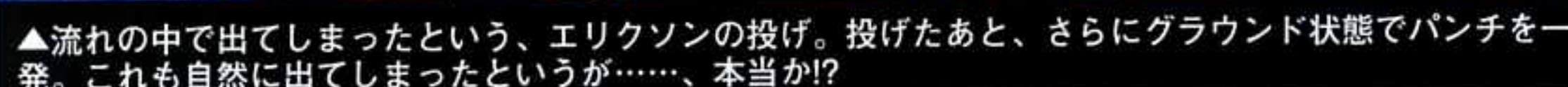
本当に凄いものを見た！　絵に描いたような大逆転劇！　これはもはや、フィクションの世界でしか有り得ない話である。エリクソンに1Rに2回もダウンを奪われた直後のことだ。ベルナルドはダウンを奪い返し、さらに強烈な右フックでエリクソンをKOしてしまった！　これこそ、奇跡だ！

誰もが、ラスベガスの悪夢の再現を予想した。そう、かつてはK−1の四天王と言われたベルナルドが、『プライド』のグッドリッジにKOされてしまった事件である。これで、ベルナルドは崖っぷちに追い込まれた。今回のエリクソン戦は、「負けたら即引退」というシャレにならない冠が被せられた試合として行われた。

だが、勝敗を予想する人は、みんなベルナルドの勝ちを予想しただろう。エリクソンはレスリングの選手で、打撃系の選手ではない。誰も、エリクソンが勝つなんて、夢にも思わなかったはずだ。

ところが、そんな想像もしていないことが、起きそうになった。エリクソンのパンチで、ベルナルドがダウンしてしまったのだ！こんなことが許されていいのか！エリクソンのパンチは、ハッキリ言って、ただ力任せに振り回しているだけの代物である。たしかに、体がデカイから、当たれば強烈だろう。だが、本当にダウンを奪われてしまうとは……。

試合開始直後から、ベルナルドファンには冷や冷やする場面ばかりだった。よっぽど、グッドリッジ戦が堪えたのかベルナルドは明らかに及び腰。そんな及び腰のベルナルドをエリクソンは理不尽に

## 確信犯？ エリクソンの投げ＆グラウンドパンチ！

▶レスリング出身で、打撃のみのルールは今回が初めてのエリクソン。セコンドにはベルナルドの天敵・グッドリッジが付いた

▲流れの中で出てしまったという、エリクソンの投げ。投げたあと、さらにグラウンド状態でパンチを一発。これも自然に出てしまったというが……、本当か!?

### ベルナルドのコメント

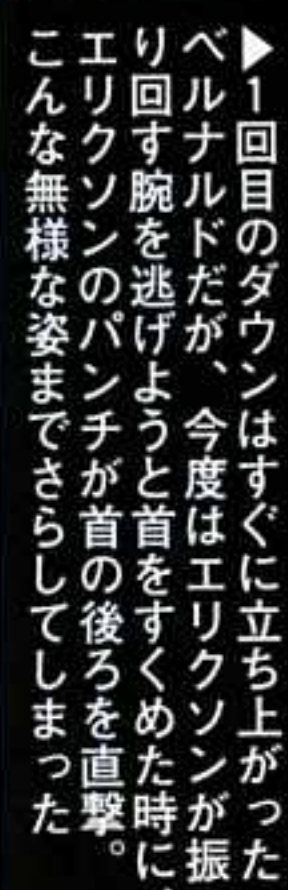
「投げられたことに関しては、特にいらつきもなく怒りもなく、至って自分では平常心で対応しました。1回目のダウンに関してはダメージはなく、2回目のダウンはラスベガスと同じような間違いをしまして、パンチを避けた時に、首の後ろに当たって、気付いた時にはリングに倒れていたという感じです。そのあとの対応はしっかりできました。自分としては最終的にK－1のチャンピオンになることが目標ですので、今はモチベーションが上がっています」

### エリクソンのコメント

「自分は『プライド』の選手ですので、気持ちが一番大事ですし、どれだけお客さんを楽しませて試合ができるかっていうことを大事に思っていますので、とりあえず今回の試合ではできたので、嬉しく思っています。初めての打撃戦だったので慣れてなくて、2回ダウンを取ったあとの自分の対処法がなかったので、マイクに対して時間を与えすぎてしまって、逆転という形で負けてしまった。もし可能であれば、K－1の試合を逃げ腰ではない正々堂々とした選手と闘いたいと思います」

## グッドリッジ戦はトラウマになっているのか？

▼最初にダウンを奪ったのはエリクソン！ ボクシングで世界タイトルを持っていた男から、よもやダウンを奪えるとは

▶1回目のダウンはすぐに立ち上がったベルナルドだが、今度はエリクソンが振り回す腕を逃げようと首をすくめた時に、エリクソンのパンチが首の後ろを直撃。こんな無様な姿までさらしてしまった

## これはもはや奇跡！ 大逆転KO！

▼あと1回ダウンすると負けとなってしまうベルナルドは必死にエリクソンの猛攻を防ぎ、右のフックでダウンを奪い返す

▶なんとか立ち上がったエリクソンにベルナルドは再び猛ラッシュ。あの巨体を押し倒すようにして、やっとエリクソンをKO！ 絵に描いたような逆転劇だ！

◀エリクソンがまさか2回もベルナルドからダウンを奪うなんて、誰が予想しただろうか。あそこまでベルナルドを追い込まなかったら、会場の大爆発もなかっただろう

★第10試合/K－1ルール（3分3R）

○**マイク・ベルナルド（1R2分30秒、KO勝ち）トム・エリクソン**●

〈南アフリカ/レオナルドジム〉　〈アメリカ/rAwチーム〉

※右フック。ベルナルドはエリクソンの右ストレートでダウン1、同じく右ストレートでダウン2あり。
エリクソンは1Rにベルナルドの右フックでダウン1あり

も、投げ飛ばし、グラウンドでパンチを1発入れてしまったのだ。これは、完全にベルナルドをナメた行為。セコンドのグッドリッジあたりが、「やってしまえ」と吹き込んでいたんじゃないかと勘ぐりたくなるほど、確信犯的だった。

ここまでやりたい放題やられてからの、2度のダウン。あと1回ダウンしたら、ベルナルドの負け。そして、引退！ 本当にシャレにならないくらい、崖っぷちに追い込まれた。まさか、打撃の素人で、K―1とは縁もゆかりもなかったエリクソンに、K―1の一時代を支えたベルナルドが引導を渡されてしまうのか？

そして、奇跡が起こった！ この大逆転劇はわずか2分30秒の間に起こったこと。これはかつてのUWFの試合のように劇的だった。それが、ナチュラルに起こってしまったのだ。やはり奇跡だ。

しかし、落ち着いて考えてみると、やはり、エリクソンは打撃の素人。これを奇跡と言っては、ベルナルドに失礼だ。これはもう一度、四天王と呼ばれていた時の輝きを、劇的に取り戻そうとした、ベルナルドの大胆な演出だったのかもしれない。いや、そう信じこみたくもなる。エリクソンなんかにダウンを奪われるのは、本来ならシャレにならない話だろ。

逆にエリクソン株がここにきて急上昇。大人げないほどの強さで、対戦相手の光を消してしまっていた彼だが、今回は結果的にその大人げない強さで、ベルナルドを光らせてみせた。そう、あの大逆転劇の演出をしたのは、本当はエリクソンだったのだ。

（小松）

# あっぱれ、今日は〝武蔵劇場〟

# 今宵は君の優勝に乾杯！

## ジャパン王座奪回に号泣！

ニコラスに敗れた屈辱から1年、ジャパン王座奪回に成功した武蔵は、人目もはばからずに号泣。この男がここまで感情をムキ出しにするのは珍しい

試合前、両選手に吉田秀彦（テレビ中継の解説も務めた）が花束を贈呈

お見事と言うしかない。正直言って生まれて初めて武蔵という選手に〝ドラマ〟を感じた。

1回戦の天田ヒロミ戦、準決勝の富平辰文戦。私はこの試合で共に「武蔵よ負けてしまえ！」と思って見ていた。

これはべつに意地悪だからではない。武蔵が日本人選手とやる場合、自然とそういう視点で見てしまうのだ。こと日本人が相手だと武蔵は、圧倒的に強いのだ。

K—1ジャパンという限定された枠の中では最強の男。意外ととてつもない壁になっている男。

だから私的には「武蔵よ、負けろ」「武蔵を誰かが倒せ」となるのだ。日本人には判官びいきという感情がある。あるいはくすぶっている人間には、日の目を見てほしいと思っている。

そうなるとK—1ジャパンでは、武蔵はヒール、悪役になる。それがまた天田戦と富平戦ではいい憎まれ役をやってくれた。

「1ラウンド、パンチで倒す」と公言していた天田には、いとも簡単にその野望をなし崩しにしていくファイトを展開。

まったく武蔵は味も素っ気もないのだ。結果は武蔵の判定勝ち。しかし天田の1R、KO宣言を打ち砕いた時点で、すでに武蔵の勝ち。この判定勝ちは武蔵的に言うと、実は圧勝と同じなのだ。

続く準決勝の富平戦ではダウンを奪い、今度は大差の判定勝ち。そうか、武蔵という選手は判定勝ちの中に〝力の違い〟を見せつける。それを自分のファイトスタイルにしている男だったのだ。

そのためには防御のテクニック

# 真っ向勝負の中迫に立ち塞がった武蔵
# “あと一歩”という“実力の差”

▲1回戦、準決勝ともに判定決着だった武蔵。疲労もあってか悲愴感漂う入場

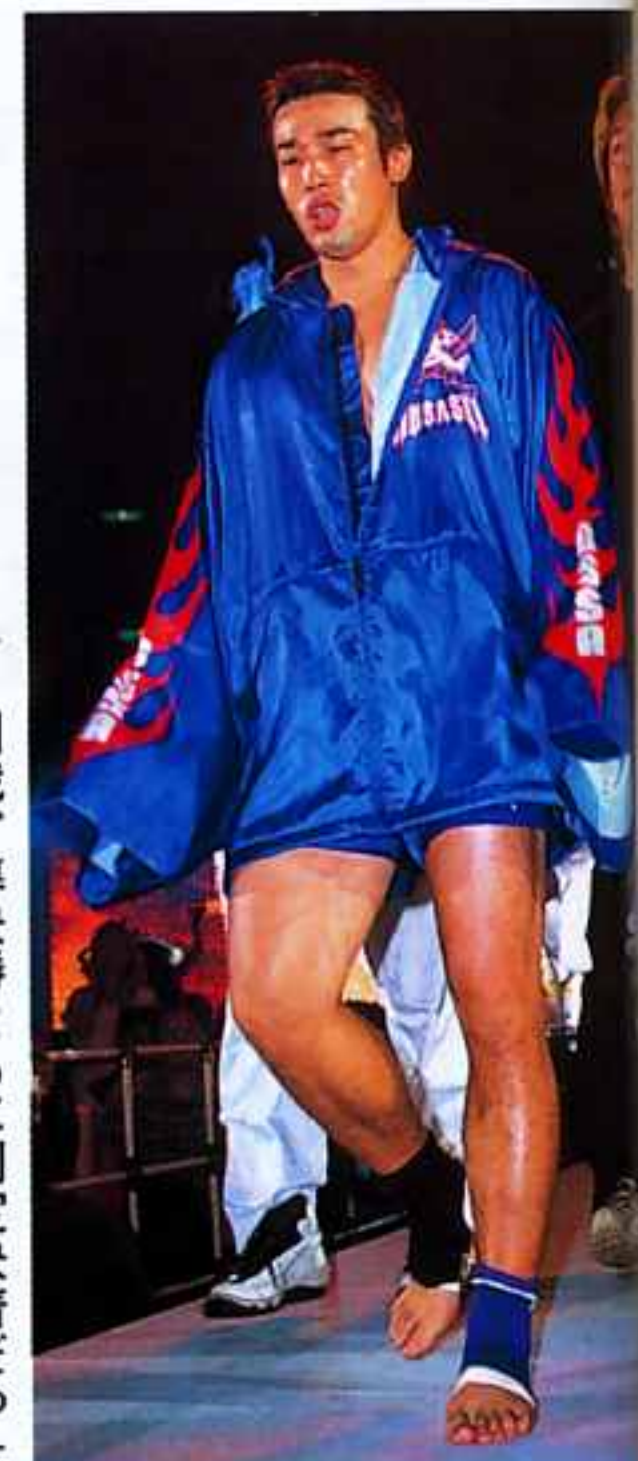
▲中迫も、1回戦が終わった段階で右拳を傷めていたが、悲願の初優勝へ向けて気合い満面。眼光が鋭い！

「いっぱいいっぱいだったんで、これしかできなかった」と、正面からのド突き合いを仕掛けていった中迫。3Rには武蔵のマウスピースを吹っ飛ばした

▲「来るなら来いよ！」。武蔵も意地で打ち合いに応じる。中迫がラッシュにきても、必ず打ち返していた

◀パンチの打ち合いで熱くなりながらも、随所でヒザ、ミドル、前蹴りを使ってボディを効かせていった武蔵。この辺はさすがにうまい

▶両者フラフラ、気力の闘いとなった延長ラウンド。頭を突き付けて打ち合ったかと思えば、ノーガードで挑発し合う場面も

◀インターバルの間、自分を鼓舞するように大きく叫んだ武蔵

◀本戦3Rはドロー。武蔵がやや優勢で終えた延長Rだったが、これも武蔵には1票しか入らずにドローとなった。武蔵はちょっと意外そうな表情

試合前、両選手に吉田秀彦（テレビ中継の解説も務めた）が花束を贈呈

## 勝利を望まれなかった男、武蔵「オレの存在はいったいなんなんだ！」

が、しっかりしていることが大前提になる。というわけで武蔵に判定負けした日本人選手は、強い挫折感を味わうことになる。

そういうことが私にも見えてきたのだ。そして迎えた優勝戦。武蔵の相手は中迫剛。親しいマスコミの2人が試合前、共に「ここで中迫が勝たないとだめなんだよな」と私の耳元でささやいた。

マスコミ的にもファン的にも中迫が勝ったほうが望ましい。そういう空気が会場の大阪城ホールには充満していた。つまり武蔵にはそういった“人の気”が、味方していないのだ。むしろそれと対決する立場に置かれてしまう。

これは天田の意気込みや、富平のやる気を、消し去ってしまう武蔵のすかし戦法が、人気のなさに結びついていることもたしか。

今日、自分はファンにもマスコミにも望まれていない存在。武蔵はそれとも闘わなければならなかった。優勝戦の3分、3ラウンドは判定にもつれこんだ。

これはドロー。判定の中に決定的違いを見せられなかった武蔵。武蔵と中迫の差はこの点では縮まったといえる。しかし中迫にとってはそこがもう目一杯だった。

延長戦は微差だが、私は武蔵の勝ちと思ったがまたまたドロー。ここで武蔵はたぶん「自分は勝った！」と思ったはずである、それがドローになったのは、武蔵からすると“なぜ”となる。

武蔵はこの時「オレという存在はいったい、なんなんだ」と大声で叫びたかったはずだ。「誰もオレに味方しないのか……」という嘆きにも似た孤独な思い。

# 今日の武蔵はアーティストに見えましたよぉぉ！

「他流試合をやってきたおかげで勝てた」という武蔵。場内の中迫応援ムードとも闘っての優勝だった

## 武蔵のコメント

「反省するところもたくさんあると思うんですけど、お客さんが見たい試合はできたかなと。ヒットアンドアウェーみたいなのばっかり練習してるんじゃないっていうのを見せようかなと。でもダメージもあったんで深入りはできなかったですけど(笑)。今年1年、他流試合をやってきたおかげで勝てたと思います。技術よりハートの面で」

## 中迫のコメント

「（打ち合ったのは）あそこまでいくと、いろいろはできないんで。打ち勝つしかなかったです。至近距離のパンチは練習してたんですよ。武蔵も付き合ってくれましたね。あそこではぐらかすのが武蔵流なんですけど。"また武蔵"って言われるのが悔しいですね。（最後の涙は）悔しいのと、なんでいけなかったのかっていうので」

再延長Rで、ついに決着！　中迫の猛攻を振り切って、武蔵が優勝を決めた。判定が告げられると、中迫はその場に崩れ落ちた

★第11試合/K-1 JAPAN GPトーナメント決勝戦（3分3R）

**○武蔵（再延長判定3－0）中迫剛●**

〈日本/正道会館〉　〈日本/ZEBRA244〉

※10－9、10－9、10－9。本戦は0－0（30－30、30－30、30－30）でドロー。　延長戦は1－0（10－9、10－10、10－10）でドロー

## K-1 JAPAN GP2002

- 野地竜太〈極真会館〉
- 中迫剛〈ZEBRA 244〉
- 大石亨〈日進会館〉
- 藤本祐介〈MONSTER FACTORY〉
- 武蔵〈正道会館〉
- 天田ヒロミ〈TENKA 510〉
- ノブ・ハヤシ〈ドージョー・チャクリキ〉
- 富平辰文〈SQUARE〉

▶◀結果にも内容にも満足の武蔵。中迫は「もっといけたんじゃないか」と悔いが残る様子

再延長戦では、もう中迫には余力は残っていなかった。ここで初めて3－0という判定勝ち。武蔵はこの3－0という判定を、どんな気持ちで聞いていたのだろうか？

うれしいような、ホッとしたような、しゃらくさいような、反発したくなるような、そんな気持ちではなかったか？

リング上で優勝インタビューを受けた武蔵が、泣きながら答えているではないか？　いつもは感情を表に出さない男が……。

「今回、一番、勝ちたかったのはこのオレなんだよ！」と言った時は、なんだ、そうだったのかと私は武蔵に親しみをおぼえた。

去年、ペタスに敗れてK－1グランプリに出場できなかった悔しさを、この男は1年間ずっと引きずっていたのだ。

試合リポートのタイトルに"武蔵劇場"と書いたのは、布施鋼治氏が私に言ったもの。天田、富平、中迫戦の3試合では石井館長も語っていたように武蔵は"あと一歩"と"実力の差"を、見事に見せつけてくれた。

天田たちからするとそれは"あと一歩"であり、武蔵からするとそこが"実力の差"になる。要するに"あと一歩"の中に"実力の差"があるんだということを、武蔵は言いたいのだ。

そう考えると私には武蔵がK－1ファイターとして、アーティストに見えてきた。武蔵が人前で涙を流したのだ。私でなくても「今宵、君のK－1ジャパン大会優勝に乾杯！」と言いたくなる。いやあ、本当にいい"武蔵劇場"を見せてくれた。

（ターザン山本）

※『K-1 ANDY SPIRITS JAPAN GP決勝戦』の大会レポートは、P93～に続きます

特集

◀吉田秀彦のプロ進出で、今後の格闘技界は大物スポーツ選手の他流試合が注目されるはずだ

SRS・DXスカウト隊

# 第2の吉田秀彦を探せ!

## これからのファンタジーは、柔道、相撲、レスリング、空手のトップがDynamite級他流試合をやることだ!

永田克彦
(グレコローマン・レスリング・シドニーオリンピック銀メダリスト)

フランシスコ・フィリォ
(第7回極真世界大会王者)

井上康生
(柔道・シドニーオリンピック金メダリスト)

若乃花
(元横綱)

旭道山
(元小結)

8・28『Dynamite!』国立競技場大会は、あらゆる意味で歴史的イベントとなったが、その中でも大きな話題となったのは吉田秀彦のプロデビューだった。朝日新聞の一面を飾ったほどの大きな話題。この現象を見ても、今後の他流試合の軸はプロレスラーというより、大物プロスポーツ選手になっていくのは間違いない。というわけで、今号の『SRS・DX』はそんなファンタジーあふれる人材を発掘してみた。

SRS DXスカウト隊

第2の吉田秀彦を探せ!

# Dramatic! 吉田秀彦

## Hidehiko Yoshida

8・28『Dynamite!』で鮮烈なプロデビューを果たし、いま“時の人”として大注目されている吉田秀彦。柔道選手時代、勝つことのみが重視されるアマチュアの世界において、勝っても負けても、常にドラマティックでスリリングな試合で人々を魅了した吉田。柔道界一ドラマティックな男が、今後はプロ格闘技の世界で“メイクドラマ”する!

構成◎林 毅

### Scene.1

**1992.7.30 バルセロナオリンピック**
**ハプニングを乗り越え、負け続けの日本を救った劇的な金メダル!**

▲吉田の名を一躍日本中に知らしめたバルセロナオリンピック。しかし、実は吉田はこの大会の2カ月前にカカトを骨折しており(五輪後に発覚)、さらに、1週間前の現地での練習中、一緒に練習していた古賀に大ケガを負わせる大ハプニングまで起きてしまい、精神的にも肉体的にも最悪の状態。その上、日本選手が負け続けて金メダル「0」の最悪ムードで回ってきた出番だったが、ここで持ち前の勝負強さを発揮。なんと、全試合一本勝ちの快挙で金メダルを獲得したのだった ©日刊スポーツ

### Scene.2

**1994.4.29 全日本柔道選手権**
**1万人の観客が熱狂!**
**6連覇狙う無敵の王者・小川に劇勝!**

▲体重無差別で行われる全日本選手権2度目の出場を果たした吉田は、重量級選手を次から次に撃破して準決勝に進出、ディフェンディング王者の小川直也と相対した。世界選手権での優勝通算4回、全日本選手権5連覇と、重量級で当時無敵の強さを誇っていた小川に対し、吉田はまったく臆するところなく真っ向勝負を挑んでいった。小川193センチ、130キロ。吉田は180センチ、86キロ。44キロの体重差をものともせずに攻めた吉田が僅差の判定で優勢勝ち。1万人の柔道ファンの大歓声が武道館を包み込んだ ©日刊スポーツ

## Scene.3

### 1994.4.29 全日本柔道選手権
### これがホントに柔道の試合!?
### バチバチのガンつけあいに会場大興奮!!

▲小川を破って決勝へ進んだ吉田を待ちかまえていたのは金野潤。過去に2度決勝に進出し2度とも小川に苦汁を嘗めさせられていた実力者・金野にとっても、優勝を狙える千載一遇のチャンスということで、熱く燃えていたのは言うまでもない。182センチ125キロの金野は、今では「反則」となる危険技・蟹バサミや脇固めで容赦なく吉田を攻め込む。吉田はヒジとヒザを痛烈に傷め、満身創痍になりながらも必死に反撃。途中、寝技の攻防で傷めたヒジを狙われた時には、金野を蹴り飛ばして睨み合うシーンもあり、会場もヒートアップ。惜しくも判定で敗れたが、今でも語り継がれる名勝負だ　©日刊スポーツ

## Scene.4

### 2000.9.18 シドニーオリンピック
### ギャッ、ヒジが逆に曲がってる!?
### お茶の間を震撼させた衝撃的な一本負け

▲吉田は負ける時も実にドラマティックだ。シドニー五輪の、まだ、記憶に新しいあのシーン。3回戦過去に一度対戦して問題なく勝っているブラジルのオノラトが相手だった。内股を掛けられた吉田が右手をついて逃れようとしたその時、腕がヒジのところから逆に曲がり、そのまま背中から落ちてしまったのだ。痛がる吉田。思わず顔をしかめてしまうほど衝撃的な場面だった。ちなみに、あのケガ（脱臼）の後、医者からは手術を勧められたそうだが、医者嫌いの吉田はそのまま自然治癒で治してしまい、現在に至っている　写真提供◎共同通信社

## Scene.5

### 2002.8.28 Dynamite!
### 国立競技場9万人が見た
### 鮮烈プロデビュー!

▲そして皆さんよくご存知の『Dynamite!』でも、吉田はしっかりとメイクドラマしてくれた。国立競技場という大舞台で、ホイス・グレイシーという実力者を相手に、圧倒的な力の差を見せての勝利。そして、プロデビュー戦とは思えない、実に気の利いたマイクパフォーマンス。低迷を続ける日本の格闘技界に、一筋の光明が差し込むような吉田の活躍だった。果たして、次の試合ではどんなドラマを創り出してくれるのだろうか!?

**吉田秀彦**（よしだひでひこ）

■プロフィール／1969年9月3日愛知県大府市生まれ。小学校4年から柔道をはじめ、中学途中より柔道の名門私塾・講道学舎（東京）に入塾。弦巻中→世田谷学園高→明治大→新日本製鐵（4月に退社）。現在、吉田道場師範。柔道6段。身長180センチ、体重103キロ。血液型O型

■柔道の主な成績／91年バルセロナ世界選手権3位、92年バルセロナ五輪金メダル、93年ハミルトン世界選手権2位（以上、78キロ級）、95年幕張世界選手権2位、96年アトランタ五輪5位（以上、86キロ級）。99年バーミンガム世界選手権優勝、2002年シドニー五輪3回戦敗退（以上、90キロ級）。体重無差別の全日本選手権は、91年3位、94年準優勝。02年全日本選手権を最後に柔道界を引退

TO BE CONTINUED

# 吉田秀彦のことをもっと知ろう！

CM一本5000万～１億円なんて話まで出て、今や完全に“時の人”となっている吉田秀彦。しかし、そんな周りの騒がしさも吉田にとってはどこ吹く風、至ってマイペースの日々を過ごしているようだ。今回は、とにかく魅力タップリの吉田の素顔に迫ってみようと幼少時代の頃から、結婚観まで聞いてみた。

聞き手◎林　毅

SRS・DXスカウト隊

# 第2の吉田秀彦を探せ!

## 吉田秀彦のことをもっと知ろう! 1

# ヤンチャで悪ガキ。廊下に立たされていた小学生時代

—おめでとうございます……なのかな、裁定変わらずということで、晴れて吉田さんの勝利が認められましたが。

**吉田** そうみたいですね。まあ、どっちでもべつにいいですよ。ホイスはもう1回やれって言ってこないですかね?

—どうでしょうねぇ。再戦してくれって言ってきたら、もう一度やります?

**吉田** べつに、やってもいいですよ。

—次も楽勝と。

**吉田** いやぁ、そんなことないですよ。次は負けちゃうかもしれない(笑)、勝負の世界ですから。分かりませんよ。

—でも、実際に試合して、ホイスの実力の感触は掴んだんじゃないですか?

**吉田** でも、試合だと何が起こるか分からないですからね。やっぱりやってみないと。絶対というのはないですから。

—なるほど。今日はですね、「吉田秀彦をもっと知ろう!」ということで、吉田選手の素顔というか、人となりに迫るべく、いろいろと質問しますので、よろしくお願いします。

**吉田** お手柔らかに(笑)。

—まず子供の頃のことからお聞きしたいんですけど、どんな子供でした?

**吉田** 悪ガキでしたね。ヤンチャ坊主。しょっちゅう先生に怒られて、廊下に立たされてましたよ。

—やっぱり体はデカかったんですか?

**吉田** デカかったですよ。「ヒーブー」って言われてましたからね。小学校2年くらいまでは太ってて。

—小学生の頃は何かスポーツとかやっていたんですか?

**吉田** 4年生くらいからサッカー始めて、そのちょっと後に柔道を始めたんですよ。

—柔道を始めたきっかけは?

**吉田** 親父が新聞広告を見て「やれ」と。サッカーも自分に合わなくてちゃんとやってなかったし、塾にも行ってなかったんで、それで。

—柔道場は家の近くだったんですか?

**吉田** そうですね、「大府柔道教室」っていう市内の道場で。そこで教えていた大石(康)先生がその後、独立して大石道場を作られたんで、それからはそっちに通うようになったんです。

—その頃の思い出って何かあります?

**吉田** 思い出? う〜ん、キツかった。練習は週2回、水曜と土曜だけだったんですが、キツかったですね。

—今、ご自分でやっている吉田道場の練習と比べてどうですか?

**吉田** いやぁ、自分の子供の時のほうがキツかったような気がしますね。なんか、キツかったって思い出しかないですね、柔道に関しては。今までに楽だって思ったことはないですからね。

—それは、吉田選手が妥協できない性格だからじゃないですかね?

**吉田** かもしれないですね。

## 吉田秀彦のことをもっと知ろう! 2

# 父母はソフト、姉はバレーのスポーツ一家

—兄弟は?

**吉田** 姉と妹が。

—柔道は?

**吉田** 姉はやってないですけど、妹はやってました。姉はバレーボールやっていたんですよ。

—結構、スポーツ一家ですか?

**吉田** そうですね。親父たちは、ソフトボールとか、2人ともゴルフもやるし。

—で、中学2年までは地元・大府の中学校に通っていたんですよね。柔道は?

**吉田** 道場と部活で。

—中学は強かったんですか?

**吉田** 強くないっス。

—練習は結構キツかったですか?

**吉田** 補強運動がキツかった。一種のシゴキでしたね。首上げとか30分くらいやったりね、画鋲置かれて。

—そんなことやってたんですか?

**吉田** やらされてましたよ。で、自分たちも2年生になったら1年生にやったりして(笑)。

—その頃の大会の成績とかは?

**吉田** 全然ダメでしたね。県大会にも出たことないですよ。

—中学3年の時に親元を離れて、柔道の私塾・講道学舎に入ったんですよね?

**吉田** 大石道場で一緒にやっていたので神谷(兼正)という強いのがいたんですよ。それと一緒に(入塾)試験受けに行って。その時、いきなり吉村先生とやって絞められて。俺はこんなところに何をしにきたんだって感じでしたよ(笑)。

—で、その神谷さんは学舎には?

**吉田** 入らなかったんですよ。僕も入るなんて言ってないのに、親父が全部決めちゃって。

—その頃、講道学舎と言えば、もう柔道界では知られた存在でしたよね?

**吉田** そうですね。僕は柔道に興味なかったから知らなかったんですけどね。僕は全国大会も出てないし、ただ田舎でやってただけですからね、知らないですよ。

—学舎は全寮制ということで、それから完全に寮生活に入ったわけですね。学舎には何人くらい塾生がいたんですか?

▲右下が0歳の吉田。凛々しい眉毛の形は今と一緒だ

▲4歳の吉田。いたずらっ子という感じだ。ちなみに右端が母みちゑさん、前列左が姉の友子さん、その横が妹の希さん

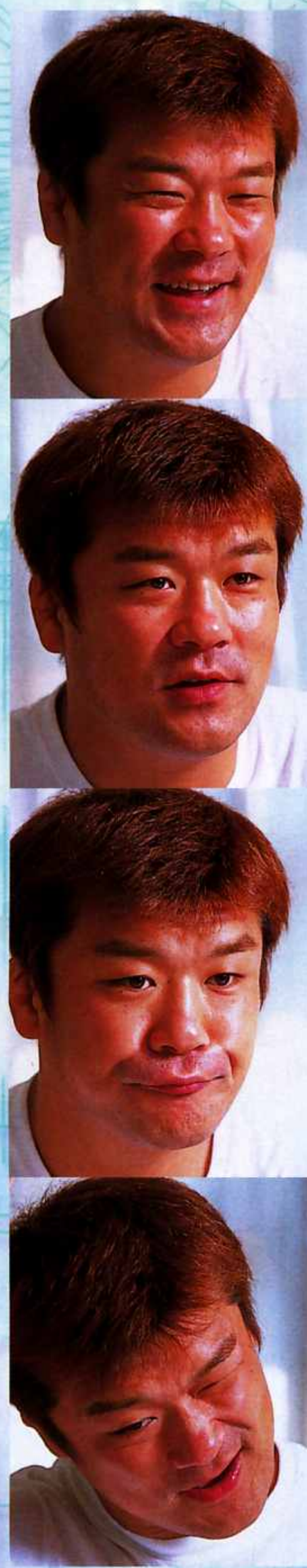
▲小学校5年生の頃の吉田はとにかく悪ガキ。学校でも家でもしょっちゅう怒られていたという

▲中学の卒業式。身長ではすでに父・延行さんを超えているが、顔にはまだあどけなさが

▲吉田、高校1年生。先輩の古賀とともに

▲世田谷学園ではポイントゲッターとして活躍した吉田。とにかく思い切りがよかった

吉田秀彦のことをもっと知ろう！　3

# 高校時代、試合で負けた記憶はほとんどなし！

**吉田**　40人くらいですかね。

―学舎時代の日課は？

**吉田**　まず、朝は5時40分に起床して7時まで練習。打ち込みとかトレーニングとかが中心ですね。あと、ずっと立ったまま（横地治男）理事長のお話を聞く時もありました。

―どんなお話を？

**吉田**　いやぁ、いつも怒られてましたね。

―授業はちゃんと受けていたんですか？

**吉田**　寝てましたね。そりゃ寝ますよ、毎朝早いし。で、帰って4時から7時半まで練習。高校は帰ってくるのが遅いんで、もうちょっと後からでしたね。

―4時から吉村（和郎）コーチが来て、練習を見ていたんですか？

**吉田**　そうです。

―吉村先生と30分とか1時間乱取りやっていたらしいですね。

**吉田**　う～ん、一人1時間くらいは終わらなかったですね。キツかったですよ。

―当時の吉村先生は警視庁所属の現役バリバリで、世界選手権の代表だったりしたんですもんね。

**吉田**　メチャメチャ強かったですね。しょっちゅう絞め落とされてましたしね。

―当時の吉田さんは、凄くやせっぽちで投げやすいということで、レギュラーみんなから練習相手に選ばれたりしていたらしいですね？

**吉田**　そうですね。皆さんがイジメてくれたお陰でここまでこれました（笑）。

―中学の時は個人戦で全国2位になっていますよね。

**吉田**　個人戦は関係なかったです、団体で勝たないと。なんの価値もなかったですよ。

―高校時代は、インターハイで優勝したり、とにかく活躍してますが。

**吉田**　あまり負けた記憶はないですね。春の選抜で東海大相模の選手に投げられたかなぁ、勝ち抜き戦だったんですけど。それくらいですね、悔しかったのは。

―世田谷学園時代から、日本柔道界のホープとして注目され、大学は明治。そして大学時代も主なタイトルを総ナメにして、その後、日本のトップとして活躍したと。ちょっと、プライベートの話をお聞きしたいんですけど、まず、性格はどんなだと自分では思います？

**吉田**　う～ん、なんも考えてない。

―（笑）明るいですよね、豪快だし。

**吉田**　それがアダになることもありますけどね（笑）。

―友達も多いですよね。

**吉田**　根本的に、遊ぶのは好きです。酒飲んだりするのも好きだし、外に出るのも好きだし。でも、やることだけはキチッとやる。酒を飲み過ぎて練習できないとか、そういうのはないですね。昔はちょっと妥協しそうになることもあったけど、今はプロなんで、飲んでも練習だけはキチッとやってます。

―ホイス戦の時も翌々日から高阪選手のところで練習していたらしいですね？

**吉田**　試合の次の日も走りましたよ。

―今や、吉田選手は完全に〝時の人〟ですけど、ご自分では？

**吉田**　そういう意識はあまりないですよ。僕はそういう新聞や雑誌をほとんど見ないから、自分でどうのこうのって思わないですから。それを見ることで、自分を崩したくないんですよね。自分を抑えると、どうしてもストレスになるし。

―この前も『フライデー』されてましたけどね（笑）。

**吉田**　べつに悪いことをしてるわけじゃないし、一人で飲みに行っているわけじゃないし。僕は根本的に一人では行きませんからね、みんなで騒いで飲みたいというタイプだから。

―でも、最近オシャレになりましたよね。眉毛染めたり（笑）。

**吉田**　それはノリで（笑）。

―趣味は？

**吉田**　友達と飲むぐらいですね。

―車も好きですよね？

**吉田**　好きですね。何台も持っているわけじゃないですけど。乗り物が好きなんですよね。このミニチャリとか（P14の写真）。この前、テレビで3輪バギーでレースやったんですけど、次はあれがほしいなと思っているんですよ（笑）。

―いま、道場のほうには結構顔を出しているんですか？

**吉田**　週3日、毎日行ってますよ。昨日入門した人にも「本当に教えてらっしゃるんですね」って言われたんですけど、別の仕事がない限り行ってますよ。

―吉田選手は基本的に、子供好きですもんね。練習見てると、吉田選手の顔が一番嬉しそうですもん（笑）。

**吉田**　子供教えてると、ストレスが解消できるんですよ。その時だけは全て忘れられますから。3歳の子が入ったんですけど、チョロチョロするから肩車しながら教えてますよ。

―僕の家の近くにも道場作ってくださいよ。子供通わせたいから（笑）。

**吉田**　みんなに言われてますよ（笑）。

―話が現実的なところに戻りますが、次にやりたい選手は？　打撃の選手とやったらどうかという話もありますが。

**吉田**　べつにやるのはいいんですけど。ただ、僕は道衣を着てやりたいんで。その部分、ちょっとだけルールを変えてもらえれば、いいんですけどね。

―それではやはり、吉田選手としては今後も道衣を着て闘うと。

**吉田**　はい。

―リスクのほうが大きいように思うんですが。

**吉田**　でも、あえて。やっぱり道衣は脱げないです。それが売りですから。

―それは絶対にカッコイイと思うし、みんなそれが見たいと思いますけどね。

**吉田**　脱いだら柔道の良さを出せないですから。

―これは会社の女子スタッフからの質問なんですが、結婚の予定は？

**吉田**　ないです。闘っているうちは結婚

SRS・DXスカウト隊

# 第2の吉田秀彦を探せ!

吉田秀彦のことをもっと知ろう！ 4

## 守るものができた時、闘いは辞めます！

するつもりはありません。守るものが増えると勝負できないですから。こうしてこの世界に入ってきたのも、背負うものがなかったからですからね。自分一人で全部責任取れるわけですから。

——逆に言うと、守るものができた時には辞めるということ？

**吉田** 辞めます。

——では、あんまり早くそういう人が現れないことを祈りつつ（笑）、今日はどうもありがとうございました。■

### グレイシー側の抗議受け入れられず！ 吉田の失神KO勝利 正式に確定！

8・28『Dynamite!』の吉田×ホイス戦の裁定に対するグレイシー側の正式な抗議に対し、石井館長、TBS、DSEが検証会を行い、その結果を9月11日に京王プラザホテルでの会見で発表した。以下は、配られた資料と島田裕二ルールディレクターによる説明の抜粋。

大会後、ルールディレクターである私島田を中心に、当日レフェリーを務めた野口レフェリーの事情聴取に始まり、試合の模様を収録した映像による考察、当日リングサイドにいた有識者の意見等を総合的な判断材料とし、今回ホイス選手サイドからの試合結果に対する異議の申し入れに対し、検討をしてきました。その結果、以下のような裁定を下すにいたりましたので、ここにご報告します。

まず、吉田選手がホイス選手を袖車絞めに捕らえている時点での野口レフェリーの行動に対し、ホイス選手からはレフェリーストップだとの申し入れがありましたが、野口レフェリーは、あくまでもホイス選手が絞め落とされたとの判断（一時的にしろ失神KO状態にあるとの判断）から、必要以上に選手に肉体的ダメージを負わせないため、選手の生命の安全確保の観点から、両選手を引き離す動きであり、どちらかの選手がKOされた状態にない試合を、どちらか一方が決定的に優勢だからといって止めるレフェリーストップに値する行動ではなかったとの説明を受けました。

■以下の4点により、ホイス選手が失神KOされたと判断。

- ・完全に吉田の袖車絞めが入っていると見受けられた
- ・ホイスの左手と右足の動きが緩慢で、力が抜けて行く様に見受けられた
- ・闘っている相手である吉田が「落ちた！ 落ちた！」と叫んだ
- ・野口レフェリー本人が、ホイスの手に触れた時、動きを感じられなかった

この説明を受け、試合の模様を収録した映像により考察し、有識者の意見等をヒヤリングしてみた結果、確かに上記4点のポイントが見受けられました。野口レフェリーの取った選手の肉体・生命の安全確保のため、失神している選手への必要以上の攻撃を防ぐための行動は、今回のような総合の試合が、競技であり、スポーツであり、多く人々に見せる状況下で行われる以上、たとえどんなルールになったとしても、必ず持ち合わせなくてはいけないレフェリーとしての最低限のモラルであり、絶対的な判断基準であると考えます。今回の試合でホイス選手は、一時的であれ失神状態になったとの判断は、正しいものであると考えます。よって裁定どおりの結果が、正しい裁定であるという考えにいたりました。

ルールディレクター／島田裕二

---

証言 1

### 「秀彦はグリコのオマケで着いてきたんだよ、名古屋から」

吉村和郎 全日本女子監督（当時・講道学舎コーチ）

——吉田選手がプロデビューしましたけども、柔道家・吉田秀彦の育ての親である吉村先生に、ちょっとお話を伺いたいと思いまして。先生にとって、吉田選手はかわいい教え子だと思うんですけど、最初に会った時の印象はどんなでした？

**吉村** まあ、印象って言っても、アイツはグリコのオマケで着いてきたわけだからね、名古屋から。もう一人のヤツが本命で、アイツはオマケ。その時の練習で、俺が絞めたら泣いてしまったんだよ。でも、アイツ、泣きながら食らいついてきてね。そういう勝負に対する執念は、中学2年生としてはあったほうかなと。なかなかいい根性しているなというのが、第一印象だったよね。

——そのセレクション（試験）を受けて学舎に入ることになって、実際に学舎で練習を始めた頃というのはどうだったんですか？

**吉村** 64～65キロしかなかったしね、ヒョロ～ッとして、強いか弱いかって言ったら、弱いほうだったろうね、同級生たちと比べると。それでも練習は一生懸命やってて、高校2年の時かな、アイツをポッと使ってみたら、取るか取られるかの試合をやるんだよね。勝つ時は一本勝ち、負ける時も一本負けと。そういう試合をやっていたから。そういう選手というのは面白いなと。思い切りがあるというのは魅力だし、それで、試合に出て、自分は人を投げれるっちゅう自信をつけたんじゃないかなと思うね。勝負に対する執念は凄かったよね。で、足を骨折しようが、絶対に弱音を吐かなかった。根性も凄かったよ。

——そう言えば、骨折していたことがあとで分かったってことありましたね。

**吉村** バルセロナ五輪の時もそうだし、中学2年か3年の時、中国遠征に行く時に、サッカーをやっていて足を折っちゃって、でも、どうしても中国に行きたいと言って自分でギブスはずして。中国でちゃんと試合やったもんね。そんくらいの根性を持ってたよ。

——学舎の柔道は攻めの柔道と言われますが、それは常に心掛けさせていたんですか？

**吉村** 当時、ウチの選手はみんな小さくて、60キロや70キロの選手が大きいヤツとやる時に、守りに入ったら絶対に負けるんだよ。だから、常に攻め込んでいかないと勝てないということで、攻めの柔道をさせたんだよね。

——先生から見た吉田選手の性格は？

**吉村** アイツはね、ホントはどっちかって言うと争い事は好きじゃないんだよね。格闘技を見るのは好きだけども、性格的には温厚なヤツだから。稔彦もそうだし。攻撃的な人間じゃないんだよね。だから、格闘技の世界に行くって聞いた時、向いているのかなぁと思ってね。人を殴るとかイジメるとかは好きじゃないしね。逆にイジメられているヤツを助けることはあると思うんだけどね。だから、性格的に向いてないんじゃないかと思ったんだよね。でも、やるからには中途半端ではなく、大きな目標を持って進んでほしいね。■

---

証言 2

### 「レギュラーはみんな、やせっぽちの吉田を練習相手に選んでましたよ」

古賀稔彦 全日本女子コーチ（講道学舎の先輩、バルセロナ五輪71キロ級金メダリスト）

——吉田選手の試合はビデオで見たそうですけど、どんな感想を？

**古賀** 予想どおり。予想どおりっていうか、ホイスのテクニックはあらかじめビデオで見てましたから、それを見た上で、今の秀彦でも十二分に勝てる相手だなと予想していましたが、まあ、落ちた落ちてない、絞まった絞まってないというのは別にしても、それだけの違いというのは十分にあったなと思いますね。

——確かに、実力差は感じましたね。

**古賀** 今のホイスの力がなさ過ぎたということじゃないですか。

——でも、ちょっと足を取られかけた場面があったじゃないですか。あの場面、ちょっとヤバって感じでしたよね。

**古賀** それはありましたね。ハッハハハ。秀彦が掛けた技に関しては、たぶんモノマネ程度ですから効かないにしても、ホイスが足首を極めた時には、「あれ、意外とこんなので負けちゃうのか」なんて一瞬ヒヤッとしましたけど（笑）。だけど、相対的に見て、今の秀彦でも十分でしたという感じですかね。

——古賀さんは、吉田選手の2年先輩で、講道学舎時代に苦楽をともにしてきたわけですけど、吉田選手はどんな人間ですか？

**古賀** アイツは基本的にはとても純粋な、まあ、大人になっていない大人っていうか、子供のまんまの大人っていうか。だから、嬉しければ大声で笑うし、泣きたい時には泣くし、非常に純粋な気持ちが多く残っている大人だと思いますね。

——吉田選手の中学時代の印象は？

**古賀** やせっぽちで投げやすくて。当時のレギュラーは、みんなアイツを練習相手として選んでましたね。性格も素直で非常に使いやすいんで、付き人とかをお願いするヤツも多かったです。でも逆に、そういった刺激が秀彦にとっては良かったんだと思いますね。

——みんなの投げ込み要員だった吉田選手が、なかなかやるなという存在になったのはいつ頃ですか？

**古賀** アイツが高校2年生くらいになって、レギュラーとしてポジションを確保した頃ですかね。相手が大きかろうと強かろうと、関係なしに常に投げにいく姿勢で柔道をやっていたんですね。で、試合中に弱気になることもないし。その当時はまだやせっぽちでしたけどね、今はデカイですけど（笑）。でも、いざ勝負というその時の闘争本能というのは、その当時に養われたと思いますね。もともと持っていたものもあるだろうけど、私たちがレギュラーの時に、手を抜かずにコテンパンにやってましたから。そういう普段の練習の中で本当の実力の世界というのを肌で感じ、強さというのは大きさとか前評判じゃないんだと。自分自身が強い気持ちを持って闘うことで、結果は自然とついてくるし、どんな結果が出ても悔いのない試合ができるんだと。そういう気持ちを持つようになったと思うんですよ。自分の道は自分で切り開く、自分のことは自分で決める。自分の実力は自分で身に付ける。プロ転向に関しても自分で決め、これから自分の力で道を切り開いていくと思います。■

# 井上選手もプロになりませんか？

## 『ハッハッハ……』（井上）

今の柔道界を代表する選手と言えば、この人・井上康生をおいていない。シドニー五輪100キロ級金メダル、世界選手権100キロ級と体重無差別の全日本選手権で連覇を果たし、向かうところ敵なしの存在だ。100キロ級の身体で、次は世界の無差別級制覇を目指すと公言する井上康生。『SRS・DXスカウト隊』は、格闘技好きでも知られる井上に、まずは迫ってみた。聞き手◎林　毅

SRS・DXスカウト隊

# 第2の吉田秀彦を探せ！

# 井上康生

▲取材をした日は、ちょうどアジア大会に向けての全日本の合宿中だった

――ワールドカップ優勝おめでとうございます。

**井上**　ありがとうございます。

――さっそくなんですが、井上選手がワールドカップでスイスに行っている間に、吉田秀彦選手がプロ格闘家としてデビューしました。まずは、それについて感想をお聞きしたいんですが？

**井上**　いやぁ、吉田先輩の試合、ナマで見たかったですねぇホントに。スイスに行くより、国立に行きたかった（笑）。

――やっぱり気になってました？

**井上**　気になってましたよ。ちょうど、マッサージを受けていたんですけど、トレーナーの方が情報をインターネットで仕入れてまして。で、聞いたら、「勝ったよ、絞めで」って。でも、どういう絞めなのか分からなくて、どんなので勝ったんだろうとずっと思ってて。で、次の日に日本から来た人が持ってきた新聞を見せてもらって。それで「オ～ッ！」と。帰ってきてからすぐにビデオ見ましたよ。

――井上選手は、袖車絞めを使ったことはありますか？

**井上**　何回かはあります。

――試合で？

**井上**　いじめで（笑）。

――いじめで（笑）。試合ではなかなか見ないですよね。

**井上**　本当にうまくないと効かないと思いますよ。でも、ホイスは何をされるのか、気付いてなかった感じでしたもんね。

――そんな感じでしたね。絞めはかなり効いていたように思えましたよねぇ？

**井上**　だって、力抜けてたでしょ。見て「あっ、落ちた」って感じでしたよね。

――あれは落ちたと判断されても仕方ないですよね。

**井上**　仕方ないと思いますよ。力が抜けてましたから。

――あのまま絞め続けて、完全に落としていたら、文句は出なかったんでしょうけどね。

**井上**　でも、グレイシーって多いですよね、「まいったしてない」とか。

――確かに（笑）。まあ、それがらしいって言えば、らしいんですけどね。ところで、吉田選手がプロの総合格闘技の世界に行くと聞いた時はどう思いました？

**井上**　そうですね……、吉田先輩らしいなって感じですね。柔道の面でもそうでしたけど、何かをやってくれる方だったんで。今度はそちらの世界で、また素晴らしい花を咲かせるんだなと。

――対戦相手がホイス・グレイシーに決まった時はどんなことを思いました？

**井上**　いきなり凄い好カードだなと思いましたね。ホイスは寝技が強いというイメージがありましたけど、吉田先輩が寝技で取ったのはあまり見たことがなくて。やれば強いと思うんですけど、試合では

◀前号の『Dynamite!』の記事を見入る井上。「ノゲイラとサップの試合はホント面白かったですよね」

いつも立ち技で決めていたんで、どういう闘いになるんだろうという楽しみはありましたね。

――全日本の合宿などで吉田選手と寝技の練習をやったことは？

**井上**　立ち技はよくやりましたけど、寝技はなかったですね。だから、吉田先輩のイメージがどうしても立ち技のイメージしかなかったんですよ。でも、合宿とかで一緒に練習やっていて、試合形式の寝技をやった時も、寝技の強い選手にも全然やられなかったし、逆に一本取ってましたんで。ただ試合で見せなかったというか、出なかっただけなんですよね。やられないということは寝技を知り尽くしているわけですから。そういう面では、寝技の技術でも引けは取らないだろうなと思いましたけどね。体重差もありましたから、そういう面でもやられることはないだろうと思ってましたけど。

――グレイシー側は体重差はそんなに気にならないと言っていたんですけど。素人を相手にするのと違いますからね。その点でも吉田選手を甘く見ていたかなという気がしますけどね。

**井上**　世界で闘ってきているわけですからね。関節の技術や抑え込みの技術は知り尽くしてますからね。ルールは前日に決まったんですよね？

――最終的に決まったのは、前日ですね。

**井上**　打撃があるかないかで、全然違いますから、そこらへんで変わってくるなとは思いましたけど。打撃がないような話を聞いて、それだったら全然いけるなと思いましたけどね。

――でも、吉田選手だったら絶対に大丈夫だろうって思う反面、柔道選手は本当に総合の世界で活躍できるんだろうかという不安も少しはあると思うんですよ。そのへん、どうなんですか、選手としては。柔道選手は総合の世界でも活躍できると思いますか？

**井上**　できるでしょう。できると思いますよ。体力的にもですけど、格闘技で一番大事なことって気持ちだと思うんですよ。柔道選手はそれをもの凄く持っていますから。中には優しくて強い選手もいますけど、だいたいが闘争本能を剥き出しにするような選手なわけじゃないですか。そういう意味では、一番必要なものを持っているわけですから。それに寝技の面。柔道に打撃がないっていっても、だいたい悪ガキですからね、みんな。

――ハッハッハハハハハ。

**井上**　小さい頃から、ケンカなんていっぱいやっていると思いますから。

――井上選手も？

**井上**　やってましたよ、普通に。そんなに乱暴者ではなかったですけど（笑）。

――技術的には、ルール上仕方ないと思うんですけど、寝技の技術が衰えてきていると言われているじゃないですか？

**井上**　確かに寝技が少なくなってきているというのは感じますし、いろんな人からも指摘されます。その一つの理由は、やはりルールが変わってきていて、そのルールの中で勝たなければいけないということで、寝技が少なくなってきているというのもあります。でも、それが言い訳だという気持ちも私にはありますね。

## ホイス、力が抜けてたでしょ。「あっ、落ちた」って感じでしたよね

# 井上康生

▶公開取材日ということで、日体大には２０人以上の記者が集まっていた。一番のお目当てのやはり井上のようだった

――普段の練習で寝技はどのくらい？

**井上**　1時間くらいはやります。

――やっぱり東海大は、佐藤宣践先生にしても山下泰裕先生にしても寝技が得意でしたもんね。

**井上**　そうです。寝技師ですから。寝技の技術は凄いありますし、そういう面でも、個人個人が寝技を疎かにしている面が大きいんじゃないかなと思いますね。私もそうですし。私なんかも、覚えなきゃいけないというのは凄く感じています。守る技術の面ではできていると思うんですけど、攻めの部分ですね。それがちょっと疎かになっていると思うんで。

――下から寝技で攻めるってあまりないですよね。

**井上**　そうですね。引き込むこと自体が柔道では反則になってしまうんで、あまりやらないですね。昔はそこから寝技の練習をすることが多かったんですけどね。

――ただ、東海大には最近でも、中村佳央、兼三兄弟という寝技師がいて。そういう意味ではいい勉強になっていたんじゃないですか。

**井上**　なりますね。寝技の強い人っていうのは、発想も凄いし、よく考えていますね。で、ポイントを極めるのがもの凄く巧いですよね。それは見習わなければいけないと思うんですけど、なかなかできないですね。

## 格闘技で一番大事なのは気持ち　柔道選手はそれを持っていますから

――今回の大会は国立で9万人という観衆の中で行われたわけですけど、そういう舞台についてはどう思います？

**井上**　気持ちいいでしょうねぇ。そこまでいかなくても、全日本選手権で、日本武道館でみんなが見ている中心でやれるだけでも、気持ちいいですもんね。

――全日本選手権の、あの独特の雰囲気の中でやれるのは、柔道家としては最高の気分でしょうね。

**井上**　独特の快感ですね。試合に出て、あの場に立ってみないと分からない快感だと思います。あの快感はホントに止められないし、また勝ちたいという気持ちになりますよね。ある意味、その気持ちがモチベーションを下げないのかもしれませんね。だから、勝ち続けてマヒした時、どうなるかでしょうね。

――吉田選手は、柔道界を引退し、プロ格闘家に転向した理由の一つとして、「柔道に関してはやり尽くしたけど、まだ闘いたい」と話していましたが、井上選手はオリンピック金メダル、世界選手権、全日本選手権2連覇と柔道家の目標とするタイトルをすでに総ナメにしてしまいましたが、今後、モチベーションを上げるのが大変になるんじゃないですか？

**井上**　そうですね。やっぱり今から次の世界選手権、次のオリンピック、全日本、それから次のオリンピック……、までは考えていませんけど、とりあえず次のオリンピックまで、一番課題になってくるのは、その心の面だと思うんですね。そこでいかに柔道に集中できるか、それによって自分を強くできるかという問題になってくると思います。今の時点ではまだ柔道に対する情熱というのが熱いので心配ないと思うんですけど、それが少しずつ年齢を重ねて、満足感を得た時に、大変になってくるんじゃないかなと思いますけどね。でも、私には自分の階級で優勝することと同時に、無差別級での優勝という大きな目標があるんで、今のところ、モチベーションが落ちる心配はないと思いますけど。

――いま体重は？

**井上**　102～103キロです。

――で、世界の150キロとか160キロといった選手を相手に頑張りたいと。

**井上**　はい。やはり、自分より大きい相手を投げた時の喜びは格別ですからね。

――なるほど。それが井上選手にとっての新しいモチベーションというわけですね。ところで、吉田選手の最近の練習を見ていてつくづく感じるのは、身体能力の高さなんですよ。オリンピックで金メダルを獲るような選手の身体能力っていうのは半端じゃないですよね？

**井上**　中でも吉田先輩なんかは優れていますからね。でも、確かにオリンピック、世界選手権を獲る人たちというのは、何をやっても凄いというのはありますね。

――それは普段の練習などでも肌で感じたりします？

**井上**　感じますね。中村兼三先輩なんか、陸上選手にもなれるんじゃないかというくらい、足がもの凄く速いですし、サッカーや野球をやらせてもバツグンに巧い選手もいますしね。やっぱり身体能力はかなり高いですよね。

――井上選手もその筆頭だと思うんですけど。

**井上**　いやぁ、どうですかねぇ（笑）。

――あと、吸収力も違いますよね。

**井上**　よく考えているんじゃないですかね、普段から。いろんなことを見て、いろんな見方、いろんな発想の仕方をしていると思うんですよ。一つのことを一つ吸収するんじゃなくて、いろんな発想から、たくさん吸収しているんじゃないかなと思いますけどね。だいたい天才型の人は、やったことをすぐに覚えますよね。技なんかでも、普通の人が3～4カ月かけてようやく身に付けるところを簡単に覚えちゃったりしますしね。

――格闘技好きの井上選手にとって、今回の『Dynamite!』で一番面白かったのはどの試合ですか？

**井上**　やっぱり凄い楽しみだったのは吉田先輩の試合ですし、変な緊張感があったのも吉田先輩の試合ですけど、客観的に見て、ボブ・サップとノゲイラの試合はホントに面白かったですし、技術の面で凄いなと感じましたね。いろんな意味で、やっぱり柔道に通じますけど、小さい者が大きい者に勝つというのは、自分が目指している柔道でもありますから。最後の最後で、自分の得意技で仕留めたのは、心打たれましたね。

――ノゲイラとやってみたくないですか？　練習でもいいですけど。

**井上**　ぜひ一度、寝技の練習をしてみたいですね。どういう技術なのか。いろいろ吸収できると思うんですよ。自分自身、格闘技を見る時、試合自体を見て楽しむ面はあるんですけど、どうしても、技術の面では厳しい目で見てしまうというか、何か取り入れることのできることはないかと考えてしまうんですよ。それが打撃

SRS・DXスカウト隊

# 第2の吉田秀彦を探せ！

▶さすが体育会系。記者やカメラマンの分の焼き肉まで焼いてくれた

であっても、寝技であっても。技術的なことだけじゃなく、試合前の集中の仕方や気持ちの盛り上げ方でもそうですけど、いろんな面で参考になるんで。見てみたいなぁというのはありますね。

――後輩とかから「井上先輩も出てくださいよ」とか言われないですか？

**井上**　言われますよ（笑）。「先輩だったら勝てますよ」とかね。いい加減なこと言うなって（笑）。「ヒクソンとやってくださいよ」って言われた時に、「いやぁ、K―1見に行って、ヒクソンの横に座った時、ビビッて目を合わせられなかったよ」って言ったら、「弱いっスねぇ、先輩」って笑われましたよ（笑）。みんないろいろ言いますからね。

――夢ですからね、周りからすれば。

**井上**　格闘技好きな後輩からしたら、ヒクソンを倒してもらいたいという願望もあるんでしょうね。

――そりゃ、あるでしょう。「井上先輩のほうが絶対に強い」ってみんな思っていますよ。

**井上**　ルールの面で有利不利があるとは思いますけど、柔道が勝てないというような考えだけは絶対にイヤですよね、柔道をやっている者として。

## ノゲイラの試合には心打たれました ぜひ一度、ノゲイラと練習してみたい

――それは断じて許せませんね。そう言えば、2年くらい前に「井上、プロ入りか!?」という噂が流れたじゃないですか。

**井上**　もの凄い騒がれていましたよね（笑）。オリンピック終わった後くらいですかね。何を根拠に言っているんだろうと思ってましたけどね（笑）。コンビニでスポーツ新聞見たら、柔道衣姿でガッツポーズしている写真が出てて、誰だろうと思ったら自分ですからね（笑）。で、ヒクソンと対戦か、とか書かれていて。勘弁してくれよって（笑）。

――ちょうど大学卒業の時でしたっけ？

**井上**　そうですね。でも、あんな噂が出たら、みんな期待しちゃいますよね？

――それは期待しますよ（笑）。

**井上**　ハッハハハハ。

――井上選手は、今は綜合警備保障に務めながら、大学院にも通っているわけですが、その後は大学のほうに戻られるんですか？

**井上**　いや、それは私の成長次第でどうなるか分からないですけど、指導者の道に進むことは確かだと思います。

――その合間に、ちょっとプロでやってみようかなぁみたいな気持ちは？

**井上**　いやいや、それはないです（笑）。

――ないですよね（笑）。まあ、ちょっと聞いてみただけなんで気にしないでください。ハハハッ。でも、井上選手もそうですけど、最近の若い選手たちってみんな格闘技が好きだし、偏見もないじゃないですか、そういう意味では、そういう人たちが指導者になることで、格闘技に関して寛容になったりするんですかね。

**井上**　指導者になった時に、自分の教え子がそうなることを考えたことはないですけど、自分の進む道というのは自由だし、自分を生かせればいいと思いますので、いろんな手助けはしてあげたいとは思いますけど……、難しいですね。

――柔道のレベルを上げるためには、一人でも多くの強い選手がいて、その中で切磋琢磨したほうがいいのは間違いないわけですけど、オリンピックを狙える選手というのはごく一部だし。だったら、それ以外の選手の中には、他の、例えば総合格闘技の道に進む選手がいてもいいんじゃないかという気もするんですよ。

**井上**　難しいですよね。でも、吉田先輩がプロに転向したことで、今まで以上に興味を持つ人は出てくるでしょうね。現にいますからね、やりたい人間。それが一流の選手かどうかは別にして、中・高、大学まで柔道をやっていたけど、そっちの道に進むとか、そういう人もいっぱい出てくると思いますよ。

――なるほど。それでは最後にご自身に関してですが、今度のアジア大会（9・30〜10・3／韓国）は無差別級にチャレンジするそうですが、ぜひ、優勝してください。

**井上**　はい、頑張ってきます。■

## 人材豊富な柔道界！まだまだいる、第2の吉田秀彦！

**篠原信一**（29歳／天理大学監督）

▶シドニー五輪では決勝のドゥイエ（フランス）にまさかの誤審で敗れ、涙の銀メダル。日本人離れした体躯から繰り出される投げ技の破壊力はもの凄い。98〜00年全日本選手権3連覇。99年世界選手権100キロ超級＆無差別2階級制覇

**矢崎雄大**（22歳／明治大学4年）

▶吉田秀彦の明治大学監督時代の教え子。アブダビコンバットの日本予選優勝（アブダビ本戦は欠場）の経歴を持つ。現在、90キロ級でトップの位置におり、先のワールドカップでは世界王者、世界2位の選手に一本勝ち。立ってよし寝てよしの好選手だ

**中村兼三**（28歳／旭化成工業）

▶中村三兄弟の末弟。96年アトランタ五輪＆97年世界選手権の71キロ級で金メダルに輝いている。86キロ級の93年世界王者である長兄・佳央とともに寝技の強さには定評があり、現役選手の中では随一の寝技師と言われる。現在は81キロ級で活躍中

**鈴木桂治**（22歳／国士舘大学4年）

▶同級に井上康生がいるため、その陰に隠れて一般的な知名度はない鈴木。井上がいなければ100キロ級の世界王者になっていてもおかしくない実力の持ち主。まだ大学4年生と若いが、井上の陰で日の目をみないのはいかにも惜しい

吉田の活躍で一躍クローズアップされている柔道界には、総合でも十分に活躍できると思われる選手がまだまだたくさんいる。ここでは、柔道界のスゴ玉のごくごく一部を紹介しよう（あくまで編集部の独断と偏見によるものです。あしからず）。

### あの旭道山が断言！

# 総合格闘技に向いている力士？幕内全員行ったらいいんじゃないですか（笑）

**柔道の吉田秀彦が『Dynamite!』に出場し、金メダリストの底力を存分に見せてくれた。それならば、相撲界も遅れをとってはならない。相撲界にも吉田以上の逸材は必ずいるはず。現役時代、一発で相手をKOする突っ張りを持つ男・旭道山に、相撲界から総合格闘技で活躍できる人材がどれだけ豊富かということを語ってもらった。**

撮　影◎中島ミノル
聞き手◎小松魔裟夫

——この間、国立競技場で行われた『Dynamite!』は見られましたか？

**旭道山**　はい、テレビで見ました。

——あのう、『Dynamite!』には柔道の吉田秀彦選手が出たんですけど、金メダリストの超大物が、ああいう大会に出たっていうことで驚きだったんですよ。そこで、柔道以外の格闘技についても気になるところなんですよね。相撲はどうなのかなぁと（笑）。

**旭道山**　ワハハハハ、相撲ですか。

——やっぱり、柔道でトップが出てきたら、次は相撲じゃないですか。そこを今日はお聞きしたいんですよ。

**旭道山**　お聞きしたいって（笑）。まぁ、俺は辞めた人間だからね、あまり言えることじゃないですけど。相撲辞めた人間がプロレス行ったりとか、いろんな所で闘ってますから、そういう意味では嬉しいですよね。でも、その時代その時代に旬の体ってあるじゃないですか。うちら現役の20前半から30前半ぐらいがピークじゃないですか。それを越えるとやっぱり、落ちますから。だから、その選手がいい時に誰かとブチ当てるっていうのは

皆さん考えるかもしれないですけど、その究めている途中ですから。途中でポーンッと切り替えるっていうのは、どれだけ大変かなっていうのはありますよ。

—勇気がいりますよね。

**旭道山**　勇気がいりますよ。今は本当に『プライド』さんとかキャパができて、他に土俵ができた。歴史は長くないですけど、そういう意味では時代が作った土俵かなって。そうすると、皆さん、この人とこの人をぶつけてどうなる、こうなるとか考えますけど。

—ファンはそれで楽しみますよね。

**旭道山**　俺もプロレスからお誘いもらった時にありがたかったですけど、プロはプロで急にやれるわけじゃないですから。それなりの体を作らなきゃいけないし、そういう意味では皆さんが考えるような、安易にぶつけたらいいっていうのはやめたほうがいいんじゃないかな（笑）。本当の究極はストリートですから。

—ストリート！　路上のケンカ！

**旭道山**　誰が一番かっていうのは、皆さんが判断することで、やっぱりルールがあってやっているから、四角いリング、丸いリングっていう感覚ですから。皆さんが思うのは勝手ですけど（笑）。

—でも、ボブ・サップっていう選手はご存知ですか？

**旭道山**　はい。

—あれを見ていたら、本当に体のデカイ人は強いんだなって思ったんですよ。

**旭道山**　ううん、俺たちは無制限で、階級制の所じゃないですから。俺のマックスが106キロです。小錦（現KONISHIKI）さんとかマックスが283、曙（現曙親方）さんとか武蔵丸さんとかいますけど、身長2メートルの200キロですから。そんなのとやり合いますからね。だから、突っ張りの一発はヘビー級のボクサーのストレート一発ですからね。それをみんな耐えているんですから、それもグローブなしでね。

—一発でKOされるようなパンチを……。

**旭道山**　常に20発、30発も耐えている人間ですから、そういうのを分かってほしいなって。ただ単に太った人間がやっているんじゃないよって。だから、普通間合いがあるじゃないですか？　うちらの相撲っていう競技は間合いがないんですよ。

—そうですよね。仕切り線で仕切って、すぐポーンとぶつかりますもんね。ぶつかってなんぼっていうのはありますね。

**旭道山**　そうです。あれで衝撃度が1トンですから。普通の人は1トン耐えられないですから。

—ボブ・サップを見て思ったのは、あれより大きい人間って、相撲界にはいっぱいいるじゃないですか？　160キロって幕内の平均体重くらいですよね。

**旭道山**　腐るほどいますよ。

—だから、曙とか武蔵丸とかが出てきたら、どうなっちゃうのかなって想像しちゃうんですよ。

**旭道山**　うん、だから皆さんが想像して夢を膨らますのはいいかもしれないです。俺らは160キロとか常に当たっている人間ですから、なんとも思わないです。

—なんとも思わない！

**旭道山**　食らってもなんとも思わないです。200キロでやっと重いかなって。俺のマックスは106でしたけど、150キロの感覚でいましたから。

—エッ？　自分で150キロのつもりで闘っていたってことですか？

**旭道山**　うん、感覚がずれていますから。

## 突っ張りの一発はヘビー級のボクサーのストレート一発ですからね

人から見たら、なんだ106キロじゃないって思うかもしれないけど。200キロでも「小さいな」って思う時って何回もありますから。相手が大きく見えた時は、こっちが気で押されているんですよ。

—旭道山さんと言えば、突っ張りじゃないですか？

**旭道山**　突っ張りですか（笑）。

—ええ、パーンッと張って、KOしたことがあったじゃないですか。あれなんかも相手の大きさ考えずにやるんですか？

**旭道山**　今まで10人に1人は倒しています。

—10人に1人！　やっぱり狙っているんですか？

**旭道山**　相手の動き方、性格、行動、全部計算します。

—性格も！　綿密に調べるんですね。

**旭道山**　全部見ます。ビデオは全部チェックしますし、稽古場でそいつの癖とかパターンを見て、確率を考えて、そして後は行動パターン。最後は角度ですか。ただ単にパーンッとやるわけじゃないですから。角度をシミュレーションして、全部考えます。

—打ち方も他の人と違うんですか？

**旭道山**　俺のは一発です。

—一発！

**旭道山**　2、3発で倒すわけじゃないです。一発でキレイにいきますから。みんな研究して、カオスの原理っていうか、予測できないものを予測して、全部計算しますから。計算して計算できないものもありますけど、計算できないものを計算して、計算したデータにミックスしますから。だから、これはやってみないと分からないですよ。

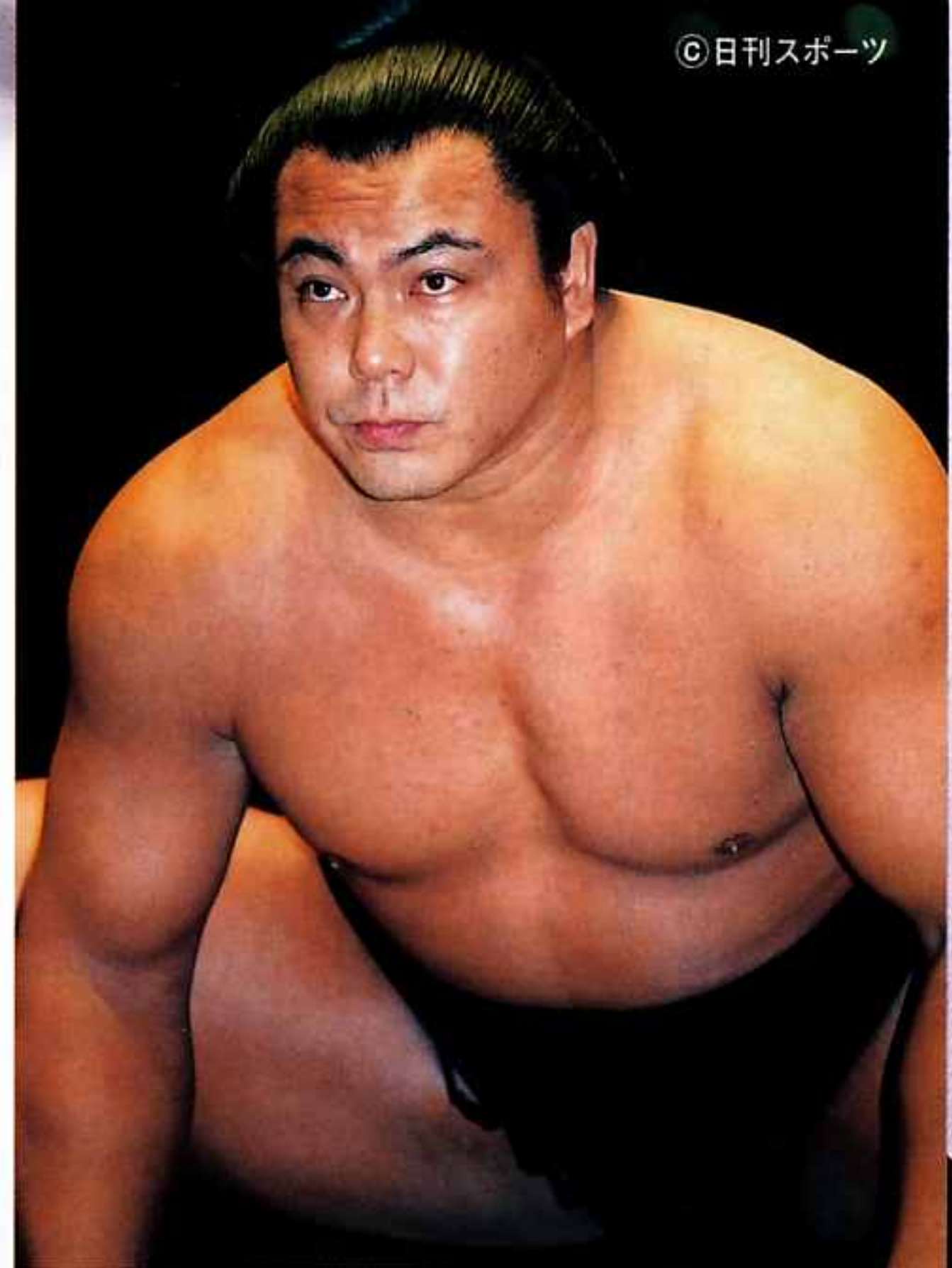
—体が小さいから、そう考えたんですか？

**旭道山**　俺の体が小さいとは思っていなかったですから。俺は立ち合いで変わったヤツは嫌いでしたから。だから、立ち合い思いっきりかましてたんですよ。押し相撲じゃないですけど、思いっきりかましてたんですよ。

—やっぱりはそれは性格的に。

**旭道山**　うん、攻撃的。普段は攻撃しませんけど、いざとなったらね（笑）。本当、変な言い方だけど、最後はストリートですから。それは身に降りかかったものから防衛するためには必要ですから。

©日刊スポーツ

▲『Dynamite!』を観戦した武蔵丸の体重は237キロ。力士になる前はアメフトをやっていたので、身体能力も抜群だ。相手の魁皇の怪力は有名で、小手投げで相手の腕をへし折ったことがある。もし、魁皇とバーリ・トゥードで差し合いになったら、恐ろしいことになる

だから、この人とあの人ぶつけたらどうなるかって夢を膨らますのはいいことです。でも、俺からしたら、究極はストリートですから。これをやったら動物ですから。ちゃんとそれを線引きしないと、人間はそういうのを本能的に持っていますから、人間としてのルールでやらないと。

—もし、ご自分で総合格闘技のリングに上がると、ストリートファイトみたいなものを見せちゃうという懸念があるんですか？

**旭道山**　皆さん、そうだと思うんですよ。上がった瞬間に……。俺たちはやるかやられるかの世界を生きてきましたから。それだけ、（両拳を触りながら）血を吸ってきてますから。本当、やっちゅうほど吸っています。

—やっていうほど！

**旭道山**　半端じゃない吸い方してますから。それだけやってきたから、上に上がっていけましたし、この体でやっていくのは生半可なことでは上がれませんから。どんだけ血を吸ったか（笑）。うちの部屋は昔は武闘派って言われてましたから（笑）。

—大島部屋は武闘派でしたか！

**旭道山**　その先発隊ですから（笑）。

—先発隊！（笑）。

**旭道山**　だいぶ落ちましたけどね（笑）。俺たちの頃はまだ、総合格闘技ってなかったじゃないですか。ただ、マイク・タイソンさんが来た時、やっぱりやりたいなぁっていうのはありました。

—タイソンと！　それはストリートでやってやろうとか考えたんですか？

**旭道山**　いやいや。そんなルールなんて考えてないです（笑）。だから、そういうふうに夢を膨らますのは楽しいし。

—では、ファンの妄想の話でいいんですけど。現役の力士で、総合格闘技に出したら、面白そうだなぁっていう力士を、旭道山さんから名前を挙げてもらいたいんですけど。

**旭道山**　そんなのいっぱいいますよ。みんな力士はスタミナがないから、5分も10分も保たないって言いますけど、1回相撲部屋の稽古を見てください。ぶつかり稽古。あれを皆さんできますかって。あれを5分10分できますかって。そういうのを見てほしいなって。ただ、まだ鎖国状態ですから、相撲界は。

—その凄い部分がまだ伝わりきっていないですよね。

**旭道山**　だから、一般的にはただ肥満体の人がぶつかっているだけかもしれないけど、なんで力士が強いのかっていうのを根本的に知らないんですよ。だから、幕内全員行ったら面白いんじゃないですか（笑）。

—幕内全員！

**旭道山**　凄いことが起きますよ（笑）。

## 差し合った時に、相手が差してきた腕を一瞬で折れますから

ただ、俺たちは勝負師。勝負師は死んだ者にトドメを刺さないんです。それが礼儀です。ある一線まではやりますけど。そこを越えるか越えられないか。プロは礼儀。ストリートは他の世界ですから。

—旭道山さんから見て、そこを越えちゃうような人って誰ですか？

**旭道山**　あんまり人のことを指摘できない（笑）。相撲協会で言えば、はーちゃんって言うんです。

—はーちゃん？

**旭道山**　何考えているか分からないヤツっていうか（笑）。やっぱり、切れても抑えられるのがプロですから。

—総合格闘技に出て活躍できる人って、そういう気の強さも必要だと思うんですよ。千代の富士さん（現九重親方）なんかはどうだったんですか？

**旭道山**　ふぅ〜、あの人は凄いですよ。

—現役時代にもし、『プライド』があって出ていたら、凄かったでしょうね。

**旭道山**　相撲協会で一番だったですから。横綱でもピンキリありますから。一線を越えられる人間です。

—現役の貴乃花関と武蔵丸関の両横綱はどうなんですか？　貴乃花関はかなり気が強いと思うんですけど。

**旭道山**　キレたら怖いでしょうね、ウワッハハハ。兄弟でも若関よりも貴関のほうが全然気は強いです。だけど、あんまり比較したくないですね（笑）。

—もし、ご自分で総合格闘技をやられるとしたら、どう闘うとか考えたことはありますか？

**旭道山**　俺は怖いです。

—怖い？　自分で何をするか分からないからってことですか？

**旭道山**　そうです。言えないこともたくさんやりました（笑）。でも、腕ひしぎとかやるじゃないですか。あんなのやらないです。差し合った時に、相手が差してきた腕を一瞬で折れますから。

—エエ！

**旭道山**　魁皇なんか狙ってやりますから。

—あの小手投げですか？

**旭道山**　本当に破壊王ですよ。

—相撲界の破壊王！

**旭道山**　稽古場でもそういうことはしょっちゅうありますから。立って腕を折れるんですよ。立ち技って余裕があるじゃないですか。寝技って逃げる余裕がないですから。余裕がある時にあれを出せる。

—恐ろしいですね。

**旭道山**　そういうことを考えると、いろいろ分かるじゃないですか。一番いいのは稽古場を見てもらうことです。

—差し合いをする場面なんて、総合ではたくさんありますけど、俺だったら一瞬で極めちゃうのにとか、思ったりしません？

**旭道山**　でも、それができていたら、俺は横綱になっていたし（笑）。本当にやってみなくちゃ分からないですよ、勝負は。だから、想像は人間が作った一番のエンターテインメントかなと。■



▲旭道山曰く、現役時代の横綱千代の富士は、協会でも一番気が強かった。今からでも千代の富士のバーリ・トゥードは見てみたい。ちなみに千代の富士も『Dynamite!』を観戦していた。弟子の千代大海にも期待したい

旭道山　和泰（きょくどうざん　かずやす）：1964年10月14日生まれ、182センチ92キロ。力士時代の愛称は南海のハブ。東京都世田谷区に生まれ、3歳から中学卒業まで鹿児島県徳之島で過ごす。1980年、中学卒業と同時に大島部屋へ入門。1989年の1月場所で新入幕し、小柄な体から繰り出す強烈な突っ張りを武器に最高位小結にまで昇進する活躍を見せた。1996年10月の衆議院議員選挙で新進党比例代表近畿ブロックより立候補を機に廃業。議員時代は、文教委員、国会移転特別委員などを歴任。2000年6月、衆議院解散にともない、議員を勇退。現在は、タレント活動や健康食品の販売などを行っている。2000年9月、ベストジーニスト賞受賞

# 相撲界はボブ・サップ以上の怪物の宝庫! 相撲よ、柔道に遅れをとるな!

　柔道界から吉田秀彦が総合格闘技の世界に進出し、『Dynamite!』でホイスに圧勝したことで、各競技のトップクラスの選手が、以前よりも『プライド』や今回の『Dynamite!』のような他流試合の場に打って出やすい状況になった。

　ということで、本誌の相撲番記者としては、愛すべき大相撲にも目を向けたい。今まで、大相撲から総合格闘技に出場した選手は結構いる。しかも、実はトップクラスの力士も多いのだ。北尾光覇（元双羽黒）は元横綱であり、魔界倶楽部の安田忠夫（元孝乃富士）は小結、思うように勝てない大刀光（四股名と一緒）ですら幕内力士。それなのに、安田以外はみんな相撲ファンの期待を裏切ってばかりだ。

　しかし、彼らは現役を引退してからプロレスラーに転向し、だいぶ経ってからの挑戦である。現役を引退した直後や、現役の途中で転向し、バーリ・トゥードに挑戦という例はまだ存在しない。しかし、吉田のプロ転向によって、そういう可能性も大きくなったのだ。

　そこで、今回は現役時代、突っ張りで名を馳せた旭道山にインタビューをし、相撲の強さを探ってみたのだが、話を聞いた結論から言うと、やはり力士は強い!

　『Dynamite!』では規格外の体を持つボブ・サップが、体のデカイ人間は強いというのをまざまざと見せつけた。しかし、サップの2メートル、160キロという体格の持ち主は、幕内の平均体重と同じぐらいだろう。これ以上の体格の持ち主が、大相撲にはざらにいるのだ。しかも、彼らはただ太っているわけではない。それは旭道山の言うように、稽古場を見学すれば頷ける話。ぶつかり稽古は凄まじくスタミナを要する稽古なのだ。

　体格の大きさで言えば、まだある。旭道山は最高で体重が106キロしかなかった。そんな体格でも、あの巨漢たちと激しくぶつかってきたのだ。もし、サップが突進してきても、なんの恐怖感も感じないだろう。それが、サップ以上の体格を持つ力士、例えば相手をガッチリ受け止める横綱・貴乃花や、同じく横綱・武蔵丸ならば、まったく軽く受け止めてしまうはずだ。幕内力士のぶちかましの威力はあんなものではない。突っ張り一発が1トンあると言われているのだ。ぶちかましの威力はそれ以上。そんな衝撃を毎日、稽古で食らっているのだから、衝撃に対する耐久力の点からも彼らは鍛えられ、また、自分が相手より小さい場合でも、大きい人間との闘いは慣れているため、まったく臆せず試合を受けてしまうだろう。

　また、技術的な部分で言うと、総合格闘技では、胴タックルにいった時、差し手争いを行っている場面がよく見られる。旭道山は相手の腕が入った瞬間に関節を極めて折れると言うのだ。これは考えてみると恐ろしい。例えば、貴ノ浪などは、よく両差しを食らいながらも、そのまま腕を抱えて、いわゆる閂状態で土俵の外に持っていってしまうが、あの体勢で本気で極められたら、サップですら脱出不可能なのではないだろうか? しかも、あのまま倒れ込んだら、ポッキリと腕が折れてしまう可能性だって十分ある。大関の魁皇は、小手投げが得意だが、これも相手のヒジの関節を極めながら投げてしまう。魁皇は、これで相手の腕を折ってしまったことさえあるのだ。もし、この2人が『プライド』に上がったら、立ち関節でギブアップを取れるのではないだろうか。

　現役力士の参戦はさすがに難しいだろうが、OBならばどうだろうか。元横綱・若乃花なんかは面白い存在かもしれない。若乃花は現在の大相撲では小柄な部類にありながらも、横綱という最高位を究めた男だ。引退後、相撲界から足を洗い、NFLへ挑戦をしたが、これに失敗。しかし、挑戦しようとするぐらいなのだから、その身体能力も、闘争本能もまだ衰えていないはずだ。それから九月場所で引退したばかりの寺尾、貴闘力の2人も見てみたい。寺尾の回転の速い突っ張りは、シュート・ボクセの打撃にひけをとるものではない。

　とにかく、大相撲は他の格闘技にはない体格が大きい人材がゴロゴロいるという利点がある。第2の吉田は大相撲から! 力士たちがリングに上がる日が待ち遠しい。

（小松魔裟夫）

▶現役時代に両ヒジを手術し、これ以上は曲がらなくなってしまった旭道山。こんな激しいことをやっている力士が、バーリ・トゥードで通用しないわけはない

◀9月場所、1年4カ月ぶりに土俵に復活した貴乃花。15日間、その勝敗が注目されたが、この人が四角いリングに戦場を移したら、吉田以上の騒ぎになる

©日刊スポーツ

# ソウル五輪金メダリスト&メダルを忘れた男、小林孝至、大いに悩む!!

「アマレス界は全滅だよぉ……」

なら、お前が出ろ!

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

『Dynamite!』における吉田秀彦のケタ違いの強さは、総合格闘技の世界を塗り替えるほど。やはり、メダリストはモノが違うのだ。そんな逸材がアマレスの世界にもいるはずだ。ということで、現在、『プライド』のジャッジとしても活躍しているソウル五輪金メダリスト小林孝至氏にアマレスの凄玉を紹介してもらう。

SRS・DXスカウト隊

# 第2の吉田秀彦を探せ!

―この間の『Dynamite!』の吉田選手を見て、やっぱりメダリストはモノが違うなって痛感したんですよ。

**小林** やっぱり普通の人じゃないのは確かですよ。

―だから、今日はレスリング界の普通じゃない人を、元ソウル五輪金メダリスト&金メダルを電話ボックスに置き忘れた過去を持つ小林さんにお聞きしたいんですよ(笑)。

**小林** そうねぇ、世界にはたくさんいるけど日本には……少ないねぇ。

―シドニー五輪銀メダルの永田克彦さんなんかどうですか。

**小林** いや、ちっちゃいでしょ? 69キロ級でしょ?

―でも、普段は77キロあるみたいですよ。

**小林** でも、一回りちっちゃいよね。

―太らせればいいじゃないですか(笑)。

**小林** デブにしてどうするの? そんなら兄貴鍛えたほうが早いよ。あのさぁ、昔だったら1人2人いたんだけどね。メダリストとなると厳しいよぉ。

―レスリング協会のホームページを見たら田南部さんって人が期待されてるみたいじゃないですか。

## ホントにいないんだよぉ、困ってるのは我々のほうだよぉ!

**小林** 田南部なんてもっとちっちゃいよ。オレと同じぐらいでしょ。日本の現状ってそんなもんですよ。

―メダリストって今、少なくなってるんですよね。

**小林** だって、金とったのオレが最後だもん。あれから14年ですよ。だから、かえってアマを卒業してから強くなった人間はいるでしょう。永田の兄貴だって、ハッキリ言って弱いとは思わないし、中西だっているし、藤田、石澤もいるし。

―でも、吉田選手のケタ違いぶりを感じたいとなったらアマチュアで実績がある人、日本を背負った男なんですよ。

**小林** 吉田クラスのスーパースターはいないよ。

―じゃあ、メダルは別にして、総合で活躍できる選手っていますか?

**小林** まだちょっと出てきてないね。なにしろ世界選手権で予選ラウンド通過したの田南部だけだからね。でも、ちっちゃ過ぎるんでしょ。

―松本慎吾さんっていう方は期待持てるんじゃないですか。グレコの85キロ級で全日本選手権では敵なし。

**小林** う~ん。あんまり印象ないなぁ。全日本は取りあえず見てるけどなぁ。

―小林さん、この取材の意味分かってますか? レスリングを上げる話をしてくれって言ってるんですよ(笑)。

**小林** あ、そうね(笑)。だから、85以上の選手じゃないとね。で、できればグレコよりはフリーの選手のほうが器用。

―まあ、それはそうですけど、松本さんは日本の少ない駒の中では期待できるというかねぇ。

**小林** そうだよねぇ。でも、今やってる世界選手権の予選突破してねぇんだよなぁ(笑)。

―この人だけは! そしたら話が終わっちゃうじゃないですか(笑)。

**小林** だって、ホントにいないんだってば! 困ってるのは我々のほうなんだよねぇ。

―愚痴を聞きにきたわけじゃないんですよ(笑)。

**小林** 正直な話ねぇ、昔だったらスーパースターになれる素材はいたんですよ。

―例えば、馳さんとかですか(笑)。

**小林** はぁ? 今誰って言った?

―馳さん(笑)。

**小林** あのねぇ、あの辺の人たちをもて遊んでた人がいたからね、下の階級で。

―誰ですか。

**小林** 74キロ級の金メダリストの伊達治一郎って人ですよ。あの人がこの世界に来たら間違いなくスーパースターですよ! あの人は世界でも二階級ぐらい上の選手とやっても勝てるからね。

―世界の中で!

**小林** ブルガリアだったと思うんですけど、太田章さんがね、ある選手にグチャグチャにやられててね、そしたら伊達先生が見てて腹が立ったんでしょうね。「太田、オレと代われ」って言って相手をグチャグチャにやっつけちゃったんですよ(笑)。

―凄いですねぇ。

**小林** いや、まだ、話は終わってないんですよ。で、練習終えて帰ろうとしたら体育館の正面にさっきの選手が表彰台の上に立ってる写真が飾ってあるんですよ。よく見たらモスクワ・オリンピックのチャンピオン(笑)。だから、2階級上の金メダリストが1ポイントも取れなかったの伊達先生から。あんな人、見たことない。

―バケモノですね(笑)。僕らはそんな人を待ち望んでるんですよ。

**小林** うん。当分でないでしょう。とにかくケタが違うんですよ! 強さも人間の幅も。スポーツに対する奥行きも深いし、遊ぶ時は遊ぶし。渋谷から歩いて帰って、すれ違った人みんなブチのめして帰ったりとかね(笑)。

―なんでですか!(笑)。

**小林** 分からない(笑)。そのお陰で部が出場停止になったとかっていう伝説が残ってる人ですよ。

―パーフェクトですよ(笑)。今いくつぐらいなんですか。

**小林** 50歳超えてるね。

―小林さん! 少しぐらい可能性のある話をしてくださいよ!(笑)。

**小林** だって、いないんだもん。

―そういう環境を作りましょうよ。

**小林** 無理でしょうねぇ。そういう型破りな選手は、扱いづらいってだけで毛嫌いされるでしょ。

―小林さんも変人って言われてたじゃないですか(笑)。

**小林** よく言われました(笑)。オレにとっては普通でも周囲は理解できないみたいなんだよ。

―そんな人はいないんですか。

# 一つだけハッキリ言えることはアマの技術は総合の世界より遥かに上だよ

**小林**　今、みんな素直だからねぇ（笑）。

――分かりました、こうなったら、小林さんが出ましょうよ（笑）。

**小林**　オレはちっちゃいし、来年40歳だよ。

――ヒクソンより年下ですね。出れますね（笑）。

**小林**　もう勘弁して。オレも今はアマの練習をやるとね、正直3分がやっとだからね。30歳まではなんとか全日本チャンピオンあたりにまでは点数やらなかったんだけどね、病気してからダメだね。

――病気したんですか。

**小林**　盲腸。

――ふざけてるんですか！（笑）。

**小林**　いやぁ、お腹切っただけで変わっちゃった（笑）。日本で今、誰がいるかって質問出た時にね、「おいおい、誰がいるんだよ」って思ったんだけど、ホントに今、人材不足というかねぇ。

――小林さん、スカウトとして動きましょうよ。

**小林**　だって、オレが今やってる仕事はどうなるの？

――それはDSEにやってもらって（笑）。

**小林**　オレだって教えてあげたいけど、時間がないんだよぉ。あとはね、自分で習得する意志があるかどうかですよ。だって、トレーニングやれば強くなるっていう世界じゃないから。自分で考える能力がないとね。サクちゃんなんか、試合中になんか考えて技を作っちゃうんじゃない？　天才ってそんなもんだもん。

――そんな天才がアマレス界には？

**小林**　全滅。

――身もフタもない人ですね！（笑）。

**小林**　メダルは取ってないけども、谷津さんは強かったよ。あの人もモスクワ・オリンピックがあればメダルの可能性は十分だったから。でも、それよりも伊達さんのほうが強かったなぁ

――昔話はいい加減にしてください！（笑）。ところで、ちょっと話は変わりますけど、アレキサンダー・カレリンが来年12月のロシアの選挙に出ないって言ってるようなんですよ。

**小林**　え！　議員辞めるの？

――国会議員辞めて、アマレス界に戻ってくるみたいなんですね。

**小林**　コーチになるのかな？

――コーチになるのか、『プライド』がどう引っ張ってくるのか、いずれにせよ、総合をやる可能性は出てきましたよ（笑）。

**小林**　確かに、あそこの国には人間なんだか、白熊なんだか分かんない人がいっぱいいますからね。

――期待感はありますからね。だから、日本も選手育成を急ぎましょうよ。

**小林**　うん。それは確かに考えてはいるんだよ。アレクにしても、素質を持ってるのに、技術の習得がイマイチなんですよ。それができればね。で、これだけはハッキリ言えるけど、アマチュアの技術レベルはこの世界より遥かに上よ。

――それは吉田さんを見てつくづく感じましたね。

**小林**　吉田だって今は柔道の世界では、世界の頂点からはほど遠い選手なんですよ。でも、技術レベルっていうのはそのまま持ってるんですよね。その部分をこっちに生かせば通用するんですよ。だってね、オレなんか、タックルして足持ってるのに倒せないなんて信じられないもん。タックルっていうのは足を取りにいくまでが大変なんだよ。オレ、現役の時、足を掴めたら絶対に倒したよ。こんな抱えなくても三本の指が第一関節までかかるだけで良かったんだから。

――たったそれだけでいいんですか？

**小林**　そうだよ。あのね、アマレスの人間は関節を知らないとか言うけど、タックルも関節技なのよ。ヒザと股関節を狙ってるの。そうしないと倒れないよ。バランスを崩すだけで倒れると思ったら大間違いですよ。関節を極めとかないと倒れないですよ。

――そういう話を聞くとますますね……。

**小林**　胴タックルなんか、オレ、何人もアバラを折ってるから。

――胴タックルで？

**小林**　ちょっと立ってみ。横から入ってアバラの一番下の骨に腕の固いところが当たるようにして絞めあげるんですよ。

――痛ァァ！　うわぁ、凄ェ！

**小林**　フロントネックロックだって落とすんじゃなくて頭をこうやって抱えれば、首の骨が折れるんだから。

――ウァ！　ちょっと！

**小林**　効くでしょ（笑）。アマレスの技はほとんどが関節技なの。それを昔の選手はみんなできたの。

――怖ろしい！　メダリストって本当に怖ろしいですよ！　小林さん、真面目に出ましょうよ。

**小林**　イヤだよ、もう。それより、オレに聞くなら技術論聞いてよォ！　なんぼでも喋るから。

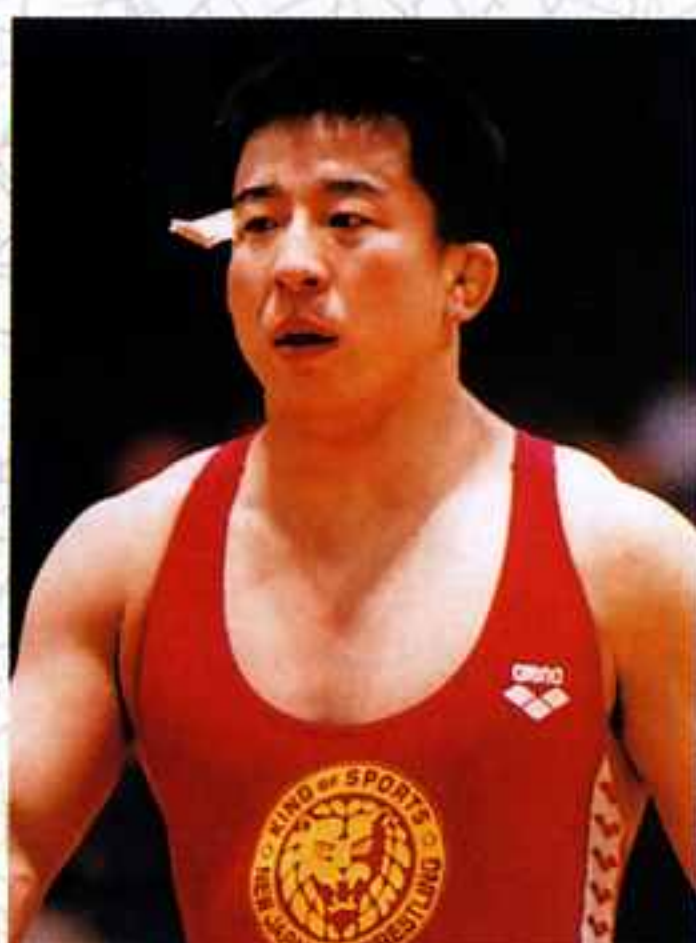
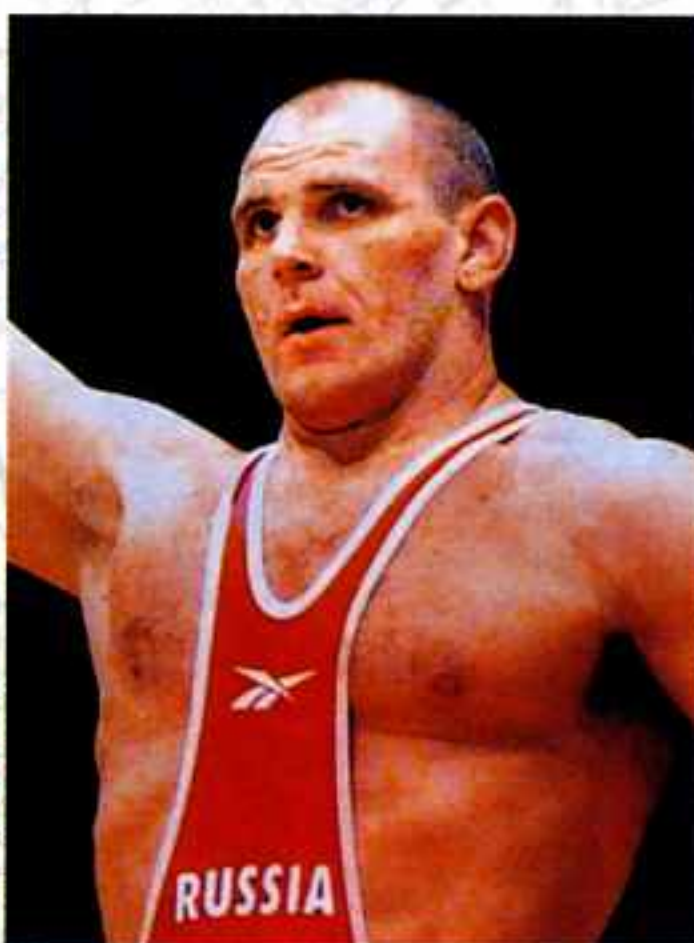
――もしかして、今一番聞いてほしくないところを聞いてました？（笑）。

**小林**　正直、悩んでるところなんだよなぁ（笑）。

――人材（笑）。

**小林**　そこは、オレが頑張ったからってどうにかなるって問題じゃないからね。今度は技術論を聞いてね（笑）。

――いや、出てください（笑）。■

## この人に期待!!

▶永田克彦　1973年生まれ。大学に入ってから注目され、2000年のアジア選手権の優勝、同年シドニー五輪で銀メダルを獲得と、日本アマレス界期待の男。新日本プロレスの永田裕志の弟であり、闘魂クラブ所属ということでプロでの活躍へ期待大

▶アレキサンダー・カレリン　世界選手権を12年間制し、オリンピックも3連続金メダル獲得という、アマレス最強の男。前田日明の引退試合の相手として来日しており、日本の格闘技ファンにも馴染み深い。ソ連崩壊後はロシアの国会議員として活躍していたが、来年の選挙には出ないと表明。レスリングの世界に戻る予定だという。36歳

## 朝日新聞の一面ゲットに続き、またまた快挙

# 森前首相が『Dynamite!』を絶賛!

## K-1の他流試合・効果抜群!

## そして

**豪華絢爛!トップファイター勢揃い!**

**10.5 K-1 WORLD GP2002 開幕戦**

**直前情報!**

◀8・28国立競技場『Dynamite!』を最前列で観戦していた森前首相

# 豪華絢爛のK-1GP開幕へ

## 驚愕の手記!

「『Dynamite!』は凄かったねェー。国立競技場が文字どおり熱気で爆発してしまうんじゃないかと思ったよ」
「オ、森先生行かれたんですか?」
「行ったよ、行ったよ。石井君が招待してくれたんでね。良い席を用意してくれたんで行ってきたよ」
「何が凄かったですか?」
「いやまァ、凄い人の数だった。そして、もーの凄い熱気だった。あの石井君というのは大した男だな」
「そうです。時代を先読みしてトレンドを作り上げる一種のカリスマですよ。ほかには?」
「そうそう、猪木君がパラシュートで上空から降りて来たんだよ。凄かったなァ。表情をアップで映す小型カメラをヘルメットに付けてたんだけど、猪木君の引きつった顔がおかしかったよ。後で『怖かったんだろ?』と聞いたら『いや、アレは風圧で顔が強張ってたんですよ』と言い訳してたがね。ありゃどう見ても、恐怖におののいてる顔だったな、ウン」
「柔道の吉田秀彦選手のホイス・グレイシーとのデビュー戦はどうでしたか?」
「ありゃ問題にしてなかったなァ。モノが違うよ。判定に抗議してたのはみっともなかったなァ。完全に首を絞められて手足がダランとしてたもの。レフェリーが止めるのは当然だろ、殺し合いじゃないんだから」
(週刊『ファイト』9月26日号「馳浩の王道プロレスの行方!!」より)

**空前絶後**

### K-1 VS『プライド』、純K-1のど迫力マッチ、そして新世代の台頭と見所満載！

# ミルコのカード発表が遅れたのは、体調不良か？ 天狗になったか？

史上空前の興行戦争を終えた8月のマット界。やはり、結果は『Dynamite!』の独り勝ち。9万1千人という史上最高の観客動員数を記録し、吉田秀彦の衝撃デビュー、桜庭のまさかの敗北、ノゲイラVSサップの名勝負など、数々の伝説を作り上げた。その反響は凄まじく、3大紙などでも大きく取り上げられていたが、総合プロデューサーの石井和義館長は、これで不動の地位を得たことになる。

そもそも、石井館長は「他流試合こそ、一番面白い格闘技イベント！」と言い続けてきた人だ。K—1のKは、立ち技格闘技の空手、キック、カンフー、拳法などの頭文字をとったもので、そのナンバー1を決めるイベントというのが基本コンセプト。K—1ももとはと言えば、立ち技格闘技の他流試合だったからこそ、あれほどブレイクしたのだ。

しかし、そのK—1も10年の歴史を積めば、ある程度のマンネリ化が訪れるのも当たり前。特にK—1のエース、アンディ・フグの急死は、K—1に大きなダメージを与えた。そこで、石井館長はK—1のフィールドさえも飛び越えて誰もが予想もできない戦略に出た。それが、猪木軍、『プライド』といった総合格闘技への挑戦である。

もちろん、他流試合には大きなリスクが伴う。まして、K—1しかやったことのないファイターを、投げ技、関節技有りの世界へ引き込むというのは無謀。一歩間違えれば、K—1崩壊という大きなリスクだってあっただろう。

しかし、K—1ファイターの身体能力と石井館長のプロデュースによって、この賭けは大きな成功をもたらした。最初はK—1の他流試合に対する反対の声が圧倒的だったが、逆にK—1は見事に甦る結果に終わったのだ。この一年間は、K—1にとって新たな可能性を見出した一年だったと言えよう。

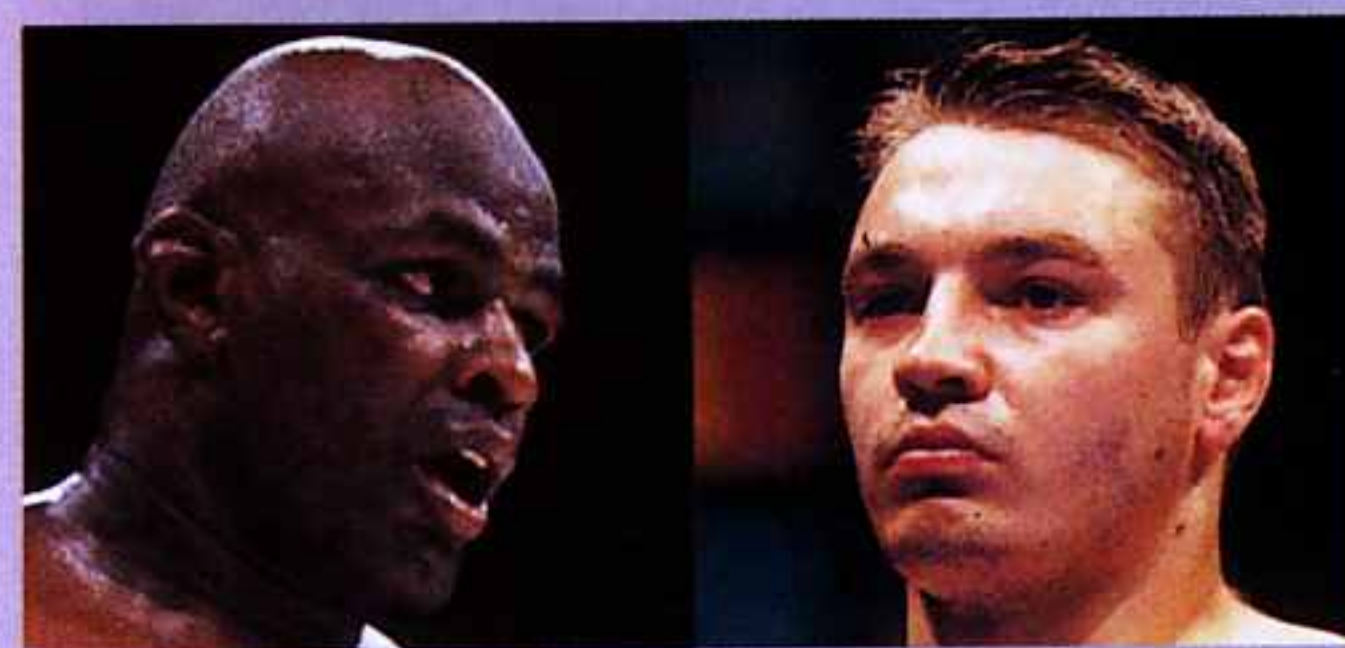
その証拠に、石井館長のブレイクぶりも凄い。正道会館の館長から、K—1でプロデューサーとしての地位を築き上げ、テレビ局や芸能関係と強いパイプを持つと、『Dynamite!』で完全に他を圧倒する大プロデューサーのイメージを植え付けた。もはや、石井館長のイメージはK—1さえも越えている。

そんな激動の一年を辿ったK—1の集大成が、10・5さいたまスーパーアリーナで行われるGP開幕戦と、12・7東京ドームで行われる決勝トーナメントである。

なにせ、去年まではこの大会は純K—1の闘いというイメージが強かった。しかし、今年はミルコ・クロコップが他流試合で大変貌を遂げ、

▲なぜか9月22日時点でミルコがらみのカードが発表されないK－1ワールドGP。いったいどういうことだ？

▲その他の出場予定選手のレイ・セフォー、セーム・シュルト、マイケル・マクドナルド。なお、極真のフランシスコ・フィリォは、今回不参加を表明した

# K-1 WORLD GP

『プライド』からもゲーリー・グッドリッジやセーム・シュルトが参戦。一気に他流試合GPの様相を呈することになった。

また、アレクセイ・イグナショフやマーク・ハントといった若手の台頭も著しく、今年は隠れた存在として、マーティン・ホルムが注目されている。

そこに"20世紀最強のキックボクサー"ピーター・アーツや"スリータイム・チャンピオン"のアーネスト・ホースト、復活マイク・ベルナルドら創生期からK—1を支えてきた純K—1ファイターが迎え撃つというから、今年のGPは豪華絢爛、見所の多い大会になるのは間違いない。

本誌の締め切り日にあたる9月22日の時点では、7試合中5カードが発表されている。①マーク・ハントVSマイク・ベルナルドの純K—1ファイター同士のどつき合いをメインとして、②ジェロム・レ・バンナVSゲーリー・グッドリッジのK—1VS『プライド』対決。③ステファン・レコVSマーティン・ホルムの新旧対決。④アーネスト・ホーストVSアレクセイ・イグナショフの超実力派対決。そして、⑤ピーター・アーツVSグラウベ・フェイトーザの崖っぷち対決がそれだ。

こうやってみると、どのカードも他のイベントではメインを張ってもおかしくないマッチメイクばかり。そこに、出場予定選手として、ミルコ・クロコップ、レイ・セフォー、セーム・シュルト、マイケル・マクドナルドが名を連ねる。まさにK—1オールスター勢揃いの開幕戦となる。

なお、昨年準優勝のフランシスコ・フィリォは、調整不足のためか今年のGP出場を辞退。その代わりにK—1ラスベガス大会（最終予選）の準優勝者、パベル・マイヤーがいったんはエントリーされたが、ラスベガス大会の負傷が酷く棄権。そのため、極真のグラウベ・フェイトーザが代打出場することになった。

しかし、気になるのは、残りの2カードの発表が遅れていることだ。本誌が掴んだ情報によると、その原因はミルコにあるらしい。詳しいことは分からないが、先の8・28『Dynamite!』の桜庭和志戦でミルコもまたどこかを痛めたのか、それとも何か他に原因があるのか？

一説によると、バーリ・トゥードを始めてから、ミルコの潜在能力は爆発。肉体ばかりか性格まで変わり、自信というより、かなりの大口を叩くようになった。まして、そんな時にあの桜庭にまで勝ってしまったのだ。関係者の中には「ミルコは天狗になっている」という声も出ている。今回、ミルコの返事が遅れているのも、もしかしたら、そういうところに原因があるのかもしれない。

そんなミルコの参戦が決まったら、相手はマイケル・マクドナルドになる可能性は高い。「選手が嫌がるマッチメイクこそ、ファンの興味をそそるし、名勝負が生まれる」というのがこの世界の鉄則ならば、開幕戦にはまさにふさわしいカードと言えよう。

なにせミルコのバーリ・トゥード挑戦のきっかけを作ったのは、昨年のK—1メルボルン大会でミルコがマクドナルドに1RKO負けしたからだった。このトーナメントは、優勝者が12月のGP決勝大会に進めるというコンセプトで行われ、ミルコは決勝でホーストと対戦する予定だった。ところがナメてかかった伏兵マクドナルドにまさかの1回戦KO負け。ミルコはGPの道を断ち切られ、あえなくバーリ・トゥード挑戦を決意したのだった。

たしかにミルコは、バーリ・トゥードに転進してから、復活を遂げたし、大変身した。しかし、そんなミルコがリベンジしなければならないのが、マクドナルドなのだ。

もし、ミルコVSマクドナルドになれば、もう一つのカードはレイ・セフォーVSセーム・シュルトに決まる。これもまた、ワクワクするK—1VS『プライド』対決。特に大巨人シュルトは、ホーストさえもキリキリ舞いさせたK—1にも対応できる選手。もしかしたら、今年の台風の目になるかもしれない。

これだけのカードが揃えば、『Dynamite!』に負けない凄いイベントになるかもしれない。10・5さいたま開幕戦を見逃すな！ ■

## K-1 WORLD GP開幕戦決定カード

マーク・ハント〈ニュージーランド／リバプール・キックボクシングジム〉 VS マイク・ベルナルド〈南アフリカ／レオナルドジム〉

ジェロム・レ・バンナ〈フランス／ボーアボエル&トサジム〉 VS ゲーリー・グッドリッジ〈トリニダード・トバゴ／フリー〉

ステファン・レコ〈ドイツ／ゴールデン・グローリー〉 VS マーティン・ホルム〈スウェーデン／ヴァレンテュナ・ボクシング・キャンプ〉

アーネスト・ホースト〈ドイツ／ゴールデン・グローリー〉 VS アレクセイ・イグナショフ〈ドイツ／ゴールデン・グローリー〉

ピーター・アーツ〈オランダ／メジロジム〉 VS グラウベ・フェイトーザ〈ブラジル／極真会館〉

# 「オレは今、シュートボクセに入ろうかと思っているんだ！」

## やっぱり主役はこの男！ジェロム・レ・バンナだっ

聞き手◎谷川貞治

**豪華絢爛の今年のK-1ワールドGP開幕戦。その中でも、やっぱり大注目はこの男、純K-1の名勝負製造機ジェロム・レ・バンナだ。今年は初のK-1フランス大会を成功させ、さらに『Dynamite!』でも急きょドン・フライと対戦。そんなバンナが今年のGPに燃える！**

——ジェロムさん、今回のフライ戦は負けたフライもアッパレだったんですが、ジェロムさんも男気を見せましたねぇ。来日は試合当日だったんですって？

**バンナ** そうだ。『Dynamite!』のオファーは、大会の4日前に来たんだよ。オレはもともとこの大会に出る予定はなかった。本当は8月17日、ラスベガスでマイク・ベルナルドとの決着戦をやらないかってK—1からオファーがあったんで、それをオレはいったん引き受けたんだよ。マイクとは疑惑のノーコンテストになっていたからな。ところが、8月に入ってオレが体調を崩し、ドクターストップがかかってしまった。それで仕方がないから、10月の開幕戦に備えようと思っていたんだ。

——体調を崩したというのは？

**バンナ** 血液中の鉄分が不足しているって言われたんだけど、詳しいことは医者に聞いてくれ！　まあ、それでオレは試合をやるつもりはなかったんだけど、K—1からヴァンダレイ・シウバの相手は誰かいないかということで、オレの総合の練習用のスパーリング・パートナーを出すことになったんだよ。で、オレもヴァンダレイは強敵中の強敵だと思っているから、そいつに協力してやろうと練習相手を買って出たんだ。ところが、オファーを受けたその日の練習で、オレのアームバーで、そいつの腕の靱帯を切ってしまったんだよ。

——何やってんですか？（笑）。

**バンナ** で、まあ「ごめんごめん」と謝っていたら、その数日後に試合に出ないかというオファーがあった。「キミの体調が悪いのは分かっている。でも、予定されていたマーク（・ハント）が出れないんで、マスター・イシイが困っている」っていう知らせが入ったんだ。で、試合まで、あと4日しかない。最初は断ろうとしたんだけど、相手がドン・フライということと、マスター・イシイが困っているということで、じゃあ行くしかないなってことで決めたのさ。

——男ですねぇ。ドン・フライについては特別な思いが何かあるんですか？

**バンナ** 熱い男だよなぁ。いつも、ドン・フライは熱い闘いをする。シリルの時もそうだったし、タカヤマとの試合も

豪華絢爛！トップファイター勢揃い！

# 10.5 K-1 WORLD GP2002 開幕戦

## 直前情報！

▲『Dynamite!』に火を付けたのは、バンナVSフライの男塾対決だった

## マーク・ハントにドン・フライ オレは熱い男が好きだぜ！

凄ぇクレイジーな試合だった。オレはああいうデッカイ○ンタマを持った男と男の試合は大好きなんだ。それで、ルールもK―1ルールだったんで、まあいいかな、と。前から言ってるけど、オレは判定狙いのチマチマした闘いは大嫌いだ。プロだったら、ハントとか、フライのような熱い闘いをしなければ、ファンに申し訳ないだろう?

――いやぁ、嬉しいこと言ってくれますねぇ。でも、総合の試合だったら、受けていなかったんじゃないですか?

**バンナ**　それはそうだ。準備期間なしにナメて出ると、『ボンバイエ』のようになってしまうからな。あの試合は大いに反省している。なんてったって、ロクにトレーニングもせずに、ルールも知らないで出てしまったんだから。でもそれでフリーファイトに対するオレの興味が失せたっていうわけでもない。むしろ逆だ。あれ以来、オレはフリーファイトの虜になって、週に2回はジュージツのトレーニングをしている。

――では、もう一度『プライド』のような舞台に上がるつもりはあるんですね。

**バンナ**　ああ、年末は出るつもりだ。相手はヤスダでも誰でもいい。今度はそのための準備は完璧にやるさ。今回の来日でモーリス（・スミス）やジョシュ（・バーネット）とフリーファイトのスパーリングをやったんだけど、面白かった。実は今、オレは真剣にシュートボクセでトレーニングしたいと思っているんだ。

――シュートボクセって、あのシウバのいる?

**バンナ**　ああ、そうだ。オレが考えるにシュートボクセは、打撃系のフリーファイトでは、一番優れたジムだ。オレたちのようなK―1ファイターがシュートボクセの技術を学んだら、もうフリーファイトで何も怖いものはないだろう。

――へぇ～、僕も前からそう思っていたんですが、それをジェロムさんがやるというのは、大いなる実験になりますね。

**バンナ**　オレはもともと柔道やジークンドーをやっていたから、フリーファイトは大好きだ。今、マジでのめり込んでいるところだ。

――へぇ～。ところで、本番のK―1GPが今年もいよいよ始まりますが、開幕戦の相手は『プライド』のゲーリー・グッドリッジに決定しました。

**バンナ**　だから、オレは熱い男が大好きだ。ゲーリーも殴って殴って殴り倒すスタイルが好きみたいなんで、オレとの試合は開幕戦の中でも一番エキサイティングな試合になるはずだ。まあ、油断しないよう、フライ戦の時のように、早いラウンドで勝負を決めてやるよ。

――グッドリッジはラスベガスで、ベルナルドにも勝っちゃってますよね。それについてはどう思いますか?

**バンナ**　フン（笑）。まあ、マイクはマイクだ。自分の過ちは自分で解決するしかないだろう。まあ、マイクのファンは彼になぐさめの手紙を書いてあげることだな。

――K―1ファイターとして、グッドリッジにこれ以上、のさばらせたくないという気持ちはないですか?　マイクの敵を討つとか?

**バンナ**　オレがマイクの敵を打つという気持ちはまったくないね。ただ、『プライド』の人間がのさばるのは面白くねぇなぁ、たしかに。まあ、ゲーリーに対しては、どちらかというと好きなタイプだけどな。よくもまあ、K―1ルールでオレたちとやる勇気があるなって。

――なるほど。そういえば、ジェロムさんは桜庭VSミルコ戦で、桜庭選手のことを応援していませんでした?

**バンナ**　実はそうだ（笑）。オレはサクラバのファンだからな。前から言ってるように、バーリ・トゥードはグラウンドでゴロゴロやってて、まるでつまらない試合が多い。その中でサクラバはどこの国の誰が見ても面白い試合をするだろう?　ミルコは最近、調子に乗っているところがあるんで、オレはサクラバが勝つと思っていた。アクシデントだけど、そういうこともあるだろう。

――僕は今年のGPで、一番見たいカードがジェロム・レ・バンナVSミルコ・クロコップの一戦なんですよ。たぶん、多くのファンがそう思っているんじゃないですか?

**バンナ**　ミルコはいつでも潰してやるよ。じゃあ、ミルコが残っていたら、トーナメントの抽選会で1回戦でヤツの隣に行ってやろうか?

――ぜひ、そうしてください!　今年はマークしている選手はいるんですか?

**バンナ**　特にはない。K―1でオレが恐れるファイターは誰もいないよ。ただ、オレはトーナメントに向いていないところがあるんで、問題はそのへんにあるだろう。

――でも、そろそろ優勝してもらいたいです。

**バンナ**　ああ。もちろん、そのつもりだよ。

――ところで、『Dynamite!』では4日前にオファーされて大変だったんですけど、フランスから日本には2日で来れますよねぇ。なぜ、当日に日本に入ったんですか?

**バンナ**　どうしてもやらなきゃいけない用事があったからだ。

――どうしても、やらなきゃいけない用事?

**バンナ**　ああ、娘の幼稚園の入園式さ。

――えっ、娘の幼稚園の入園式?　じゃあ、4日前にオファーを受けて、娘の幼稚園の入園式に出て、それで試合の当日に日本に来て、フライと闘ったんですか?（笑）。

**バンナ**　そうだ。だから、日本に朝着いて、試合までホテルで寝て、時差ボケの取れないまま闘ったみたいなもんだ。さすがにオレも、こんな馬鹿げたスケジュールで試合をしたのは初めてだったぜ。

――んあ～、それが男っていうもんですねぇ。でも、ジェロムさんが、意外と親バカなんで驚きました（笑）。■

# 最大の防御は攻撃にあり!!

## 特攻一番星！ レイ・セフォーの雄叫び!!

**昨年のマーク・ハント戦以後、レイ・セフォーのノーガード攻撃は鋭さを増すばかり。今年、3月のマイク・ベルナルド戦ではノーガードからのアッパーカットという力石徹ばりの攻撃を繰り出してダウンを奪い、シュートボクセのサンタナ戦では秒殺KOと、熱い試合を展開中。常に男っぽい闘いを見せてくれるレイに注目だ。**

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）
撮影◎中島ミノル

部屋に入ると携帯電話で話していたレイ。基本的に英語なのだが、ときおり日本語が交じっている。特に印象的だったのが"どうでもいい"という言葉。堪能なのか？　変な言葉ばかり覚えているのか？

――日本語、うまいですね（笑）。

**レイ**　日本で生活するのに最低限は知っらないとね。まだ勉強中だよ（笑）。

――それが「どうでもいい？」なのか？（笑）。意味分かってます？

**レイ**　凄くいいってことだよね（笑）。

――意味が逆ですよ、それじゃあ（笑）。

**レイ**　友達がジョギング中だったんで、それはいいねって言ったんだけど。

――ああ！　「とってもいい」か！「どうでもいい」って聞こえます（笑）。

**レイ**　そうか！　これでまた一つ覚えたよ（笑）。

――頑張ってください（笑）。で、去年のハント戦以後、レイ・セフォーさんの試合は非常にエキサイティングでスリリングになってると思うんですよ。

**レイ**　（日本語で）どうでもいい（笑）。

――そうです！　とってもいい！（笑）。

**レイ**　今後、オレの試合は全てあんな試合になると約束するよ。アハハハ！

――つまり、これからもノーガード（笑）。

**レイ**　まあ、見ててくれよ。ファンが望むなら、いくらでも見せるよ（笑）。

――興奮しますよ、あれは（笑）。

**レイ**　でも、セコンドは大変みたいだよ。オレがノーガードになると「心臓麻痺が起こりそうになる」って怒るんだよ。「二度とやるな」って叱られるんだ（笑）。

――毎回、叱られてください（笑）。

**レイ**　しょうがないよなぁ（笑）。でも、あれは自然にああなってるんで、何とも言いようがないんだよなぁ。

――ホント毎回ですよね。ハント戦、ベルナルド戦とか。

**レイ**　一番大きいパンチと強いパンチを出す選手とやってるんだよな。考えてみると、オレがセコンドだったら、オレには付きたくないよな（笑）。

――オレはオレのセコンドに付きたくないと（笑）。

**レイ**　そんなの嫌だよ（笑）。

――でも、ベルナルド戦では、ノーガードからのアッパーが入りましたよ。

**レイ**　あの試合は面白かったよ（笑）。特に、ベルナルドは優れたボクサーだから、いろいろ試してみないと勝てない相手なんだ。だから、違ったやり方をやってみたんだ。

――凄ェ！　それがノーガードからのアッパーカットだったんですか。

**レイ**　そう。でも、ノーガードからのアッパーを練習してたわけじゃないんだ。アッパーの練習をたっぷりしてたら、あなったんだ（笑）。

――観客ウケするのは当たり前だなって思いますよ（笑）。

**レイ**　オレとしてはドンドンそういう試合ができればいいと思ってる。

――それで、セフォーさんが凄いのは、

### 豪華絢爛！トップファイター勢揃い！

# 10.5 K-1 WORLD GP2002 開幕戦

## 直前情報！

▲ベルナルド戦では１Ｒでダウンを奪われるも、その後、２度のダウンを奪い返して勝利。こんな白熱の闘いをまた見たい！

格闘技界の流れまで変えたってことなんですよ。バンナVSハント戦しかり、『プライド』の高山VSフライ戦しかりで、ボコボコの殴り合い、エキサイティングな試合がいろんなところで見られるようになったきっかけを作ったと思うんですね。

**レイ**　オレのファイトがきっかけになったんであれば、それは嬉しいし、今後も継続していきたいな（笑）。それにフライVS高山戦は最高の試合だった。エキサイティングで楽しかった。でも、オレだったら、あんな闘い方はしない。もっとスマートなやり方をするね。

――どんな闘い方ですか？

**レイ**　彼らは片手で相手を掴みながら殴ってただろ。でも、オレが殴るんだったら、両手さ！

――両手か（笑）。素晴らしい！

**レイ**　クレイジーだと思われるかもしれないけどね（笑）。

――というか、すでにあなたのことをそう見てる人もいると思うんですけどね（笑）。

**レイ**　そのとおりなんだよ（笑）。だけど、オレは毎回リングで１００％を出さなきゃいけないと思ってるから。

――で、何より凄いのは、それで勝ってるとこですよ。だからその勢いのまま今度のＫ－１も勝っていくと思いますが、誰か闘ってみたい相手はいますか？

**レイ**　いや、特にいないんだ。結局、８人のトップファイターと闘わなければいけないだろ？　だから、誰が相手でもメンタル面もフィジカル面も準備できてるってことさ。

――一昨年の決勝戦で当たったホーストと闘いたいとかないですか。

**レイ**　いや、全員と闘わなければいけないので誰でもいいさ。

――でも、今、ホースト選手は面白いですよ。強いけどスネてるスリータイムズチャンピオン（笑）。

**レイ**　う～ん、その質問はホーストに直接聞いてほしいな。でも、例えば子供がスネてる時は、早く成長しなさいって感じで叱ると思うよ（笑）。

――叱りますね（笑）。

**レイ**　それだけだよ。もう答えない（笑）。

――十分分かりました（笑）。では、ミルコ選手はどうですか？　闘い方があまり好きじゃないと、以前言ってたと思うんですが。

**レイ**　オレ、そんなこと言ったかな？

――ハント戦の時に途中からあんまり攻めなくなったのが好きじゃないと。

**レイ**　いや、ミルコのファイティングスタイルが嫌いというわけじゃない。あれはあれでミルコのスタイルであって、自分は自分の違うスタイルを持っているってことさ。今、彼はあのスタイルで成功しているんだから、変えずにやるべきだと思うよ。

――では、この前の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』の桜庭戦はどうでした？

**レイ**　あれは凄くいい試合だった（笑）。サクラバみたいな経験のある選手と闘うことも素晴らしいし、ミルコもよくディフェンスをしたと思う。エキサイティングな試合だったよ、あれは。

――ところで、『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』には、あなたも出ると思ってたんですよ。

**レイ**　あれ？　オレの試合見てない？

――見てないですねぇ（笑）。

**レイ**　早すぎて分かんなかったなぁ（笑）。

――いい加減なこと言う外人ですね（笑）。

**レイ**　正直な話、出たかったよ。でも、肩をケガしたんだ。そこで無理して出たらＫ－１に間に合わなくなるだろ。今年は絶対に優勝しようと思ってるからね。

――じゃあ、シウバ戦はＫ－１が終わってからですね。

**レイ**　そのつもりだ。たぶん、その試合はあると思ってくれていいよ（笑）。

――期待してます。

**レイ**　オレも期待してる（笑）。

## ファンが望むなら、いくらでもノーガードは見せる。そして優勝だ！

――あ！　それからもう一つ期待してることがあるんですよ。なんか10月からＣＭに出るそうですね。

**レイ**　缶コーヒーのＣＭだと聞いてるよ。

――しかも、共演は木村拓哉！

**レイ**　日本のナンバー１俳優だと聞いてる。そういう人と共演できるのは、とても名誉だと思ってるし、楽しみなんだ。

――どんな内容なんですか？

**レイ**　聞いているのはキムラさんをボコボコに殴る役らしいよ（笑）。だから、女性ファンには今のうちにお別れを言ったほうがいいと思うんだよなぁ（笑）。

――今彼女はいます？

**レイ**　ノー！　忙しいんだ。日本とかアメリカとか常に移動してるからね。やっぱり彼女を持つには最低でもその国に２週間はいないとダメだよ。それに今は試合に集中したいね。

――以前、婚約者がいましたね。

**レイ**　彼女もボクサーで、自分のキャリアに集中したかったんだね。俺はそれを止めることはできないよ。気持ちは分かるからね。今でも連絡は取り合ってるよ。

――高校時代はモテました？

**レイ**　ノー。凄くシャイだったんだ（笑）。

――シャイ？

**レイ**　みんな、そういう反応するけど、ホントに恥ずかしがり屋だったんだよ（笑）。初めてガールフレンドができたのは18歳か19歳のころだからね。

――それが今じゃあ（笑）。

**レイ**　そんなにモテてないよ（笑）。

――で、最後の質問なんですけどマーク・ハントさんて地元ではいつも裸足で過ごしてるみたいなんですけど、ニュージーランド人ってそうなんですか？

**レイ**　マークはちょっと部品が足りないんで分かんないな（笑）。■

撮影◎中島ミノル

**魔裟斗**
▶「5月にクラウスに負けてから、ちょうど5カ月。同じ相手に2回負けるっていうのは有り得ないんで。僕の中ではそれは絶対ないんで、借りをキッチリ返したいと思います」

**前田憲作**
▶「今回こういう場を作っていただいた石井館長に、そしてTBSさんに感謝しております。自分もいつかどこかで、こういう形でケジメをつけなければいけないと思っていたので、こういう場を作っていただけたことに凄く感謝しています。最後の試合は支えてくれた皆さんのために、前田憲作の強い姿をお見せしてリングを去ろうと思います。一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。押忍！」

**小比類巻貴之**
▶「5月の試合が終わって、長い日々が続きました。次は皆さんに勝つところをぜひ見せたいと思います。それと以前お世話になった前田さんが今回引退試合をするんで、その試合前に花を咲かせたいと思います」

**須藤元気**
▶「自分は打撃が2戦目なんですけども、デビュー戦の時がほとんどバックブローしかなかったので、今回はバックブロー以外の大技で勝ちたいと思います」

# ゴールデンタイムで完全生放送決定！
# 9・13 K-1ワールドMAX記者会見 in TBS

9月13日（金）、TBSにて『K―1ワールドMAX2002～世界王者対抗戦～』の開催発表記者会見が行われた。会見では、出席した石井館長と村浜を除く出場日本人選手6名がそれぞれ抱負を語った。中でも注目されるのは5月のトーナメントのリベンジ戦に挑む魔裟斗。石井館長の「今年の因縁は今年に」という言葉で、すぐさま組まれたクラウス戦だが、コメントを見ても分かるとおり、魔裟斗はいつもどおりの強気なコメントを残している。また、今回は世界各国から集められた強豪ファイターと日本人ファイターとのワンマッチの対抗戦形式。発表されたカードを見ても分かるように、出場する外国人選手は、5月のトーナメント出場した選手たちばかりでなく、ムエタイと中国武術の対抗戦で唯一勝利を収めている中国武術協会の秘密兵器や、韓国テコンドーのメダリストなどバラエティに富んだ顔ぶれが揃っているので、各選手の個性をじっくりと味わえるだろう。ところで、この大会は当日にゴールデンタイムで完全生放送されることが決定。こちらも、K―1史上初快挙と言っていいだろう。■

## 10・11 K-1ワールドMAX全対戦カード決定！
## 「強い日本の証明をこの中量級の大会で行います！」（石井館長）

**小次郎**
▲「今回、こういう場で試合をさせてもらえるチャンスを与えてもらったことに感謝します。グチグチ話すのは自分は得意じゃないので、小次郎っていう存在を試合でしっかり証明したいと思います」

**大野崇**
▲「またK-1に出場させていただいて、非常に光栄に思います。当日は激しく派手な試合をしたいと思います」

### K-1 WORLD MAX2002 世界王者対抗戦7対7マッチ対戦カード

| 試合 | 日本 | | 世界 |
|---|---|---|---|
| 第7試合 | 魔裟斗〈日本/シルバーウルフ〉 | VS | アルバート・クラウス〈オランダ/リングホージム〉 |
| 第6試合～前田憲作引退試合～ | 前田憲作〈日本/チームドラゴン〉 | VS | ジョン・"ザ・シャドウ"・ワシントン〈アメリカ/ライジングサンドージョー〉 |
| 第5試合 | 村浜武洋〈日本/大阪プロレス〉 | VS | メルチョー・メノー〈アメリカ/TEAM M〉 |
| 第4試合 | 須藤元気〈日本/ビバリーヒルズ柔術クラブ〉 | VS | テコンドー・メダリスト〈韓国〉 |
| 第3試合 | 小比類巻貴之〈日本/黒崎道場〉 | VS | ピーター・クルック〈イギリス/トロージャンジム〉 |
| 第2試合 | 大野崇〈日本/inspirit〉 | VS | 王三債（ワン・サンジェン）〈中国/中国武術協会〉 |
| 第1試合 | 小次郎〈日本/ウィラサクレック・ムエタイジム〉 | VS | マリノ・デフローリン〈スイス/ダイヤモンドジム〉 |

**K-1ワールドMAX放送予定**

**『10・11 K-1ワールドMAX有明大会』**

TBS系列28局全国ネット◎10月11日(金)18:55～20:54

**新番組『サイボーグ魂』**

10月1日より、9月いっぱいで終了した『闘魂筋肉』の後を受けて、新番組『サイボーグ魂』が毎週火曜日23時55分から24時30分の時間枠で放送される。出演はダウンタウンの松本人志で、大会前の選手の様子や舞台裏を紹介していく。

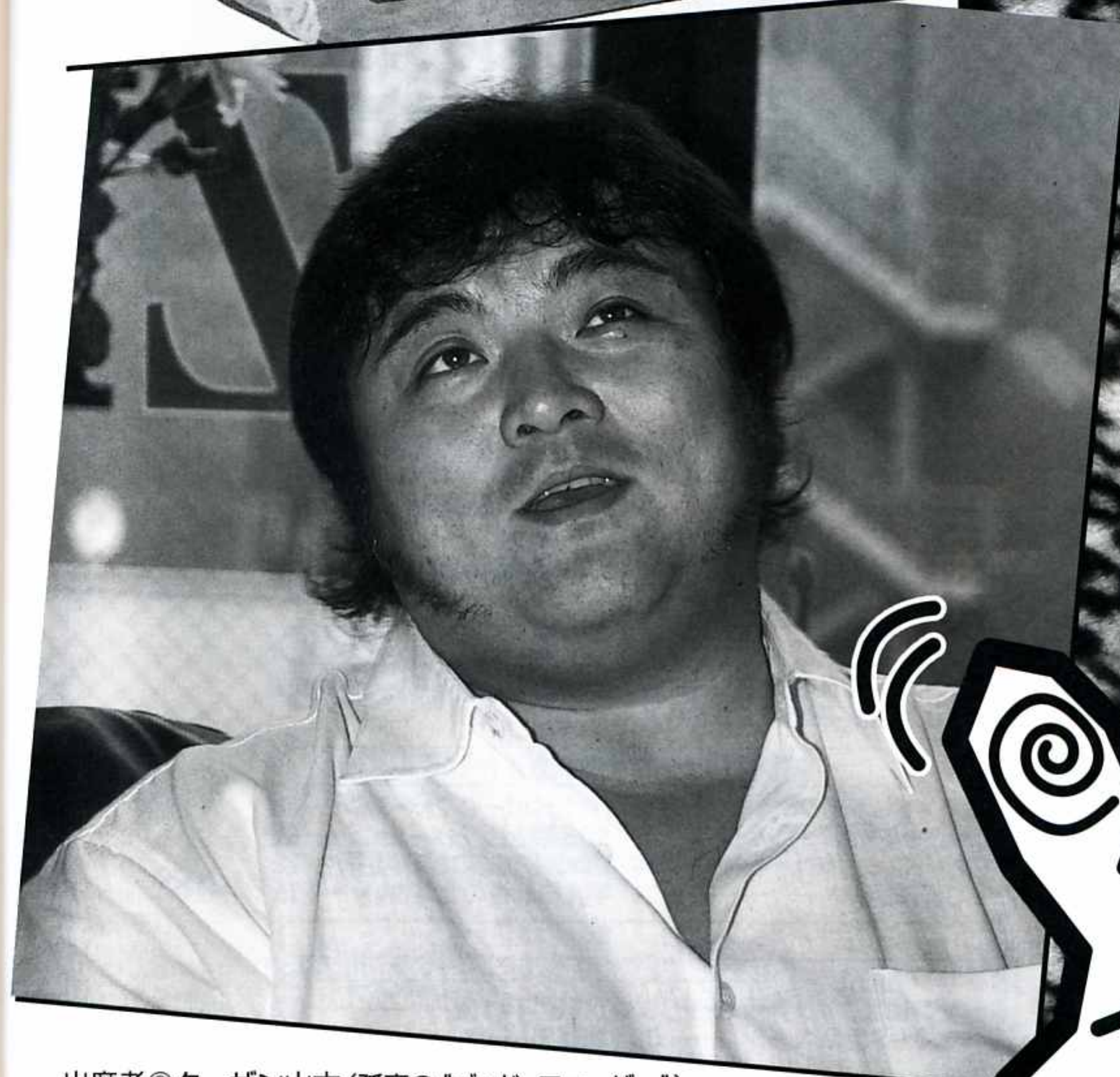
フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・ガイド
No.79 10・10号

# CONTENTS



※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

Dynamite!症候群
集中治療座談会

# プロレス心は母心 押せば命の泉湧く〜っ!

出席者◎ターザン山本（孤高の“ゴッド・ファーザー”）
サダハルンバ谷川（本誌“大ママ”編集長）
小松魔裟斗（本誌“ちいママ”編集部員）
司　会◎柳沢忠之（本誌“乳母”発行人）

# Dynamite!以降、どう生きてきたかいうことだよぉ

**山本**　おい、谷川ぁ！　この前はごくろーさんっ！

――今日は慰労でスタートか（笑）。

**谷川**　この前、山本さんの『生ゴン』のゲストに呼ばれたんだけど、そこで3代にわたる師弟が揃ったのよ。井上義啓編集長、山本さん、そして僕の3人が。

――並んだ光景を想像するだけでも凄いトリオだな、それ（笑）。そのうち4代目のモグも出さないといけないね、その番組に。

**谷川**　とにかくその番組では井上義啓編集長に全部おいしいところを持っていかれて。一番笑えたのが「新日本プロレスの10・14東京ドームでは全試合真剣勝負をやるべきだ！　そうしないと新日本はもうダメだ」とか、井上さんがさんざん新日本を批判してたんだけど、最後に「いま一番注目している団体は？」って聞かれたら、「そんなもんアンタ、新日本ですよ！」って。

**山本**　ひっくり返ったなぁ、あれには。

――さすがは筋金入りの変態だ（笑）。

**山本**　よ～するにあの時、井上編集長が言ったのは「10・14東京ドームで本隊と外敵の6対6をやるんだったら、それこそ真の勝負論を見せるために中西学とか永田なんかをズラ～ッと並べてやりなさい」「勝負論を見せずにプロレスをやるんだったら、ドームでやらないで小さな後楽園ホールでやりなさい」「東京ドームでプロレスをやっても、もう誰も見に来ませんよ」と。そこまで言っちゃうんだもん。あの人はもうホントにシュート活字の権化だよぉ。

**谷川**　「今、大切なのは真剣勝負」ってさんざん言っといて、最後に興味あるものを聞かれて僕はボブ・サップ、山本さんは闘龍門とか答えてるのに、最後に井上編集長が「新日本ですよ！」って。さすがは師匠の師匠、恐れ入りましたよ。

――井上さんを前にすると、まだまだ修行が足りないって実感するね（笑）。

**山本**　俺たちもあの境地になれるまでもっともっと修行を積まんといかんなぁ。

**谷川**　モグもちゃんと修行を積めよ。キミの場合は最低50年くらいはかかると思うけど。で、今日のテーマは？

**小松**　あ、山本さん、今日のテーマは？

**谷川**　んあ～。

**山本**　今、最も重要なテーマは、あの8・28『Dynamite!』以降、ファンも含めて俺たちはどう生きてきたかということだよぉ。それを考えることが今後のマット界を考える上で重要なんですよぉ。

**谷川**　で、モグはどうなんだ？　『Dynamite!』以降は。

**小松**　なんか、8・28以降はのんびりしちゃいましたよね。

**谷川**　んあ～！　のんびりするなよ、毎日こんなに忙しいのに。

**山本**　おまえなぁ、何か大きな仕事をした人間はのんびりしてもいいけど、下っ端が「のんびりする」と言っちゃあいけないんだよぉ。考え方が不遜だ。ちゃんと教育を受けてきたのかぁ！

**小松**　あ、一応、東北大学……中退なんですけど。

**山本**　『DEEP2001』有明大会のセミで、パンクラスの伊藤崇文が三島★ド根性ノ助にアッサリと言い訳のできない負け方をしたのに「俺は負けてない」と言い張って、なかなかリングを降りないでグズグズしただろぉ。もう、モグはあれと同じだよぉ。

**小松**　あ、あれとだけは一緒にしてもらいたくないです（怒）。

**山本**　負けた時はその負けをキッチリと認めなきゃいけないという教育をパンクラスがしてないから、あんな醜態を見せるわけですよぉ。

**谷川**　モグ、負けを認めろ。

**小松**　……なんの負けですか？

**山本**　大きな仕事をしたんならいいけど、おまえがやったのはバックステージで俺と叶姉妹の記念写真を撮っただけだからなぁ。

**小松**　あれは大仕事じゃないですか。

**山本**　いや、おまえはあそこでも余計なことをした。俺の写真だけを撮ればいいのに、谷川と島田レフェリーの写真まで撮る必要はないっ！　あれで価値が3分の1に落ちたよぉ。

**谷川**　GKとかはメチャクチャ山本さんにジェラシーを感じたらしいですよ。

**山本**　そうでしょ。そーゆーところに機転を利かせて、すぐにセッティングして記念写真を撮るというところがプロレス的なわけですよぉ。目の前に来たチャンスにパクゥと食いつくというか。それがモグのせいで、価値が大・大・大暴落ですよぉ。

**谷川**　で、モグの『Dynamite!』後の感想はそれだけ？

**小松**　あ……、はい。

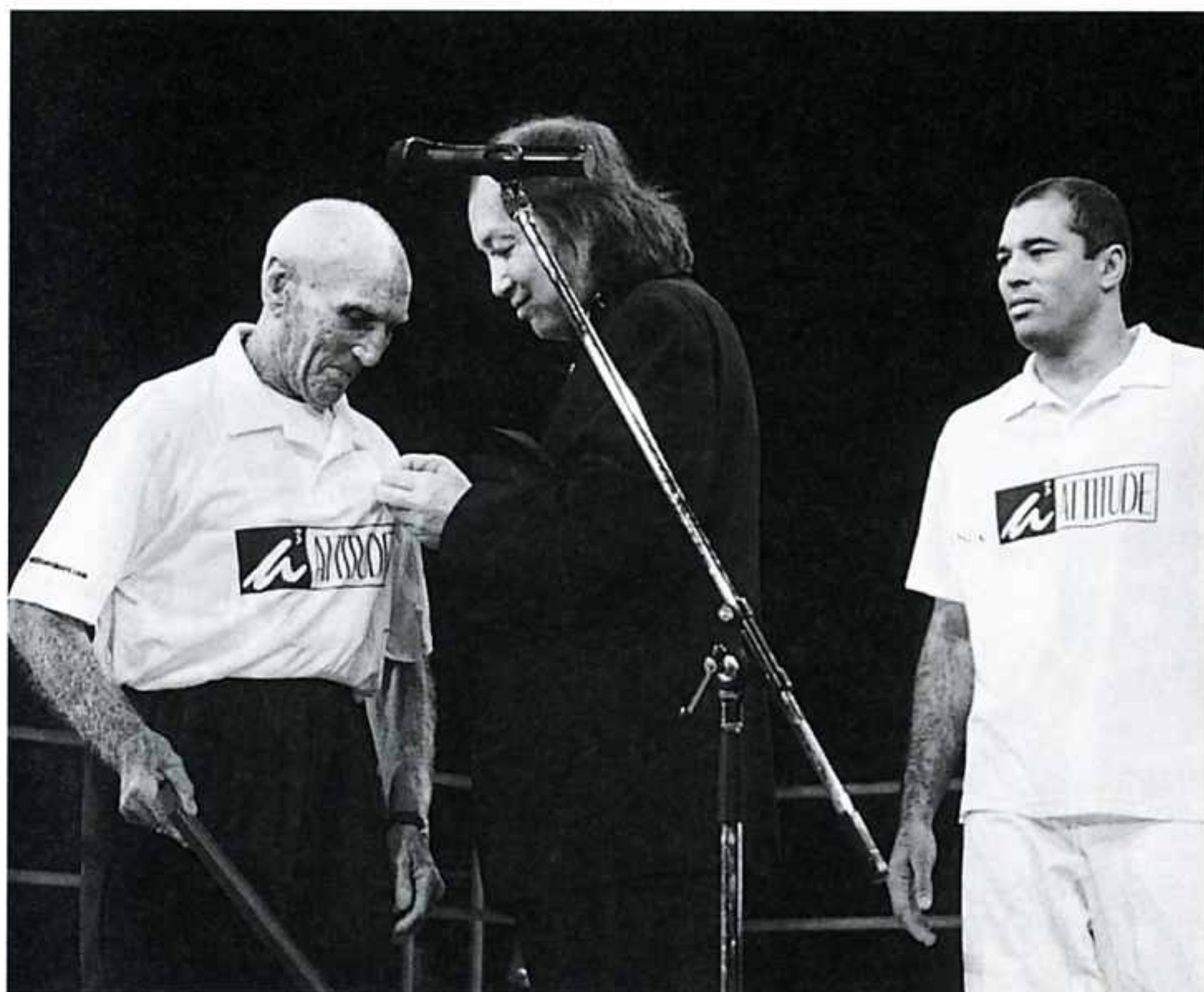
――のんびりしただけ（笑）。

**小松**　あの後に一応『DEEP2001』を見に行ったんですけど、あれでもわりと満足できるんですよ。『Dynamite!』は規模が大きすぎて試合があんまり入ってこなかったというか、ボブ・サップVSノゲイラみたいな本当に凄い試合じゃないと、なかなか伝わってはこなかったんですよ。でも『DEEP』は高阪剛の試合でもけっこう伝わってきましたから。

**谷川**　へえ、じゃあ『DEEP』は面白かったんだ？

**小松**　最後が良かったですよね。

**山本**　田村潔司が美濃輪に勝った瞬間、会場にUWFのテーマ曲を流したわけよぉ。試合を見ていたら『Dynamite!』が超メジャーならば、『DEEP2001』の有明大会は昔で言ったら国際プロレスみたいなポジションなんだよ

# でも、そこから俺の逆襲が始まったわけですよぉ！

ねぇ。「インディーの総合系」みたいな感じだったわけですよぉ。意味づけも何もできないけど「それでもまあ良かったな」と思っていた時に、記憶を揺さぶるUのテーマ曲がかかったから、それだけで俺たちは全部を良しとしたというか、納得したというか、「良かったな」という感傷的な世界に浸れたわけよぉ。

**谷川** なるほどぉ、いい大会だったんだ。ウチのwebなんかを見ても『DEEP』はこの夏、『Dynamite!』の次くらいに注目度が高かったよね。

**小松** 田村VS美濃輪を始め、いいカードが揃ってるってイメージがありましたね。

**山本** よ～するに田村VSパンクラス、修斗VSパンクラスという二つのちょっとワサビが利いたカードがあったんだよねぇ。それとブラジリアン・トップチームVS日本の対決という。もう、それが昔の国際プロレス的なカードを持ってきてるんだよねぇ。

**谷川** で、モグはそれで平常に戻ったの？

**小松** あ、そうですね。

――戻るも何も、ずっとのんびりしてただけだからなぁ（笑）。

**谷川** たとえば「もうプロレスは見たくない」とか、そういう感覚はないの？

**小松** 『Dynamite!』の翌々日に全日本の武道館大会にビル・ゴールドバーグの取材に行ったんですよ。その試合を見てても、天龍VS馳の試合を見てても、いつもどおり興奮しましたけどね。

**谷川** あー、それは良かった。

――んあ～！

**谷川** 山本さんはどんな気分ですか？

**山本** 俺はやっぱりさぁ、ハッキリ言ったら『Dynamite!』は凄い興行だよねぇ。俺が見てきた興行の中でも一番凄いわけですよぉ。ましてや、自分があのリングに上げさせてもらってるからねぇ。

――タキシードまで着込んで（笑）。

**山本** もう、公私混同の最たるもので、この上ないエクスタシーの絶頂で「公」も「私」も最高なわけですよぉ。で、その後に武道館の新日本プロレスと全日本プロレスに行ったわけ。でも、もうまったく自分がプロレスに反応しないわけよぉ。凄いものを見た、つまりもの凄くいい女に出会ってしまったがゆえに「もうレベルを落とせないな」みたいな感じで萎えちゃうわけですよぉ。よ～するに反応が鈍いというか、眠たくなるんだもん。

**小松** その武道館興行に限らず、山本さんはいつも会場で寝てるじゃないですか。

**山本** 試合を見ながらいつも以上に眠たくなって寝ちゃうんだもん。新日本でグーと寝てさぁ、全日本でもグーと寝てしまったんだよねぇ。でも、そこから俺の逆襲が始まったわけですよぉ！

――逆襲！（笑）。

**谷川** どういう逆襲ですか。

**山本** 「俺はこのままいったらプロレスファンとして廃人になる」と思って。それで『Dynamite!』興行を忘れるためというか、忘却するために、とにかく何かに向かって走らなければいけない、何かを見つけ出さなきゃいけないと大急ぎで疾走したんだよねぇ。そう思って9月に入ってリベンジしたというか、まず9月6日の金曜、後楽園ホールに小林聡の試合を見に行ったんだよねぇ。そしたらメチャクチャ相手の選手が強いわけですよぉ。

**小松** あ、ルンピニー・Jライト級王者のサムゴー・ギャットモンテープですか。

**山本** とにかく、あんな凄い選手見たことないというか、入場してきた瞬間に「あ、もうダメだ。小林は勝てない。こんなヤツとやったらエライことになる」というのが分かるんだよぉ。で、小林はKO負けしてそのとおりの試合になったわけ。俺は小林聡を贔屓にしてるんだけど、負けて悔しいとかいう感情は起こらなくて、むしろ心がスイッチして「この選手は凄い！」となってね、「あんなの相手に100年やってても勝てねぇじゃねえか」と。つまり凄いものを見たわけですよぉ。それで『Dynamite!』が凄かったことを小林選手の試合で忘れることができ、次の日は『DEEP』に行ったわけですよぉ。

**谷川** はあはあはあ。

**山本** わざわざ有明コロシアムまで行くのに俺はゆりかもめに乗って行かなきゃいけないわけですよぉ。そんな思いをして行ったら、田村が勝ってUのテーマが流れて「ああ、良かった」と。で、最後の決め手はその明くる日に同じ有明コロシアムで闘龍門の3周年記念興行があったんだよねぇ。その9月の6、7、8日の3連戦を見たことによって『Dynamite!』症候群を拭い去ることができた。やっぱり俺たちがやらなければいけないことは、石井館長にも言ったけど「ネクスト」と「エンドレス」の思想で、もう次に何をやるかということに走る。ひとつの巨大なものを見たらそこで完結しないで、それが終わった瞬間に走り出す。何かそれに代わるものを見つけ出す、飛びついていく、疾走していくという、そういう精神を『Dynamite!』から逆に学んだんだよぉ。

**谷川** ほお～ん。

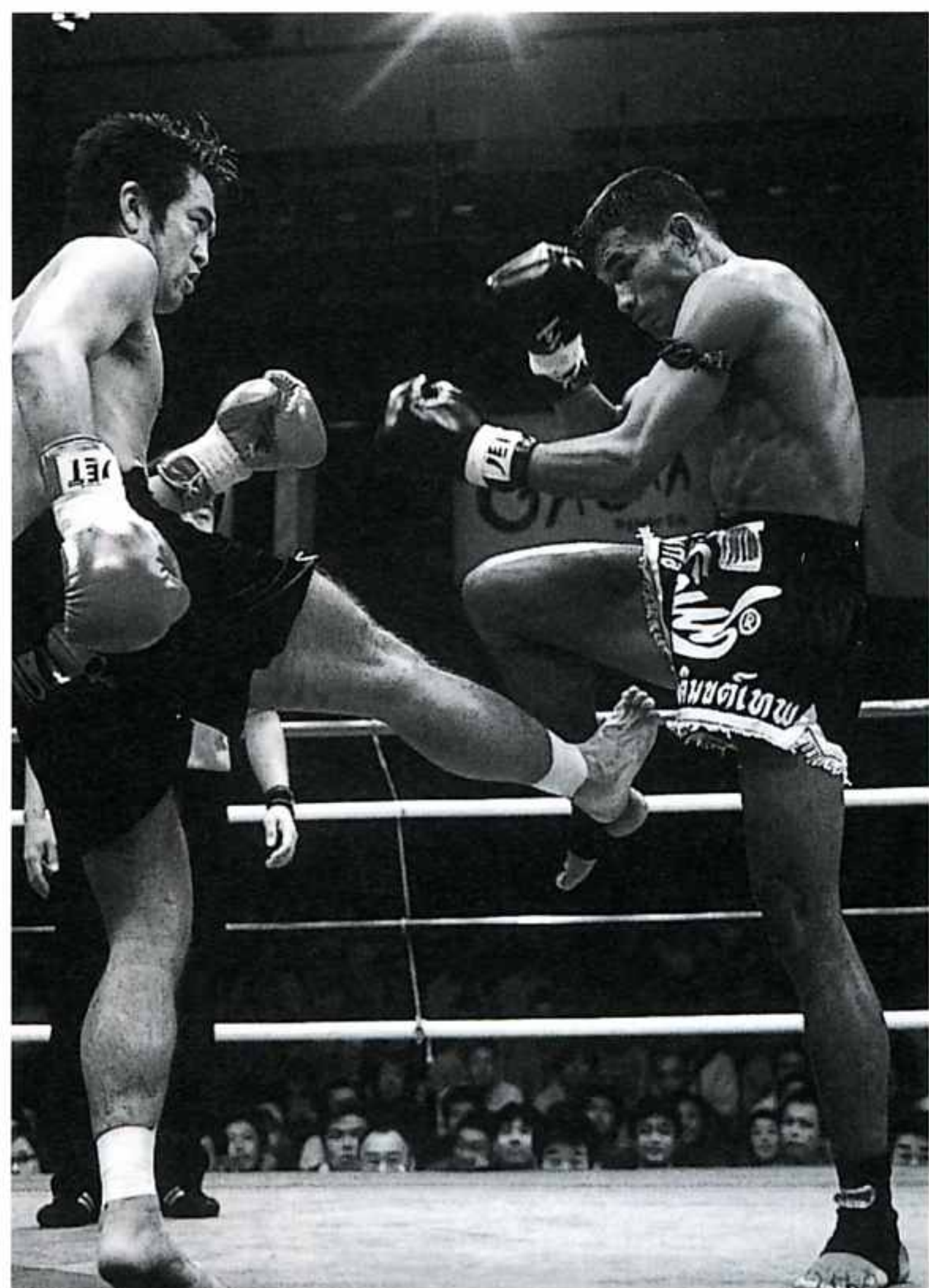
**山本** 俺はやっぱり早い立ち直りをしたというかね、もの凄くリカバリー精神に満ち満ちていたというか。

――ダハハハッ！

**山本** MVP的なリカバリー精神を発揮して、9月の第1週で逆襲が成功したわけですよぉ！ そーすることによって新たに別の形で『Dynamite!』を振り返ることができて、光を当てることができるんだよぉ。「ネクスト」と「エンドレス」を身に染みて実感したというか

Dynamite!症候群
集中治療座談会

# 俺たちみたいに装置を働かして見る人間が格闘技を救うんだよぉ

ねぇ、皆さんもこれを学んでほしいというか。俺の精神を学んでほしい、つまり懲りない人間になってほしいんだよねぇ。
――懲りない人間（笑）。
**谷川**　でも、一般の感覚から言うと、まだ大部分のファンは『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』の後遺症が残ってるでしょうね。
**山本**　うん、残ってる。
**谷川**　後遺症が残ってるから、やっぱり今後の興行には影響が出てくるでしょうね。
**山本**　すでにいろんな形で影響は出てるわけ。いちばん影響が及んだのはプロレス界ですよぉ。やっぱりシビアな勝負論が前提になってないものは、今の時代に通用しないということがハッキリ分かったんだよねぇ。だから、僕たちが見ようとするのは勝負論が前提になっているもので、その中から現出してくるプロレス的なものをプロレスの代償行為として探して歩きたい、と。これからはこういうことですよぉ！
**谷川**　まあ、そうですね。
**山本**　プロレスの中に真剣勝負みたいなものを見るんじゃなしに、格闘技の中にプロレス的な色合いとかニュアンスみたいなものを見て「ああ、プロレスはいいなあ」と、プロレスファンはこれからそういう形で心を反転させていかなければいけない。それに俺は気付いたわけよぉ。つまり、格闘技の中にプロレスを見ることはできるということをボブ・サップvsノゲイラ戦が教えてくれたわけでしょ。その後の『ＤＥＥＰ』もプロレス的なセンスで格闘技の試合を見て、プロレスファンである自分を納得させるという形になっていくんじゃないかな、と。でも、これは俺たち昭和のプロレスファンの残党ならではの発想であって、始めから変なフィルターなしに格闘技を面白いという人にとっては、限りなく無駄な行為なんだよなぁ。
――ダハハッ！　残党とか落武者以外には無駄な行為（笑）。
**山本**　俺たちみたいな見方にはそういう装置が必要なんだけど、装置が装備されてない人はストレートに楽しんでるんだから。
**谷川**　でも、それは無駄じゃないですよ。逆に言えばストレートに楽しめる人っていうのは、次を見ることが大変ですよ。
**山本**　あ、そうだねぇ……。
――そんな簡単に納得しなくても（笑）。
**谷川**　だから、その装置は必要でしょう。『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』を見て、素直にストレートに楽しんだら、次のＫ―１ジャパンとか『プライド』とかはどうなるの？　って話になっちゃいますからね。
**山本**　………そうなるねぇ。
――なんか、今日はやたらと素直だなあ。これも『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』後遺症か（笑）。
**山本**　格闘技って、もの凄くつまらないものにすぐにすり替わってしまう危険性があるんだよねぇ。元の木阿弥になってしまう、そういう怖いところもあるわけですよぉ。そうすると、俺たちみたいに装置を働かして見る人間が逆に格闘技を救うんだよなぁ。だから、俺たちは格闘技の救世主なんですよぉ！
――残党であり、救世主（笑）。
**山本**　これからは俺のことを「格闘技のメシア」と呼んでほしいねぇ！
**谷川**　まさにそうですよ。『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』を見た後に『ＤＥＥＰ』を見なきゃいけないし、やっぱりＫ―１ジャパンも『プライド』も見なきゃいけないわけですから。
**小松**　小林聡のキックも見なきゃいけないわけですからね。
**谷川**　それには装置が必要ですよ。やっぱり、山本さんの存在というか、そういう装置を働かせるのは無駄じゃないってことですよ。
**小松**　残党の使い道がちゃんとある、と。
――少なくとも今の山本さんの話で、俺はちょっと後遺症から立ち直りかけましたね、笑えて（笑）。
**山本**　とにかく、小林聡の試合でもそうだけど、凄いものを見るということがエンターテインメントであり、すなわちブロードウェイの思想であり、「ショウほど素敵な商売はない（＝There's No Business Like Show Business）」という言葉の意味なんだよねぇ。
――さすがは打たれてもタダでは起きない男ですよ（笑）。
**谷川**　師匠は凄い、勉強になるなあ（笑）。
**山本**　少なくともこれからの前提は徹底した完璧な揺るぎない勝負論。しかし、いざ俺たちがそれを見る時はプロレス的センスで解釈し、快感を覚え、快楽を得るという行為でないことには格闘技は持たない。それはつまり、やっぱり格闘技もプロレスファンによってしか保ちようがないということを発見したわけ。つまり、これはプロレスの勝利なわけですよぉ！
――ダハハッ！　つまり「俺の勝ち」なわけですね（笑）。
**山本**　そう、俺の勝ちなんですよぉぉぉ！　だってそうじゃないと格闘技はのっぺらぼうになっちゃうし、意味性も出てこないし、広がりもないでしょ。
――そういうことです！
**山本**　まあ、そこで今の新日本プロレスは何が矛盾してるかといったら、よ～するに本隊とＴＥＡＭ２０００が合体したよね。蝶野・天山たちと中西・永田とかが合体して外敵と闘う、と。その外敵は藤田和之であり、安田忠夫であり、ジョーニー・ローラーであり、高山善廣でしょ。でも、あれ外敵じゃなくて仲間というか内敵だもんなぁ。本当の外敵はノゲ

# さらに何が始まるかというのが今後のテーマなんですよぉ

イラであり、ボブ・サップであり、ミルコなわけですよぉ。外敵の概念がないというその思考自体がまったく時代が見えてないというか、本当の敵が見えてないのはストロング・スタイルとは言えないんですよぉ。

――さすがは井上チルドレン（笑）。

**山本**　とにかくこれからはものの見方、考え方の確固たる立脚点を持って、プロレスであろうと格闘技であろうといろんな現場に出ていって、それを活用する時代だよなぁ。その現場自体がよ〜するに格闘技が上位概念として存在していて、プロレスがそれよりも下位概念になったという認識を持つことが重要ですよぉ。プロレスファンとして、それはプロレスに対する裏切り行為なんだけど、現実がそうなんだから仕方ないんだよぉ。でも、そこで救いはあるわけ、俺たちには。

**谷川**　な、な、なんですか？

**山本**　立脚点はプロレスか格闘技かじゃなく「俺自身のものの見方だ」と。こう思えばいいわけですよぉ。そう思えば悲愴な挫折感もないわけですよぉ。

**谷川**　そうしないと、ホントに『Dynamite!』なんてそうそう見れるもんじゃないですからね。あれを何回も見られると思ったら大間違いですから。

**山本**　そうするとK―1ジャパンにしろ、K―1グランプリにしろ、『プライド』にしろ、プロモートする側はそれを踏まえてカードを組んでイベントをやらなきゃいけないんだよねぇ。だから、新たなプレッシャーがK―1と『プライド』に与えられたということですよぉ。俺たちは好き勝手に見てるからいいけど、むしろプロレス団体とK―1と『プライド』に最も大きな『Dynamite!』の影響力があったという、こう考えるほうが正しいなぁ。

**谷川**　一番影響したのはそこでしょうね。K―1とか『プライド』にもモロに影響があると思いますよ。

――影響を受けたのはプロレスだけじゃないと理解することが重要ですね。

**山本**　だからもう、格闘技だから、K―1だから、『プライド』だからということが切り札にならない時代になったということで、ハードルが一段階上がった。K―1の関係者も『プライド』の関係者も「これを理解しないことにはマズイよ」と言っとかなきゃいかんねぇ。

**谷川**　ハードルはかなり上がって、本当にK―1とか『プライド』はこれからが厄介ですよ。今度の『プライド22』名古屋大会のメインはなんだっけ？

**小松**　あ、大山峻護VSハイアン・グレイシーです。

**谷川**　装置が必要だよなぁ。この意味、モグは分かる？

**小松**　…………？

**谷川**　キミは装置がないもんなぁ。だいたい『Dynamite!』にさえ感動してないもんね。

**小松**　凄いっていうのは分かるんですけど、……どうなんですかねぇ。

――だいたい、おまえは試合を見てないもんな（笑）。

**山本**　あれの何が凄いか説明しなきゃならんのかぁ。よ〜するに新日本プロレスと全日本プロレスが今年で30周年になったでしょ。力道山がいて、馬場さんがいて、猪木さんがいて、K―1ができて『プライド』ができて、それぞれを川の支流としたならば、その支流がオールすべてぜ〜んぶ一本に集まってボーンッと大海へ流れ出たんだよぉ。だから、あれは戦後、日本にプロレスが伝わってからこれまでの集大成として、いっぺんに大海に流れ出たものなんだよねぇ。で、あれを一つの到達点として、そこから何が始まるかというのが今後のテーマなんですよぉ。

**谷川**　その「何が始まるか」というのは、山本さんはどういうふうに感じてます？

**山本**　あのね、この見る側の装置がここにきてひとつの偉大なるポイントを発見したんだよぉ。

**谷川**　そんなものがあるんですか（笑）。

**山本**　あるっ！

――なんだ？　なんだ？　なんだ？（笑）。

**山本**　これ、ある人の言葉からヒントを得たんだけどねぇ。プロレスというものはこれからさらに厳しくなって、衰退への道を辿るような気がするわけですよぉ。その中でZERO―ONEなんかを追っかけてる人がいて、なぜあの団体を追っかけてるのか、と。その理由を聞いたら「ZERO―ONEは美しき『清貧プロレス』」だと言ったんだよねぇ。

――清く貧しく美しいプロレス（笑）。

**山本**　一般的に考えて9月16日の3連休の最終日、しかも雨の日にディファ有明まで行って見るかぁ？　で、その「ZERO―ONE＝清貧プロレス」と言ってるヤツの目を引いてるのは破壊王・橋本真也という存在なわけですよぉ。よ〜するにそいつが言うには「ZERO―ONEの所属選手も外国人選手もファンも、オールすべてぜ〜んぶが破壊王のために何かしてあげたい人たちだ」と言うんだよぉ。で、この言葉の中にこそ全てのヒントがあった！

**谷川**　ZERO―ONEファンのモグは分かるか？

**小松**　あ……、いや、まったく。

**山本**　つまりプロレスを救うというか、もし今、プロレスを救い上げるものがあるとしたなら、破壊王みたいな人がいてこそ救われるんだよぉ。つまりプロレスファンにとって今、最も必要なのは……。

**谷川**　な、な、なんでしょう？

**山本**　「母性本能」ですよぉぉぉ！

――ダハハハハッ！　お見事！（笑）。

**山本**　母性を刺激する存在だけがプロレスとして認められるんだよぉ！　で、格闘技はみんな父性に走ってるわけ。今、女性の中には母性本能が失われてるんだよねぇ。仕事を求めて、母性を捨てて結婚願望も捨ててるということは母性を捨ててるわけですよぉ。現代社会で女性が中性化してるということは、二次的父性になってるわけですよぉ。で、男も父性の力を失ってるわけ。そこで格闘技の勝負論というのは父性的概念なんだよねぇ。ところがプロレスファンというのは昔から母性本能の固まりだったわけですよぉ。よ〜するにプロレスファンは母性本能を自らの中に復活させることが重要で、そ

# つまり破壊王みたいな人がいてこそ救われるんだよぉ

の母性本能を刺激してくれるプロレスラーこそが唯一プロレスを俺たちに感じさせてくれる駆け込み寺になるわけですよぉ。そこで橋本が母性を刺激する存在そのものなわけですよぉ。

**谷川**　なるほどお（笑）。

**山本**　とにかくこれからはふたつの装置が必要なわけ。母性本能を呼び覚ます状況、レスラー、団体。そして昔から村松友視さんや井上編集長みたいに主体的なプロレス的センスで物事を見るという装置。このふたつがいちばん重要であることを『Dynamite!』によって大発見したわけですよぉ。

**谷川**　それはお見事です。その母性を刺激する存在としては、橋本真也以外は誰がいますかねえ。

**山本**　いないんだよなぁ。武藤敬司や大谷晋二郎には少しあるんだけど、橋本みたいにヌケてるというか無防備なところがあって、ファンは初めて母性本能が出るんだよねぇ。「この人は私がいないとダメだ」とか「大きなミスをしてしまう」とか、今こそそういう感覚がプロレス心を刺激するものとして、時代性があるということなんだよねぇ。

**谷川**　考えても、ホントに橋本真也しかいないですもんねえ。

**山本**　だからZERO―ONEにプロレスファンの残党がウワーッと流れていってるのは、その証明なわけよね。

――あー、ホントに今日は楽しませてもらってるなあ（笑）。

**山本**　だから今の新日本プロレスの何が最悪かといったら、チャイナ（＝ローラー）が大暴れしてるのなんかは結局、中性化した女が天下を取ってるようなもんでしょ。で、彼女はWWFにいたからメジャー的センスを持っていて、しゃべることだけでも新日本のレスラーの比じゃないわけ。ポーズとかアクションとかも全部エンターテイナーとして遥かに上なんだよねぇ。その意味で新日本は父性も母性も失ってしまったわけ。で、馬場さんのところは今まで母性本能をくすぐるようなイメージがあったわけですよぉ。全日本ファンは新日本の脅威から守るという意味で母性で応援してたわけでしょ。で、それが出せなかったのがノアですよぉ。

**谷川**　いちいち凄いなあ、今日の山本さんは。

**山本**　だから今、貴乃花がもの凄く同情されてるよねぇ。あれも母性本能なわけですよぉ。強すぎた貴乃花では絶対にああいう感情は起こらないけど「黒星が重なれば引退勧告される」「負けたらどうなる？」ということで、もう毎日ほとんどの人が貴乃花の取組を見たり、結果を気にしてるんだよねぇ。よ～するに弱くなったということで、人々の母性本能を刺激する状況ができたわけですよぉ。

**谷川**　僕は今場所の貴乃花を見ていていちばん感じるのは、やっぱりナベツネ（渡辺恒雄・横綱審議委員長）のプロデュース力の凄さですよね。「あんな横綱は辞めてしまえ」みたいなことを言って突き放したじゃないですか。あそこに凄いプロデュースのセンスを感じるんですよ。

**山本**　それが父性の象徴で、だからあの人は優れたヒールなんですよぉ。

**谷川**　内舘牧子さんなんかは「勝ち越せばいい」なんて言ってたけど、それはダメだなあと思って。でも、ナベツネの強烈な父性が逆に見る側の母性を大いに刺激してますよね。だから、プロレス界もそういう父性を作ればいいんですよね。

**山本**　でも、そういうふうに思い切って突き放す男も日本人の中に少なくなったんだよねぇ。

**谷川**　プロレス界も状況としての母性を作り出すような強烈な父性がほしいですね。

**山本**　父性に走るか、母性を呼び起こすか、これしかないんですよぉ、今は。

**谷川**　なるほど。じゃあ『生ゴン』の井上編集長はナベツネみたいなもんだったんですね（笑）。

**山本**　生き馬というか、生きライオンの目を抜く男だからねぇ、あのオッサンは。

――しかも無意識に（笑）。

**山本**　まあ、だから今度のK―1ジャパンや『プライド22』は見る側からしたらリトマス試験紙になるんだよねぇ。俺たちに与えられた使命としては、よ～するに『Dynamite!』が興行的に不動のポジションを獲得したんだから、俺たちは見る側として今後、不動のポジションを獲得しなくちゃいけないということですよぉ。

**谷川**　や、山本さん、それ聞き方によれば「変態のススメ」みたいに聞こえますよ（笑）。

**山本**　それをすることで、俺たちはやっと『Dynamite!』と対等になれるんですよぉ。だって井上編集長の見方は時代がどう変わろうとどこまでも永久に不滅なわけでしょ。俺たちもあそこまで到達しないと。

――超人追求というか、変人追求だね（笑）。

**山本**　とにかく俺はこれから大・中・小に限らず興行に行く。とにかく現場主義で、なんでもかんでもこっちのもんだと思えばいいんですよぉ。

――なるほど、山本さんの話を聞いてるとホントに安心しますね。

**谷川**　でも、本当に今のプロレスは橋本真也の時代だっていうのは面白いなあ。

――いや、ずっとそうだったんだよね。我々の目に入るものって、前田日明にしてもそうだし、いつだって母性を刺激するものだったもん。我々も猪木さんに対してはずっと母性本能で見てきたわけじゃないですか。だって、破壊王のためになにかしてやりたいっていう以前に、僕ら

# これからは、心に母子手帳を持たなきゃいかんなぁ

はずっと猪木さんのために何かしてあげたいっていう気持ちだったわけだからね。

**谷川**　K―1なんかは父性の世界だけどね。

**山本**　凄いねぇ、プロレスファンの原点が母性だと分かったのはエライことだねぇ。

――だって、ノゲイラVSサップ戦だって何が響いたかというと、ノゲイラに対する母性でしょ。「殺されちゃう」みたいな感情が結局、試合を作ってるわけじゃないですか。

**谷川**　グレイシーもそうだもんねえ。吉田秀彦にはないけど。

――吉田は父性の象徴だからね。だから我々の感覚として母性にしか目が行かないのは当たり前なんですよ。だから、猪木さんがダメになればダメになるほどっていうか、永久電気で失敗したりすると抱きしめたくなるじゃないですか（笑）。ホームレスの格好したり、「タイソンが来ます」って言って来なかったりね。『LEGEND』の失敗にしろ、母性を刺激してくれるわけですよ。

**谷川**　そう考えると、今いちばん見たいカードっていったら橋本真也VSヴァンダレイ・シウバだなあ（笑）。

――そういうことでしょう。だからプロレスラーとシウバを闘わせてみたいっていうのも、自分の中の母性本能を刺激してほしいってことですよ。

**山本**　そーゆーことです！

――男にとって重要なのは、自分の中の母性本能を刺激してくれるものって日常生活の中にはないわけじゃないですか。それを非日常の格闘技とかプロレスが刺激してくれるっていうところがポイントですよ。野球を見たって清原和博にしか目が行かないし、もうとにかくそういう目しかないんですよ。

**小松**　また凄いことに気が付きましたね。

**山本**　おまえは気が付いてないよぉ。

――そういう意味では、スターやカリスマと呼ばれる人の重要な資質は、「マザコン」かもしれないですね（笑）。

**谷川**　そうだそうだ。

――芸能界でも美空ひばりやビートたけしなんて強烈なマザコンだもんね。

**山本**　そうだよなぁ。でも、格闘技と母性本能って今まで結びつけて考えられなかったもんねぇ。

――まあ、山本さんは前から父性と母性っていうのは言い続けてましたけどね。

**山本**　まあ、それは敗者の論理として言い続けてきたんだよねぇ。つまり、それが母性だったわけですよぉ。よ〜するに前田日明のことを「母性的カリスマ」とは言い続けてきたんだけど、今みたいに明確には気付いてなかったわけ。

――そう考えると新日本プロレス再生の道も全て分かるなあ。詳しくは言わないけど、新日本本隊から見て猪木軍が下位概念になった瞬間に母性本能が刺激されるでしょ。いつでも猪木軍が上位概念にいますからね。

**山本**　それは見たいねぇ。今日はいろんなことが分かったよぉ。

――「母性を刺激しろ！」っていうのは凄いことですよね。だから『Dynamite!』という父性が出現して、何を目的にそういう父性が生まれたかっていうと、対象はプロレスじゃないんです。『プライド』やK―1に母性を働かせるようにならないとダメなんですよ。『プライド』やK―1が父性で、プロレスが母性の時代はもう終わったっていうか。

**山本**　遥か昔に終わったねぇ。

――『Dynamite!』みたいな上位概念があったら、「大阪のK―1ジャパンはどうなっちゃうんだろう?」「名古屋の『プライド』はどうなっちゃうんだろう?」って、『プライド』やK―1で母性を刺激させないとダメですよね。

**山本**　プロレスファンはこれから、心に母子手帳を持たなきゃいかんなぁ。

――ぼ、ぼ、母子手帳を必携せよ、と（笑）。

**山本**　会場へ行く時は心に母子手帳を持って、偉大なる母の気持ちで臨んでほしいねぇ。

**谷川**　なるほど、凄い発見だ。そういえば山本さんはエリオ・グレイシーの表彰をした後、どこかでまた表彰したんですよね。

**小松**　あ、『DEEP』でドス・カラスJrを表彰してました。

**谷川**　僕はそれを聞いて山本さんに対する母性が凄く働きました（笑）。

――ぷぷぷぷっ！

**谷川**　せっかく9万人の前でエリオを表彰したのに、なんで有明でドス・カラスJrの表彰をするんですか。もう、哀れで哀れで（笑）。

――まあ、とにかく「母性」というのはこれからの大きなテーマだね。

**山本**　こと格闘技というものがエンターテインメントになるかならないかの、ひとつの大きなキーワードであることは確かだなぁ。

――まあ、分かりやすく言うと、ファイター側が自分の母なるものを示すのか、それとも見る側の母なるものをファイターが刺激するのか。そのどっちかということですね。

**谷川**　なるほどね、いい結論だ。ところでモグタン、おまえには母性はあるのか？

**小松**　あ……、まったくないです。

**谷川**　ZERO―ONEに通い詰めてるのに破壊王に何かしてやりたいとか、そういう気持ちはないの？

**小松**　あ、逆に破壊王には何かしてもらいたいですね。お父さんのお土産みたいに直々に「特製・破壊王ドラ焼き」をもらったりとかしたいんですけど……。

**谷川**　んあ〜！　■

## 9/26THU～10/10THU

CALENDAR

| | |
|---|---|
| 9/26 THU | ★『SRS・DX』発売日 |
| 9/27 FRI | |
| 9/28 SAT | ■MA日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49<br>◆Club DEEP 2nd/チケット一斉発売⬅p46<br>◆ZST/チケット一斉発売⬅p47 |
| 9/29 SUN | ■PRIDE.22/愛知・名古屋レインボーホール（16:00～）⬅p47<br>■パンクラス/神奈川・横浜文化体育館（16:30～）⬅p48<br>◆パンクラス2002 SPIRIT TOUR/チケット先行発売⬅p48 |
| 9/30 MON | |
| 10/1 TUE | |
| 10/2 WED | |
| 10/3 THU | |
| 10/4 FRI | |
| 10/5 SAT | ■K-1 WORLD GP 2002開幕戦/さいたまスーパーアリーナ（17:00～）⬅p46<br>◆DEEP2001/チケット先行発売⬅p46 |
| 10/6 SUN | ■修斗/愛知・名古屋市公会堂（15:00～）⬅p47<br>◆パンクラス2002 SPIRIT TOUR/チケット一般発売⬅p48 |
| 10/7 MON | |
| 10/8 TUE | |
| 10/9 WED | ■掣圏道/東京・後楽園ホール（18:00～）⬅p47 |
| 10/10 THU | ★『SRS・DX』80号発売日 |

# 格闘技パーフェクトガイド

## Perfect Guide

# GUIDE & TICKET
# 大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

## DEEP2001

### DEEP2001 7th IMPACT
**12月8日（日）　東京・ディファ有明**

◆開場/14:30　試合開始/17:00(フューチャーキングトーナメント15:00開始)
◆入場料/VIP席15,000円　SRS席9,000円　アリーナA席7,000円　アリーナB席5,000円　※当日券は500円増し
◆先行チケット発売/10月5日（土）※特典/先行予約された方全員に来年度カレンダーをプレゼント
◆一般チケット発売/10月12日（土）
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、後楽園ホール、フィットネスショップ水道橋、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、ファイター☎03-3354-1903、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、デポマート☎03-3515-6507、TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、BATTLE PLACE☎03-3881-7770、格闘技プロショップ東京イサミ☎03-3352-4083、パンクラス☎03-5792-0815、DEEP2001事務局
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

#### 対戦予定カード

“ムエタイ戦士VS日本人選抜選手”の3対3対抗戦

フューチャーキング決勝戦

#### 出場予定選手

滑川康仁
（フリー）

上山龍紀
(U-FILE CAMP.com)

伊藤博之
（フリー）

“ランバー”ソムデート吉沢
(M16ジム)

タッパヤー・シスオー
（タイ）

ナルトン・タックホームシン
（タイ）

パンクラス所属選手

U-FILE CAMP所属選手

### K-1 WORLD MAX 2002～世界王者対抗戦～
**10月11日（金）　有明コロシアム**

◆開場/17:00/試合開始/18:00
◆入場料/SRS席20,000円　RS席12,000円　S席8,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、キョードー東京
◆チケットに関するお問い合わせ/株式会社キョードー東京☎03-3498-9999
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩8分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車
◆大会に関するお問い合わせ/株式会社K-1☎03-3796-2977

#### 決定対戦カード

魔裟斗vsアルバート・クラウス
（シルバーウルフ）（リングホージム）

前田憲作vsジョン・“ザ・シャドウ”ワシントン
（チームドラゴン）（ライシングサン ドージョー）

村浜武洋vsメルチョー・メノー
（大阪プロレス）（TEAM M）

須藤元気vsテコンドー・メダリスト
（ビバリーヒルズ柔術クラブ）（韓国）

小比類巻貴之vsピーター・クルック
（黒崎道場）（トロージャンジム）

大野崇vs王三偵
（inspirit）（中国武術協会）

小次郎vsマリノ・デフローリン
（ウィラサックレック・ムエタイジム）（ダイヤモンドジム）

### Club DEEP 2nd in OZON
**11月10日（日）　愛知・club ozon**

◆開場/13:00　試合開始/14:00
◆入場料/オールスタンディング3,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/9月28日（土）
◆チケット発売所/チケットぴあ☎052-320-9999または☎052-320-9966、IVY BOOKS名古屋本店☎052-459-7122、公武堂☎052-241-2511、サークルK、ローソン、ファミリーマート
◆会場アクセス/地下鉄桜通線久屋大通駅下車・徒歩5分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

#### 出場予定選手

伊藤博之
（フリー）

藤井恵
(AACC)

K-1

## K-1ワールドシリーズ

### K-1 WORLD GP 2002 開幕戦
**10月5日（土）　さいたまスーパーアリーナ**

◆開場/15:30　試合開始/17:00
◆入場料/SRS席32,000円　RS席22,000円　S席10,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、キョードー東京
◆チケットに関するお問い合わせ/株式会社キョードー東京☎03-3498-9999
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

#### 決定対戦カード

マーク・ハントvsマイク・ベルナルド
（リバプール・キックボクシングジム）（レオナルドジム）

ジェロム・レ・バンナvsゲーリー・グッドリッジ
（ボーアボエル&トサジム）（フリー）

ステファン・レコvsマーティン・ホルム
（ゴールデン・グローリー）（ヴァレンテュナ・ボクシング・キャンプ）

アーネスト・ホーストvsアレクセイ・イグナショフ
（ボスジム）（チヌックジム）

ピーター・アーツvsグラウベ・フェイトーザ
（メジロジム）（極真会館）

#### 出場予定選手

ミルコ・クロコップ
（クロアチア/クロコップ・スクワッドジム）

レイ・セフォー
（ニュージーランド/アメリカン プレゼント ボクシングジム）

セーム・シュルト
（オランダ/ゴールデン・グローリー）

マイケル・マクドナルド
（カナダ/フリー）

トム・エリクソン
（アメリカ/フリー）

## 修斗

### SHOOTO GIG CENTRAL
**10月6日（日） 愛知・名古屋市公会堂**

◆開場/14:00 試合開始/15:00
◆入場料/RS席8,000円 S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円
◆チケット発売/ALIVEまで問い合わせ
◆会場アクセス/JR・地下鉄鶴舞線鶴舞駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ALIVE☎052-713-0133

#### 決定対戦カード

吉岡広明vs野中公人
（ALIVE） （PUREBRED大宮）

松下直輝vs鈴木洋平
（ALIVE） （パレストラ東京）

〈02年度新人王トーナメント フェザー級決勝戦〉

木部亮vs小松晃
（ALIVE） （総合格闘技道場コブラ会）

〈ブラジリアン柔術マッチ〉

梅村寛vsホドリゴ金城
（ALIVE小牧） （谷柔術）

赤木康洋vs生駒純司
（ALIVE） （直心会格闘技道場）

蔵田圭介vs澤田健一
（ALIVE） （パレストラ東京）

日沖発vs菅谷Gatch正徳
（ALIVE） （直心会格闘技道場）

### プロフェッショナル修斗公式戦
**10月27日（日） 大阪・NGKホール**

◆開場/14:00 試合開始/15:00
◆入場料/S席4,000円 A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ☎06-6363-9999、シューティングジム大阪☎06-6390-5010、シューティングジム神戸☎078-332-6615、リング魂☎078-333-6690、KEEL CAFE☎03-5725-7338、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/JR・地下鉄・南海難波駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

#### 決定対戦カード

〈02年度新人王トーナメント ウェルター級決勝戦〉

川尻達也vs尾松賢
（総合格闘技TOPS） （総合格闘技道場コブラ会）

加納学vs田中寛之
（相補体術） （直心会格闘技道場）

## 掣圏道

### 掣圏道アルティメットボクシング大会
**10月9日（水） 東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00 試合開始/18:00
◆入場料/R席15,000円 S席10,000円 A席6,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

### 掣圏道アルティメットボクシング大会
**11月10日（日） 北海道・苫小牧市総合体育館**

◆開場/13:00 試合開始/14:00
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/サンプラザ☎0144-36-1122、ステイ☎0144-32-0611、パセオ☎0144-73-1141、鶴丸百貨店☎0144-33-3111、ローソンチケット☎011-737-4649
◆会場アクセス/JR苫小牧駅より徒歩20分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

### 掣圏道アルティメットボクシング大会
**11月23日（土・祝） 北海道・室蘭市総合体育館**

◆開場/13:00 試合開始/14:00
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ポスフール室蘭☎0143-45-1414、クラウン商会☎0143-43-1006、東輪スポーツ☎0143-44-4621、ぎんやレコード☎0143-24-4333、ミュージックショプ国劇長崎屋中央店☎0143-22-9280、ミュージックショプ国劇長崎屋中島店☎0143-43-3836
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

### KAKUMEIキックボクシング&掣圏道アルティメットボクシング合同興行
**10月14日（月・祝） 大阪・大阪府立体育会館第2競技場**

◆開場/14:30 試合開始/15:30
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆会場アクセス/JR・近鉄・南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/KAKUMEI☎06-6708-5305

### プロフェッショナル修斗公式戦
**11月15日（金） 東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30
◆試合開始/18:30
◆入場料/RS席10,000円 SS席7,000円 S席5,000円 A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、KEEL CAFE☎03-5725-7338、フィットネスショップ水道橋、後楽園ホール、書泉ブックマート、大盛堂書店☎03-5784-4900、e-ticket
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

いよいよルミナが後楽園に帰ってくる！ 6月29日の堺市金岡公園体育館大会でハビエル・バスケス相手にまさかの判定負けを喫してから4カ月半。今度こそ完全復活を見せてくれ！

## PRIDE

### PRIDE.22
**9月29日（日） 愛知・名古屋総合体育館レインボーホール**

◆開場/14:00 試合開始/16:00（予定）
◆入場料/VIP席100,000円（特典:専用入場ゲート、グッズ付）、RRS席25,000円、スタンドS席15,000円、スタンドA席7,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/各有名プレイガイド
◆会場アクセス/JR東海道本線笠寺駅より徒歩3分、名鉄名古屋本線本笠寺駅より徒歩15分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

#### 主な対戦カード

大山峻護vsハイアン・グレイシー
（フリー） （ハイアン・グレイシー柔術アカデミー）

イゴール・ボブチャンチンvsクイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
（フリー） （チーム・バニッシュメント）

マリオ・スペーヒーvsアンドレイ・コピィロフ
（ブラジリアン・トップ・チーム） （ロシアン・トップ・チーム）

ヒース・ヒーリングvsコーチキン・ユーリー
（ゴールデン・グローリー） （ロシアン・トップ・チーム）

小路晃vsパウロ・フィリォ
（フリー） （ブラジリアン・トップ・チーム）

アレクサンダー大塚vsアンデウソン・シウバ
（AODC） （シュート・ボクセ・アカデミー）

山本憲尚vsガイ・メッツアー
（髙田道場） （ライオンズ・デン）

小原道由vsケビン・ランデルマン
（フリー） （ハンマーハウス）

## ZST

### THE BATTLE FIELD『ZST』旗揚げ大会
**11月23日（土・祝） 東京・ディファ有明**

◆開場/16:00 試合開始/17:00
◆入場料/VIP12,000円 SRS8,000円 S席6,000円 A席4,000円 自由席3,000円
◆チケット発売/9月28日（土）
◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード:505-483）、ローソンチケット（Lコード:38880）、後楽園ホール、書泉ブックマート、ビデオショップチャンピオン
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/『ZST』事務局☎03-5321-9595

#### 出場予定選手

今成正和（TEAM ROKEN）
小谷直之（ロデオスタイル）
所英男（チームPOD）
矢野卓見（烏合会）

## パンクラス

### 『プライド』帰りのスティーブリングと佐々木の一戦が決定！ 謙吾にも注目！

9・29横浜文化体育館大会ではGRABAKAの佐々木有生が、『プライド』のリングで、ブラジリアン柔術の実力者であるヴァリッジ・イズマイウやアラン・ゴエスを破る活躍を見せたアレックス・スティーブリングと対決する！ なんとスティーブリングは過去に“グラバカの大将”菊田早苗と対戦しているのだ。偶然のバッティングで無効試合になったものの、菊田の関節技を何度もしのいだ格闘センスには目を見張るものがある。対する佐々木も昨年7月から7戦5勝2分と好調なだけに注目の一戦だ。さらにドス・カラスJrや橋本友彦、コブラに勝利し、連勝街道を爆進中の謙吾も登場。オクタゴンの中で188cm・120kgから繰り出される圧倒的なパワーで存在感を誇示していたロン・ウォーターマンと肉弾バトルを展開する。ド迫力の超人パワー対決を制するのは謙吾か？ ウォーターマンか？ メインは國奥麒樹真のウェルター級王座初防衛がラインナップされている。お楽しみに！

佐々木有生VSアレックス・スティーブリング

謙吾VSロン・ウォーターマン

## IKUSA事務局

### IKUSA その弐「雷襲」
**10月27日（日） 東京・Club WOMB**

◆試合開始/15:00（予定）
◆入場料/SRS席35,000円 V4席30,000円 V3席15,000円 スタンディング席7,000円
◆会場アクセス/渋谷駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/IKUSA事務局・アクアプラネット☎03-5213-7331

#### 決定対戦カード

土屋ジョー vs X
（エイワ谷山）

隼人 vs デイビッド
（PHOENIX） （真樹オキナワ）

武井豊 vs 高橋拓也
（TEAM IKUSA） （習志野）

中西一覚 vs 太刀国英
（TEAM IKUSA） （藤）

〜総合ルール〜

西田縁一 vs ケン片谷
（フリー） （CMA）

那都琉 vs 大塚裕一
（DDT） （T.A.M.A）

#### 出場予定選手

熊谷直子（不動館）

金星秀（TEAM IKUSA）

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**9月29日（日） 神奈川・横浜文化体育館**

◆開場/15:00 試合開始/16:30
◆入場料/SS席16,000円 RS-A席7,500円 RS-B席5,500円 2F-A席10,000円 2F-B席6,000円 2F-C席4,000円 3F席4,500円 ※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード:594-040）、ローソンチケット（Lコード:32966）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

#### 決定対戦カード

國奥麒樹真 vs 長岡弘樹
（パンクラスism） （ロデオ・スタイル）

佐々木有生 vs アレックス・スティーブリング
（パンクラスGRABAKA） （ムエタイ・インスティチュート・オブ・クリボン）

謙吾 vs ロン・ウォーターマン
（パンクラスism） （コロラド・スターズ）

KEI山宮 vs 石川英司
（パンクラスism） （パンクラスGRABAKA）

佐藤光芳 vs 渋谷修身
（パンクラスGRABAKA） （パンクラスism）

三崎和雄 vs 窪田幸生
（パンクラスGRABAKA） （パンクラスism）

石井大輔 vs ディーン・リスター
（パンクラスism） （グレイシー・ユナイテッド）

藤井克久 vs 高田浩也
（スタンド） （RJW/CENTRAL）

今成正和 vs 大場裕司
（チームRoken） （P's LAB東京）

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**10月29日（火） 東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30 試合開始/18:30 ◆入場料/指定席5,000円 立見席3,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト ◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分 ◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**11月30日（土） 神奈川・横浜文化体育館**

◆開場/17:00 試合開始/18:30 ◆入場料/SS席16,000円 RS-A席7,500円 RS-B席5,500円 2F-A席10,000円 2F-B席6,000円 2F-C席4,000円 3F席4,500円 ※当日券は500円増し ◆先行チケット発売/9月29日（日）横浜文化体育館大会会場内ロビー ◆一般チケット発売/10月6日（日） ◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード:594-040）、ローソンチケット（Lコード:38501）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス☎03-5792-0815 ◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分 ◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

### みのるVS健介はパンクラスのリングで！

鈴木みのるVS佐々木健介（新日本プロレス）の一戦が、11月30日（土）にパンクラスの横浜文化体育館大会で行われることが9月12日にP'sLAB東京で開かれた記者会見で発表された。予定では10月14日（月・祝）の新日本プロレス東京ドーム大会で行われるはずだったが、新日側の都合により延期された。ルールに関して尾崎社長は「試合形式は基本的にはバーリ・トゥードに近いものになるでしょう。もしパンクラスルールなら公式戦でいい」と語った。全ては佐々木健介が今月29日の横浜文化体育館大会に来場する予定なので、その時に明らかになるだろう。新日本プロレスの若手時代に約束した一騎討ちがいよいよパンクラスのリングで実現する！

## MA日本キックボクシング連盟

### SPIRIT

**9月28日（土）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席20,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟事務局☎03-3485-7063

#### 主な対戦カード

—5回戦—

〈日本Sライト級タイトルマッチ〉
井上哲 vs 山崎通明
（王者/山木）（挑戦者/東金）

〈日本ヘビー級タイトルマッチ〉
内田ノボル vs 中西陽介
（ビクトリー）（山木）

〈日本ライト級王座決定戦〉
木村允 vs 水町浩
（士浦）（士道館）

山田健博 vs 増田博正
（東金）（ソーチタラダ）

マグナム酒井 vs 中村高明
（士道館）（全日本キック/藤原）

カズ工藤 vs ファイティング前沢
（士道館新座）（士浦）

飯塚英史 vs ランボー豊栄
（山木）（東金）

安倍乃泰彦 vs 吉岡篤史
（新潟山木）（武勇会）

荻野兼嗣 vs 岩楯智篤
（ビクトリー）（士道館）



## 極真会館

### 第34回オープントーナメント全日本空手道選手権大会

**11月2日（土）、11月3日（日）　東京体育館**

◆開場/10:00　1日目11:00/開会式　2日目11:30/開会式
◆入場料/SS席35,000円（アリーナ2日間通し券、指定席、パンフレット、大会記念品付※前売り券のみ）　S席8,000円　A席5,000円　B席4,000円　※当日券は1,000円増し
◆会場アクセス/JR千駄ヶ谷駅より徒歩1分
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/極真会館☎03-5992-9200、極真会館テレホンサービス☎03-5992-7739、チケットぴあ（Pコード:505-388）、ローソンチケット（Lコード:38120）チケットぴあ
◆お問い合わせ/極真会館☎03-5992-9200

### KOBE'S CUP 2002

**12月15日（日）　兵庫県立総合体育館**

◆開場/9:00　開会式/10:00　試合開始/10:30
◆入場料/無料
◆会場アクセス/阪神電鉄甲子園駅より、阪神バス鳴尾浜行きに乗り、県立総合体育館下車
◆お問い合わせ/中村道場☎078-531-0664

## 新日本キックボクシング協会

### ROAD TO MUAY-THAI 2002

**10月20日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　A席7,000円　B席4,000円　立ち見4,000円
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/伊原道場☎03-3780-1338

#### 決定対戦カード

—5回戦—

庵谷鷹志 vs 鷹山真吾
（伊原）（尚武会）

風神和昌 vs 加村健一
（野本）（伊原）

ジャッカル黒木 vs 朴炳圭
（治政館）（市原）

#### 日本・タイ国際戦出場選手

深津飛成（伊原）
菊地剛介（伊原）
小出智（治政館）
石井宏樹（藤本）
小出智（治政館）
松本哉朗（藤本）
北沢勝（藤本）

## 日本キックボクシング連盟

### 2002 破壊シリーズ　NKB統一ランキング戦

**10月26日（土）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆詳細未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

#### 決定対戦カード

～5回戦～
（NKB統一ランキング戦）

中川裕也 vs 發田隆治
（渡辺）（ウィラサクレック）

中村篤史 vs 木浪シャーク利幸
（北流会君津）（小国）

宮本勲 vs 瀬尾尚弘
（大和）（JK国際）

山田大輔 vs 武笠則康
（杉並）（渡辺）

児玉正暁 vs 松永敦
（ピコイ錦）（福岡リアルディール）

## 全日本キックボクシング連盟

### Brandnew Fight

**10月17日（木）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/18:30(17:30よりフレッシュマンファイトあり)
◆入場料/RS席5,000円　S席3,000円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、Bout Review(http://boutreview.com)、全日本キック電話予約、全日本キック公認サイト（http://www.aj-kick.com）
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171

#### 決定対戦カード

佐藤嘉洋 vs 清水貴彦
（名古屋JKF）（超越塾）

〈全日本フェザー級王座決定トーナメント準決勝〉
－サドンデスマッチ－
竹村健二 vs サトルヴァシコバ
（名古屋JKF）（勇心館）

〈全日本ウェルター級ランキング戦〉
－サドンデスマッチ－
三上洋一郎 vs 侍打吾
（S.V.G.）（REX JAPAN）

#### 出場予定選手

西田和嗣（S.V.G.）
藤牧孝仁（はまっこムエタイジム）

## J-NETWORK

### J-BLOODS Ⅳ

**10月25日（金）　東京・後楽園ホール**

0◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　立見（当日のみ）3,500円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

#### 決定対戦カード

～5回戦～

〈J-NETWORK初代スーパーライト級王者決定戦〉
蔵満誠 vs 黒田英雄
（JMTC）（アクティブJ）

浦林幹 vs YUTAKA
（JMTC）（全日本・月心会）

尾田淳史 vs 泉雄策
（JMTC）（MA・山木）

アマチュア

## パンクラス

### PANCRASE Presents "武∞限 2002 DESTINY TOUR" 10月大会

10月6日（日） 沖縄県立武道館2階 第2練成道場

◆開場/16:00 試合開始17:00 ◆入場料/大人1,500円 学生1,000円（学生証持参） ※当日は500円増し ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ☎092-708-9999（Pコード594-710）、犬神商会☎098-866-3538、IN YOUR FACE☎098-863-3115、WOODCHUCK☎098-868-1732、SOUTH OF MARKET☎098-863-2606、Ride Hot☎098-936-2947、auショップ RAMS識名店☎098-853-4515、ARF☎098-856-5767、米市場 浮島通り店☎098-868-3629、HYBRID WRESTLING 武∞限☎090-8293-5012 ◆お問い合わせ/HYBRID WRESTLING 武∞限 代表 砂辺光世士☎090-8293-5012

### 第3回西日本アマチュアパンクラスオープン大会

10月20日（日） 大阪・P'sLAB大阪

◆詳細未定 ◆入場料/無料 ◆お問い合わせ/P'sLAB東京☎03-5792-7079

## アマチュア修斗

### 第9回全日本アマチュア修斗選手権大会

9月29日（日） 千葉・柿ノ木台公園体育館

◆開会式/11:30 試合開始/12:00 ◆入場料/一般1,000円 プロライセンス所有者無料 ◆チケット発売/当日販売 ◆会場アクセス/JR松戸駅より徒歩10分 ◆お問い合わせ/全日本アマ修斗選手権大会事務局☎03-5984-3209

## 合気道S.A.

### 第2回合気道杯争奪 実戦・リアル合気道選手権大会6

10月12日（土） 東京・都立多摩スポーツセンター会館 柔道場

◆開場/12:30 試合開始/13:00 ◆入場料/3,000円 ※当日は基本的に入場不可 ◆チケット発売所/観覧希望・氏名・年齢・住所・電話番号を明記し、現金書留で9月末日までに下記の住所まで郵送 〒193-0821 東京都八王子市川町128-280 櫻井文夫 ◆会場アクセス/JR青海線東中神駅より徒歩5分 ◆お問い合わせ/合気道S.A.☎042-651-8418

## 大道塾

### 北斗旗空道無差別選手権 第27回東北大会

9月29日（日） 岩手県営武道館大道場

◆試合開始/10:00
◆入場料/当日券のみ1,000円
◆会場アクセス/盛岡駅よりバスで岩手県営運動公園前下車
◆お問い合わせ/大道塾盛岡支部☎019-653-0512

### 北斗旗空道無差別選手権 第19回九州・沖縄大会

10月6日（日） アクシオン福岡

◆開場/9:30 試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR博多駅交通センターよりバスで席田中学校バス停下車
◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

### 北斗旗空道無差別選手権 第28回西日本大会

10月13日（日） 岸和田市総合体育館武道場

◆開場/9:00 試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/南海本線春木駅下車徒歩10分
◆お問い合わせ/大道塾岸和田支部☎0724-43-8146

### 北斗旗空道無差別選手権 第34回関東大会

10月14日（月・祝） 中央区立総合スポーツセンター第1武道場

◆開場/9:30 試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄都営新宿線浜町駅下車徒歩2分
◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

### 北斗旗空道無差別選手権 第1回北信越大会

10月20日（日） 鳥屋野総合体育館武道場

◆開場/9:40 試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/万代シティーバスセンターより鳥屋野体育館前下車
◆お問い合わせ/大道塾新潟支部☎025-241-5020

空手

### 北斗旗空道無差別選手権

11月17日（日） 国立競技場代々木第2体育館

◆開場/9:30 開会式/10:00 試合開始/10:30 ◆入場料/SS席5,000円 S席4,000円 A席3,500円 （中・高生1,500円） ※当日券は1,000円増し ◆チケット発売/10月17日（木） ◆チケット発売所/チケットぴあ ◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、営団地下鉄表参道駅下車徒歩5分 ◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

## 日本グローブ空手道連盟

### 第13回グローブ空手オープン選手権大会

10月5日（土） 東京武道館 第一武道場

◆試合開始/12:00（予定） ◆入場料/無料 ◆会場アクセス/地下鉄千代田線綾瀬駅より徒歩5分 ◆お問い合わせ/日本グローブ空手道連盟☎03-5625-2371

## 正道会館

### 第15回オープントーナメント 西日本新人戦空手道選手権大会

10月14日（月・祝） 大阪府立体育会館 柔道場

◆開場/9:00 予選開始/10:00 開会式/13:00 ◆入場料/無料 ◆会場アクセス/JR・近鉄・南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分 ◆お問い合わせ/正道会館総本部☎06-6357-1654

### 第14回オープントーナメント 2002東日本新人戦空手道選手権大会

11月24日（日） 戸田市スポーツセンター

◆試合開始/10:00 ◆入場料/無料 ◆会場アクセス/JR埼京線戸田駅より徒歩10分 ◆お問い合わせ/正道会館東京本部☎03-5285-1966

その他

## 精龍會中國拳法道場

### 実践中国拳法&異種格闘技オープントーナメント 第12回闘龍比賽

12月1日（日） 栃木県立北体育館

◆試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR宇都宮線西那須野駅または野崎駅下車、タクシー15分
◆お問い合わせ/精龍會中國拳法道場統括事務局☎0287-29-2063

## 主要チケット発売所一覧

チケットぴあ ☎03-5237-9999
ローソンチケット ☎03-3569-9900
CNプレイガイド ☎03-5802-9999
オデッセー ☎03-3408-0331
渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513
レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078
レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443
チャンピオン ☎03-3221-6237
書泉ブックマート ☎03-3294-0011
フィットネスショップ水道橋 ☎03-3265-4646
後楽園ホール ☎03-5800-9999
e+（イープラス） http://eee.eplus.co.jp ☎03-5749-9911

## プロ団体連絡リスト

**K－1事務局**
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

**修斗**
※各興行のプロモーターに問い合わせ

**ワールドパンクラスクリエイト**
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

**高田道場**
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

**UFO**
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

**ドリームステージエンターテインメント**
〒107-0052 港区赤坂8-5-4ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

**S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション**
〒150-0021 東京都昭島市大神町1-2-22
☎042-544-6979

**マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟**
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

**全日本キックボクシング連盟**
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

**日本キックボクシング連盟**
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

**新日本キックボクシング協会**
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3780-1350

**ニュージャパンキックボクシング連盟**
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

**J－NETWORK**
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12三元ビル5F
☎03-3419-0536

**K－U(キック・ユニオン)**
〒195-0834 東京都八王子市東浅川町8-1
☎0426-66-9541

**シュートボクシング協会**
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1・2F
☎03-3843-1212

**極真会館総本部道場（松井派）**
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-38-1
☎03-5992-9200

# バックナンバー インフォメーション

これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）

**《6・13&6・27　合併号　71号》**

●特集/2002年マット界上半期総括座談会
●完全詳報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、初代王者アルバート・クラウスインタビュー、黒崎健時インタビュー
●直前情報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会…ボブ・サップ、中迫剛インタビュー
●GW前後の大会大特集/5・10『UFC37』ルイジアナ大会、5・11パンクラス大阪大会、5・2プロ柔術『GI-um』、5・5修斗後楽園大会、5・6プレミアム・チャレンジ、5・6スマックガール&5・4AX、5・13 SB大阪大会、5・5北斗旗仙台大会、4・28 MAキック後楽園大会、5・4全日本キック下北沢大会、5・12ニュージャパンキック後楽園大会、4・29女子ボクシング下北沢大会

**《7・11　臨時増刊号　72号》**

●大会速報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会
●6・23『PRIDE.21』直前情報/桜庭和志インタビュー、大山峻護インタビュー
●大会詳報/5・25『K-1 WORLD GP 2002 inパリ』
●SRS・DXの注目/6・8～9極真全日本ウェイト制選手権大会プレビュー、6・17 J-DO東京進出、東孝 大道塾塾長インタビュー、7・7 S-cup直前情報…緒形健一の総合特訓に密着
●大会レポート/5・26新日本キック後楽園大会、5・28パンクラス後楽園大会、6・1スマックガール、5・31～6・2全日本ブラジリアン柔術選手権、5・30全日本キック後楽園大会

**《7・11　73号》**

●完全速報/6・23『PRIDE.21』さいたまスーパーアリーナ大会
●SRS・DXの注目/須藤元気インタビュー、BCGがパワーアップ！、シーザー武志インタビュー
●大会詳報/6・8～9極真全日本ウェイト制大会、6・9 DEEP2001ディファ有明大会
●大会レポート/6・13～14全日本選抜レスリング選手権大会、6・17 J-DO第1回東京大会、6・16全日本キック後楽園大会、6・16 IKUSA&6・9 ANGEL TORNADO

**《7・25　74号》**

●夏のイベント情報/8・28『Dynamite!』…桜庭和志vsターザン山本対談、吉田秀彦道場開き、石井和義インタビュー/8・8UFO東京ドーム大会、G1予想
●SRS・DXの注目/マット・ヒューム&シュルトセミナーinBCGほか
●6・23「プライド21」振り返り企画/田村潔司インタビュー、ターザン山本vsロシアン・トップ・チーム対談、ダニエル・グレイシーインタビュー
●7・14 K-1福岡大会直前情報/アイブル、セフォーインタビュー
●大会詳報/6・29修斗大阪大会、7・7S-cup横浜大会
●大会レポート/6・23 UFC37.5、7・7 ZERO-ONE両国大会　ほか

**《8・8　75号》**

●夏のイベント最新情報/8・28『Dynamite!』国立競技場大会…吉田秀彦インタビュー、ホイスインタビュー、"伝説の他流試合"木村政彦vsエリオ・グレイシーを検証/8・8UFO『LEGEND』東京ドーム大会情報
●大会詳報/7・14『K-1 WORLD GP 2002 in福岡』、8・17『K-1 WORLD GP 2002 inラスベガス』対戦カード情報
●SRS・DXの注目/8・10「一撃」特集…フィリォインタビュー、ロイドの師匠トム・ハーリックインタビュー/9・7『DEEP2001』有明コロシアム大会最新情報
●大会詳報/7・13 UFC38ロンドン大会、7・19大道塾『THE WARS 6』後楽園大会、7・21全日本キック後楽園大会
●大会レポート/7・5 WFAラスベガス大会、7・12 J-NET後楽園大会、7・14ニュージャパンキック後楽園大会、7・19修斗後楽園大会、7・20 THE BESTディファ有明大会

**《8・22　76号》**

●夏のイベント最新情報/真夏のプロ格興行戦争を説くためのキーワードとは？　8・28『Dynamite!』国立競技場編/8・8 UFO『LEGEND』東京ドーム編/8月、プロレス界編、小林まことvs吉田秀彦、桜庭のハイキック特訓を潜入取材、プロレス者の夏休みの課題＝I編集長&ターザン山本を読もう！
●SRS・DXの注目！/9・7 DEEP有明大会最新情報　田村潔司、美濃輪育久インタビュー、/真夏の極真ニュース/8・25 SB大阪大会情報/柔圭vs小松魔裟夫対談/小林聡インタビュー
●特集/9・22 K-1ジャパンGP決勝戦 武蔵、中迫剛、富平辰文、天田ヒロミインタビュー
●大会レポート/7・28パンクラス、7・27新日本キック

**《9・12&9・26　合併号　77号》**

●いざ、国立10万人の祭典 8・28『Dynamite!』最終情報/桜庭和志インタビュー/決戦直前！　吉田秀彦vsホイス・グレイシー、ホイス来日会見、吉田秀彦、準備OK！/ボブ・サップ インタビュー/ドン・フライ インタビュー
●大会詳報/8・8 UFO『LEGEND』東京ドーム大会&8・10『一撃』NK大会
●特集/9・22 K-1ジャパンGP決勝戦（後編）野地竜太、ノブ・ハヤシ、大石亨
●最新情報/8・25パンクラス、9・7 DEEP有明大会、9・16修斗 横浜文体大会
●大会速報/8・17 K-1ワールドGPラスベガス大会
●SRS・DXの注目！/ターザンが斬る、今年のG1とは？

**《10・10　臨時増刊号　78号》**

●完全速報/8・28『Dynamite!』国立大会 吉田秀彦vsホイス・グレイシー、桜庭和志vsミルコ・クロコップ、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsボブ・サップほか
●大会詳報/8・25パンクラス大阪大会
●直前情報/9・7 DEEP有明コロシアム大会
●噂の三面記事/9・22 K-1 JAPAN GP、10・5 K-1 WORLD GP開幕戦、10・11 K-1中量級大会、9・29 PRIDE決定カード
●SRS・DXの注目！/スペシャル対談★シーザー武志×平直行
●スペシャルインタビュー/ビル・ゴールドバーグ

**バックナンバー　通信販売方法**

定価／各680円　送料／1冊＝110円、以下一冊増えることに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　『SRS・DX　バックナンバー係』まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

# NEXT ISSUE

## 次号予告

2002 10/24号　No.80

**今年も残すところ3ヵ月。**
**ますます盛り上がるマット界から目を離すな！**

### 完全詳報　9・29 PRIDE.22 名古屋大会

大山、小路、山本、アレク、小原
期待の日本人ファイターの活躍は・・・・・・？

### 大会速報　10・5 K-1 WORLD GP 開幕戦

バンナがPRIDEの刺客グッドリッジと激突！
12・7東京ドーム決勝戦へのサバイバルマッチ。
果たして生き残るのは誰だ！

VS

**10/10（木）発売！**

SRS・DX スペシャル・リング・サイド

毎月第2・第4木曜日発売　定価680円　発行/扶桑社・ローデス　発売/扶桑社

# 浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.asakusakid.com

## キッドも燃え尽きた!?『Dynamite!』総括！

**博士** 締め切りの関係ですっかり遅くなったけど俺たちの『Dynamite!』総括だ！ 世界が注目するビッグマッチだった。

**玉袋** 特に一番インパクトがあったのが小泉純一郎VS金正日ですよ！

**博士** たしかにガチンコの迫力あったけど『Dynamite!』じゃないだろ！

**玉袋** 元赤軍、ヤオ恵の拉致証言はやはり、「ガチ」だったんですよぉぉぉ！

**博士** 不謹慎だ！

**玉袋** でも、国立競技場を一杯にして、名勝負続出のあんなビッグイベントがあったら、全て吹っ飛んでもう草木も生えない状態なんですよ！

**博士** たしかに、ワールドカップ燃え尽き症候群なんてあったけど、俺たちも『Dynamite!』燃え尽き症候群なんだよ。

**玉袋** 客席は超満員！ まさにリアルレジェンドですよ！

**博士** 聖火へ点火があったもんな。

**玉袋** 不思議なのはなぜあそこで猪木様にTBSで放送されてるのにテレビ朝日のライオンマークを着た大柄な係員がついていたんだろうか？

**博士** ありゃ係員じゃなくて中西と永田だろ！

**玉袋** 聖火の点火の誘導手伝いじゃなくリングに上がってほしかったなんて声も聞こえましたよ！

**博士** たしかにシウバと闘うと手を上げてくれればよかったな。

**玉袋** 手を上げた岩崎選手は玉砕！ しかし、国立競技場のリングに最初に上がった日本人選手というプレミアムがつきましたからね。

**博士** 急転直下で出場が決まった松井選手は惜しかった。

**玉袋** でも、突然言われてすぐ出てくる松井選手は本当に立派ですよ！

**博士** うん、プロレスラーは「いつ何時〜」じゃなきゃだもんな。

**玉袋** 出場する心意気だけで、松井選手はプロレスラーなんですよ!!

**博士** 「松井選手の爪の垢を煎じて飲まなきゃいけないプロレスラーもたくさんいるはずだ」と物騒な発言をするファンもいたほどだ。

**玉袋** そしてもっとこの選手の爪の垢を煎じて飲んだほうがいいだろうというのは、なぜにK−1ルールで闘ったのか？ 漢の中の漢ドン・フライですよ！

**博士** 試合当日にやってきたバンナも漢の中の漢！

**玉袋** 無茶な試合だけど、本当に出てきて闘う2人は最高でしたよ！

**博士** あの試合で一気に爆発したからな。

**玉袋** インターバルの後も大爆発があったでしょ！

**博士** しかしまさか空から降ってくるとは……。

**玉袋** やっと帰ってきたんですね風船おじさん！

**博士** 風船おじさんじゃなくて、我らがアントニオ猪木様だよ！ 空から神が舞い降りてんだから信者の俺たちとしてはたまらなかったよ。

**玉袋** スカイダイビングやっちゃったら、もう来年はバンジージャンプとか、大脱出シリーズしかないな。

**博士** 「お笑いウルトラクイズ」じゃないんだよ！ その空からヘリ下ってきた猪木様、マイクパフォーマンスを終えてリング下に降りてきた時、俺たちと目が合って、いきなり俺を張り倒して闘魂注入だよ！

**玉袋** ただでさえ高いところから降りてきて昂ってるから、力加減がまったくない張り手でしたよ。

**博士** 完全に芯食ったよ！ でも、空から降りてきて一発目の闘魂注入だけに最高の光栄だ！

**玉袋** 最高級のシャクティーパットでした！

**博士** サップVSノゲイラなんて超名勝負が生まれたな！

**玉袋** どこぞのプロレスラーが「格闘技に何度も見たいっていう名勝負はない」とか言ってたけど、俺はこの試合『Dynamite!』終わってから10回は見直してるよ！

**博士** あの死闘した2人を前にして、そのプロレスラーはその台詞を言えるかね？

**玉袋** サップが本気になったら一番強いですよ！

**博士** たとえ百獣の王ライオンだって白熊には勝てないだろうし。

**玉袋** その白熊だって象には勝てないでしょうからね。

**博士** サップは象なんだよ！ しかもただでさえデカくて強い象がライオンや白熊の獲物を捕らえるテクニックを身に付けようとしてるんだから、手の施しようがなくなるぞ！

**博士** 吉田はホイスから勝利したが、またグレイシーが「落ちてない」と反論。

**玉袋** あそこでレフェリーに「落ちた」ってアピールした吉田選手の勝負師っぷりには驚愕ですよ！

**博士** 本物が出てきたよ！

**玉袋** ホイスは「勝っていたのにドゥイエに負けてしまった篠原の気持ちが分かる」とコメント。

**博士** してないよ！ しかし吉田選手は横綱やメダリストなどの頂点に立って、格闘家やプロレスラーに転向した選手の中のデビュー戦で一等賞だった！

**玉袋** 次点が北尾のデビュー戦かな？

**博士** 一番しょっぱいデビュー戦だよ！

**玉袋** まぁグレイシーがブーたれても、またリマッチが見れると思うと、逆にワクワクモノですよ！

**博士** しかし、最高の興行だった今回の『Dynamite!』で唯一ダメ出しがあるとしたらこの吉田秀彦のセコンドだな。

**玉袋** 背中に326（ミツル）の詩、表は326の吉田の似顔絵イラストのTシャツ姿だった！ トンチンカンなTBSの仕込みには、はっきり言って幻滅だよ！

**博士** 格闘技の会場にああいう女子供だましのイラストは場違いも甚だしい！

**玉袋** 男の闘いの舞台で、化け物アゴ男といえば、猪木様だけで充分だ！

**博士** そしてメインの桜庭和志は残念だった。プロレスハンターミルコはもはや誰も止められないのか？

**玉袋** 倒せばおいしい選手ですよ！ ミルコ狩りにいよいよ吉田が名乗りを上げてくれますかね？

**博士** でも吉田を倒せばプロレスハンターだけじゃなく、柔道ハンターにもなったりする可能性もあるぞ！

**玉袋** そうなるとストーリーはミルコVS柔道界になるんですよ！ 吉田の仇を取るために井上康生、中村なんかが出てくるんですよ！

**博士** たまらないな！

**玉袋** ついでに柔ちゃんも谷を連れて参戦！

**博士** しないよ！ アリーナの飲食禁止でビールが呑めない問題や、やはり足りなかったトイレ問題など、ちょっと大変だったけど、最高の夜だった！

**玉袋** 神宮の花火大会も夏の名物ですけど、これから神宮外苑の夏の風物詩は『Dynamite!』も一枚増えました。

**博士** そうこうしてる間にすぐやってきた『プライド22』名古屋大会だ！

**玉袋** ヘンゾとの対戦でちょっと味噌をつけた小原選手の復活は嬉しいですよ！

**博士** 対戦相手はUFCのファイター。

**玉袋** ケビン・ガンバルマン。

**博士** ランデルマンだよ！

**玉袋** 遠目で見たらランデルマンで、近くでよ〜く見たらマイケル・マクドナルドだったりして。

**博士** そんなわけないだろ！

**玉袋** そういえば小原選手は柔道の吉田選手とも練習していたんですよね。

**博士** そうそう、小原選手が吉田選手を頻繁に極めていたという噂もあるほどだ。

**玉袋** そうなるとまたもや小原幻想が膨らんできますよ！

**博士** 前回の汚名を返上してほしい。新日が女子選手をリングに上げる時代だ、こっちもセコンドにはぜひアニマル浜口&京子ちゃんを！

**玉袋** 燃えろ〜！ 気合いだ〜！

**博士** イゴール・ボブチャンチンも久しぶりの登場。どうやら『Dynamite!』の出場依頼も断って秘密特訓をしていたらしいな。

**玉袋** 名古屋と国立どっちを取るといったら、国立を取っちゃうのが常でしょうけど、なぜ名古屋なんでしょうか？

**博士** それだけ調整に時間がかかったんだろう。でもズバリ名古屋にピークを持ってくるぞ！

**玉袋** そして名古屋のちさんビルに突入ですな！

**博士** そりゃ〜全階ヘルスが入ってる名古屋の名物ビルだろ！

**玉袋** ブラジリアン・トップチームVSロシアン・トップチームの対抗戦第1弾も最高だ！

**博士** マリオ・スペーヒーVSアンドレイ・コピィロフだ！

**玉袋** マリオとコピィロフはタイプは違いますが、両者とも新宿二丁目で注目を集めているカードです。

**博士** ズルムケコピィロフに期待だよ！

**玉袋** アスリートじゃ出せない物騒な馬鹿力炸裂か！

**博士** 3分過ぎた後のコピィロフに大注目だよ！

**玉袋** 闘える時間は3分！ 頑張れ闘うズルむけウルトラマン！

**博士** 話戻って『Dynamite!』だけど、試合もイベントも最高だったけど、ターザンがリング上に上がった瞬間も最高だったな。

**玉袋** 5年前を考えれば完全復活ですよ！

**博士** なんとも感慨深い瞬間で熱いものがこみ上げてきたよ！

**玉袋** 石井館長の粋な計らいだった！

**博士** まさかプロレス界から石持て追われた男をあそこでプレゼンターに抜擢するとは!!

**玉袋** ターザンは前から言っていた「サイレントリベンジ」を見事に果たした瞬間だったよ！

**博士** そしてお笑いの神もターザンに味方したからビックリだ！

**玉袋** まさかマイクで頭ゴツンはないですよ！ ドリフのコントのタライだって計算されて落ちてくるのに、まさか計算なしであのゴツンはないですよ！

**博士** 「ゴツン！」って間抜けな音を国立競技場に響かせちゃうんだからな。

**玉袋** 100年に一度の奇跡のずっこけぶりも見事ターザン！

**博士** あのマイクへのパチキは今までの不遇に対してのパチキでもあったんだ！ 完全復活ターザンおめでとう！

**玉袋** そして、前田日明もノアで復活おめでとう！

**博士** そっちは復活しねーよ！ いい加減にしろ！ ■

DEEP INTERNATIONAL 2004

9.7★有明コロシアム

# DEEP史上最高の闘い！

# 美濃輪育久の酸欠ラッシュ!!! こんな危ない男、見たことない!!

▲美濃輪は試合終了直前、叫びながらパンチを入れていく

▲田村は何度も美濃輪を追い込んでいくのだが……

撮影◎乾晋也、中島ミノル（望遠）

# 強い田村が帰ってきた!!

▶▼美濃輪は自ら作詞&ボーカルを担当した『リアル・アンダーグラウンド・キング』を入場曲に登場。日本刀を抜き、その後、踊るという派手な入場だった

▶▼田村はいつもどおり、緊張感をみなぎらせながら入場。リングでは四方の観客に深々と礼をし、最後に美濃輪を睨みつける。美濃輪もその視線を受け止める

▲相変わらず切れのある左ミドルを放っていく田村。対する美濃輪は浴びせ蹴りやハイキックで応戦。だが、田村の打撃のほうが威力でも切れでも勝っていた感じだった

田村潔司VS美濃輪育久。名勝負になると思ってはいたけど、ここまで凄い内容になるとは想像できなかったのである、実際の話。

特に、美濃輪。こんなデタラメな男は見たことがない。試合前のインタビューでも「自分がこれまで生きてきた全人生をこの試合に賭けます。中学の時の遠足の記憶とかも全部」とか言い出し、〝あれ？この人、正気かな？〟って思いが頭をよぎったもの。

練習にしても、誰もやったことない特訓をするということで決行したのが富士登山！　確かに誰もやったことないけど、真意がつかめないから摩訶不思議。

だけど、いざ試合になれば、菊田戦や秋山賢治戦に見られるように、信じられない爆発力を発揮して、観客を熱狂させてしまう。相手が強ければ強いほど、最高の試合をするのが美濃輪なのだ。

そして、一方の田村も変わっている。どこの団体でも我を曲げず、最終的には孤立してしまう、良くも悪くも頑固な男。だが、ファイターとしては肉体を練り上げ、技術を積み上げてきた正当派というのが美濃輪とはちょっと違う感じがする。

もっとも気付けば今大会10試合中、4試合がUファイル勢がらみという怖ろしい交渉術を発揮したりしてるんで、表と裏の寝技がともに鋭い、やっぱり一筋縄でいかない男なのである。

そんな変人同士が激突したわけだ。信じられない光景が展開するのは当然と言えば当然だろう。

第1R。美濃輪はいきなり浴びせ蹴りを繰り出す。その後も胴タ

# 技術では圧倒！ 美濃輪を攻め立てる

# 腕十字がガッチリ極まったアア!! なのに……

▼2度の腕十字を外されると今度はスリーパーを狙う。技が流れるようにつながっていく

▼下の写真の腕十字を切り替えされるもすかさずバックを取り、再度、腕十字に行く田村

▶試合中、田村は何十発も美濃輪にパンチを当て続けた

▶美濃輪のタックルを切り返す田村

▶完璧にマウントを取ってパンチを打った田村。この時点でレフェリーストップになってもおかしくないぐらいに美濃輪を追い込むのだが……

▲1Rの大きな山場がこの腕十字。完全に極まったと思われたのだが、美濃輪は逃げ切ってしまう

ックルで田村を倒し、上のポジションをキープする。美濃輪ペースで試合は始まった。

ところが、再び、胴タックルを仕掛けた美濃輪を倒れながら、下からすくい上げた田村はそのまま腕十字の体勢に持っていく。両手をクラッチして防ぐ美濃輪。だが、こうなっては時間の問題だ。必死に抵抗していた美濃輪のクラッチが外れてしまう。観客の歓声がひと際高くなる。美濃輪の右手は完全に伸びきっている。どう考えてもタップだ。

しかし、だ。美濃輪はこれを身体を振って強引に外してしまう。田村は美濃輪のバックに回り、再度腕十字に。それが解けてしまうと、胴絞めスリーパーへと流れるように攻撃していく。

やはり田村の技術は高い。しかし、美濃輪が凄いのはその全てに反応し、返してしまうこと。そしてラウンド終盤では美濃輪が上になってパンチを打っている状態で1Rが終了するという、手に汗握る攻防となる。

第2R、先に攻撃の糸口を掴んだのは田村のほう。ミドルキックが効いたのか、バランスを崩してしゃがみこんだ美濃輪を上から殴りつける田村。横を向いて逃げるところを押さえ込んで殴り、最後はマウントを奪ってパンチを連打する。あわや、レフェリーストップかという場面であったが、美濃輪は、田村の一瞬の隙をついて動き回り、足を取りにいったりとちっとも弱っていない。逆に、田村のほうが殴り疲れてしまった感じなのだ。

実際、2R後のインターバルでは、田村は下を向いて荒い息。攻

# 美濃輪はバケモノか！

▲このドロップキックも3Rに出したもの。田村がクタクタなのに比べて美濃輪のスタミナは無尽蔵か？

▲1R、2R、田村は攻め続けるも美濃輪は弱った様子が見えない。田村の隙をついてはスイープし、パワーボムまで繰り出していく

## 勝ってる田村が疲労困憊!?

▲第2Rのインターバル中の疲労困憊した田村。試合は圧倒的に田村ペースなのに、この表情だ

◀ついには田村のほうが根負けし、レフェリーにストップを要請するほどに

◀どんなに追い込まれても必ず反撃してくる美濃輪

め込まれている美濃輪のほうはイスにも座らず、常に臨戦態勢だから無尽蔵のスタミナだろう。

そして、第3R。田村は何度も美濃輪の上になってパンチを放つが、展開は2Rと同様。いくら攻撃しても美濃輪はドロップキックを出してくるは、ヒールホールドを狙ってきたりと、油断できない。

だが、それが信じられないのだ。

田村は美濃輪の体力が弱ってきてることを肌で感じていた。観客だって美濃輪が動いていることが不思議でならなかったと思う。

なにしろ、ラウンド後半、美濃輪は、田村が後ろにいるのに、突然マットに正座してしまうのだ。試合中、ここまで無防備な選手は見たことがない。

田村も一瞬躊躇しつつ、スリーパーを狙いにいくのだが、美濃輪はそのままスクッと立ち上がり、天に向かって指を突き立て、次の瞬間、前転してヒザ十字を取りにいく。

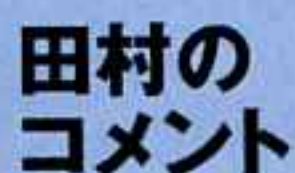
なんだ、それ!?

観客のほとんどが美濃輪はもう意識がないと思ったはずだ。こんなシーンを見たら酸欠状態で、本能だけで闘ってると誰だって思うだろう。だって、前転ヒザ十字と言えば聞こえはいいが、実際の話、自分からマットに頭を思い切りぶつけて、その反動で田村が倒れたところを足を取っているのだから。

たまらず、田村はレフェリーに試合を止めるように要請。だが、美濃輪が動いている以上、止めるわけにもいかない。しかも、美濃輪がバケモノなのは試合終了直前、ウォーと叫びながらパンチを乱打し、田村を抱え上げてパワーボムを繰り出すのだ。

DEEP INTERNATIONAL 2001
9.7★有明コロシアム

# 「今日勝ってなんとか生き残ることができました」

### 田村のコメント

「強いですね、心がなかなか折れなくて。技術面では自信があったんですけど、心技体の気の部分で、下から追い上げる力みたいものを感じたんで。凄かったです。K点を超えてやってたんじゃないかなって。十字は極まってたと思います。通常はあれで極まってると思うんですけど、気持ちで返されたな」

### 美濃輪のコメント

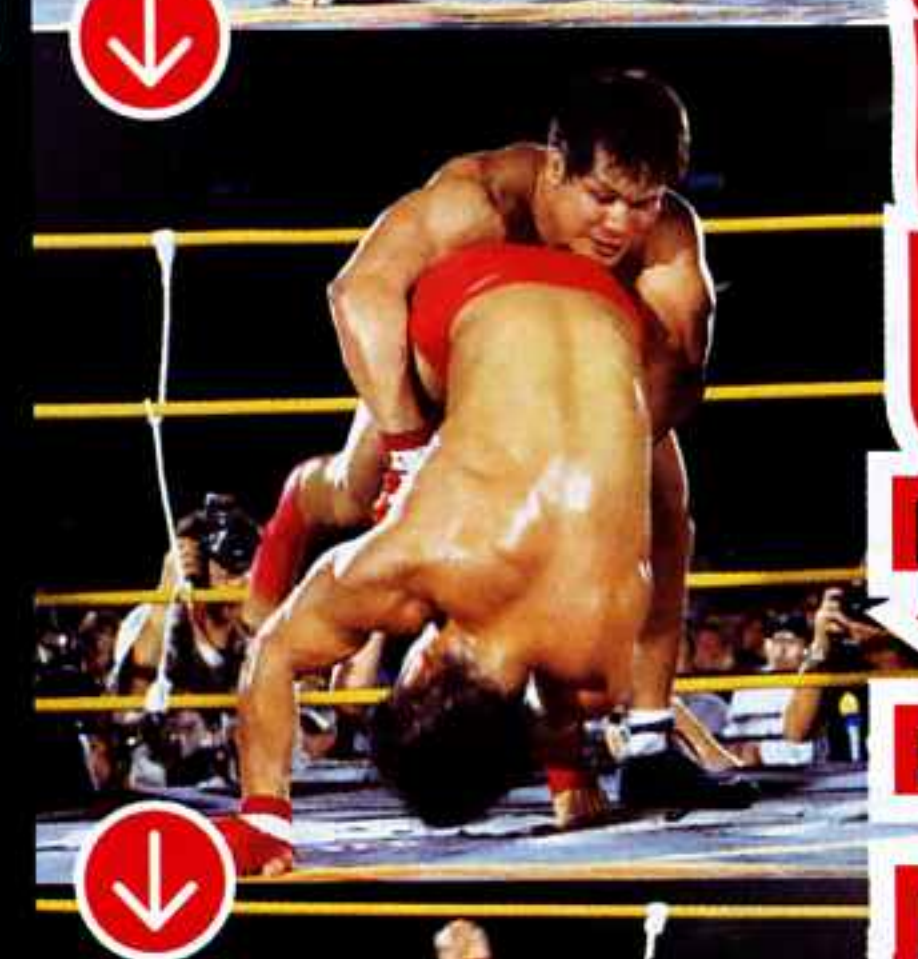
「（試合の感想は？）もう一回やらせてください。しつこく追いかけたいです。田村さんは僕が倒したいです。いつか倒したいです。それだけです。（悔しいですか？）悔しいというか、負けてないです。え〜、負けは認めないですけど、勝つまで追っかけます。もう一度お願いします。結果的には負けてるんですけど、もう一度落とし前というかケリをつけたいというか。もっと自分を出したいです。十字は大丈夫です。全然痛みとかなくて逃げれるなって」

▲判定ならば文句なしに田村だった。だが、田村自身が語ったように、美濃輪の心は決して折れなかった

★第10試合/メインイベント（5分3R）
○田村潔司（3R判定3-0）美濃輪育久●
<U-FILE CAMP.com>　<パンクラスism>

▶試合後、年末にビッグプランがあることを明かした田村。やはり、田村が動けば、格闘技界は活性化される

▼UWFの先輩にあたる鈴木みのるにも深々と礼をする

# 「U-FILE勢は全勝しました」

# 意味不明！天を指さしヒザ十字に？

▲圧巻だったのがこのシーン。田村がバックドロップを狙う体勢になった時、美濃輪は突然、天を指差し、次の瞬間にはヒザ十字を狙って前転したのだ。試合中、しかも第3Rの後半になぜこんなことをするのか。観客全員があ然とした瞬間だった

どこにそんな力が残っていたんだろうか？　田村が試合前に「彼は試合化けする選手」と言っていたのはまさにこのこと。本当に凄まじい生き物だった。

結局、試合は判定となり、文句なしの田村の勝ち。だが、勝ち負けなんか関係なく、もの凄い試合、もの凄い人間を見たというのが正直な実感であった。

「K点を超えていたんじゃないかな」

これが田村の試合後の感想だが、この日、この試合を見た者全員がうなずけるものだったと思う。ところが、試合後の会見に現れた美濃輪は「もっと自分を出したかった。躊躇した部分がある」という。また、天を指差してヒザ十字を仕掛けたことについては「あれはフェイントです」とあっさり言い切る。どんなフェイントだよ！

腕十字についても「全然痛くなかったです。逃げられると思いました」と言っていたのだが、実際、この日、美濃輪は、傘を差して普通に会場をあとにしたのだから、本当に、あの十字は効いていなかったのだと思う。こいつのK点はまだまだ先にあるのは確実だ。

これから美濃輪は田村を追い続けると言う。田村にとっては凄く迷惑だと思うが、躊躇しない美濃輪を引き出せるのは田村だけなのかもしれない。

ともかく、凄い人間を見た。田村潔司という、いびつなモノサシでも計りきれない美濃輪育久。彼が満足いく試合というのをぜひとも見てみたいと思うのだ。　（ブチ）

# 君はこのTKシザースを見たか!

# TK、宣言どおりノゲイラ弟と好勝負を展開!

▲ホジェリオに有利なポジションを取られていたTKだが、下からTKシザースを連発。試合前に「凄くいい試合になる」と宣言していたとおり、膠着しない素晴らしい試合となった

▲試合中、ＴＫが見せた素晴らしいＴＫシザース。下から攻めるのはノゲイラ兄が得意とするところだが、ノゲイラ弟のホジェリオはこの攻めに苦戦していた

今のマット界でどんなことでも話題になるのは吉田秀彦。あの国立競技場での鮮烈なデビューは、今さら言うまでもなくマット界のみならず、世間までも驚かせた。

その効果は抜群に強烈で、吉田と関わった人間もそれまで以上に注目される存在となる効果を生んだ。ＴＫこと髙阪剛も、もちろんその1人だ。

ＴＫは吉田が総合に転向して以来、コーチ役の存在だった。ＴＫと言えば、ここ最近は様々な格闘技イベントで、セコンドに付く場面が多い。『プライド』、『ＬＥＧＥＮＤ』、『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』と主要な大会にはセコンドとして参戦している。それだけ、いろんな選手から頼りにされ、人望も厚い。

そのＴＫが、久々に自分の試合を行った。5月に出場した『ＵＦＣ37』以来の試合である。この試合前、ＴＫが言っていたのは、「ホジェリオとの試合は必ず面白くなる」ということ。自分と似たタイプであるホジェリオなら、理想どおりの試合ができる自信があると試合前から宣言していた。

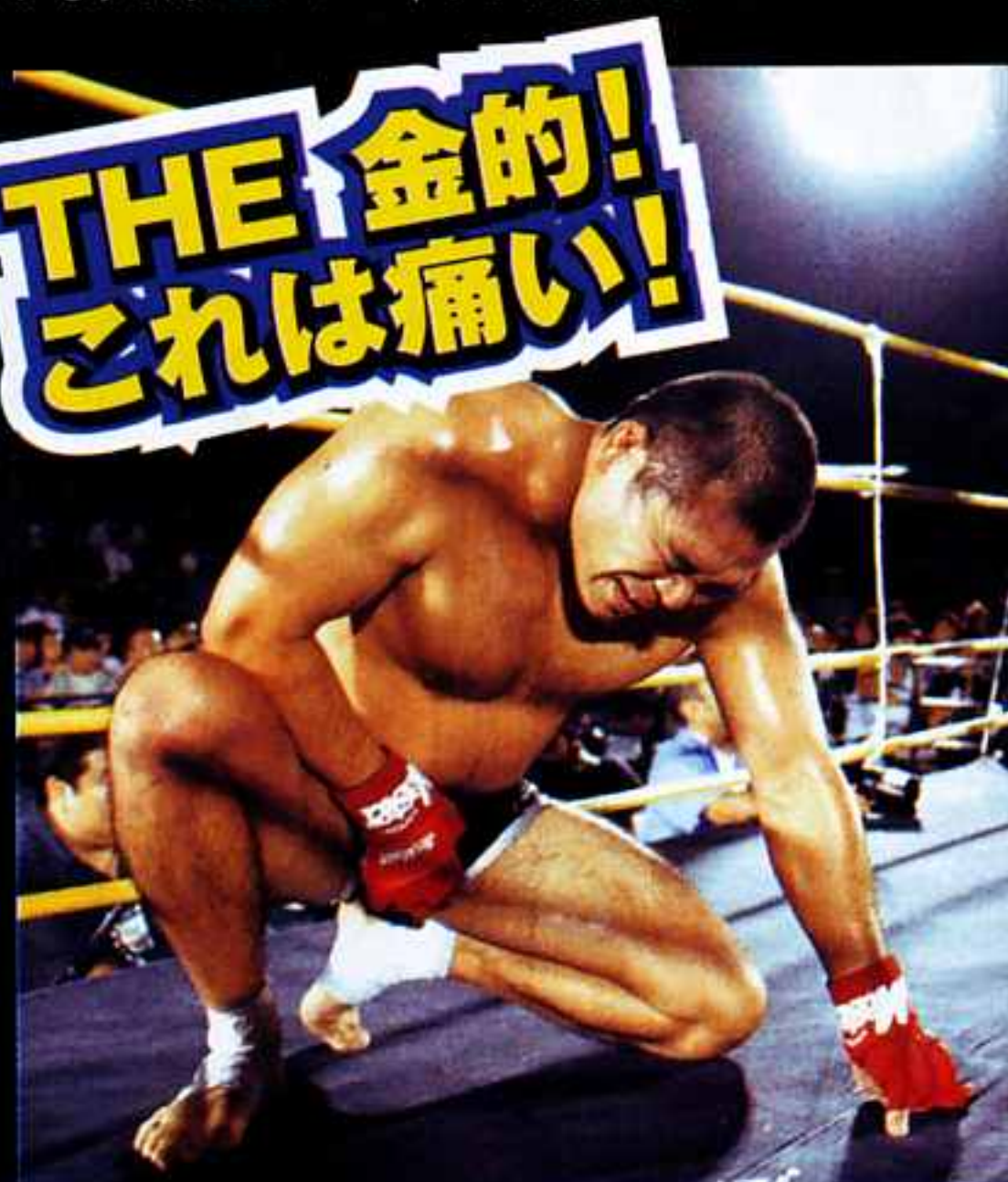
ホジェリオは8・8『ＬＥＧＥＮＤ』で猪木軍の秘密兵器ウラジミール・マティシェンコの膠着戦法にはまってしまい、当日屈指の膠着試合をしてしまった。いや、させられたのか？　あの試合を見ていたＴＫはさらに面白い試合をしようという意欲に駆り立てられたのか、ホジェリオとの試合は、ＴＫが久々に持ち味を存分に発揮した素晴らしい試合となった。これぞ、「ＴＨＥ　総合格闘技」という試合である。

元リングスの滑川、横井、そし

DEEP 2001 INTERNATIONAL
9.7★有明コロシアム

# これも吉田効果か？払い腰で一本！

▲TKのセコンドには元リングスの滑川康仁、横井宏考、和田良覚、そしてノゲイラ兄に挑戦を表明しているジョシュ・バーネットが付いた

## THE 金的！これは痛い！

▲2R、ホジェリオのヒザ蹴りが金的に！　試合後、TKは「むかついた」と語った。正直な感想だ

▲両者とも、スタンドの状態でも積極的に打撃の攻防を見せた。TKが打たれる場面もあったが、こうしてパンチやヒザ蹴りを当てる場面もあった

▲さすが柔道ベースのTK。1Rに払い腰でホジェリオを見事に投げて見せた！　柔道なら確実にこれで一本勝ちだ！　リングサイドの吉田秀彦はこれをどう見たのか？

てシアトルで一緒に練習してきたジョシュ・バーネットを引き連れて入場してきたＴＫ。ホジェリオは双子のホドリゴ・ノゲイラらトップチームを引き連れての入場だ。ＴＫVSホジェリオは、日本VSトップチームの3VS3対抗戦の大将戦。1勝1敗でＴＫにバトンが回ってきたために、内容はもちろん、是が非でも勝って、日本人の強さを見せてほしい一戦だった。

試合開始から、ホジェリオもＴＫも打撃で攻めていく。兄のホドリゴも打撃に長けていたが、このホジェリオの打撃もなかなかのものだ。それでも、ＴＫは打撃戦に応じていく。2人とも、寝技が主体の選手のはずなのに、それでも打撃戦で一歩も引こうとしないのだ。それでも、打撃をもらってしまったのはＴＫのほうが多かった。本人は試合後に打撃でも負けていなかったと思っていたようだが、見ていると何度もガクンガクンとなる場面があった。それでも受けて立ったＴＫ。凄いぞ！

そして、この試合で何より素晴らしかったのは寝技の攻防。ホジェリオの寝技は兄のホドリゴ程、華麗さはない。とにかく上を狙って、サイドポジションを取るなど、有利なポジションは確保するものの、なかなか一本極められない。逆にＴＫは、下から執拗にＴＫシザースを狙ってくる。

このＴＫシザースはＴＫの代名詞ともいうべき武器だが、これを試合中に何度も繰り出していく。下になったら、ＴＫシザース。下になったら、ＴＫシザースとサイドポジションなど優位なポジションを取っても、ホジェリオを安心

# 「メチャクチャ悔しい。自分に腹が立つ！」（TK）

▲試合は両者決め手を欠き判定に。TKも下からTKシザースで攻めていたものの、優位なポジションを取っていたホジェリオに軍配が上がった

### ノゲイラのコメント

「コウサカは勝負してくれましたし、ディフェンスにまわらなかったのでいい試合ができました。彼はいい選手で私は尊敬しています。寝技でチャンスがありましたけど、足を痛めていたのでそれ以上攻められませんでした。判定での勝利は確信していました。これからは『プライド』ミドル級チャンピオンを目指したいです」

### 高阪のコメント

「メチャメチャ悔しいです。相手がグラウンドが得意な選手なんで、寝技で勝負して勝ってやろうと思ったんですけど。（ノゲイラは）いい選手だと思うんですけど、自分が勝つことをやってなかったので。ローブローでハッキリ言って、むかついちゃったんですよ、それがね。そんなことでむかつくことが悔しい」

## 仰天！ 試合後にブラジリアン美女が乱乳（by東スポ）

▲『Dynamite!』の時はTKが吉田のセコンドに付いていたが、吉田はリングサイドで試合を観戦。試合が終わると足早に会場を後にしたが、その後を追いかけるマスコミの姿が、注目度の高さを示した

▲試合後にブラジリアン美女がリングに上がり、トップチームと一緒に大騒ぎ。彼女たちは8・8『LEGEND』でもノゲイラたちの応援をしていた

★第8試合（5分3R）
○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（3R判定3-0）高阪剛●
<ブラジリアン・トップチーム>　<日本／チーム・アライアンス>

させないのだ。一歩間違えれば膠着してしまうような展開なのだが、そうはさせまいとするTKのプロ意識と勝負へのこだわりはさすがとしか言いようがない。

立っては打撃でバカバカと打ち合い、寝ては下からTKシザースという展開を、3Rぶっ続けで繰り広げていくTK。2Rあたりからは、TKのヒザ蹴りやパンチもホジェリオに当たりだし、試合自体がスイングし始めた。

まさか、このカードが組まれた時、これほどまで好勝負になるとは思わなかった。ホジェリオが『LEGEND』の時に、マティシェンコとビッチリ膠着してしまっていたからだ。そうならなかったのは、それもこれも、全てTKが試合を不利な状況に陥りながらも引っ張っていったからである。こだわりのTKシザースが作った、素晴らしい試合だったと言っていいだろう。

試合は判定までもつれ込み、結局有利なポジションを奪っていたホジェリオが勝利を手にしたが、誰が頑張ってこの試合を引っ張っていたのかは観客の目には明らかであっただろう。それぐらいこの日のTKは素晴らしい動きで、「面白いプロの総合格闘技」を堪能させてくれた。

何より素晴らしいのは、宣言どおり、試合が面白くなったこと。これならば、負けてもTKの株は落ちないし、改めてこの男の底力とプロ意識の高さも実感できる。誰もが、そしてあの吉田ですらセコンドを頼みたくなる程、頼りになる男TK。この日は、それを存分に証明して見せた。（小松）

# 幻のKO負けをはねのけ、Uスタイルの上山が興行に点火！

▶寝技のブラジリアン・トップチームにあって、打撃が得意なフェレイラ。打撃でアグレッシブな攻めを見せたいい選手だ

▲粘りに粘って最後は腕ひしぎ十字固めでフィニッシュ。大久保、長南に続いてU-FILE3連勝となった

★第7試合（5分3R）
○上山龍紀（3R3分49秒、腕ひしぎ十字固め）ギルソン・フェレイラ●
<日本/U-FILE CAMP.com> <ブラジリアン・トップチーム>

▲苦戦の末、トップチームのギルソン・フェレイラに一本勝ちした上山。横断幕には「挑戦者求む」の文字が。「Uスタイルが好き」という上山はレガースを付けて試合に臨んだ

▶開始早々、フェレイラの凄まじい打撃が上山を襲う。一瞬崩れ落ち、しかもゴングまで鳴ってしまって、KO負けかと思われたが、ゴングは無効となり試合は続行。命拾いをした

ブラジリアン・トップチームと日本選抜の3VS3対抗戦の中堅戦となった上山とフェレイラの試合だが、フェレイラはトップチームなのになぜか打撃が得意な選手。この対戦が決定した時に、DEEPの佐伯代表は「上山選手は打撃の選手が相手だと面白い試合をするだろう」というようなことを言っていたのだが、その読みがズバリ当たってしまった。開始早々、フェレイラは持ち前の打撃で上山を攻撃。パンチのラッシュで上山をほぼKO状態にしてしまう。しかも、その時ゴングまで鳴ってしまい、場内は騒然。上山のKO負けかと思われたのだが、上山はそのままタックルに入り、試合は続行。ゴングは無効となった。なんて紛らわしいんだ！　しかし、その後、ペースを取り戻した上山がグラウンドで常に一本を狙いにいき、最後は腕ひしぎでフィニッシュ。DEEPミドル級王者の責任感なのか、素晴らしい気力で勝利をものにした上山。そして、この上山の気力のこもった試合が興行に火を点けたのだ。（小松）

# 休憩明けにヤノタク劇場開幕！ されどスタミナ切れで大失速

▲3Rにはバックドロップ気味の投げも見せたメロ。ノゲイラ兄が「最近のトップチームではベストファイターの一人」と言うように、立ってよし寝てよしの実力者だった

▲前転しながら、あるいはヘナヘナっと倒れ込みながら寝技へと誘い込もうとするヤノタク。しかしメロは容赦なく足を蹴っていった

★第6試合（5分3R）
○ファビオ・メロ（3R判定3-0）矢野卓見●
<ブラジリアン・トップチーム> <日本/烏合会>

▲▶ファビオ・メロに敗れてリングを後にするヤノタクは、思わずエプロンに座り込む。判定が読み上げられる際にも、ヘロヘロの状態。とにかくシャレにならないスタミナ切れ状態だった

休憩明けに、このヤノタクVSメロ戦がラインナップされたのは大正解だと思われた。妖し気な構えからクルクル回って寝技に誘ったりするヤノタクの戦法は観客を魅了、一気に会場を盛り上げる。寝技ではいいポジションを取られたが、それも必殺のセンタク挟みへの布石かもしれないという期待感があった。試合が中盤をすぎると、今度はヘナヘナと倒れ込むような動きを見せてメロも観客も幻惑したが、これはただのスタミナ切れだったことが発覚、最後は見ていて可哀想になるくらいのヘロヘロ状態だったヤノタク。「攻め疲れを待ってたら攻め疲れしちゃいました」。チョークや肩固め、十字などの猛攻をのらりくらりとエスケープ、かと思えばイノキ—アリ状態でブレイクと勘違い(?)して背中を見せたメロに後ろから襲いかかったりと、最後まで楽しませてくれただけに、負けて株が下がったかどうかすら謎という、実にヤノタクらしい敗戦ではあった。（橋本）

# "相撲"も、"偽造"も全てこの男の存在感に食われた！

# 松葉杖の執念！ゴージャス松野に完敗！

▲骨折をおしてゴージャス松野がセコンドに付いたかいがあってか、見事に大久保が勝利。大久保が手にしているのは一宮が保持していたアイアンマンヘビーメタル級ベルトで、24時間、誰の挑戦でも受けなければならないという厄介な代物だ

★第1試合（5分3R）
○大久保一樹（1R2分41秒、腕ひしぎ十字固め）一宮章一●
<U-FILE CAMP.com>　<フリー>

私がこの試合で一番見たかったのは、先代の高砂親方の長男で、学生相撲出身のプロレスラー"偽造王"一宮章一の闘いっぷりである。もちろん、偽造ギミックも見たかったが、なんと言っても、相撲のテクニックがどこまで総合格闘技で通用するのかというのは、相撲者にとって、とても重要なことだったのだ。

一宮が試合前にインタビューした時に語っていたのが、「相撲が最強と言われているのに、バーリ・トゥードで相撲出身のプロレスラーが負け続けている。自分が勝って、相撲のブランドを上げたい。だが、自分は相撲への過信はない」ということ。キチンと総合格闘技の奥の深さを理解した上での挑戦であり、実際TKやあの吉田と練習を重ねていた事実は、期待を抱かせるには十分だった。

ところが、この一宮のバーリ・トゥード初挑戦を上回る大事が発生した。対戦相手の大久保のセコンドにゴージャス松野が付いたのだ。ゴージャス松野、言わずと知れた、女優沢田亜矢子の元夫で、現在は顔を整形しホストとなり、ワイドショーのネタとなって、日々お茶の間に姿を現している。松野はインディのプロレス団体ーWAジャパンで、タイガー・ジェット・シンのマネージャーを務めながら、一宮と抗争している。この抗争がDEEPにそのまま持ち込まれたのだ。

このカードが組まれた時から、注目は一宮と松野の絡みに集中。一宮の出陣会見の時にいきなり乱入したかと思えば、純真無垢そうな大久保と合同トレーニングをし

# ゴージャス松野とグレイシーの偽造！これぞDEEPの真骨頂か？

▶▼グレイシーの偽造とくれば、グレイシートレイン。インディのプロレスラーを代表して葛西純が先頭に立ち、横井宏考、和田良覚、そしてジョシュ・バーネットまで列に加わるという豪華さだった

▲"偽造王"一宮の今回の偽造は旬のホイス・グレイシー。柔術衣を着て頭を坊主にしてきた

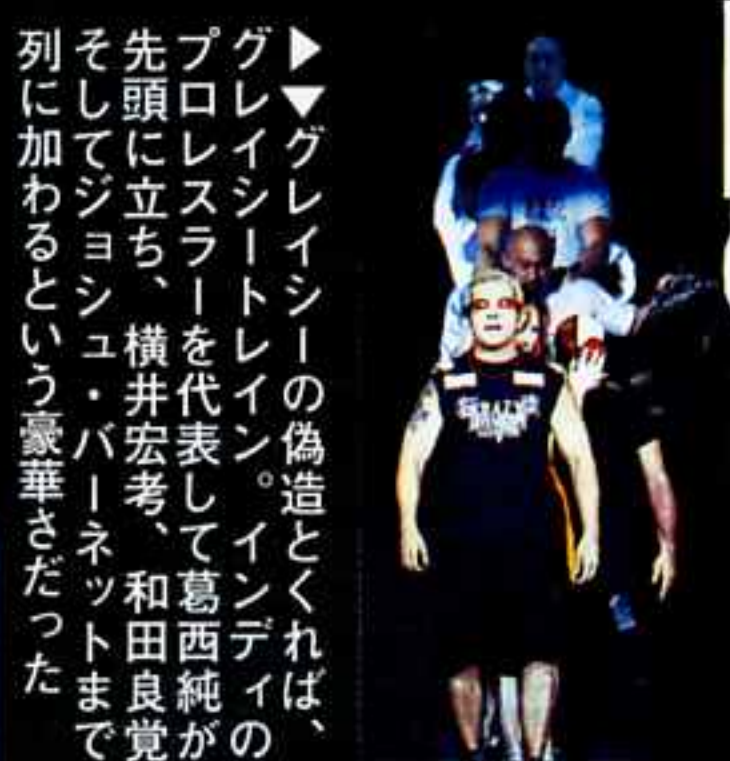
▲この対戦の見所はなんと言っても入場シーン。ゴージャス松野は大会の前日にムーンサルトの練習をしていて左足を骨折してしまったために、松葉杖での登場となった

## 大久保&松野のコメント

**大久保**　「僕も本当に緊張していたんですけど、自信を持って松野さんの指示どおりやって勝てたのでよかったです。思ったより力がありまして、自分の中でもちょっとやばいかなと思いました。本当にありがとうございます」

**松野**　「どうもありがとうございました。本当、私、こんな格好で大久保君の足を引っ張んなきゃいいなと思って、ドクターストップ掛かっていたんですけども、松葉杖ついででも大久保君の顔が見たかったんで来ました。来た甲斐がありました。今後とも大久保選手、いい選手になりますんで応援してください」

## 一宮のコメント

「正直、悔しいですよね。リング上でね、10歳も年下の選手から手を差し伸べられて同情買うなんて屈辱的なことはないし。プロレスラーとしてDEEPに上がって、何も表現できなかったし、何もできなかったんで。30過ぎてまた、いい目標を持たせてもらったなと。総合の道にチャレンジして頑張っていきたいなと思います」

▼大久保に簡単にテイクダウンされると早くもバックマウントを奪われ、大ピンチに陥った

◀父親が先代の高砂親方で、自分自身も学生相撲がベースとなっている一宮。得意の四つ相撲で勝負を挑むが、体重差があるわりに、大久保の腰は重い

# U-FILEに相撲が負けた……

▶大久保は足首を狙いにいき、さらにマウント奪うとそこから腕ひしぎへ。これが決まり手となってしまった

◀大久保の勝利が決まると、松葉杖を付きながら松野がリングにかけのぼり、大久保の勝利を讃えた。次は10月1日に松野のプロレスデビュー戦が控えている

たり、とにかくＤＥＥＰならではのいい意味でのインチキ臭さを一身に背負ったのだ。

　松野の目的がどうであれ、とにかくこの男のプロ根性は素晴らしい。10月1日に自分自身のプロレスデビューを控えているため、試合前日にムーンサルトの練習を密かにしていたのだが、着地に失敗し左足を負傷。それにもめげずに松葉杖で登場したり、しかもさすがに元タレントのマネージャーをしていただけあって、セコンドを務めた大久保の売り込み方もうまい。こんな胡散臭さ溢れるキャラクターを前に初めてのバーリ・トゥードの試合に挑まなければならなかったのだから、一宮もまったく気の毒だった。

　試合は、一宮の突進を食い止めた大久保が冷静にグラウンドの攻防に持ち込み、最後は腕十字で圧勝。一宮は、相撲のすの字も見せることができなかった。残念。

　試合は負けても、存在感だけでも出せれば言うことはなかったのだが、こちらも松野に完敗。とにかく、一宮は松野のおかげで一番割を食ってしまった。偽造も相撲も松野が醸し出す胡散臭いオーラの前には、なんの効力も発揮できなかった。バーリ・トゥードという磁場が一宮を狂わせたのか？　いや、それ以上に松野の胡散臭い存在感が抜きん出ていたのだ。

　しかし、これこそ、胡散臭さといかがわしさを併せ持つＤＥＥＰの真骨頂と言っていいだろう。田村VS美濃輪のような名勝負もいいのだが、やはりＤＥＥＰにはこんなホッとするいかがわしいものが必要なのだ。（小松）

# 今度は寝技で圧勝！ドスJrがどんどん強くなっていく!!

## 次の狙いは謙吾との決着戦「また病院送りだ！」（ドスJr）「ケンゴはピエロにすぎない」（ドス父）

▲VT2勝目を圧勝で飾って歓喜のドスJrは、コーナーからのバック宙も見せる。セコンドに付いたドス・カラス（父）も、Jr勝利の瞬間、なぜかヘッドスプリングでリングイン！

★第5試合（5分3R）
○ドス・カラスJr（1R4分05秒、裸絞め）中野巽耀●
＜メキシコ/AAA＞　＜日本/フリー＞

### ドス・カラス親子のコメント

**ドスJr**「非常に満足している。強い格闘家というのは、全てのテクニックを持たなければいけない。日本のファンはチリマが見たかったと思うが、今日は別のテクニックでいった。次に闘いたいのはケンゴ。これはリベンジじゃない。また病院送りにする」

**ドス父**「ケンゴはただのピエロにすぎない。マスクを被って、我々の闘う魂を笑いものにしたヤツだからな。ルチャドールは柔術よりも空手よりも相撲よりもボクシングよりも強いものだ」

### 中野のコメント

「物凄く悔しい。最初にオレがフロントチョークやった時、指引っ張ってんだアイツ。あのままやってたら極める自信はあった。最後のチョークはヤツも必死だったんだね。ノドが痛いもん、奥のほうが。あれでギブアップしてなかったら、アイツ2Rはバテてたと思う。まいったしてしまったんで、悔いが残るね」

▶大勢のマスクド・ガールズを引き連れて入場のドスJr陣営。曲はもちろん『スカイ・ハイ』！

▶中野は映画版『あしたのジョー2』の主題歌で入場。かつてのUWF＆Uインターファンにはグッとくるシーンだった

▶打撃の攻防になると、ドスJrはヒザ関節を狙った危険な蹴りを放つ。これもルチャの裏技か!?

▶テイクダウンしてパンチを浴びせ、相手がカメになったところへチョーク。セオリーどおりの攻めを見せたドスJr。一度は逃がしたものの、2度目のチョークへのトライでタップを奪った

▲序盤、差し合いからフロントチョークを狙った中野。ドスJrはうまく脱出したが、この時に「相手が指を掴んでいた」と中野は主張

しかし、考えてみたら凄い時代になったもんだ。あの中野とルチャの選手が闘うなんて、UWFやUインター時代ならファンに大ブーイングを食らったはず。それが今はすんなり受け入れられて、しかも大方の予想は〝ドスJr有利〟なんだから。

今回の試合へ向けて、ドスJrはマルコ・ファス道場で特訓を敢行、グラウンドなどVTの基礎をみっちりと体に染み込ませてきた。それだけVTに本腰を入れていこうという決意があるということだ。

そして、マルコに教わった成果は試合でもはっきりと表れた。中野を仕留めたのはスリーパー。足を差して相手の動きを殺すセオリーどおりの入り方だった。

バス・ルッテンは、ドスJrを評して「本気で練習したら世界最強になれる」と言ったとか。今のドスJrは、まさにその道を進みつつあるわけだ。試合ごとに強くなっていくのが分かる。

ただ、せっかくのルチャドールが、ただの真っ当な総合格闘家になってしまうのはどうなんだろうか？　いや、それも心配は無用。なんせあのドス親父がついている。

今回の試合後も、ドスJrが謙吾との決着戦を宣言すれば「ケンゴはピエロにすぎない」と火に油を注ぎ、ついでに「ルチャは柔術よりも空手よりも、相撲よりもボクシングよりも強いのだ」とルチャ最強をアピール。

なぜか闘っている息子より威勢がいい、この親父がいる限り、ドスJrがいくら〝正当派〟の強さを身に付けたところで、つまらなくなるってことだけはない。（橋本）

# 楽しいDEEPに殺伐とした緊張感！

## ファン同士も対抗意識ムキ出しの修斗VSパンクラスだったが……

# 三島が秒殺大勝利！

### 三島のコメント

「最高の形で勝てて嬉しいです。（試合は）ガムシャラにいったんで覚えてないです。何で投げたかも覚えてない。ホンマは作戦立てて緻密にいくんですけど、今回は祭りみたいな気持ちで。当たって、アカンかったら砕けるっていう。（伊藤のマイクは）あんなん言ってもらえたの初めてなんで嬉しかったです」

▲自ら望んで出場した修斗以外のリング。そこで完璧な勝利を収め、喜びを爆発させた三島。トップロープに登ってセコンドにボディアタックをしたり、リングサイドをウィニングランしたりと大はしゃぎだった

▶パンチ連打から組み付き、すかさず反り投げ。ゴング直後から飛ばしに飛ばした三島

▶テイクダウンするとパンチ、伊藤が起き上がろうとするとバックを取って……

「ここまで完璧にやられて『もう一回！』（伊藤）だって!?」

◀いいところなしの敗戦に、ロープを蹴とばしたりして怒りを露にした伊藤。三島がカメラに向かってポーズを取っている最中にもかかわらず「もう一回やってください！」とアピールした

▲ガッツポーズの三島。対照的に伊藤はうずくまったまま痛みと屈辱を噛み締める

◀最後は十字で決めた。瞬間的に伊藤のヒジが外れてしまったらしい

★第9試合（5分3R）
**○三島☆ド根性ノ助（1R0分53秒、腕ひしぎ十字固め）伊藤崇文●**
<総合格闘技道場コブラ会>　<パンクラスism>

試合の勝ち負けに入れ込むよりも「次は何が起こるのか？」とイベント全体を楽しむのがいつものDEEPという大会の雰囲気だった。だが、この三島VS伊藤戦ではガラッと空気が変化。修斗VSパンクラス。それぞれのファンが、対抗意識をムキ出しにした声援を送っていた。

しかし、勝負はあまりにあっけなくついた。三島が腕十字で勝利。それも、たったの53秒で。試合前日の会見でギラギラと闘志を燃やしていたのは伊藤のほうだったから、さぞかし無念だったろう。逆に三島のほうは、勝負であることは充分に意識しつつも、DEEPという外の大舞台にお祭り気分。「こんなに楽しんで試合できるのは、修斗ではないと思うんで」と取りようによっては問題発言じゃないのってことを言うくらい、ある意味呑気だったわけである。

それでも、雌雄はついたのだ。「もう一回！」という伊藤のマイクアピールは、はっきり言ってみっともなかった。観客もドン引き。思いっきりシラケていた。あれだけ完璧にやられて、なんでそんなことが言えるかね？「噛み合わない試合がしたい」と言っていた伊藤だが、終わってみれば観客との呼吸が一番噛み合わなかったんだから、プロレスラーとしてはシャレにならないが……。

「（伊藤のマイクは）あんなん言ってもらえたの初めてなんで嬉しかったです。根っからのプロレスラーですねぇ～」

……やっぱり三島の呑気さに救われた。実力的にもキャラ的にも、三島の完勝である。

（橋本）

# 滑川、和田良覚のカタキ討ち！

◀〈第3試合〉マウントの取り合い、殴り合いの激しい攻防は滑川康仁（フリー）が終始押し気味で試合を運ぶ。劣勢に立たされていたMAX宮沢（荒武者総合格闘術）だが、2Rには意地のバックドロップで会場を大いに沸かせた

▶最終3Rで差し合いからマウントを奪った滑川は左右のパンチを連打。嫌って立ち上がろうとした宮沢の首をロックし、そのままフロントチョークでタップを奪った（3R2分37秒）。6月の同大会で和田良覚レフェリーを負かした相手からの堂々の勝利。元リングス勢の絆は強し！

# ホーキ、雷暗暴を圧倒！

▶〈第4試合〉修斗から参戦の雷暗暴（フリー）は念願叶ってジョン・ホーキ（ノヴァ・ウニオン）と対戦。ホーキの素早いタックルで思うように試合を運べない雷暗。KOやタップを奪われるような場面はなかったものの、終始グラウンド状態で上からコツコツとパンチを浴びてしまい、判定負け（2－0）を喫してしまった

# ゴージャスな試合の後には秒殺劇あり！まさにDEEP！

▲〈第2試合〉試合開始と同時に勢いよく飛び出した長南亮（U－FILE）がシャイニングウィザードさながらの飛びヒザ蹴りを繰り出すと、臼田勝美（バトラーツ）の顔面にクリーンヒット！ 思わず倒れ込んだ臼田に上からパンチの連打を浴びせて速攻勝利。タイムはなんと1R5秒!

▶この日の観衆は主催者発表で8501人。もちろんDEEP史上最高の入場者数となった

## 佐伯繁代表の総括

「凄いいい試合が続きましたね。内容的にも良かったし、お客さんも過去最高で。（ベストバウトは？）1試合ですか？難しいな～。いや、メインでしょうね。でも上山選手も良かったし、髙阪選手も凄い良かったし。メインは美濃輪さんの持ち味も出たし、切り返し切り返しで。田村さんも“どこまで殴ればいいんだ？”っていうんでね。ちょっとカーッとなったんじゃないですか。これで美濃輪選手が落ちたとは思わないし、髙阪選手も落ちてないでしょう。一宮選手にもまた出てもらいます。負けたからもうないんじゃなくて、また次。エンターテインメント的には良かったですからね。（観客の）入りは予想どおり。超満員にしたかったですけどね。でも大切なのは続けること。続けることで信用も得られるし。様子見ながら続けてって、他（の団体）がヤバいなって時にウチがスッと（笑）。今日のイベントを採点すると70点ですかね。初めての会場で、ちょっと細かい部分で段取りが悪かったかなと。モニターつけりゃよかったかな、とか。（毎回、大会後は胃が痛いと言ってましたが？）今回は意外と落ち着いて見れましたね。胃薬、先に2本飲んどきました（笑）」

# 総評◎ターザン山本

▶『Dynamite！』に続いての晴れ舞台！ ドス・カラスJrVS中野戦で勝利者賞トロフィーのプレゼンターを務めたターザン

　最後に〝あの手〟があったとは、まったく予想もしていなかった。まさに〝やられた〟という感じである。それは何かといったら田村選手が、判定で美濃輪選手を破った直後、有明コロシアムに流れてきたメロディは、あの〝ＵＷＦのテーマ曲〟だったことである。

　『ＤＥＥＰ２００１』の関係者は始めからそれを計算してあれをやったのだろうか？　もし、美濃輪選手が勝っていたら、Ｕのテーマ曲は流せないし……。

　９・７ＤＥＥＰの有明コロシアム大会の一番のハイライトは、私的にはあそこにあったような気がする。後で佐伯代表に聞いてみたら彼の一存でやったことが判明した。試合のＭＶＰは断然、ギルソン・フェレイラを破った上山選手だが、興行のＭＶＰはＵのテーマ曲をフィナーレに流した佐伯代表に尽きる。

　「終わり良ければ全て良し」という諺がある。私なんかＵのテーマ曲を聞いただけで大満足してしまった。やはりどんな興行も「終わりはよろしいようで……」にならないとだめだ。

　あのメロディを耳にした瞬間、美濃輪選手が負けたことのネガティブな面が全て消えた。これは一種の魔力である。

　記憶を支えにしてきたプロレスファン（ＵＷＦのファン）にとっては、まさしく砂漠の中でオアシスを見つけた気分になったはずである。Ｕのテーマ曲が我々の乾きかけていた記憶を、一気にうるおしてくれた喜びとでもいうか。

　田村選手は会場にＵのテーマ曲がかかった時、一瞬「あれ？」といった感じでムッとした表情を見せたが、べつに怒っていたわけではなかった。それは佐伯代表が後で田村選手に確認をとって分かったことである。

　それにしてもこの日、メインに登場した田村選手は、どこまでいっても田村選手そのものだった。観客的には一本勝ちできる状況にあったのに、それができなかった田村選手に対して不満を持った人は、意外に多いようだ。

　しかしあそこで決めずに判定に持っていくところが、いかにも田村的。憎いというか、憎たらしいというか、久しぶりに私は、田村選手を〝見た〟という気持ちになっていた。この人は『プライド』やバーリ・トゥードは似合わない。

## DEEP・イン・カバープロレスの誕生に乾杯しよう！

　ああいう〝白黒〟をはっきりさせる世界は、彼の感性に合っていないのだ。だからヴァンダレイ・シウバとボブ・サップとの２敗は、あれはあれで「しょうがない」と思うしかないのだ。

　その点、美濃輪選手との一戦は久しぶりに田村選手の〝本領発揮〟となった。判定のほうが明確に決着をつけた試合よりも上にあるという価値観。これは実を言うと非常にプロレス的なのだ。

　今、時代はギブアップ勝ち、ノックアウト勝ちなど、勝負の結果がはっきり見えた試合をファンが求めている時代。

　こうなるとプロレスは苦しくなる。プロレスはたとえ最後はスリーカウントを取られて負けたとしても、その結果が全てとはならない。それもまた〝判定勝ち〟といった側面がある。

　なぜなら試合の判定をしているのはプロレスでは、観客であったりファンであったりするからだ。そのファンが下す判定は人によってまるで違う。

　しかも判定の基準となるものは、勝敗だけではない。そこには巧さとか試合運びとかインパクトとか、いろんな要素をからめて〝判定〟しているのだ。

　つまりプロレスファンは試合やレスラーの能力を〝判定〟はしても、どっちが勝ちということはしない。勝者も敗者も平等に評価しようとする。

　それでもあえて仮に勝敗をつけるとしたら〝格〟を判定基準にする。田村選手と美濃輪選手の試合は、３対０の判定になったがそれは強さを示すよりも、格の違いを見せた試合になった。

　もう、全てがプロレス的ではないか……。それが田村選手の世界なのだ。試合の判定は観客にまかせる。美濃輪選手との試合は、決めそうで決まらなかったので、私もイライラし、じれったい気分になったがあれでいいのだ。

　こうして９・７ＤＥＥＰ有明決戦は田村選手が、おいしいところを一人で取ってしまった大会となった。あのＵのテーマ曲を聞いた時、美濃輪選手、三島☆ド根性選手、上山選手などは何を思ったのだろうか？　そこに興味ある。

　その答えは一言で言える。これは私の個人的な感想のことでもあるが、この日の興行は「ＤＥＥＰ・イン・カバープロレス」だった。最近、椎名林檎などが古い昔の曲を歌った〝カバー曲〟が、ファンの間でヒットしている。

　あれと同じだ。ＤＥＥＰ２００１の興行で、ＵＷＦの世界が思わずカバーされたのだ。だからといってＤＥＥＰ２００１は、決して後退したわけではない。むしろ私は生き返ったとさえ思っている。カバープロレスの誕生に乾杯だ！　■

▲メイン終了後、田村のテーマ曲が流れ、それがフェイドアウトすると『UWFメインテーマ』に！ 感動的なフィナーレだった

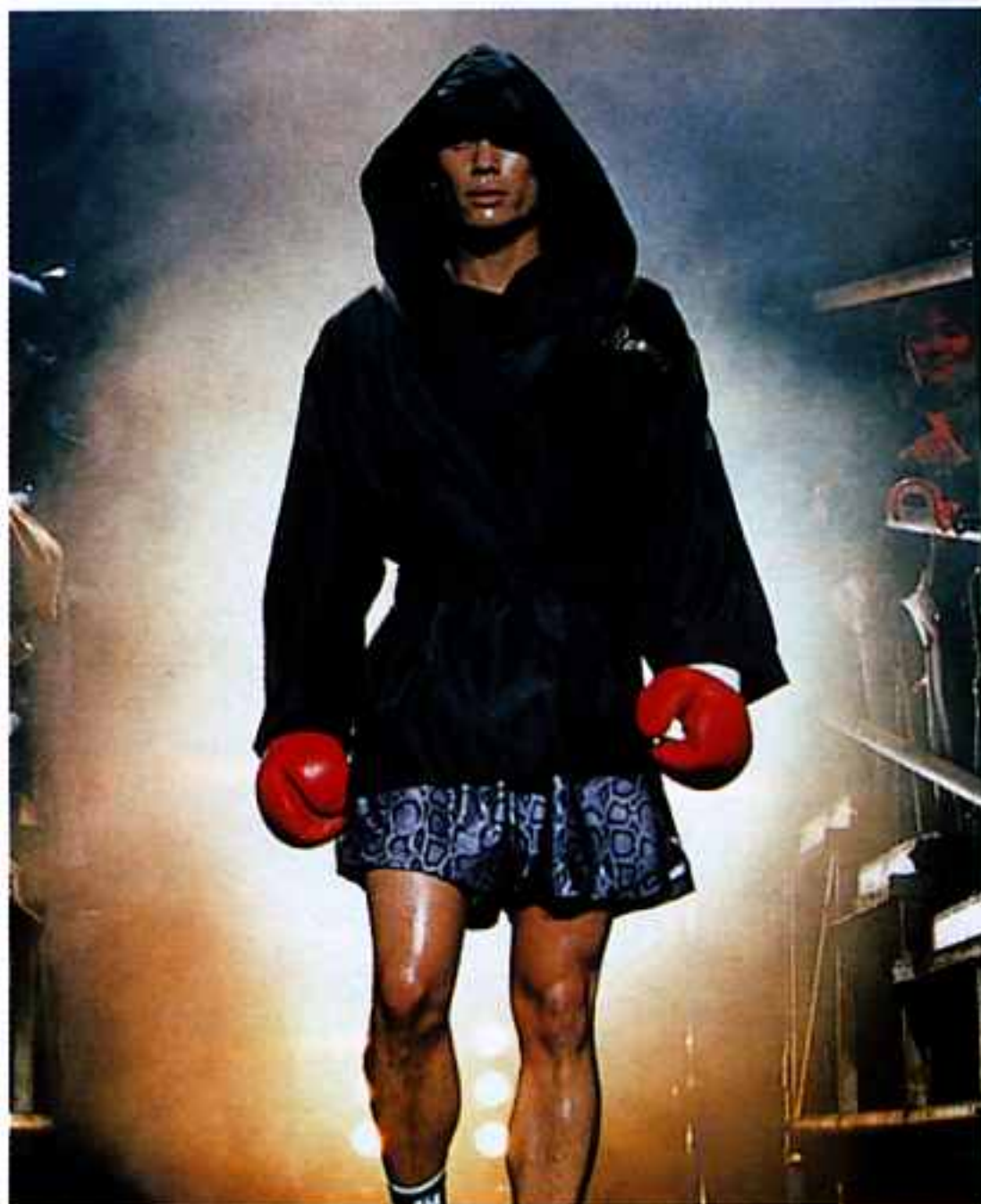
新日本キック
# RIKI ONODERA GREATEST HITS!
9.16★SHIBUYA-AX

# やっぱり、この男は光る。輝く。小野寺力、鮮やかにカムバック

## 『グレーテスト・ヒッツ』とまではいかなかったけど、14カ月ぶりのリングでダウンを奪って判定勝ち

### 小野寺のコメント

「1年2カ月ぶりの試合ということで、不安はありました。それに今回は興行の仕切りまで全部自分でやって、選手としてではない苦労も実感しました。試合そのものにはそんなに満足はできないけど、自分が勝つことで興行は成功すると思っていたから、今は嬉しいというより、ホッとしています。拳も傷めなくて、良かったです」

▶企画、広報と全て自身で手掛けた今回のカムバック興行。でも、小野寺には闘う姿が一番似合っている

▶セミファイナルに登場した石井宏樹も、鮮やかな勝利。オーストラリアのアダム・ホーラハンを鋭い攻撃で切り刻み、最後は右ストレート一撃。2RでKOに仕留めた

撮影◎中島ミノル

強烈な左フック。14カ月ぶりでも、やっぱり小野寺のパンチは魅力的。もっとも、この日は傷めた拳の不安からか、顔面へは思い切り打っていたわけではないが

★第8試合/メインイベント（3分5R）
○小野寺力（5R判定3-0）ラタナサック・サックタウィー●
〈藤本ジム〉 〈タイ〉
※採点…50-47、50-46、50-45。ラタナサックは3Rにパンチ連打でダウン

▲多彩なキックでラタナサックを攻めつける。3R、このバックキック2連発で、ダウンへと結びつけた

▲ラタナサックが時折見せる反撃のカウンターも怖い。一瞬、小野寺の体が浮き上がるこんなシーンも

この切れ味だ。スピードと攻撃のテンポの心地良さである。初めてキックボクシングの会場として使われる、渋谷のライブハウスで、久方ぶりに思い出した。小野寺力はやはり魅惑のキックボクサーである。

拳を傷めていた。これが14カ月ぶりの試合になる。それもハードパンチャーの宿命とも言えるが、小野寺本人は不安いっぱいだったはずだ。しかも、今回は最初から興行の企画から自分自身で手掛けた。「常打ち小屋の後楽園ホールにない、新しい魅力を打ち出したい」と、これまで使われたことのない会場を見つけ出し、広報の仕切りから全部やった。そして「自分が勝つこと」で、この興行は大団円を迎えると、自らにハードルを課していたという。

筋書きどおりにことを進めるために、弱い相手を選んだわけではない。ラタナサックは一撃カウンターを狙うタフガイだった。だが、小野寺は圧倒する。圧巻は3Rだ。左ボディブローから、すかさず左アッパーをアゴへ。棒立ちになったところに、バックキックを2発ストマックに決め、さらに連打でダウンを奪った。

拳をかばい、顔面へのパンチは手加減したせいもあってか、結局、倒しきれずに終わった。だから、興行タイトルの『グレーテスト・ヒッツ』とまでは言えないかもしれないが、小野寺力の魅力にまたとりつかれそうな夜だったのだ。

（宮崎）

SRS
SPECIAL RING SIDE

番組インフォメーション

# 10/4の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によって放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは9月18日現在のものです。都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

**注意！ 9月27日のSRSはお休みさせていただきます。くれぐれもご注意ください。**

10/4

今年はどんなドラマが待っているのか！

## 10・5『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』直前情報を大特集！

10月4日（金）25:45～26:15

こんなにも1年の流れが早いとは！　今年のK-1は、『プライド』との対抗戦や世界地区予選などがあり、激動の1年でした。そしていよいよ大詰めを迎える『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』は10月5日（土）さいたまスーパーアリーナにて開催されます。マーク・ハント、ジェロム・レ・バンナ、ミルコ・クロコップ……などなど、今年のK-1で活躍したトップファイター14人が雌雄を決します！　やっぱ、このイベントは見ないとね。そして決勝戦にも行かないと1年終わらないっす。ということで、今回は開幕戦の事前取材をガッツリ組んでいきますよ。出場選手の近況や浅草キッドの予想など、余すことなくお送りします。12月7日（土）東京ドームで行われる決勝戦に駒を進めるのは果たして誰だ！

▲ジェロム・レ・バンナVSゲーリー・グッドリッジ戦は期待大！

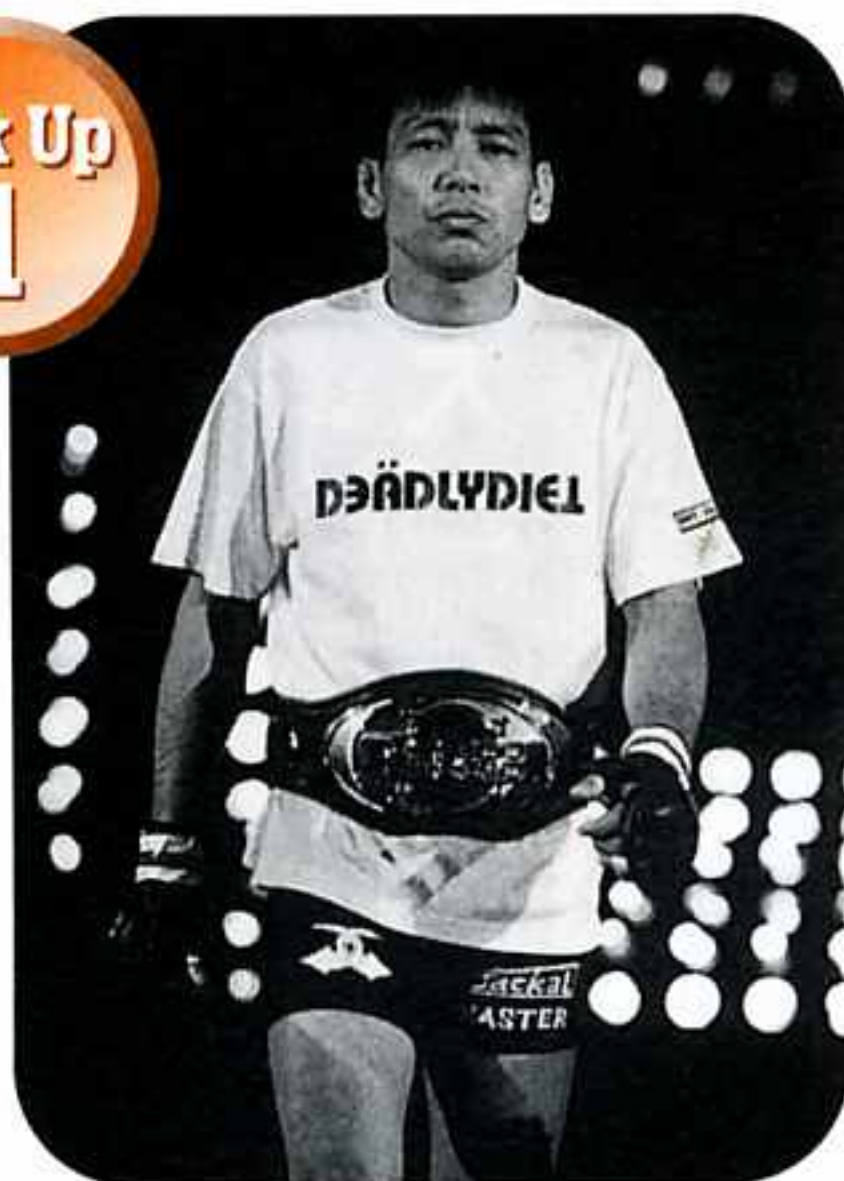
**必見**
9/29（日）24:55～25:55　8・31～9・1『極真ワールドカップ ブラジル大会』　10/5（土）14:00～15:30
9・29『PRIDE.22』　10/5（土）19:00～20:54（延長あり、最大15分）10・5『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』

**フジテレビ系列の番組から**
◎CS739
10/5（土）17:00～21:30　『10・5 K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』（生中継 時間変更の場合あり）

**SRSホームページのアドレスはこちら　http://www.fujitv.co.jp/**

## TV

| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 9/26（木） | FIGHTING TV SAMURAI! | プライド侍 | 14：00～16：00 | 月1回放送の『プライド』情報満載の話題のバラエティ番組 |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送9/27・21：30～、28・17：30～、29・12：00～、30・17：30～、10/1・9：00～ |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 18：30～19：00 | 『週刊闘龍JAM』『info@闘龍門』などGAORAのプロレス・格闘技の情報が満載。30分と15分の2バージョンあり。再放送9/27・14：45～15：00と19：00～19：30、28・9：30～9:45、29・12：30～13：00、30・17：00～17：30 |
| | GAORA | LADY GO! 女子ボクシング | 19：00～20：00 | 9.7『FIGHTING GIRLS PT3』ディファ有明大会。再放送9/28・25：00～、5・6：00～ |
| | Jスカイスポーツ2 | プロフェッショナル修斗 | 19：00～22：00 | ➲Pick Up1 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | PRIDE特集として28日まで『PRIDE.22』情報を連日放送。同日再放送24：30～ |
| 9/27（金） | GAORA | 全日本キックボクシング | 19：30～21：30 | 9.6に東京・後楽園ホールで開催された『Golden Trigger』を放送。小林聡vsサムゴー・ギャットモンテープ戦ほか。再放送9/29・23：30～、10/5・26：00～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | 9/26を参照。同日再放送24：30～ |
| | BSフジ | PRIDE REVIVAL | 23：00～24：00 | スポーツ・アイESPNの『PRIDE REVIVAL』と同内容。『PRIDE.2』② |
| | フジテレビ | SRS | 26：15～26：45 | お休み |
| | GAORA | WOLF REVOLUTION ～resurrection～ | 28：00～翌6：00 | 8.6に東京・ヴェルファーレで開催された同大会を放送。魔裟斗vsメルヴィン・マーリー戦ほか |
| 9/28（土） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 9：00～11：00 | ➲Pick Up2 |
| | スポーツ・アイESPN | PRIDE REVIVAL | 13：00～16：00 | これまでの『PEIDE』シリーズを毎月1大会ずつ放送。『PRIDE.3』①～③ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 13：30～14：00 | 東海テレビ『PRIDE王』と同内容 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 船木が語るパンクラスストーリー | 14：00～16：00 | 内容未定 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20：30～21：00 | 上記を参照。再放送9/29・4：30～、30・8：30～と18：00～、10/3・17：00～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | 9/26を参照。同日再放送24：30～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | 内容未定 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25：40～26：40 | 内容未定 |
| | GAORA | K-2カラテエクストリーム | 26：00～28：00 | 8.11『第10回新空手道千葉大会』 |
| 9/29（日） | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15：00～17：25 | 9.6石川県産業展示館大会 |
| | WOWOW（191ch） | UFC-究極格闘技- | 16：00～18：00 | 9.27に米国コネチカット州で開催された『UFC39』を放送。ランディー・クートゥアーvsリコ・ロドリゲスほか |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 『ch.01』 | 19：00～20：30<br>26：00～27：30 | 橋本真也率いるZERO-ONEによるちょっぴりムチャなバラエティ番組。再放送10/1・18：00～、4・13：00～、5・8：00～ |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | 魔裟斗が出演するバラエティ番組 |
| | BS朝日 | 女子ボクシング | 22：00～23：00 | 9.7『FIGHTING GIRLS PT3』ディファ有明大会 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 25：25～25：55 | 9.23日本武道館大会　GHCヘビー級選手権試合 |
| 9/30（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18：30～19：00 | 9/28を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 23：00～24：00<br>27：00～28：00 | 海外で行われた修斗の大会を放送。内容未定。再放送10/3・14：00～、6・9：00～ |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 25：30～26：00 | 内容未定 |
| 10/1（火） | スカイA | 格闘Xパンクラス | 20：00～22：00 | パンクラス特別セレクションPart-3 |
| | TBSテレビ | サイボーグ魂 | 23：55～24：30 | これまでの『闘魂筋肉』が『サイボーグ魂』と番組名を変更。放送日・放送時間も変わり、MCもダウンタウンの松本人志が務める |
| | 東海テレビ | PRIDE王 | 24：40～25：10 | 『THE BEST 3』特別企画 |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26：35～27：05 | 毎年9月に開催されてきた大会をピックアップして振り返る特別企画 |
| 10/2（水） | スカイA | 格闘Xパンクラス | 22：00～22：30 | 内容未定。再放送10/4・22：00～ |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| 10/3（木） | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 9/26を参照。再放送10/4・21：30～、5・17：30～、6・12：00～、8・9：00～ |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 21：30～22：00 | 9/26を参照。再放送10/4・14：45～15：00と19：00～19：30、5・9：30～9:45、6・13：30～13：58、8・18：00～18：15 |
| 10/4（金） | Jスカイスポーツ1 | プロフェッショナル修斗 | 19：00～22：00 | 9/26のJスカイスポーツ2と同内容。再放送10/6・13：00～、8・19：00～ |
| | スカイA | ワールドプロレスリング　不滅の闘魂伝説 | 20：00～22：00 | 1970年代以降の新日本プロレス格闘技全盛期を振り返る新番組。1973.8.24ジョニー・パワーズ&パット・パターソンvs坂口征二&アントニオ猪木戦ほか |
| | スポーツ・アイESPN | PRIDE REVIVAL | 22：00～23：00 | 9/28を参照。『PRIDE.4』①。再放送10/9・25：00～ |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 22：30～24：30 | 9.29横浜文化体育館大会 |
| | BSフジ | PRIDE REVIVAL | 23：00～24：00 | 9/27を参照。『PRIDE.2』③。再放送10/11・23：00～ |
| | Jスカイスポーツ3 | SHOOT 3/60 | 25：00～26：00 | 15分のショートドキュメンタリー3本で構成する“60分3本勝負”の格闘技専門スポーツドキュメンタリー番組。再放送10/9・15：00～ |
| | フジテレビ | SRS | 26：15～26：45 | ➲P69 |
| 10/5（土） | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス スペシャル | 16：00～17：15 | ➲Pick Up3 |
| | CSテレビ朝日サービス | スポーツアイ | 19：00～20：00 | 9.7『FIGHTING GIRLS PT3』ディファ有明大会 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 22：30～23：00 | 9/28を参照。再放送10/6・8：30～、7・14：00～、10・17：00～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | 10/2のテレビ東京と同内容 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25：40～26：40 | 内容未定 |
| 10/6（日） | FIGHTING TV SAMURAI! | 『DEEP 2001 6th IMPACT』 | 19：00～21：00 | 9.7に東京・ディファ有明で開催の『DEEP 2001 6th IMPACT in ARIAKE COLOSEEUIM』大会。再放送10/8・18：00～、 |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | 9/29を参照 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24：55～25：25 | 9.23日本武道館大会　GHCタッグ選手権試合、IWGPジュニアタッグ選手権試合（内容変更あり） |
| | Jスカイスポーツ3 | シュートボクシング2002 | 25：00～27：00 | 9.22後楽園ホール大会。再放送10/7・26：00～、8・15：00～ |

# ON THE AIR 9/26～10/10
## 格闘技番組ガイド　TV&RADIO

### Pick Up 1
『プロフェッショナル修斗』
Jスカイスポーツ2
9月26日（木）/19:00～22:00

9月16日に行われた横浜文化体育館大会の模様を3時間にわたってオンエアー。今大会にはなんと2名の柔術世界チャンピオンが出場！ VTJ99で中井祐樹と柔術ルールで対戦し、勝利を収めたビトー“シャリオン”ヒベイロは鶴屋浩と対決。また柔術世界選手権5連覇のホビソン・モウラはバンタム級に転向したマモルと対戦した。メインイベントのフェザー級タイトルマッチの大石真丈VS池田久雄の一戦も見逃せないぞ！

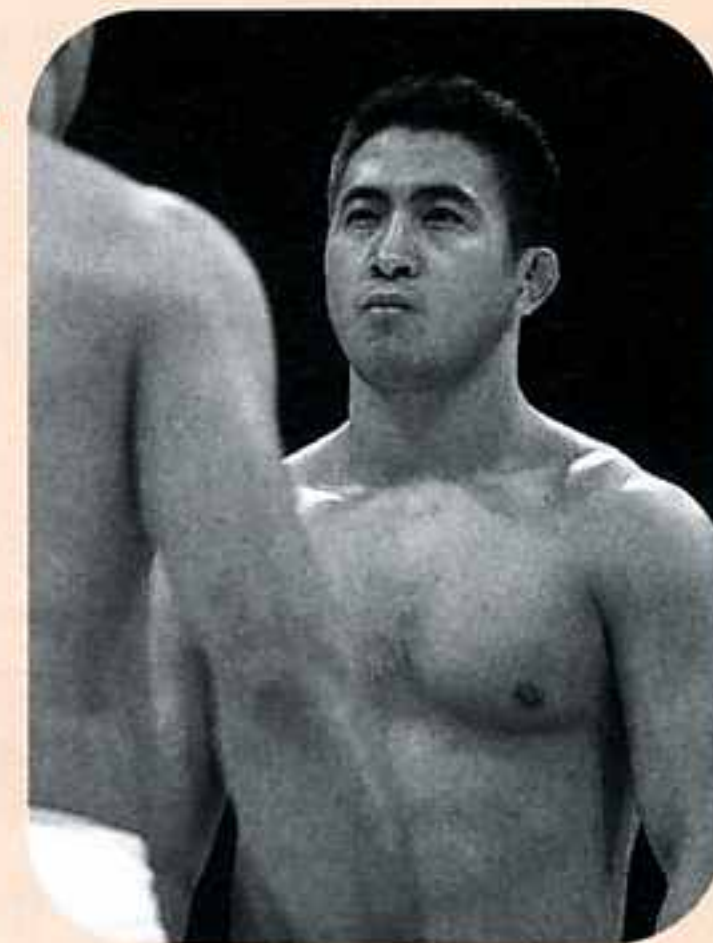
### Pick Up 2
『バトルステーション』
FIGHTING TV SAMURAI!
9月28日（土）/9:00～11:00

『バトルステーション』では、9月8日に後楽園ホールで開催されたニュージャパンキック連盟『DREAM RUSH 6』の模様を放送。今大会のダブルメイン、NKB統一トーナメントフェザー級王座決定戦の桜井洋平vsTURBO戦、同トーナメントライト級王座決定戦の笛吹丈太郎vsAVIS-SV01戦は見逃せない。その他にも調子を上げてきている立嶋篤史対“小国ジムからの第3の刺客”孫悟空丸山の一戦にも大注目！

### Pick Up 3
『格闘Xパンクラス スペシャル』
テレビ東京
10月5日（土）/16:00～17:15

船木誠勝を解説者に迎えて9月29日『PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR』横浜文化体育館大会の模様を中心に、過去の試合や選手のインタビューなどを交えつつ『パンクラスとはいったいどういう格闘技なのか』を検証していくスペシャル版！ カードもウェルター級タイトルマッチとして行われる國奥麒樹真(パンクラスism)VS長岡弘樹（ロデオスタイル）戦や快進撃を見せる謙吾vsロン・ウォーターマン戦など盛りだくさん！

### 『PRIDE.22』
### SKY PerfecTV! LIVE SPECIAL
Ch.114、117、121、122
パーフェクトチョイス

※15:30より事前カウントダウン番組（ノースクランブル放送）あり
再放送
Ch.114 9月29日（日）、10月2日（水）20:30～ /9月30日（月）19:30～ /10月4日（金）21:00～
Ch.121 10月3日（木）21:00～ /10月5日（土）18:00～
Ch.122 10月1日（火）21:00～ /10月6日（日）13:00～

▲初のメインを飾る大山峻護に期待！

## TV

| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 10/7（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 23：00～24：00<br>27：00～28：00 | 9/30を参照。内容未定。再放送10/10・14：00～ |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 25：30～26：00 | 内容未定 |
| 10/8（火） | TBSテレビ | サイボーグ魂 | 23：55～24：30 | 10/1を参照。内容未定 |
| | 東海テレビ | PRIDE王 | 24：40～25：10 | 『PRIDE.22』試合結果 |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26：35～27：05 | DEEP佐伯代表インタビュー |
| 10/9（水） | スカイA | 格闘Xパンクラス | 23：30～24：00 | 内容未定 |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| 10/10（木） | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 9/26を参照 |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 21：30～22：00 | 9/26を参照 |
| | スカイA | ワールドプロレスリング　不滅の闘魂伝説 | 22：00～24：00 | 10/4を参照。1974.4.26坂口征二vsアントニオ猪木戦ほか |

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888
（10：00～20：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
（月～金10：00～18：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00　土日祝除く）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

■スポーツ・アイ-ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
（16：00～21：00）

■Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（月～金10：00～18：00）

# BOOK
話題の本&新刊情報

## 〈新刊紹介❶〉 It's HOT!

### 『ターザン山本のプロレス社長の馬鹿力 〜十人十色のインディー経営哲学〜』

ターザン山本著/エンターブレイン
本体価格 1,600円/発売中

**プロレス団体経営者の生の声10連発!**

昨今のプロレス界は他団体化、K-1や『プライド』などの格闘技の盛り上がりで、新日本や全日本などのメジャー団体といえども苦境のさなかだ。そのような状況下インディー団体の社長たちは生き残りをかけて、今後のマット界をどのように捉え、どのように発展させていきたいと考えているのか。我々には想像もつかないような発想とバイタリティで踏ん張るプロレス社長の経営哲学は、この不況時代、活気のないニッポン経済を乗り切るためのヒントが満載だ。莫大な借金を抱えながらも経費を抑え踏み止まっている社長や、これまでにない新たなプロレス経営手法を編み出した社長。アイディア勝負で生き残っている社長など現場の生の声がギッシリだ！ みなぎるパワーには、ただただ脱帽するばかりだ!

## 〈おすすめの一冊❶〉 Recommend

### 『大山倍達、世界制覇の道』

大山倍達著/角川書店
本体価格 438円/発売中

**ただひたすら空手に人生を捧げた男の実録記が文庫で登場!**

この本には、今まで語られることのなかった故・大山倍達総裁自身の勝負の中で垣間見た"闘う者の人生"が記してある。単に強さを語るだけでなく、強くなるための修練も、強さを維持することの峻烈さも、強さに溺れぬための心の在り方も、さらには強さ故に持つ懊悩も、全てこの一冊にまとめられている。興味深いのは、日本プロレス界の王者力道山が、アメリカで初めて黒星を付けられた"赤サソリ"ことタム・ライスとの一戦だ。試合が行われるまでの経緯や、試合中の心情などが克明に記述されており、大山倍達の魅力が存分に感じ取れる内容になっている！

## 〈おすすめの一冊❷〉 Recommend

### 『わが夫、大山倍達』

大山智弥子著/角川書店
本体価格 552円/発売中

**『地上最強の内助の功』が語る50年の夫婦愛！**

『地上最強の空手』極真空手総裁・大山倍達を陰から支え続けた大山智弥子夫人。「私がどんなに君のことを愛していたかは、私が死ぬまで分かってくれないだろうな……」。二人の間で交わされた言葉の数々から伝わってくる、人間・大山倍達の真の姿。その出会いから別れまでの50年間を綴った、感動の愛の物語が、文庫本になって初登場！ 大山総裁のプロポーズ秘話も大公開している。「僕たちはどんなに話をしても、全然足りないね。そうだ、面倒だからずっと一緒にいようか」というロマンチックな言葉に智弥子夫人はいったいどんな返事をしたのだろうか？ 前田日明とのスペシャル対談も完全収録。

## PRESENT!［プレゼント］

今回このコーナーで紹介した『ターザン山本のプロレス社長の馬鹿力』を抽選で、本誌読者5名にプレゼントするぞ。希望者はハガキに住所、氏名、年齢、職業、電話番号、希望する本のタイトルと今号の感想を明記した上、下記のあて先までご応募を。締め切りは10月9日（水）の消印有効。
◆あて先/〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX編集部 『読書の秋、格闘技の秋』係

## BOOK RANKING (9/1〜9/15調べ)

1. 『大山倍達、世界制覇の道』 大山倍達著/角川書店 本体価格 438円
2. 『帰ってきたぼく。』 桜庭和志著/東邦出版 本体価格 1,400円
2. 『はみだし空手から空道へ』 東孝著/福昌堂 本体価格 1,600円
4. 『攻める。』 吉田秀彦著/河出書房新社 本体価格1,500円
5. 『わが夫、大山倍達』 大山智弥子著/角川書店 本体価格552円

### 2位 『帰ってきたぼく。』

前回大好評だった桜庭本の第2弾が早くも登場！ 伝説のホイス戦からミルコ戦が決まった経緯までの裏話を余すことなく公開しているぞ。今まで語られることのなかった桜庭の本音がギッチリだ。（オリジナルステッカー付）

## 書泉ブックタワー

**東京都千代田区神田佐久間1-11-1**
**℡03-5296-0051（代）**

▲プロレス・格闘技の本を探すならここ、『書泉ブックタワー』！ 本誌のバックナンバーも常備しているので、探している本があったら秋葉原の書泉へＧＯ！

**書泉ブックタワー 後藤 実副主任**

「今回のランキングは、8月28日に国立競技場で行われた『Dynamite!』で注目を集めた桜庭和志選手や吉田秀彦選手の自伝書が人気を博しています。その他にも大山倍達先生に関連する本がランクインしています」

※表示価格は全て税別価格

# GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介！

## 〈新作紹介〉 It's HOT!

『ミノタウロTシャツ』&『アローナTシャツ』
ビタミン&ミネラル /各3,500円（税別）
ミノタウロ、アローナTシャツに新色登場！

8・28 国立競技場で行われた『Dynamite!』ではボブ・サップ相手に劇的な逆転勝利を収めたアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラと、これから『プライド』などでの活躍がますます期待されるヒカルド・アローナのTシャツに新色ブルーが登場しました。サイズはミノタウロTシャツS、M、L、LL/アローナTシャツ S、M、L

## 〈おすすめグッズ❶〉 Recommend

『CKW-7 パンチンググローブ』
イサミ/3,000円（税別）
パンチンググローブがお手頃価格で発売中！

この商品は手首の部分をマジックテープで一周巻きするので、手首をガッチリと固定できます。しかも本皮製なので耐久性もバッチリ！ （サイズ S-女性用、M-男性用M、L-男性用L）

## 〈おすすめグッズ❷〉 Recommend

『ウーシューEX』&『ウーシューSL』
アシックス/EX 12,000円・SL 8,000円（税別）
太極拳のブームが静かに到来！

健康のために太極拳を習う人が年々増えています。ウーシューEXは天然皮製でスムーズな動きができ、ソフトで軽い履き心地です。ウーシューSLはトレーニングから試合まで使用できるポピュラーなモデルです。各シューズとも幅広い年齢の方々に売れています。（サイズ 22・0〜28・0cm）

**東京イサミ**
前田道範 店長

「今回、お店で取り扱っているATAMA製やコーラル製の柔術衣を一部値下げしました。11月にはブラジリアン柔術全日本オープントーナメントも開催されるので、ぜひこの機会にご購入してください」

**東京イサミ**
東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
☎03-3352-4083
HPアドレス http://www.isami.co.jp/
営業時間/11:00〜19:00（火曜、祝日定休）

# Et cetra

## 高田道場でサブミッションレスリング大会開催！

10月13日（日）に高田道場で『第6回高田道場サブミッションレスリング大会』が開催される。格闘技歴が1年以上で、健康な男子を大募集！
◆日時/10月13日（日）受付・計量13:00　開始・14:00
◆場所/高田道場（品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山/東急目黒線武蔵小山駅下車・徒歩3分）
◆参加資格
○高校生以上の頭部に障害、感染症のない健康な男子
○格闘技歴1年以上の人
○週2回以上練習している人
○格闘技歴をきちんと明記している人
◆参加費/登録料（初回のみ）1,000円
一般・外部道場生1,500円/高田道場生1,000円
◆申し込み・問い合わせ/（株）高田道場・〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　☎03-5749-5030

## アマチュア・コンプリート・ファイティング大会のお知らせ！

10月13日（日）に『第22回アマチュア・コンプリート・ファイティング・トーナメント』が名古屋で開催される。本大会の特筆すべき点はDEEP2001の本戦出場の選考会も兼ねており、優勝者にはプロへの道が開かれること。腕っぷしに自信のある人は即申し込め！
◆日時/10月13日（日）9:00～　計量・ドクターチェック
10:30　試合開始
◆会場/愛知県武道館・柔道場（愛知県名古屋市港区丸池町1-1-4）
◆主催/CFC（コンプリート・ファイティング・コミッション）
◆ルール/グラウンドの攻撃も認めたCFルールで行う。階級はフェザー級（60kg以下）、ライト級（70kg以下）、ミドル級（80kg以下）、クルーザー級（90kg以下）、ヘビー級（90kg超）の5段階で、スーパーセーフ面、道衣、オープンフィンガーグローブ、ファールカップを着用義務とする。
◆参加資格/18歳以上の健康なアマチュアの男子
◆参加費/5,000円
◆申し込み/電話にて要項を取り寄せ、現金書留でCFC事務局まで10月1日（火）必着で申し込むこと。
◆問い合わせ/C.F.C事務局　〒444-0835 愛知県岡崎市城南町3-2-26 ☎0564-55-9070（16:00まで）　☎0120-00-4524（17:00以降）

## ブラジリアン柔術オープントーナメント開催！

ブラジリアン柔術全日本オープントーナメント『カンペオナート・ジャポネーズ・デ・ジュウジュツ』が11月2日（土）より開催される。階級によって開催日が異なるので、詳しくは下記に問い合わせすること。
◆開催日時/11月2日（土）、3日（日）、4日（月・祝）、9日（土）、10日（日）、17日（日）
◆会場/台東リバーサイドスポーツセンター3F・第1武道場（地下鉄銀座線、都営浅草線、東武伊勢崎線浅草駅徒歩10分）
◆出場資格・人数制限
○健康で感染症のない男女（未成年者は保護者のサインが必要）
○所属による制限、また各道場の人数制限等なし。
○帯は基本的に自己申告とする。上の帯の選手が下の帯にエントリーすることは不可だが、下の帯の選手が1つ上の帯にエントリーすることは可能。
○出場申し込み者が多数集まった場合は、会場使用時間の関係上、先着順または書類選考により出場選考を制限する場合がある。
○申し込まれた階級の応募が1名の場合は、電話連絡などで他のカテゴリーへの変更や不出場の意志確認をする。
◆応募方法/申込書に必要事項を記入し、写真貼付、参加費を同封の上、現金書留でパレストラ東京まで申し込むこと。
◆締め切り日/10月15日（火）必着
◆観戦方法/全ての試合は入場無料で観戦できる。ただし参加選手過多の場合、観客の入場を断る場合がある。
◆問い合わせ・申し込み先/パレストラ東京　☎03-5984-3209　〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101

## 前田憲作が代表を務める道場オープン！

10月11日（金）、有明コロシアムで行われる「K-1 WORLD MAX～世界王者対抗戦～」で引退試合を行うことが決定したチーム・ドラゴンの前田憲作が代表の道場『龍道場』が11月1日（金）オープン。キックボクシングをはじめ、空手や柔術、ボクササイズなども学べる。10月21日よりプレオープンし、しかも無料体験できるので、気軽に足を運んでみよう！
◆名称/『龍道場』正道会館町田支部
◆コース/キックボクシング、正道空手、柔術、ボクササイズ
◆会費/入会費・10,000円　月会費・大人9,000円　子供5,000円
◆問い合わせ・連絡先/東京都町田市森野2-27-13 東照ビル1F ☎042-726-7515

## BCGで正道会館・麻布空手教室開講！

アントニオ猪木&石井館長推薦ジム・BCGでは9月より正道会館の空手教室を開講している。指導員はK-1ジャッジでおなじみの黒住辰哉が務める。正道空手で本当の『強さ』を追求しよう！　その他BCGでは豪華な指導員が指導してくれている。キックボクシングは前田憲作（チーム・ドラゴン）大森敏範（K-1）、レスリングは三宅靖志（オリンピック代表）空手は正道会館、総合格闘技はアレクサンダー大塚（『プライド』）など。見学も自由なので、お気軽にいらっしゃい！
◆正道会館・麻布教室の料金
○正道会館のみ会員の方/管理料および登録料5,000円
月会費/一般7,000円　女性・学生6,000円　幼・少年5,000円
○BCG・正道会館W会員の方/管理料および登録料13,000円
月会費/VIP20,000円　一般15,000円　女性・学生12,000円
○BCG・正道会館W少年会員の方/管理料および登録料8,000円　月会費/10,000円
◆問い合わせ/BCG ☎03-3560-7911

## キングダムエルガイツ第2回入門テスト実施！

キングダムエルガイツでは10月6日（日）に入門テストを行う。将来格闘家を目指している君！　今こそ一歩踏み出すのだ。申し込み期限が迫っているので気を付けてね。
◆日時/10月6日（日）12:00～
◆場所/Z-Zone（小田急線・京王線永山駅徒歩5分）
◆資格/18歳以上の男子で入寮可能な方
◆締め切り/9月27日（金）必着
◆試験内容/体力測定および面接
◆申し込み/履歴書に身長・体重・年齢・スポーツ歴・連絡先・自己アピールを明記の上　〒206-0082 東京都稲城市坂浜2305・1-202 キングダムエルガイツ新人募集係
◆問い合わせ/☎042-331-2797（担当・矢内）

## 横井宏考がコント&コメディに挑戦！

チームアライアンスの横井宏考が『ボキャブラ天国』等にレギュラー出演していたダーンス4（現在は団ス砲）を中心としたコント&コメディのイベントに電撃参戦する！　リングの上では攻撃的な横井だが、舞台の中ではどう暴れまわるのか期待大。メンバーの団ス今野は元アマレス東北2位の実力者で、現在は髙阪剛が代表をつとめるジム『Gスクエア』に所属しており、PRE-PRIDE4で活躍したリアル格闘お笑い芸人なのだ。いったいどんな舞台になるのか『劇団バイタス コント&コメディ Volume.3』は必見！
◆日時/10月5日（土）14:30～　19:30～の2回公演（各回とも開場は30分前）
◆出演/横井宏考（チームアライアンス）、北條達也（団ス砲）、団ス今野（団ス砲）
◆会場/新宿鍋茶屋コンフォール劇場（西武新宿線新宿駅より徒歩1分　☎03-3232-0158）
◆料金/前売り券1,500円（10月4日まで発売）　当日券2,000円
◆申し込み・問い合わせ/☎03-3794-9620（留守録応答）、vitus@post.mozio.ne.jp

## 『第8回西日本グローブ空手選手権大会』結果！

今回で8回目となる西日本グローブ空手選手権大会が7月14日、香川県善通寺市民体育館で行われた。当日はMA日本キックボクシング連盟バンタム級新王者のアトム山田が主審を担当し、大会に華を添えたぞ！
軽量級/優勝・虫明千秋（拳之会）
準優勝・神谷努（姫路キックボクシング）
第3位・岡田宗（智拳塾）、池田龍二（勇健塾）
敢闘賞・上野正裕（武勇会館）
中量級/優勝・山地良一（勇健塾）
準優勝・安藤靖浩（武勇会館）
第3位・酒見幸司（姫路キックボクシング）、武井賢二（渭北道場）
敢闘賞・本田智哉（姫路キックボクシング）
軽重量級/優勝・岸田知幸（香川大学格闘同好会）
準優勝・久谷将光（無双塾）
第3位・藤田智也（智拳塾）、東俊光（渭北道場）
敢闘賞・ピーター・グラント（極真会館）
重量級/優勝・中栄大輔（方上道場）
準優勝・川間浩暉（神風塾）
第3位・ケニー・ドニークラーク（PUREBRED京都）、松本行夫（勇健塾）
敢闘賞・小西智也（武勇会館）
力杯/山地良一（勇健塾）

## アジアテコンドー選手権大会の結果！

7月22日から29日までモンゴル・ウランバートル市にて第2回アジアテコンドー大会が開催された。日本選手団の成績は以下のとおり。
◆トゥル・男子一段の部/準優勝　姜昇利（荒川道場）
男子二段の部/第3位　許智成（荒川道場）
男子四段の部/第3位　金省徳（キムズジム）
女子一段の部/第3位　東正子（荒川道場）
女子二段の部/第3位　奈良岡和子（荒川道場）
◆マッソギ・女子マイクロ級/第3位　東正子（荒川道場）
女子ライト級/第3位　奈良岡和子（荒川道場）
◆パワーテクニック・女子の部/第3位　東正子（荒川道場）
◆スペシャルテクニック・女子の部/第3位　東正子（荒川道場）

宇月田麻裕の
Mahiro Utsukita

# 北斗占い®

9/26～10/9

破軍 武曲 廉貞 文曲 貪狼 禄存 巨門

★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の１つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の１つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。
この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。
絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

ホクトホンミョウジョウ
## 北斗本命星早見表

| 貪狼星 | 巨門星 | 禄存星 | 文曲星 | 廉貞星 | 武曲星 | 破軍星 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1959 | 1958 | 1957 | 1956 | 1955 | 1954 |
| 1960 | 1961 | 1962 | 1963 | 1964 | 1965 | 1966 |
| | 1971 | 1970 | 1969 | 1968 | 1967 | 1978 |
| 1972 | 1973 | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | |
| 1984 | 1983 | 1982 | 1981 | 1980 | 1979 | |
| | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 |
| 1996 | 1995 | 1994 | 1993 | 1992 | 1991 | |

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります。
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンロク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ。聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです
武曲（ブコク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

## 貪狼星

### 全体運
無神経な発言があなたの立場を悪くする暗示。トレーニング先や職場で、知らないうちに反感を買ってしまいそう。今は他人のミスには目をつぶり、あなた自身の内面の充実に励んで。会話がカギになるので言葉はよく選んでいこう。

### 恋愛運
ステキな相手が現れそう。ただし今は、強引なアプローチはNG。グループ交際から始めて、お互いをじっくり理解する時間を持つことがポイント。

**勝負運** 思いついたら即勝負。自分のカンを信じて。

**健康運** 不注意からケガをしそう。気を引き締めて。

**金運** 後輩におごると後で大きな見返りがありそう。

★ラッキーカラー★ グレイ
★ラッキーアイテム★ フルーツ
★ラッキースポット★ スタンドバー

## 巨門星

### 全体運
突然旅行に行ったり、衝動買いをしたりと、心のままに行動したくなる時。そんなあなたを、周囲はハラハラしながら見守っている様子。今は、年末までの計画を立てると気持ちが安定して、自然と仕事や試合で結果を残せそう。

### 恋愛運
いきなり別れを告げられるキケン。原因はあなたのワガママのよう。反省して話を聞いてあげればやり直せるかも。フリーは誠実なアプローチを心掛けて。

**勝負運** カンが鈍っているので大きな勝負は避けよう。

**健康運** めまいの心配あり。規則正しい生活を。

**金運** キャラクターの貯金箱を使うとラッキーあり。

★ラッキーカラー★ ブルー
★ラッキーアイテム★ 丸テーブル
★ラッキースポット★ ビルの屋上

## 禄存星

### 全体運
凶兆星が現れます。突然仕事がキャンセルになったり、試合でケガをしたり……。予期せぬトラブルで落ち込みそう。焦らずに、新しい得意先を探したり、トレーニング法を変えたりして、強い気持ちを持つと一歩成長できるハズ。

### 恋愛運
年上の女性と出会う予感。大人の魅力を感じたら、思い切ってオシャレな店に誘ってみよう。口説き落とせるかも。カップルは自宅でのデートがオススメ。

**勝負運** 最後の詰めが甘いと負けを誘発しそう。

**健康運** 持病再発の恐れあり。体のチェックを。

**金運** 大きな買物をしたくても今は自重の時。

★ラッキーカラー★ ホワイト
★ラッキーアイテム★ Tシャツ
★ラッキースポット★ 神社

## 文曲星

### 全体運
秋という季節の影響もあり、静かに考え事をしたくなる時。思いついたアイディアは、その都度メモしたり、まとめておくと、近い将来役に立つハズ。また、普段行かないスポットに出掛けると、さらに五感を刺激されて感性UP。

### 恋愛運
彼女の浮気を疑っているのでは？　そんな思いは、あなたに自信がない証拠なのかも。心の弱さを見透かされ、逆に別れ話を切り出される可能性も。

**勝負運** マイペースでいくことが勝利への近道。

**健康運** 新しい健康法を試すと予想以上の効果あり。

**金運** 家計簿をつけてムダ使いのクセをなくそう。

★ラッキーカラー★ グリーン
★ラッキーアイテム★ メール
★ラッキースポット★ イタリアンレストラン

## 廉貞星

### 全体運
曇っていた運命に光が。仕事では、取り引きのなかった会社から発注が来たり、試合では、苦手な相手に初めて勝てたり、ハッピー気分が味わえそう。そしてさらなる向上を目指すには、今まで以上の努力をしていくことを忘れずに。

### 恋愛運
マンネリ気味の運気。「最近、会話が少ないな～」と感じたら、彼女の気持ちが離れてしまっているかも。キチンと将来のことを話し合う時間を作って。

**勝負運** 決断力が冴える時。積極性が勝利のカギ。

**健康運** 筋トレ効果あり。心身とも絶好調になりそう。

**金運** 臨時収入があったら他人のために使うと○。

★ラッキーカラー★ ライトイエロー
★ラッキーアイテム★ 写真
★ラッキースポット★ マンガ喫茶

## 武曲星

### 全体運
思いどおりに進展しない時。だからといって、すぐに転職や退会などを考えるのは逆効果。ここはじっくり基礎作りに励もう。データを集めたり、大会に向けた地道なトレーニングをすることで、次のチャンスに活かされるハズ。

### 恋愛運
出会ったことのないようなタイプに、恋をしてしまうかも。精神的な結びつきが強くなる暗示なので、エッチはさておき、ハートを重視してつき合うと○。

**勝負運** チャンスはまだ先。今は待ちの姿勢で。

**健康運** 疲れたら好物を食べて気力を取り戻そう。

**金運** 資金不足なので投資は再検討をしたほうが。

★ラッキーカラー★ ブラック
★ラッキーアイテム★ 腕時計
★ラッキースポット★ スタジアム

## 破軍星

### 全体運
吉兆星が輝いています。秋を迎えて、心身とも充実しているあなたは、知識欲が旺盛になる暗示。その博学ぶりで、会話の中心になれたり、上司の目に留まり、大抜擢される可能性も。格闘技でも、新しいスキルの習得で好成績の期待。

### 恋愛運
元彼女から連絡があるかも。大人の男を演じて、優しく話を聞いてあげると愛が復活しそう。カップルは、あなたの決断次第で結婚を考えても良い時期。

**勝負運** データ収集と冷静な分析で勝利をゲット。

**健康運** 肌荒れに注意。7時間睡眠を心掛けて。

**金運** 金運を呼ぶには物への執着を捨てよう。

★ラッキーカラー★ レッド
★ラッキーアイテム★ アクセサリー
★ラッキースポット★ 寿司屋



**宇月田麻裕プロフィール** ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、webなどで活躍中。NTT Vポータル tel 0570-0033-03 「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/

# Burning JAPAN

詳しくは当社ホームページへ **http://www.kakutoo.com**

取扱カード/デビットカード、郵貯カード、JCBVISA Master、Orico、メゾン、OMC、KYODO、KCMYCAL **ご注文時にお申し出下さい。**

## 人気のダミーバッグが未来型フォルムになって登場！ 最強サイボーグ！

※写真は子バック付きのものです。

POINT! 首が曲がる為、実戦に近い練習が行えますので、確実にレベルアップできます!!

■B438C ※子バックは別売です
新型ダミーバッグ
定価¥48,000が **¥22,800** 爆安価格！

さらに強くなりたい人には
ダミーバック専用 **子バック ¥1,800**

## フルコンタクト空手衣

■BK-300(WHITE)
BK-300(白)

| 身長(cm) | セット価格 |
|---|---|
| 120〜 | |
| 130〜 | ¥4,200 |
| 140〜 | |
| 150〜 | ¥4,600 |
| 160〜 | |
| 165〜 | ¥4,900 |
| 175〜 | |
| 180〜 | ¥5,500 |
| 185〜 | |

特殊防縮 抗菌加工　綿100% 上下セット帯付

BK-100(アイボリー) **¥3,500より**

素材/綿100% 上衣/晒11号帆布（特殊防縮・抗菌加工）ズボン/晒葛城・白帯付

●刺繍を承ります。●道場・サークル等の卸売も承ります。
色帯各種取り揃えております。

## テコンドー衣

■BT-N300B(KUROERI)
BT-N300B(黒衿)

| 身長(cm) | セット価格 |
|---|---|
| 120〜 | ¥3,900 |
| 130〜 | ¥3,900 |
| 140〜 | ¥4,500 |
| 150〜 | ¥4,500 |
| 160〜 | ¥5,100 |
| 170〜 | ¥5,100 |
| 180〜 | ¥5,900 |
| 190〜 | ¥5,900 |

TAEKWONDO W.T.F マーク ワッペン付

BT-300B(黒衿) **¥3,200より**
※帯は別売です。※帯も取扱っています。

## パンチングボールスタンド

■BS 2000
130cm▼170cm 高さ調節可
素材/PVC
BURNING PRICE **¥8,800**

## IDM TAEKWONDO

- ■IDM201 ヘッドガード サイズ/S・M・L ¥4,800
- ■IDM301 リバーシブル ボディプロテクター サイズ/XS・S・M・L ¥5,800
- ■IDM401 DIPアームガード サイズ/S・M・L ¥3,400
- ■IDM601 ファールカップ サイズ/M・L ¥3,200
- ■IDM501 DIPレッグガード サイズ/S・M・L ¥3,400
- ■IDM701 テコンドーシューズ サイズ/24.5cm〜28cm ¥6,200

## VOLUME LIMITED ITEM 数量限定アイテム

残りわずか！オーダーはお早めに！

### こちらの商品につき表示価格より 全品20%OFF!!

HURRY UP! HURRY UP!

■BS 3000 ハードパンチャー向
130cm▼170cm 高さ調節可
パンチングボールスタンド
素材/本革
定価17,200円を BURNING PRICE **¥15,500**

■BJ-200/BJ-100
**柔道着** 学校正課用

低価格！ 工場直販、コスト削減で低価格を実現!!

高品質！ アディダス社の柔道衣・空手衣の指定工場としての実績とすぐれた品質管理のもと、学校正課用・道場練習用として開発した柔道着です。

| 身長(cm) | セット価格 BJ-200 |
|---|---|
| 120〜 | ¥3,500 |
| 130〜 | ¥3,800 |
| 140〜 | ¥4,000 |
| 150〜 | ¥4,400 |
| 160〜 | ¥4,800 |
| 170〜 | ¥5,200 |
| 180〜 | ¥5,700 |

残りわずか！ BJ-100(アイボリー) ¥3,100より
綿100% 上下セット帯付

- ■IDM302 チャンピオン ボディプロテクター サイズ/XS・S・M・L ¥8,800
- ■B257 インステップレッグガード サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥3,800
- ■B116 プロタイプパンチンググローブ サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥4,800
- ■B119 指出しパンチンググローブ サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥2,800
- ■BX200 本革製ボクシングシューズ サイズ/24.5cm〜28cm カラー/黒・白 ¥8,800
- ■BX400 ショートタイプリングシューズ サイズ/24.5cm〜28cm ¥7,200
- トルソーマックス ¥4,800
- ■G411 ウエイトリストアンクル 重量/5ポンド BURNING PRICE 定価1,000円 (1コ)¥900
- ■G412 ウエイトリストアンクル 重量/10ポンド BURNING PRICE 定価1,200円 (1コ)¥1,100
- ■B155 パーフェクトレッグガード サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥5,200
- ■BP-L100 レッグプロテクター サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥2,300
- ■G519 フォアアームマスター (1コ)¥3,200
- ■G313 レッグストロング (1コ)¥5,500
- ■B140 チャンピオン型 ボディプロテクター ¥7,800
- ■B231JR DIPボディプロテクター ¥6,000
- ■B465P ターゲットミット(シングル) ¥2,400
- ■B464P ターゲットミット(ダブル) ¥2,900
- ■B671 新型ターゲットミット(PU一体型) ¥3,500
- ヘッドバンド ¥780
- ブルース・リーワッペン ¥750
- 超レア！ブルース・リーポスター 1枚 ¥980 / 7枚セット ¥5,800
- ■C413 木刀 ¥2,800

## 

- ■BX100 メッシュタイプボクシングシューズ サイズ/24.5cm〜28cm カラー/黒・白 ¥6,900
- ■BX300 ショートタイプトレーニングシューズ サイズ/24.5cm〜28cm ¥5,800
- ■BP-B100 アンクルブーツ サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥2,800
- ■G212 LEATHER トレーニングロープ BURNING PRICE 定価2,500円が ¥1,800
- ■G112 PVCレッグストレッチャー ¥2,800
- ■B302A マウスピース (ダブル)¥1,200
- ■KM200 キックミット 素材/レザー ¥5,800
- ■PM100 パンチングミット (片手)¥2,000
- ■B442 ビッグミット サイズ/86X79X13cm 定価6,800円が ¥5,800
- ■B443 ビッグミット サイズ/66X36X10cm 定価5,800円が ¥3,800
- ■BP-G100 DIPパンチンググローブ サイズ/M・L カラー/黒 ¥2,800
- ■B352 サポーターレッグガード サイズ/S・M・L 素材/コットン ¥1,800
- ■B354 ニーサポーター サイズ/S・M・L 素材/コットン 定価1,500円が BURNING PRICE ¥1,000
- ■PM200 パンチングミット (左右一組) ¥5,800
- ■B312 ナックルサポーター サイズ/S・M・L 素材/コットン ¥1,200
- ■B317 アームガード付ナックルサポーター サイズ/S・M・L 素材/コットン ¥1,800

世界テコンドー連盟公式用品　日本総代理店

**Burning JAPAN**

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-8-1 西田ビル6F
http://www.kakutoo.com

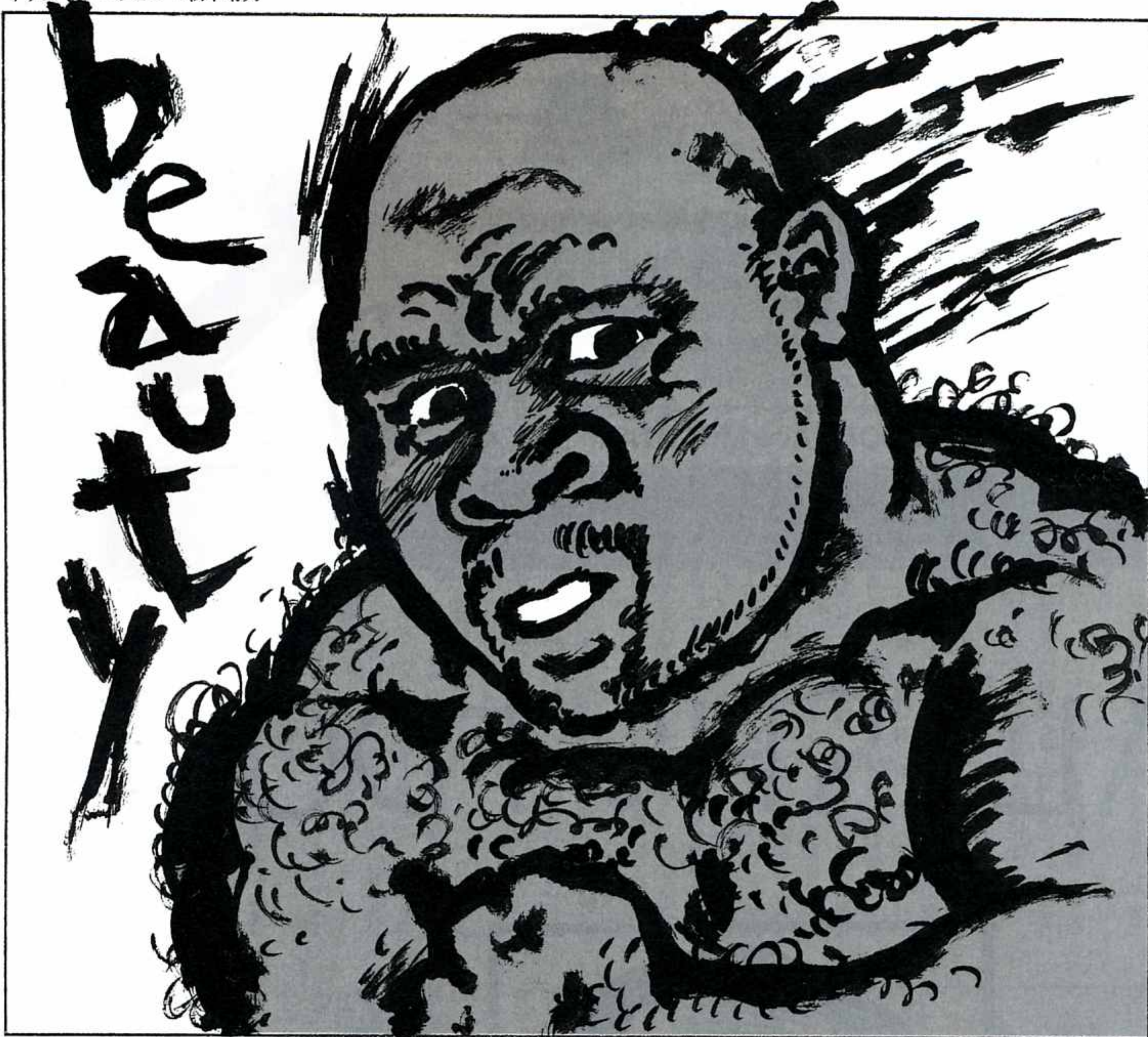
センター直通 Order Hotline!
**077-851-7316**
TEL.03-3222-3605
FAX.077-851-7479

質問・その他お問い合わせはこちらまで
〒916-0021 鯖江市三六町1-14-7
■カタログ請求、交換・返品も上記住所まで。
■代理店システムもございます。
★受付/AM9:00〜PM8:00 FAX24時間受付★

代金　代金は商品到着時、配達人にお渡し下さい。その際、送料、代引手数料が加算されています。
分割　合計¥30,000よりご利用できます。詳しくは、お問い合せ下さい。

■表示価格には消費税が含まれておりません。■返品、交換は未開封に限り、着後7日以内にご返送下さい。(送料は当社負担になります。)■予告なく色、形状が変更する場合もございます。

イラストレーション＝松本晴夫

# ザッツ・ムチャリブレ ⑪

## 最強よりも美が上位概念なのだ！

山本隆司



最近になってやっと気が付いたことがある。それは何かといったら〝最強〟という概念に魅力をおぼえたとしても、決してそれが私の本命ではなかったことだ。

たしかに誰が最強なのか、何が最強なのかについては、興味は尽きない。もし、それがなくなったらプロレスと格闘技は、存在理由を失ってしまう。

しかしこれだけは言える。最強という言葉は選手や試合を〝見る側〟の立場から生まれたものだということである。

つまりファンや観客が非常に好きな言葉として、最強という言葉が誕生しているのだ。だからこの言葉には、野次馬根性の匂いがしてくる。君たちはその言い方がもっともふさわしいと思わない？

プロレスや格闘技の興行を支えているのは、実を言うとこの野次馬根性なのだ。ホイス・グレイシーと吉田秀彦では、果たしてどっちが強いのか？　それなんかも野次馬根性の最たるものだった。

野次馬根性とは自分のことは横に置いといて、無責任に面白がって騒ぎ立てる性質のことをいう。ビッグマッチのカードは、野次馬根性を煽り立てるものでないと興行は盛り上がらない。そういう意味では最強という二文字は、それ自体がスキャンダルな一面を持っていることになる。

最強という言葉はファンがファイターの心を煽る印籠という見方もできるのだ。選手の立場からすると、迷惑な言葉でもある。

観客を前にしてリングの中で試合をしている者は、このように常に〝見る側〟からプレッシャーをかけられている存在なのだ。

だからファイターはその観客の期待に応えてなんぼの存在とも言えるわけだ。ところで最強以外にもう一つ私が選手に対して求めているものがある。

それは〝美しい〟という概念のことである。我々はこの頃、いろんな団体、いろんなリングでさまざまな選手を見ることができる。

そこで感じることは美しい存在に出会えないことだ。裸の肉体をファンの前にさらけ出している者は、それが裸ゆえに美しいことがプロとして大前提になる。

見た目が全てと言い切ってもいい。体ができていない選手がプロレスの世界でも、格闘技の世界でもいかに多いことか？

見た目がプアー。貧相というのは最悪だ。それがすなわちアマチュアだということである。肉体の美しさ、存在の美しさはどこにあるかというと、超人性にある。

普通の人に毛が生えたような体をして、人前に出るな。少しも美しくないぞ。〝鳥人〟ダニー・ホッジや〝生傷男〟ディック・ザ・ブリーザーの全盛時代は、強いという前にみんな美を感じさせた。

美しいということと強いことが同心円になっていたのだ。私がプロレスラーや格闘家に求めているものは美。美しいということ。

最強という幻想よりも、美しいということのほうが〝上位概念〟として私の中にあったのだ。「初めに最強ありき」ではなく「初めに美あり」と声を大にして言わなければならない。ところで私はいまボブ・サップという人をなぜか美しいと感じてしまうのだ。■

**はみ出し ターザン情報** ターザン山本の「一揆塾」塾生募集中――大好評の「一揆塾」は、現在、毎週木曜日の19:30～21:00、場所は水道橋の闘道館で開講中。お問い合わせは☎03-3512-2080

〜お客様は神様です〜

# あぶもぐ

五月場所

初日

ABNORMAL★MOGUTAN

親方◎小松モグタン

# TOTAL SHUTDOWN

FEATURING: SCORPIO

## 『Dynamite!』では夕ーザンの表彰式登場が皆さんから大好評！　本人も叶姉妹と写真を撮れてご満悦でした。『あぶもぐ』も大阪場所に続き、五月場所に突入しましたので、皆さんよろしく！

「ターザンバッチください！　エリオに上げたって、絶対喜ばねえって！　制服の襟に付けて学校行きてーよー！　ド肝抜かす!!」
（サットン・エリック・雄偉・東京都江戸川区・17歳）

◀（本橋秀直・東京都羽村市・15歳）

▶エリオはホイスの試合の時も付けていたから、よっぽど気に入っていたんですよ。どっかで手に入れて、ぜひ学校で自慢してください！

▼（やざま優作・東京都小平市・30歳）

ミルコが強い強いって皆、バカみたいに言いやがって……。あー、たしかにミルコは強えーよ！　だけど、サクが弱かったわけじゃねーぞ！　やっぱ、あんだけ試合から遠ざかってりゃ、試合勘てものが戻りゃしないよ。本来のサクがサクであるところの巧妙な仕掛け（トラップ）ってものがまったく見られなかったじゃん。谷川はこの試合が面白かったとかヌカしているが、あのサク見てたら、まるで不器用者の松井に見えて来ちゃったもん。もどかしいったらありゃしない。なんか無理してモンゴリアンとか出しているようで、不自然で忍びなかったよ。サクよ！　今度復帰したら、心おきなく連敗街道を突っ走ってくれ。そして勝負勘を取り戻し、復活すりゃいいさ。無理すんなって。天才田村だって、試合勘がまるで戻らず苦労したわけだ（今ならシウバに勝てるぜ！）。小松さん、そういう意味じゃおスモーさんは酷な商売だね。貴乃花なんかケガが治るまでゆっくり休ませてやりゃいいのに、なんで1年休んだだけで引退だとか文句言われんの？他のスポーツなら温かく見守ってやり、それが感動のドラマを生むってのにさ。みんなナベツネが悪いんだ！

（アゴ三郎・東京都北区・35歳）

◆相変わらず、プロレスラーびいきのアゴ三郎さん。貴乃花とナベツネの抗争も面白いッ！

国立のスタンドは狭い！　隣の人と密着して汗がベトベトしているし、臭くてキモイ!!　しかも、お尻が痛い!!　マスコミのお偉い皆さんは、快適な所で観られて大盛り上がりでしょうが、実際の話、私のいたスタンド席の周りは皆、疲れてけだるいムードが立ちこめていました。もう、国立でやる必要なし!!　東京ドーム十分。アリーナ席に力士がいたけど、お金がない序の口とかがスタンドに座っていたらどうなっちゃうの？　3人分の席を買うの？それならアリーナ買ったほうがいいってこと？国立は相撲取りにも優しくない会場です。

（潔癖症の主婦・？・？歳）

◆けだるいムードも含めて国立なんですよ。それから、相撲取りが3人分席必要とか、あまり偏見を抱かないように。

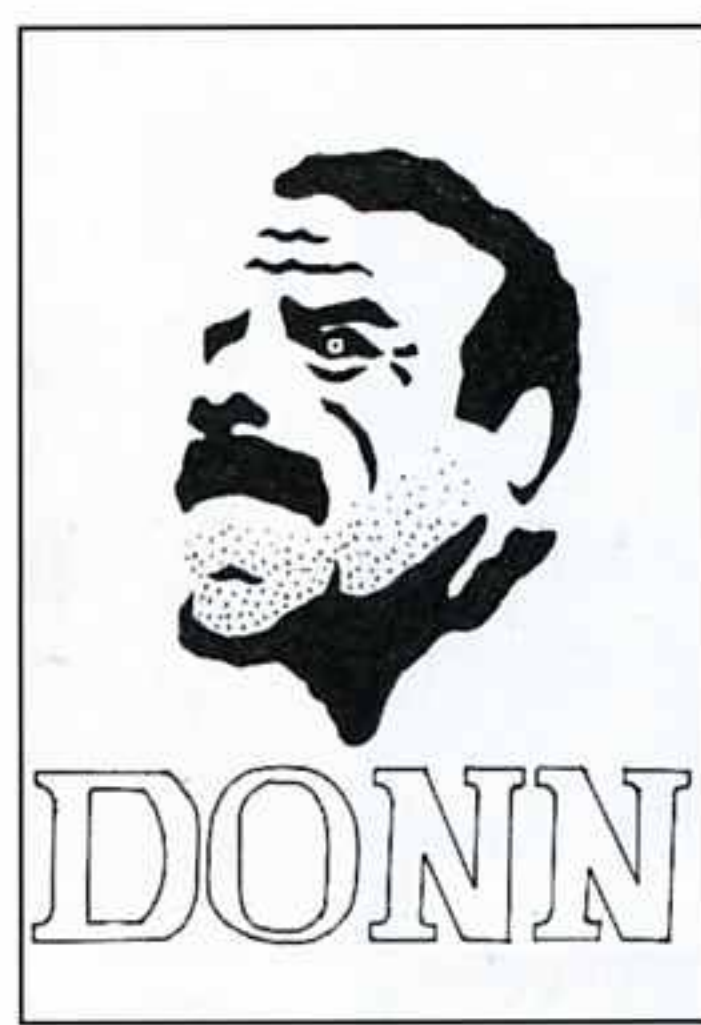
叶姉妹が『Dynamite!』に来場していたことは他の雑誌にも載っていましたが、3ショットの写真まで撮ってしまうSRS・DXにはバカ負けしました。ターザンだけが神妙な顔をしているのも笑えます。もしかしてエリオへのプレゼンターをしたまま顔が固まってしまったのでしょうか。

（春名義行・兵庫県明石市・35歳）

◆ターザン曰く、実物はお姉さんのほうがはるかにいいそうです。

吉田VSホイス戦からも分かるように、レフェリーの判定が天と地を分けることがあり、レフェリーの責任は非常に重い。今後、ビッグマッチについては、カード発表と同時に、その試合を誰が裁くのかも試合前に公表する時期が来てしまったのではないかと思いました。『プライド』などは試験などにより、公式レフェリーを育成すべきでは？

（小野口宗夫・福島県郡山市・35歳）

◆鈴木宗男と同じ〝むねお〟という名前は素晴らしいです。この名前を生かして、試合をキッチリと公平に裁けるレフェリーを目指してみては？

▲（桐田英治・？・？歳）

▲（桐田英治・？・？歳）

『Dynamite!』のリングにまさかターザンが上がるなんてビックリしたよなぁ〜。俺の周りに座ってた客なんてもう言葉を失ってたぞ。でも俺は一部始終を見てたんだから、ターザンTシャツくださいな。んあ〜。

（藤井佑樹・埼玉県さいたま市・19歳）

◆私もあの瞬間が一番ドキドキしました！

8・28『Dynamite!』国立大会は本当に感動しました。特にノゲイラVSサップは予想外でした。ノゲイラがあんなに苦戦するなんて……。桜庭VSミルコの試合は凄い闘いでした。でもサクが負けるなんて、この先『プライド』は誰が背負っていくんだ。心配だ!!　まさか外人天国になるのでは!?　吉田!!　おまえはサイコー！　ホイスはリベンジしろー！　次回の『プライド22』が楽しみだ。

『プライド』で見たい試合ベスト3！
1位　藤田和之VSアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
2位　吉田秀彦VS髙田延彦
3位　美濃輪育久VSヴァンダレイ・シウバ

（添田正和・東京都足立区・19歳）

◆ハガキから興奮と感動が伝わってきますよぉおぉ！

猪木さんは間違ってます。吉田はとことん、ジャケットマッチをやるべきです。次はイズマイウとやってください。それに勝ったら、100キロ級の柔術王とやってください。吉田の弟子とグレイシー一族で「柔道VS柔術」の5対5マッチなんてのも楽しそう。「柔道VS空手」も見たいし、佐竹出てこい！　他にもサンボ、ハンムドー等々、ありとあらゆるジャケットの異種格闘技戦をやって『プライド』で、新たな格闘技の面白さを発掘してほしいです。バーリ・トゥードデビューはそれからでも遅くないでしょう？

（馬面のモグタン大好きっ娘・？・？歳）

◆100キロ級の柔術王って誰？　それから、人のことを馬面呼ばわりするな！　失礼ですよ！

セフォー、ハント、バンナ、ミルコ、ホースト、アーツ、フィリォ。この7人がGPへ行ってほしいね。この7人が今のK－1のベストファイターだ。サダハルンバ（長いから以下サダハ）は本当にイカスね。ターザン（長いから以下ター）もイカスでー。サダハは誰にする？　オイラは大石が勝つと思うね。K－1　5番目は小松魔裟夫だ。9月はわしの就職試験あるんよ。合格したら、来年のK－1名古屋のチケットくれー。SRS席。K－17番目より。

（レイ・ロニーセフォー・岐阜県川辺町・17歳）

◆勝手に人を5番目にするな！　ターザン、サダハルンバの名前を省略するのはやめろ！　でも就職試験頑張ってください。

### ★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！　質問もOK！　強烈なぶちかましをお待ちしております。

あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

**PROFESSIONAL SHOOTO**

**8.27★北沢タウンホール**

# 中山巧、改め〝タクミ〟〝気魄〟をまとって再出発!!

## タクミの顔に〝鬼〟が宿った！

撮影◎吉澤晃

▶スタンドでの差し合いでもタクミはコーナーを背にしてテイクダウンを許さない。むしろそのまま山崎を押し倒し、グラウンドでの打撃で自分のペースを作っていった

### タクミのコメント

「予想以上に苦戦しました。相手は体が細いですけど、技術で凌がれました。自分が転がされても力で返す自信はあったので、グラウンドパンチで攻めようとは思っていました。ここ最近負けがこんでまして、気分転換でリングネームをタクミに変えたんですが、この勢いで五味選手や川尻選手と当たり、ランク上位を狙いたいです」

▶2Rからは山崎のタックルをガブり、冷静な試合運びを見せたタクミ。気迫がこもっているとはいえ、決して空回りはしていない

▲▼山崎も鋭いタックルで上になったりするものの、有利なポジションをキープできなかった。このところ2連敗しているタクミには「負けられない！」という決意があるのか、両者の表情に気迫の差が出ている

▶この試合で8月の月間MVPとベストバウト賞をW受賞したタクミは、9月16日の横浜大会で表彰され、「W受賞は初めて、最高です」と喜びを口にした

▲セミファイナルに登場した藤原正人（パレストラ東京）は対戦予定の朴光哲が負傷欠場したため、松下直揮（ALIVE）と対戦。試合はスタンドとグラウンドでの打撃合戦が繰り広げられたが、お互いに決定打に欠けドローに終わった

★第9試合/メインイベント（5分3R）
○タクミ（3R判定3-0）山崎　剛●
〈パレストラ東京〉　〈TEAM GRABAKA〉
※採点…29-28　30-29　29-28

追い込まれた男の〝気魄〟を見た、そんな印象だった。8・27修斗下北大会でメインを張った〝タクミ〟。デビュー以来10戦無敗という快進撃を続けた彼が、昨年12月のNKではマーシオ・クロマドに、続く5月のフックンシュートでは、ビトー・シャオリン・ヒベイロにと、連続で秒殺一本負けを喫するという不本意な結果を経て臨んだのが今大会だった。

この日からリングネームを変え、黒髪も銀色に染め上げ、狼のような風貌に変身したタクミは、リングの上でも野性味溢れるファイトを展開。GRABAKAの山崎が相手だけに、タックルで上を取られることもあったが、下からでも構わず左右の拳を振りまくり、上になれば、何かに憑り付かれたかのように、鬼の形相で殴りつけていったのだ。

結果は判定でタクミの勝利。ともに寝技に定評のあるタイプだが、今回のタクミは寝技にこだわらなかった。相手が強敵だったとはいえ2連敗を喫したことやランキングが10位にまで転落したことが、彼の野生を呼び覚まし、貪欲に勝利を狙うファイターへと変貌させたのではないだろうか？　普段の中山は感情を表に出すタイプではないが、今回の試合においては、彼は自分の感情を剥き出しにしていた。それは単に〝気迫〟と呼ぶには生ぬるく、〝気魄〟と表現するのがふさわしいほど、鬼気迫るものだった。（太田）

格闘エンターテインメント SMACK GIRL

# Dynamic!

LAST SUMMER FOREVER in有明

9.1☆ディファ有明

# これもパクリ効果か？ 野獣だ！ 野獣が来たぞ！

# ボブ・サップがスマックガールに襲来！

撮影◎吉澤晃

今大会名は『Dynamite!』をパクって『Dynamic!』

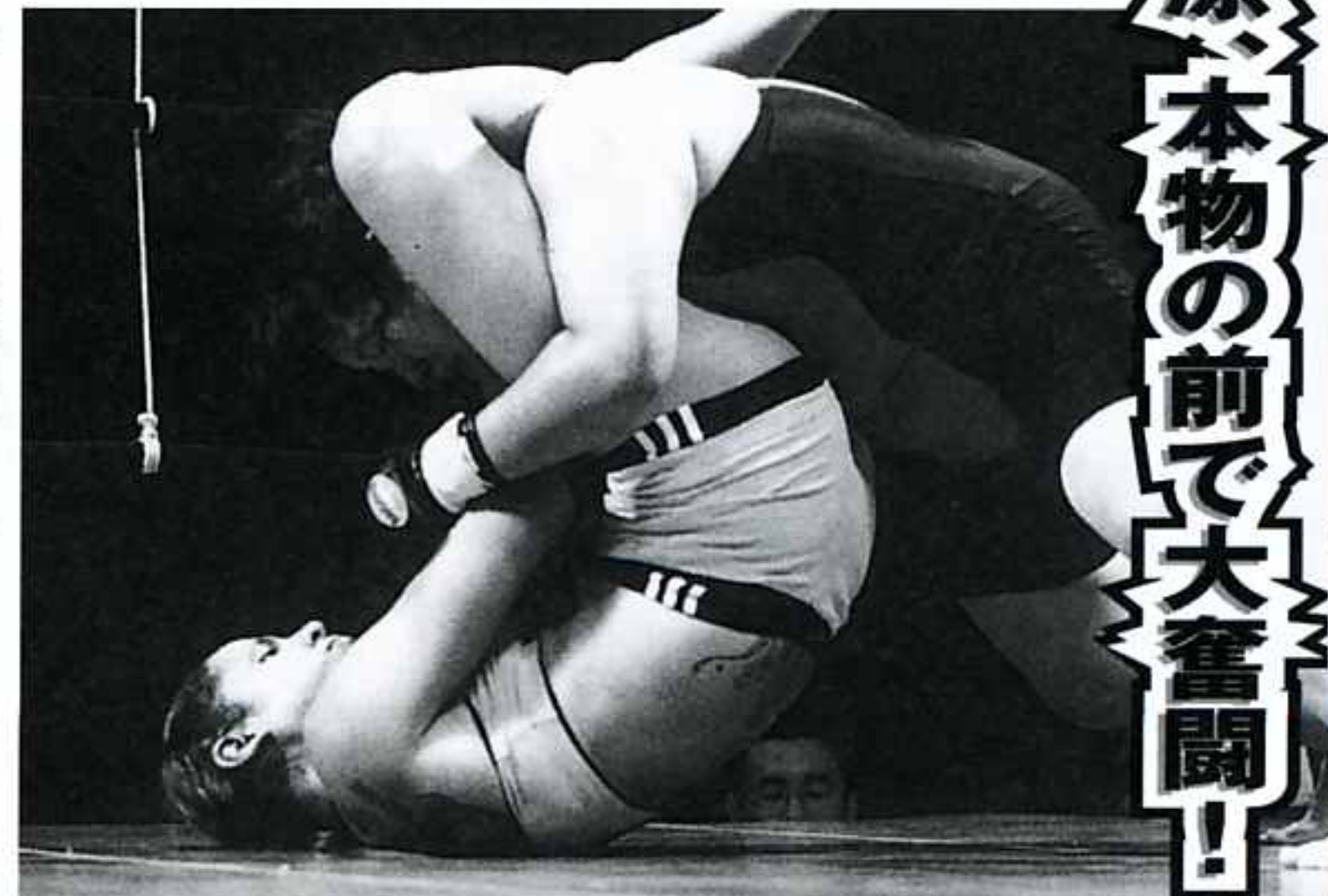
▲『Dynamite!』をパクって名付けられた今大会名『Dynamic!』。そのかいあってか、なんとボブ・サップとジョシュ・バーネットが来場。２人のビッグなゲストに会場は大興奮。リングに上がったサップが得意の笑い声を響き渡らせると、バーネットも国立競技場の時と同様に北斗の拳のセリフを使ってノゲイラを挑発した

▶日本人相手には無敵を誇る石原だが、判定でトーヒルに敗れてしまった。トーヒルは「石原はタフだった」とコメント。一方の石原は「凄い強いという感想はないです」と、世界の強豪とあまり差がないということを強調

▶試合後、トーヒルの控室でサップ、バーネット、そしてトーヒルのセコンドに付いていたエンセン井上と奥さんの美憂さんが一緒に記念写真を。今回サップとバーネットが来場したのは、バーネットの彼女が女子総合格闘技の選手で、一度観戦してみたかったということらしい

## 〝女ボブ・サップ〟石原、本物の前で大奮闘！

▶女版ボブ・サップ石原美和子が昨年５月のReMix代々木大会で藪下めぐみに勝利しているエリン・トーヒルに挑んだこの一戦。２人とも女とは思えない凄まじい打撃を繰り出していた

▶２Rには国立競技場でのノゲイラVSサップを思い起こさせるようなトーヒルの三角絞めが石原を襲った。石原は間一髪脱出に成功

★第7試合（SGS無差別級グラウンド時間無制限特別ルール/5分3R）

○エリン・トーヒル（3R判定3−0）石原美和子●

〈アメリカ〉 〈日本/禅道会〉

## ジャケットマッチにパンチラマッチ！ Oh〜、Dynamite！

▶本家『Dynamite!』で行われた吉田VSホイスをパクって、ナナチャンチン（チーム南部・左）と坂口一美（GF2）の第1試合はジャケットマッチで行われた。試合は1R1分58秒、スリーパーで坂口が勝利。しかし、ジャケットを着た意味はあまりなかった……

▲第５試合に登場した高橋エリ（K−DOJO）の試合コスチュームはなんとテニスルック！　大門まい子（闇愚羅）相手にパンチラどころか、グラウンド状態ではパンツを丸出しにしながらも果敢に闘い、場内の男性客を大興奮させた。ある意味、ノゲイラVSサップを越える興奮度だった。試合は２R２分41秒、腕ひしぎ十字固めで大門が勝利

いつも、マット界の旬のネタを使って大会のコンセプトを作るスマックガール。今年に入ってからは、女子版の「K—1VS猪木軍」、女子版の「世界最強タッグ」もやった。そこで今大会は、『Dynamite!』をパクって、大会名は『Dynamic!』である。

スマックガールが素晴らしいのは、コソコソと真似をしたりせず、堂々とパクってしまう図太いところだ。大会ロゴも『Dynamite!』のロゴとそっくりな物を作り、第1試合の坂口一美VSナナチャンチンをジャケットマッチとして行ってしまう徹底ぶり。この徹底ぶりこそ、女子総合格闘技を単なる競技ではなく、エンターテインメントの域まで昇華させようという意気込みの表れだろう。その甲斐あってか、本家『Dynamite!』に出場したボブ・サップとジョシュ・バーネットというビッグなゲストまで来場してしまったのだ。

メインは〝女ボブ・サップ〟の異名をとる石原とノゲイラと同様に三角絞めが得意なトーヒルの一戦。これも、『Dynamite!』を意識してのマッチメイクだが、ただパクるだけでなく、ちゃんと海外から強豪選手を呼んでくる努力をしているのだから素晴らしい。例えパクリでも内容が伴っていれば問題なし。スマックガールはトコトンこの路線を究めてほしい。（小松）

# 女子ボクシングが大イメチェン！
# ライカ、世界＆メジャーへ大きな一歩

日本女子ボクシング協会
**FIGHTING GIRL PT3**
9.7★ディファ有明

▶相手はWIBA世界5位というベネット・ローレン。しかしライカはその攻撃を完璧に見切る

▶2Rに入ると一気にラッシュ。集中的に磨いてきた左フックと、得意の右ストレートが冴えてローレンをコーナーで棒立ちにさせる

▶ついには戦意喪失、ローレンは背中を向けてしまう。レフェリーのストップより先に、セコンドからタオルが入った

撮影◎菊地奈々子

世界王者シャロン・アニオスとの対戦が予定されていたライカだったが、相手の欠場で急きょ代役と闘うことに。しかしきっちりTKOで勝って、周囲の期待に応えてみせた

★第7試合/メインイベント（2分8R）
**○ライカ（2R0分27秒、TKO勝ち）ベネット・ローレン●**
〈山木ジム〉 〈オーストラリア〉
※セコンドのタオル投入

▲ライカと並ぶもう1人の主役が八島有美。試合3日前に深刻な体調不良に陥った八島は、フラフラ状態でリングに上がった。前半アマンダの豪腕で大ピンチに陥り誰もが八島の敗北を予感したが、4R後半、疲れの見えたアマンダに気力のパンチで大反撃を開始。“心が折れた”上に鼻も折れたアマンダは「6R契約のはず」と理不尽さ爆発でさっさとグローブを外し試合放棄してしまった。根性では八島が完璧勝利、日本王者の意地を見せつけた

▲ダブルメイン（八島、ライカ）のゲスト・リングアナを務めたのはボクシング元世界王者の渡嘉敷勝男、薬師寺保栄の両氏

▲女子ボクシング協会のコミッショナーに就任した森田健作議員からトロフィーの贈呈

女子ボクシングがイメチェンした。いや、そんな半端なもんじゃない。北沢タウンホールから、千人規模のディファに初進出・大入り満員。だけならまだしも一日コミッショナーに森田健作衆議院議員、リングサイドには有名人多数。さらにビジョンでは今をときめく仲根かすみ、DA PUMPらが顔を出し応援メッセージを叫ぶ。

芸能関係の会社が強力サポートしてこの華麗なるイベントが実現したというが、旗揚げから見てきたファンの中にはちょっと淋しい思いをした人もいただろう。応援していたインディーバンドが、突然メジャーでブレイクしてしまったような……。

ともあれ試合だ。選手もこのお膳立てに気合い入りまくりのファイトで応えたものの、初観戦の観客が期待しているのはやっぱり壮絶なるKOシーン。しかしながらセミが終わった段階でダウンシーンはゼロ。フラストレーションがたまったところで登場したのがライカだ。

観客の期待を知ってか知らずか、ライカは世界王者の負傷欠場で急きょ変更となった世界5位の相手を、何もさせず有無を言わさず、問答無用に打ちのめしてみせた。ド派手な演出に負けないド派手なファイト……デビューから2年半、ライカは自分でも気づかぬままに見る者の期待に応える〝プロ〟ボクサーとなっていた。残すは世界のベルトのみ。■

ニュージャパンキック
DREAM RUSH VI
9.8★後楽園ホール

# 強いヤツはいつだって飢えている 桜井洋平は激闘ベルト奪取にも満足しない

## 9戦全勝のTURBO全開に苦闘するも NKB統一フェザー級を制す

撮影◎吉澤晃

### 桜井のコメント

「相手は研究してきてましたね。ローの切り返しなんか、正直言って効きました。イヤな選手です。来るのは分かっていても、気持ちと体が一致しなくって。ダウンがあったから最初は自分のペースでできましたが、後半は気持ちで押される部分もありました。とにかく、王者らしい試合ができなかったんで、基礎からやり直しです」

### TURBOのコメント

「ダウンはハイキックだったんですか。何が入ったのかと思っていました。対策はしてきたんですが、ダウンを奪われて焦ってしまって。ああいう距離の長い選手とやったことがなくて、やりにくかったです。優勝できると思っていたんで、悔しいです。もう一度やれば対処できるんで、ベルトをかけてもう1回やりたいです」

TURBOに痛烈な右ストレートを打ち込む桜井。攻めの鋭さでは桜井のほうがやはり一枚も二枚も上だった

▶後半はTURBOも激しく食い下がって、熱戦になる。統一トーナメント戦が始まる前までは、無名に近かったTURBOだが、一戦ごとに力をつけた

▲同時に行われたNKBライト級王者決定戦は、笛吹丈太郎が強引なパンチを振りかざし、AVIS－SV01を守勢に追い込んで判定勝ち

▲前座5回戦に登場した立嶋篤史だったが昔日の面影はない。孫悟空丸山の速い動きについていけず、4R、右ストレートから左フックと浴びて無惨にKOされた

▲桜井はこの勝利で、NJKFのバンタム級に続いて、2本目のベルトを手に入れた

▲鋭い角度で打ち込むハイキックも桜井の大きな武器だ。この日も初回、右ハイで奪ったダウンが、試合の流れを決定づけた

★第11試合・メインイベント/NKB統一トーナメント フェザー級決勝戦（3分5R）
○桜井洋平（5R判定3-0）TURBO●
〈岩瀬ジム〉　〈TEAM O.J〉
※採点…50-47、50-47、50-46。TURBOは1Rに右ハイキックでダウンを喫した

どんな時でも、勝てば嬉しいに決まっている。けれど、控室に帰ってきた桜井の口からは、なかなか景気のいい言葉は聞こえてこない。

「チャンピオンらしい試合ではないですね。基礎からやり直しです」

いやいや、悲観するような内容では決してない。無傷の9連勝と勢いに乗るTURBOに目にも止まらない右ハイを決め、1Rからダウンを奪った。その後も勇敢に立ち向かってくる対戦者の前に、闘志をむき出しにして立ちはだかり、その追撃を断ち切った。そして2本目のベルトを手に入れた。見事な闘いだった。

ただし、目指す場所の高さを考えれば、確かに桜井もここで満足するわけにはいくまい。身の毛もよだつムエタイの強さを、我々が目の当たりにしたのは、この日からたった2日前のことだ。日本のエース、小林聡をまさしく木っ端みじんに粉砕してしまった、あのサムゴーと比べてしまえば、今の桜井は5合目あたりなのだろう。

けれど、桜井は着実にステップアップしている。強くなっている。長身をしならせ、剛柔自在に打ち込む技はどれもこれも一戦ごとに切れ味を増してきている。それもこれもNKBトーナメントという一つ大きな枠で闘ってきたからではないか。だとしたら、日本のキックもやり方次第。もっとタイに近づけると、そう信じることもできるのだ。（宮崎）

# SRS・DX Editor's Talk
# 編集部トーク 裏事情

## 石井館長、プロレス進出の新展開！

**A** 『Dynamite!』の衝撃がいまだ忘れられない中、早くもマット界は秋の興行戦争に突入しているわけだけど、9・22K—1ジャパンから始まり、9・29が『プライド22』名古屋、10・5K—1GP開幕戦・さいたまアリーナ、10・11K—1ミドル級・有明大会、そして10・14新日本プロレス東京ドーム大会と続くから、ホント我々は息をつくヒマがない（笑）。でも、これだけイベントが続くとファンは豪華さにマヒしてくるし、本当に試合内容が問われるだろうね。

**B** しかも、ファイターは完全に売り手市場。ボブ・サップなんて、すっかり時の人で、K—1と『プライド』だけでなく、新日本プロレスからも全日本プロレスからもオファーがあるというから凄いよ。

**C** 石井館長はボブ・サップにプロレスの試合をさせる際、完全にエンターテインメント・プロレスをさせるつもりですね。

**A** ボブ・サップだけじゃない。石井館長はK—1や『プライド』のファイターにプロレスをさせる際、全部エンターテインメント・プロレスをさせるつもりだよ。そもそも石井館長の考えは、これだけ『Dynamite!』や『プライド』が全盛の時代、プロ格路線は逆にマイナスだと考えている人だから。

**B** そこが猪木さんと違うところだけど、俺は今後のプロレスを考えるうえで、非常に重要なポイントだと思うな。

**C** その石井館長なんですけど、9月19日の囲み会見では、プロレスに対するスタンスとして「あくまでもお手伝いする形で」という立場を強調していました。プロレス界では石井館長がプロレスに進出するんじゃないかということで戦々恐々としているんだけど、そういうことじゃないって言ってましたよ。

**B** でも、お手伝いしてほしいと頼まれれば、選手もどんどん派遣するし、興行もプロデュースするということでしょ？ やはりプロレス界にとっては黒船だよ。

**A** 実際、猪木さんは挑戦的に『イノキ・ボンバイエ』を大晦日にテレ朝でやるってブチ上げているもんなぁ。川村龍夫UFO社長の力があれば、それも十分可能かもしれない。

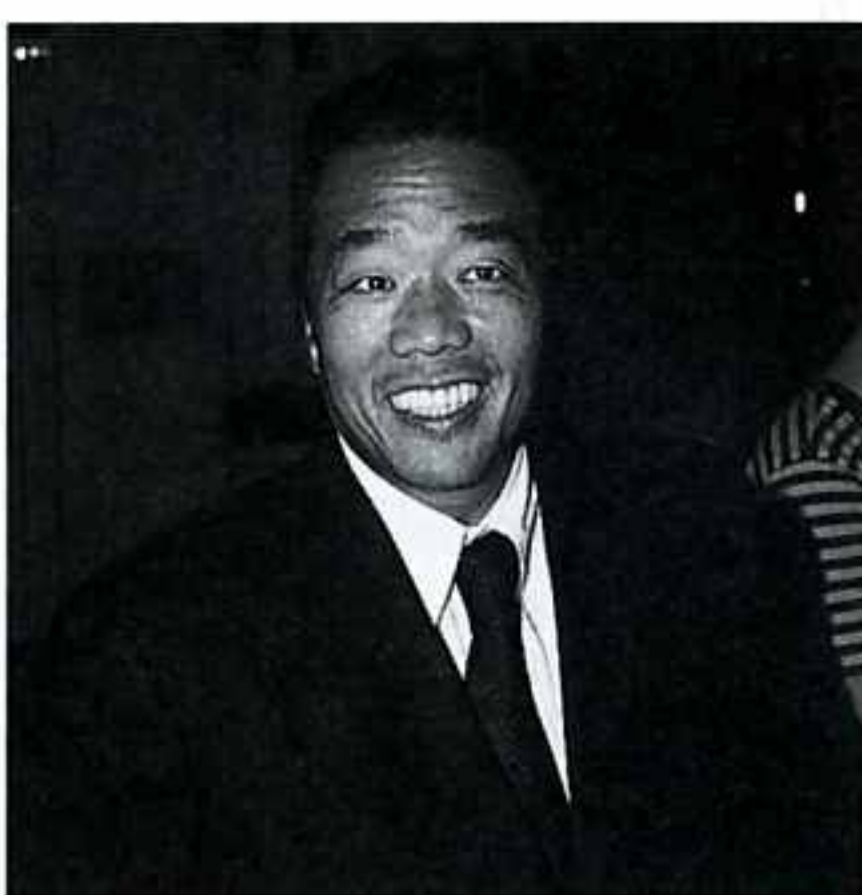
**C** 全日本プロレスがフジテレビで放送されることになったのも、やっぱり石井館長の力が大きいんですよね。

**B** そう。フジテレビにとっては男子プロレスは初めてになるんだけど、石井館長の口添えがあったからこそ実現したと思うんだ。ただフジのほうも、どうせやるなら普通のプロレス中継ではなく、ドキュメンタリー・タッチのあおり番組を主軸にしていくらしいよ。年内は月1回、深夜で放送していくみたいだけど、もしかしたら大化けするかもしれない。フジは新しいソフトを作り上げるのがうまいからね。

**A** 石井館長がプロレスに関わることで、あらためて業界の勢力図は変わってくるし、プロレス—格闘技のクロス現象が生まれてくる。今までプロレスはプロレス、格闘技は格闘技で、専門誌も分かれていたけど、これから我々もますます作り方が難しくなるなぁ。これは、真剣に考える必要があるよ。

**B** うん。プロレスと格闘技のアングルがクロスするってことだから、両方とも注意を注いでいかないとマッチメイクの意味が見えなくなることにもなりかねないからね。それだけ広い視野を持つ必要があるってことだよ。

**C** あと、今年の大晦日は気になりますよねぇ。本当に猪木さんはテレ朝で『イノキ・ボンバイエ』をやるのか？ 単なる牽制球なのか？ それに対し、TBSは石井館長と『Dynamite!』のようなことをやるのか？ それが今年のクライマックスになるんじゃないですか？

**A** もしかしたら、今年はK—1も『プライド』も東京ドーム大会がそれぞれのクライマックスになるかもしれないし、これから水面下で激しい駆け引きが行われるんだろうね。■

▶全日本プロレスのフジテレビ放送決定の陰の立役者と言われる石井館長。今後、プロレスとはどう関わっていくのか気になるところだ

SRS・DX

次号の発売日は **10月10日（木）** です。

発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F ☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之 編集長：谷川貞治

DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、溝口真穂
野尻雅友、小林善夫、2in1、ナール企画、NORTON

◎『LEGEND』、『Dynamite!』と、今年の夏はテレビ局が全面的に関わることで、格闘技の巨大イベントが行われた。特に『Dynamite!』の成功によって、よりテレビ・メディアにおける格闘技の需要は高まっていくだろう。そんな中、9月30日、フジテレビが全日本プロレスを中継するという話は、非常に興味深いものがある。なにせ、そこに石井館長がからむというのだ。今のところ年内は月イチ放送の予定だが、ただで終わるはずがない。もしかしたら、ここのところ格闘技に押されているプロレスが、一気に息を吹き返すかもしれない。勢力分布図が変わることも含めて、その動向をじっくり見守る必要があるだろう。私が思うに、プロレスをテレビ・メディアで生かすには、新しい方法論が必要。それは、極端なことを言えば、試合中継ではない。試合で面白いものを見せようとしても、それは今やK—1や『プライド』にとてもかなわない。では、プロレスで視聴率を取るとしたら、試合以外の部分で、いかに格闘技にはできない面白さを演出するかということなのだ。それは、WWEの成功を見たら、すでに証明されている。いきなり全日本プロレスの中継を見せられたとしても、視聴者にはなんの新鮮味も与えないだろう。そういうことをしっかりと理解し、どれだけ格闘技とは違う高級なエンターテインメントを作り上げるかどうかにプロレスの未来はかかっている。そうじゃないと、やはり時代は『プライド』やK—1のようなプロ格のエンターテインメントに軍配を上げるだろう。私はプロレスの専門家ではないが、フジのプロレス番組は非常に興味がある！ （谷川）

# あなたは『Dynamite!』からどんな心の装置でこの大会を見ますか？
# 『PRIDE22』名古屋大会全対戦カード決定！

ハイアン・グレイシー〈ブラジル／ハイアン・グレイシー・アカデミー〉 VS 大山峻護〈フリー〉

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン〈USA／チーム・パニッシュメント〉 VS イゴール・ボブチャンチン〈ウクライナ／フリー〉

マリオ・スペーヒー〈ブラジル／ブラジリアン・トップチーム〉 VS アンドレイ・コピィロフ〈ロシア／ロシアン・トップチーム〉

コーチキン・ユーリー〈ロシア／ロシアン・トップチーム〉 VS ヒース・ヒーリング〈USA／ゴールデン・グローリー〉

パウロ・フィリォ〈ブラジル／ブラジリアン・トップチーム〉 VS 小路晃〈フリー〉

アンデウソン・シウバ〈ブラジル／シュート・ボクセ〉 VS アレクサンダー大塚〈フリー〉

ガイ・メッツアー〈USA／ライオンズ・デン〉 VS 山本憲尚〈高田道場〉

ケビン・ランデルマン〈USA／ハンマーハウス〉 VS 小原道由〈フリー〉

『Dynamite！』から約1カ月。名古屋で約2年4カ月ぶりの『プライド』が開催。9・29名古屋レインボーホールで行われる全8試合のカードが決定した。メインは大山峻護vsハイアン・グレイシー。そして、イゴール・ボブチャンチンの復活、アンドレイ・コピィロフの初参戦、小原道由が吉田秀彦をセコンドに元UFC王者のケビン・ランデルマンと対戦するなど、マニアックながら興味深いカードが満載！　果たして、最後に輝くのは誰だ？

# 大山峻護、試練のメイン！

## 「ヘンゾ戦でプロの厳しさを実感しました。ハイアン戦は真っ向勝負します」

聞き手◎林 毅

**『プライド21』のヘンゾ・グレイシー戦では判定勝ちを収めながら大バッシングを浴びた大山峻護。あれから3カ月、『プライド22』ではメインを務めることになった大山はハイアン戦にどんな決意で臨むのか？ 沖縄で最終調整をする大山に電話インタビューしてみた。**

——今回、大山選手の試合がメインイベントになりましたが、お気持ちは？

**大山** 昨日（9月19日）聞きまして、もう、ビックリしました。ボクでいいのかなって感じですね、正直に言うと。

——責任重大ですね。

**大山** なんか、考えれば考えるほど凄いことなんで、考えないようにしてます。変に意識し過ぎちゃうと絶対によくないと思うんで。ホント、想像すればするほど、あまりにも凄いことなんで、考えるの止めようと思って。とにかく、今は自分のコンディションを整えることだけに集中しようと思ってます。

——なるほど。ところで、前回の「プライド21」でのヘンゾ・グレイシーとの一戦は、いろんな意味で反響がありましたが、振り返ってみていかがですか？

**大山** そうですねぇ……、う〜ん、凄いいろんな意見があって、僕自身、何が正しくて、何が間違っているのか分からなくなって、ちょっと、今までにないくらいに落ち込んだ時期があったんですが、それでも、やっぱりあの試合では僕なりに得るものも大きかったと思います。足りない部分というか反省しなきゃいけない部分もたくさんあったんですけど、得るものもデカかったなと思います。

——得たものというのは、具体的にはどういったものですか？

**大山** う〜ん、そうですね。一番は、最初から最後まで冷静にできたこと。自分を見失わずにできたことですね。あとは、身体的なことに関してです。

——身体面に関して言えば、世界的にもトップファイターと言われるヘンゾを相手に、互角以上の能力を見せたわけですから自信になったでしょうね。

**大山** 今までは、自分の力が「プライド」でどこまで通用するかというのが、不安としてあったんですけど。あの試合で、この世界でやっていけるという自信はある程度掴むことができました。それと同時に、う〜ん……、本当に難しい試合だったんですけど、どこか空回りしている部分もあったし、僕のいい部分と悪い部分の両方が出ちゃった試合だったと思うんですよ。ひとことでは言い表せないんですけど、プロの厳しさとかも実感できましたし、プロの重さとか「プライド」で試合するということの注目度の高さとか、あまりにもあの試合から得るものとか反省するものが大きすぎちゃって、今でもインタビューであの試合を振り返ってくださいと言われても、なかなか出てこないんですよね。でも、間違いなくあの試合というのは僕の中でターニングポイントにはなっています。

——そういう意味でも、今回のハイアン戦で、そこで得たもの、反省したものをどう出すのかというのが、ファンの注目しているところだと思うんですよ。

**大山** はい、そうですね。

——僕も前回のヘンゾ戦に関しては、雑誌の中でかなりキツイことを書かせてもらいましたが。

**大山** はい。

——僕の書いた記事に関して、どう思いました？ 「この野郎」と思いました？

**大山** いや、正直言うと、これがプロなんだなというのが、実感できたというのはありますね。本当に悩んで、いろんな人に相談したりもしたんですけど、「なんで、オマエはプロの世界に入ったんだ」って言われた時に、「僕はこの世界で一番になりたいし、有名になりたいです」と答えたんですよ。その方に、「プロっていうのは、ダメだったら容赦なく非難される。そういうことも含めてプロって言うんだぞ」と言われたんですよ。その時に

# 「吉田さんの試合でゴチャゴチャあったんで、今回、僕がビシッと締めて決着をつけます」

初めて、やっと見えてきたというか。今までは、いい部分だけを見過ぎていたと思うんですよ。

——なるほど。僕としても好き好んで非難的な原稿を書いたわけじゃないし、やっぱりデビュー前から応援している大山選手には強くなってほしいし、ビッグになってほしいという気持ちもあって、あえて心を鬼にして書いているんで、それによって大山選手が「ふざけんな、この野郎!」でもいいし、「今に見てろ!」でもいいですけど、何かを感じてくれたら嬉しいなと思うんですけどね。

**大山** はい。

——僕の記事を読んだ読者や関係者から、「キツ過ぎる、あそこまで書くことない」という意見も結構あったんですよ。僕とすれば、そういう意見は逆に嬉しかったりしたんですけどね。

**大山** はい。でも、ホントにあの一件で、ちょっと、気持ちが強くなれた部分も大きいんですよ。ああいうふうな状態でも前向きにとらえることができるようになったというか。あの時、批判、バッシングしてくれた人とか含めて、感謝してます、という言い方が適切かどうか分からないですけど、それに近い気持ち、本当に「ありがとうございます」という気持ちがあります。あれで、本当に少しでも成長できたと思いますし。あれがなかったら、今回「メイン」っと言われて、もっとオロオロしていたと思うんですよ。あの経験があったんで、「大丈夫だ」って自分に言い聞かすことができるようになったというか、根っこが生えたような気がします。

——そういう意味でも、今回、どんな試合を見せるのか、勝負ですね。

**大山** はい。今回は、どう考えても、みんなが注目しているのは分かってます。分かってますけど、変に、そこを意識しないようにしようと思ってます。デビュー戦の時のような意識で、自分のコンディションのことだけ考えて、リングに上がったら闘うことだけを考えて。それに集中しようと思っています。

——そういう意味もあって、今、最終調整を沖縄でやっているわけですか?

**大山** そうですね。沖縄に来ると、情報をシャットアウトできて、凄くいいんですよ。こっちに来ると、ホントに何も考えなくなるんですよね、普段もあまり考えてないんですけど(笑)。

——ハッハハハハハ。

**大山** ホントに考えなくなって、練習だけに集中できるんで。

——なるほど。前回の『プライド』から3カ月の間、自分の試合はなかったですけど、『Dynamaite!』という大イベントに、吉田選手のセコンドとして参加して。いかがでした?

**大山** 『Dynamaite!』は凄かったですね。圧巻でした。ホント全てが凄かったです。試合内容も凄かったし、会場の熱気から何から何まで。

——大会後に、セコンドについた感想を聞いた時には、「我が子を送り出す母のような気持ちだった」と言ってましたけど(笑)。

**大山** そうですね。独特の緊張感がありました。自分の試合より緊張しましたね。

——緊張もしてたし、気合いも入ってましたよね。大山選手が一番気合い入っていたという声もありましたけど(笑)。

**大山** ハッハハハ、でも、ホント気合い入りましたね。あっちは一族で来るって言っていたんで、セコンドもみんな、気合い入れていかないとって。

——逆に吉田選手のほうが落ち着いていたというか、冷静そうでしたもんね。

**大山** 落ち着いてましたよね、ホント。本当に凄いですね。

——吉田選手と一緒にああいう舞台に立ったり、練習することによって、何か得るものというのはありますか?

**大山** やっぱり大舞台を経験している方なんで、開き直りっぷりは凄いなぁというのはありますね。「こんな大舞台で開き直れるんだ」って。一流選手の凄さを身近で感じられて、勉強になります。人間的にももの凄く魅力ある方ですしね。

——ここ3カ月の間に、吉田選手と一緒に練習したり、大山選手の練習環境にも変化があったと思いますが。

**大山** そうですね。髙阪(剛)さんのところで練習するようになったり。髙阪さんと練習すると、本当に勉強になるんですよね。

——裸の寝技にも自信ついてきました?

**大山** まだまだ覚えなきゃいけないことはたくさんありますけど、いける自信はありますね。

——ところで、今回の対戦相手ハイアンに関してはどんな印象を?

**大山** アグレッシブな喧嘩屋って感じですかね。前から闘いたかった選手なんで楽しみですね。

——それはなぜ?

**大山** ううん、なんだろう? 凄く魅力ある選手で、闘ったら噛み合うんじゃないかなって思ってまして。でも、そう思っていたら、この前、テレビで「ヨシダがセコンドにつくなら、ヨシダと一緒にぶっ潰してやる」とか言っていたんで、ちょっと燃えてますね。

——そういった意味では、『Dynamite!』の吉田VSホイス戦を、引きずってくるでしょうね、あっちは。しかも、大山選手は兄ヘンゾを破った相手でもあるわけだし。グレイシー一族の一人として、ハンパじゃなく気合い入れてくるでしょう。

**大山** 僕としてはそのほうがやりやすいです。どんどん来てほしいですね。

——まあ、前回のヘンゾ戦もそうなんですけど、ハイアン戦も吉田VSホイス戦に続く「柔道対柔術」の争いになるわけですが。

**大山** それはあまり考えてないですけどね。でも、やっぱり吉田さんの試合でゴチャゴチャあったんで、今回僕がビシッと締めて、その話は終わりにしたいです。

——キッチリと決着をつけると。

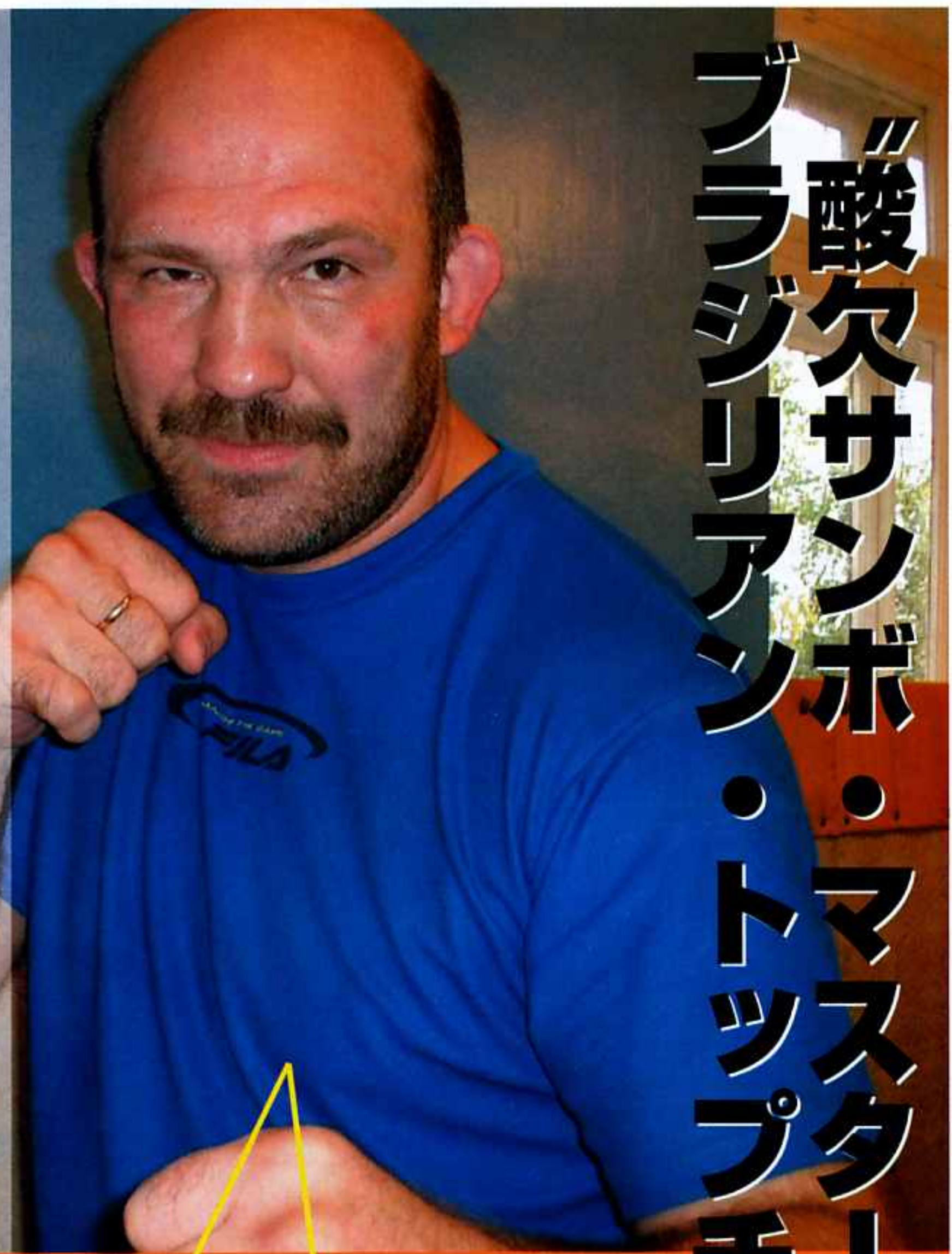
**大山** はい。

——大いに期待してます。どんな試合をしたいと思っています?

**大山** 今回は真っ向勝負で。作戦もまったく立てないでいこうと思います。寝技でも立ち技でもガツガツ前に出て、一本、KOを取りにいきます。■

▶『Dynamite!』では吉田のセコンドにつき、吉田以上に気合いを見せていた大山。『プライド22』では吉田が大山のセコンドにつく

# 〝酸欠サンボ・マスター〟アンドレイ・コピィロフ ブラジリアン・トップチーム狩りに出陣！

取材◎佐々木敦規

**6・23『プライド21』から参戦している元リングス・ロシア勢のロシアン・トップチーム。前回はヒョードルとアフメッドという若手2人が出場したが、肝心のサンボの技術はあまり見られなかった。これは残念。しかし、今回はリングス時代にブラジル勢をサンボの技術で苦しめた生粋のサンビストのコピィロフが満を持して『プライド』のリングに登場するのだ。しかも、相手はブラジリアン・トップチームのマリオ。ブラジルとロシアのトップチーム対決を控えながらも、自信に満ちあふれたコピィロフの言葉をお届けする。**

**私の経験と技術があれば、ブラジル勢を倒していくのはまあ簡単なことでしょう**

——コピィロフさん！　いよいよ『プライド』出陣ということで、お話を聞きに来ましたよぉ。まず、ロシアの選手が現在、格闘技で活躍している理由はどこにあると思いますか？

**コピィロフ**　理由は一つです。政治的な話になるんですが、ソビエトが崩壊してロシアが開けた国になり、自由に国外に出られるようになったからです。元々ロシアには優れた人材が多くいたので、90年代以降に彼らが世界中の大会で活躍できる環境になって、しかも良い成績を収めているから注目を集めているのでしょう。これは驚くべきことではなくて、元々いた優秀な人材を世界中で見ることができるようになったからです。

——なるほど、ソビエト崩壊は格闘技界にも重要な出来事だったんですね。そのロシアの優秀な人材なんですが、ロシア人が遺伝子的に肉体や精神面が強い民族という考えはありますか？

**コピィロフ**　遺伝子？　もちろんです。我々の民族的な強さに遺伝子はとても重要な役割を果たしていると思います。歴史的に我々ロシア人は様々な状況下で闘わなければならない運命にありました。戦争もありましたし、侵略もありました。経済的に貧しいという理由から、自分の命を守っていく必要があったのです。私は、そういった歴史的な背景から、必然的に〝生きるために闘う〟という本能がロシア人に備わったのではないかと考えますね。生きるため、つまり食べ物を得るためとか、寒さを克服するためとかですね。また、医者が少なかったので、病気に対しても打ち勝つようにというのもあります。

——過酷な生活状況がロシア人を強い民族にしていったと。

**コピィロフ**　そうです。つまり、そのような本能に組み込まれている〝闘うDNA〟が21世紀の今日までどんどん強まって、受け継がれてきたんだと思います。

——ロシア人が遺伝子的に強い民族だということは分かりました。次は具体的なことなんですが、バーリ・トゥードでロシア人が強いのはサンボの基礎があるからですか？　サンボの達人であるコピィロフさんの意見を聞かせてください！

**コピィロフ**　う〜ん、サンボやコマンドサンボはたしかにバーリ・トゥードにおいて、大事な要素の一つだと思いますが、それが決定的な要素だとは思いません。今のバーリ・トゥードにおいてはサンボの技術より、柔術の技術のほうが有効だと思いますね。

——エエッ!?　それはなぜそうだと思うんですか？

**コピィロフ**　柔術の選手たちはより『プライド』の闘いに合った練習を行える環境にあると思います。私はバーリ・トゥードではサンボだろうが、柔道だろうが、ボクシングだろうが、空手だろうが、その下地にある格闘技はそんなに重要ではないと思います。その選手の才能と努力が重要です。我々のような経験のある世代は、これからバーリ・トゥードに見合ったトレーニングを若い人たちに指導していかなければならないと思っています。今後は優秀な人材をセレクトして肉体的にも精神的にも鍛えて、バーリ・トゥードでのあらゆる闘い方を教え込んでいかなければダメです。『プライド』のような闘いは、具体的に才能のある人を選んで、トレーニングを積ませていかなければなりません。ですから、出身競技はあまり関係ないと思っています。

——その『プライド』なんですが、この前の『プライド21』の時にはセコンドとして来日されましたけど、どのような印象を持っていらっしゃるんですか？

**コピィロフ**　非常に高く評価しています。日本から戻ってからもずっと『プライド』のことを考えていました。エンターテインメントとしても完成されたイベントですし、素晴らしい大会だと思います。選手のレベルも最高に高いですし、お客さんにとっても満足のいくものでしょう。『プライド』が今後も最高の選手をリングに上げ続ける限り、トップのイベントであり続けると思います。

——こんなことを聞くのも、なんなんですが、『プライド』の選手の中で気になる選手、闘ってみたい選手はいますか？

コピィロフ　顔は分かるんですが、名前が分かりませんので……。リングス時代に闘ったアイブル選手や田村選手は将来のあるいい選手として高く評価しています。その他にも『プライド』にはブラジルやオランダやアメリカの強い選手がいると思いますので、これから研究しなければなりませんね。

——今度はご自身が『プライド』のリングに上がることになりましたが、参戦を決めた理由を教えてください！

コピィロフ　まあ、要請があったからですね……。皆さん、誤解していると思うので言っておきます。私はまだ老いてはいません。まだ、私の技術は十分通用すると思っています。それを証明するためにも、『プライド』には出たいと思っていました。

——その言葉をファンは待っていたんです！　ところで、現在の『プライド』はブラジル勢が非常に勢いがあるんですよ。

コピィロフ　う～ん、ブラジル勢が現在トップに立っているのは決して驚くべきことではありません。なぜなら、ブラジル勢は、『プライド』のようなルールの闘いの経験が我々より豊富だからです。ロシアには今まで『プライド』に合わせたトレーニングがありませんでした。これからは、我々もやらなければなりませんね。私自身の経験で言うと、ブラジルの柔術現役世界王者を16秒で倒したことがあります。この私の経験と技術があれば、ブラジル勢を倒していくことは、まあ簡単なことでしょう、フフフ。今まではロシアの優秀なファイターが『プライド』に参戦していなかったから、ブラジル勢がナンバー1を誇っていただけであって、これからは……まあ、見ててください（ニヤリ）。

——ブラジル勢と言えば、コピィロフさんが以前対戦したノゲイラは、現在『プライド』ヘビー級のチャンピオンです。こんなことを聞くのは失礼かもしれませんが、今ノゲイラと試合をして勝つ自信はありますか？

コピィロフ　もちろん！　自信はありますよ。

——おお、頼もしいですね。ノゲイラと闘ったらどういう技で彼を倒せると考えているんですか？

コピィロフ　全てにおいて彼は私を上回るものを持っていないでしょう。特にグラウンド技術に関してはね。

——スタミナに心配はないですか？

コピィロフ　リングス時代のマスコミの見解、つまり私に「スタミナがない」という見解はある意味正しいと思います。しかし、リングス時代、古いルールではスタミナは問題ありませんでした。99年以降のルールでもブラジルの選手と闘って、いろいろやってますけど、30秒ぐらいで倒しています。実はあの頃は、私の両親が大病を患っていまして、精神的にも肉体的にも私は不完全でした。2人の健康が心配だったので、練習ができなかったんです。そんな状況でノゲイラと闘ったんです。ただマスコミは、ノゲイラ戦について、いつも私のスタミナのことを言いますけど、あの試合ではお互いにスタミナ切れを起こしていましたし、実際彼の乱れた苦しい呼吸音を私は聞き逃しませんでした。あの試合に関して、私はいまだにドローだと思っています（キッパリ）。それにあの試合の時は、ノゲイラの情報がありませんでした。しかし、試合前に相手のことを何も知らないで闘うのは私のスタイルなんです。ですから、今回も相手選手のことを何ひとつ知りません。

▲1999年12月22日、リングスのＫｏＫトーナメントの1回戦で、コピィロフはブラジリアン柔術の強豪カステロ・ブランコをわずか16秒で破ってしまった。このトーナメントの準々決勝では、あのノゲイラと酸欠になりながらも判定まで持ち込む勝負をしている

▶コピィロフの『プライド』初戦の相手はマリオ・スペーヒー。マリオに勝てば、因縁のノゲイラ戦が見えてくるかもしれない

## 試合前に相手のことを知らないで闘うのは私のスタイルです

——ムチャ言いますねぇ。ところで、これからコピィロフさんのように、どんどんリングス時代のロシア人ファイターが『プライド』に参戦するようになると、ブラジル勢をロシア勢が凌駕するようになるんじゃないですか？

コピィロフ　年齢にちょっと問題がありますね。うちのロシアの選手たちはヒョードルを除いて、今、年齢的に上になりつつあります。それに、私自身は『プライド』のルールを100パーセント把握したわけではありません。例えば、グラウンドの攻防の際に、「下にいるほうが不利」だとか、「上にいても積極性に欠けるからダメ」だとか、ポイントの取り方がよく分かりません。しかしまあ、私は細かいことを気にしませんから、やるだけやって学び取ろうと思っています。

——実に男らしいセリフです！　これからもロシアの選手がもっともっと、『プライド』に上がって来るんでしょうか？

コピィロフ　才能のある若者はたくさんいます。しかし、そういう若者は現在、サンボや柔道、空手といったアマチュアレベルの闘いに出ている選手たちです。『プライド』はプロのリングです。彼ら若手が、プロとして闘うにはロシア国内で多くの実績を残さなければなりません。まずは活躍して名前を売って、名誉を残した後にプロになればいいのです。そうすれば、収入も付いてきますし、安定しますよ。誰でもお金は欲しいですからね（笑）。でもまあ、ロシアには有望な若手はたくさんいますよ。

——いや～、楽しみですねぇ。では、日本のファンに一言お願いします。

コピィロフ　日本のファンの皆さんは私の闘い方にとても興味を持ってくれていると思います。私にとって、皆さんの応援はとても大事なものなんです。必ずや皆さんを満足させますので、お楽しみに。

——スパシーバ！　スパシーバ！　あなたの圧倒的な強さを日本のファンに見せてください。

コピィロフ　もちろんです。私の全部は見せないけど、あなた方が驚くような技は見せますよ。■

▲コピィロフと並んでいるのはコーチキン・ユーリー。今回の『プライド22』ではヒース・ヒーリングと対戦する

# 男は二度勝負する。

## 今度こそ〝ハイリスク・ハイリターン〟だ！

小原道由
VS
ターザン山本
野良犬対談
in吉田道場！

撮影◎乾晋也

ターザン同様、このスリーパーでランデルマンを落とせるか？

ターザン　小原選手のことはボクも困っていたんです。プロレスファンと酒の席で一緒になると、必ず「小原選手はどうしているんですか?」と質問されるんです。仕方なくボクは「失踪したんじゃないの?」といい加減なことを言ってきたんですが、真相を教えてください。

小原　今年の1月、契約しないで円満退社しました。昨年の12月、ボクの気持ちをあらかじめ会社には伝えていたので何も問題はなかったですね。

ターザン　そういうことって円満退社なら、なおさら新日本プロレスは正式に発表しないとダメなんだよね。

小原　本当に気持ちよくボクは送り出されたんですよ。

ターザン　ズバリ新日本を退社しようとした理由はなんですか?

小原　去年の11月に「プライド17」(東京ドーム大会)に出て、ああいう結果(ヘンゾ・グレイシーに判定ながら完敗)になり、このままプロレスをやっててもしょうがねえなぁと。とにかくもう一度『プライド』に出て勝たないことには。それでリベンジを果たさないと次に進めないですよ。

▶昨年の「プライド17」東京ドーム大会の第1試合でヘンゾと対戦した小原。今回も第1試合を任される。責任は重大だ

ターザン　『プライド』のリングに上がって試合をすると、そういうふうに人の運命を変えてしまうんですよね。つまり自分に落とし前をつけようとしたわけですか?

小原　そんな格好いいもんじゃないですよ(苦笑)。

ターザン　ヘンゾとの試合は期待が大きかっただけに、あの負け方は弁解の余地がないものだった。周囲の反応は変わりました?　冷たくなったとか?

小原　結局『プライド』に出ると言った時は、こう、みんな自分のところに寄って来たんだけど、負けた途端、なんかみんな引いちゃったみたい(笑)。いやあ、人間の怖さを見た思いがしましたねぇ。10人いたら8人ぐらいがそんな感じでしたね。

ターザン　世の中って、人間ってそんなもんですよ。ボクだって『週刊プロレス』の編集長を辞めた時、家に届くお中元とお歳暮の数が3分の1になりましたもん。そういう時、小原選手は「今に見ていろ!」と思ったりしました?

小原　やっぱり最初は、へこみましたね。

ターザン　へぇ、へこんだ?

小原　そう、そう。酒ばかり飲んでいましたね。たぶん、負けて2週間ぐらいそういう生活が続いていたんだけど、急に浜口さん(アニマル浜口)から電話がかかってきて、いろいろ言われた。

ターザン　何を言われたんですか?

小原　ウチへ来い。ウチのジムに練習に来いと。おそらくあれがなかったら、もう、どうでもいいやという気持ちにずっとなっていたでしょうね。

ターザン　浜口さんは救いの神みたいなものだね?

小原　オレも協力するからお前は絶対にリングで、人生でリベンジしろと直接的に言葉では浜口さんは言わないんだけど、それがボクに伝わってきたんです。はっきり言って目が覚めました。

## 『プライド』?　自分で「行く!」と言ったのを覚えている〈小原〉

ターザン　親父さんはどうだったの?

小原　いや、ウチの親父とおふくろはボクのことは全然タッチしませんから。

ターザン　じゃあ今まで好き勝手に生きてきたということ?

小原　大学の4年の時、就職も決まりかけていたのにプロレスの世界に入って来ていますから。

ターザン　どんな会社?

小原　県警とか刑務所とか。

ターザン　え、刑務所?

小原　入るんじゃないですよ。看守のほうです。ボクの同級生にも後輩にも刑務所に就職した者がいるんです。

ターザン　『プライド』に出場したのは、自分で志願したんですか、それとも上からの命令なんですか?

小原　う~ん、「自分で行く!」と言ったのを覚えている。

ターザン　ヘンゾとの試合はある意味で小原選手がよそ行きに見えたのと、何もできなかったのと、それに見ていてじれったくてなんとかならないかとも思ったんだけど、どうだったんですか?

小原　何もできなかったです。それに尽きます。結局、変なところで冷静で、それでいて舞い上がってもいたし。妙な心理状態になっていましたね。それに客が野次を飛ばすでしょう。それが全部、耳に入っているんですよ。

ターザン　おかしなものでリングに上がると野次だけ耳に入る。ボクが「Dynamite!」でエリオさんを表彰した時「なんでお前なんだ?」という野次がはっきり聞こえてきましたからね。

小原　で、しょう。ボクもセコンドの声は全然耳に入らなかった。なんにもできなくなった時に「早く負けろ!」という野次があったんですよ。ヘンゾはグラウンドでくると思っていたので、それを想定して練習していたんだけど、スタンドの試合になったでしょう。

ターザン　あれでは見るほうも消化不良ですよ(笑)。

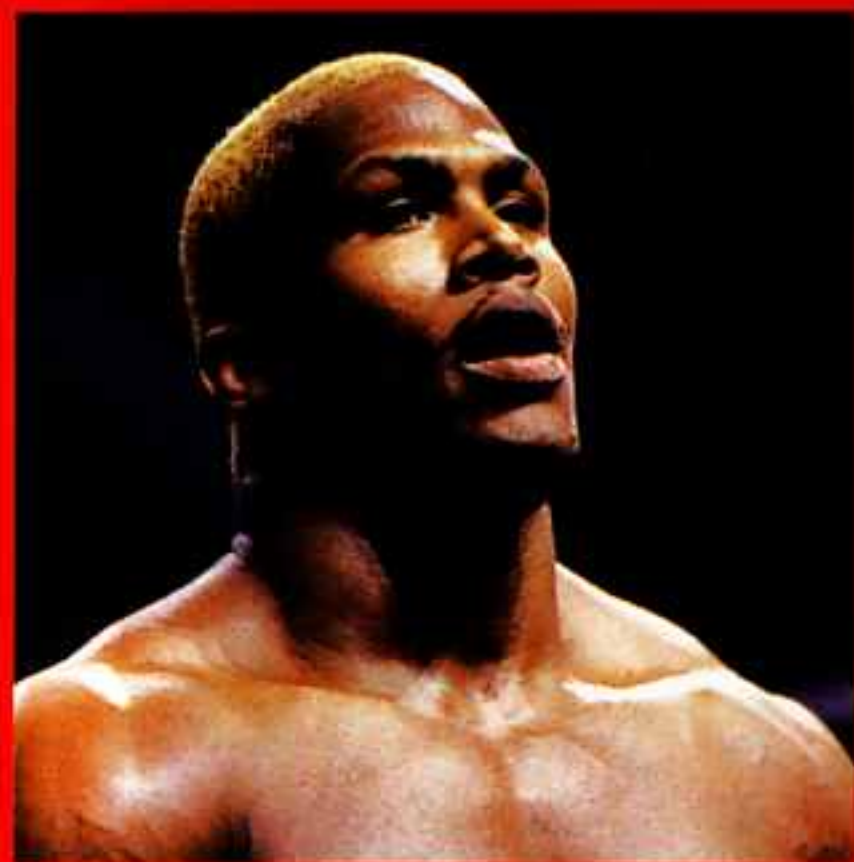
小原　ボクだって試合が終わった時、真っ白になって早く家に帰りたかった。

ターザン　新日本の看板を背負って闘ったというプレッシャーはあった?

小原　だけどボクの場合、トップのレスラーではないし。

ターザン　いや、そういうものじゃないですよ。

小原　しかしボクの中ではそうだった。まるっきりなかったとは言い切れないけど、看板は……。

ターザン　プロレスラーが『プライド』に出ると、プロレスファンは過剰な期待感と不安と失望が、入り乱れた形で表に出てしまうんです。試合の結果に反応し

すぎてしまう。

**小原**　まあ、ハイリスク・ハイリターンを求めて『プライド』に出たわけですよ。もともと『プライド』ってギャンブル的要素が強いでしょう？

**ターザン**　負けたらハイリスク・ノーリターンですよ。ゼロですよゼロ。

**小原**　まあ、ある程度、納得する試合ができて負けたのなら、また違ったんでしょうが。

**ターザン**　自己嫌悪に陥った？

**小原**　その日はべつに何も思わなかったけど、じわじわとね。

**ターザン**　明くる日のスポーツ新聞は見ました？

**小原**　新聞、見なかったっす（笑）。どうせボクのこと（悪く）書かれているから……。

**ターザン**　現在、小原選手は人生で言うと、ゼロ状態ですか？

**小原**　ゼロどころかマイナスいくつといった感じですよ。金はないですけど充実しているというか……。

**ターザン**　小原選手は失礼ですけど貯金をするタイプですか？

**小原**　貯金は〝ない〟ですね。新日本を辞める時も倍賞さんも、そういうことを分かっていたみたいで、そのことを凄く心配されていましたね。「辞めるのはいいけど当然、貯金ないだろう？」みたいな……。

**ターザン**　ボクはお金は使ってこそ値打ちがあるものと考えているんだけど、小原選手はファイトマネーは何に使っていたんですか？

**小原**　バクチと酒です。ただし今は酒は飲みませんよ。

**ターザン**　バクチと酒？　それをはっきり言うのは気持ちいいなぁ。ボクは競馬です。三つめの〝飲む〟〝打つ〟の次はどうですか？

**小原**　モテないですからね（笑）。

**ターザン**　『プライド』で勝てばいいんですよ。そうしたらモテますよ。『プライド』にK―1などは、格闘家、ファイター、選手にとって〝金の成る木〟なんだから。そういう金鉱脈の場ができたということは、非常にいいことなんですよね。

**小原**　『プライド』に出た理由の一つは、結局のところプロレスで何もやっていないというか、名前を残していないということもあったことはたしか。それで何かなぁと考えた時に目の前に浮かんできたのが『プライド』だった。

**ターザン**　『プライド』はそういった点で、ファイターたちにとって夢があるんですよ。

**小原**　プロレス流の逆転を狙ってそれをやったんだけど……。

**ターザン**　それで成功したのが藤田選手（藤田和之）であり、ラッキーだったのが安田選手（安田忠夫）。小原選手にとって『プライド』の水は甘くはなくて辛かったということですか？

**小原**　ということよりもボク自身が甘かったということです。

**ターザン**　なるほど、今の言葉には説得力がありますねえ。

**小原**　でも、オレたちは一発勝負を賭けるというか、本当に「白か？　黒か？」みたいな感じでやらないと『プライド』では先は見えてきませんね。厳しいなという……。

**ターザン**　自分が寄りかかっていた組織を一度飛び出してみるというのは、マット界に限らず一般社会、企業でも今、言われていることなんです。そこには自己責任として成功もあれば、失敗もあるということなんです。

**小原**　ボクは失敗例か？

**ターザン**　いいじゃないですか。9月29日、試合ができるんだから。

**小原**　強がりを言うわけではないけど「出る！」と決めた時、そういうことは覚悟してやっているんですよ。やっぱり『プライド』って勝負を賭けるには手っ取り早い存在でしょう。

**ターザン**　バーリ・トゥードの試合はコンディションの調整と、心理的、精神的なものをいかに自己コントロールできるかでしょう。それが勝利の方程式。ホイスと試合をした吉田選手は、余裕があってまるで百戦錬磨の大ベテランに見えてしまった。あれがプロのデビュー戦とは信じられないですよ。

**小原**　あの国立競技場の大舞台で。心臓に毛が生えているのかと思った。

**ターザン**　吉田道場との縁は、どうしてできたんですか？

**小原**　吉田選手の考え方、生き様に共鳴して「一緒にやらせてもらいたい」と自分のほうから言いました。

**ターザン**　新日本プロレスでは一時〝犬軍団〟としてやっていましたね。あれはなんだったんですか？

**小原**　ボクが聞きたいぐらいですよ。まあ、あれはあれで良かったと思う。プロなんで、ボクらはいろいろできるというのがあるじゃないですか？

**ターザン**　29日のランデルマン戦はどうなりますか？

**小原**　前と同じようなことになったら最悪ですからね。注目されている分、答えを出さないと。そう思っています。今までやってきたことを、全て出せればなんとかなるだろう。

**ターザン**　なんとかなりますよ。

**小原**　ハ、ハ、ハ、ハ、ハ。

**ターザン**　人は自分の中にあるもので勝負するしかないんだから。

**小原**　日本人が持っているいいものを生かしてやりますよ。期待してください。

**ターザン**　日本人ときましたか。楽しみにしています。ハイリスク・ハイリターンを祈っていますよ。■

▲小原の対戦相手のランデルマンは『プライド』初参戦。長らく参戦を噂されていたが、ようやく実現した

## 犬軍団？　ボクが聞きたいくらいですよ〈小原〉

▼当日は吉田道場で共に練習を積む吉田秀彦もセコンドに付く

# これが極真男児の本懐である!!

気迫みなぎる
打撃戦!
元極真・富平辰文、
血塗れで笑顔!

# いきなり富平が武蔵につっかかりイエローカード！

▲ブレイクがかかっても攻撃を止めない富平をレフェリーが必死に抱え込む。富平にはイエローカードが与えられた

◀試合前から富平の表情には気迫がこもっていた。武蔵に対し、しっかりと見据える

# 富平のパンチでマウスピースが飛び、武蔵のパンチに富平がのけぞる！壮絶な打撃戦だ

◀▲武蔵のパンチも的確に富平を捕らえ、大きくのけぞるシーンも

◀▲富平の攻撃にはとにかく気迫があった。一発ヒットして武蔵がよろめくや波状攻撃を仕掛けた

男はやっぱり目つきだろう。

富平辰文がリングインしてきた時の目つきは尋常ではなかった。「悲壮感が漂ってて、こいつ相当気合い入ってるなって思って」と試合後、武蔵が語るほどだったのだから相当なもの。

それもそのはずなのだ。1回戦のノブ・ハヤシ戦でピリッとしなかった富平に対して、コーチの金泰泳から喝が入れられていたのだ。「2度とあんなダラダラした試合をしたら、K―1には今後絶対に出さねぇぞ！　暴走してもいいからブチのめせ！」と。中迫VSボブ・サップ戦で、暴走したサップにヒザ蹴りを入れた男・金泰泳。あの男が怒鳴り散らしながら〝暴走しろ〟というのだから気合いが入らないわけがないのだ。

実は試合前から腰を負傷し、トーナメントに出るような体調ではなかった富平。金もそれは承知の上で、この鬼の言葉なのである。

これだよ、空手は！　そこで「押忍」と言って、死ぬ気で突っ込んでいくのが空手家なんだよ！

とはいえ、そこは金。アフターケアーにもぬかりない。「オレには武蔵戦の秘策がある。それを直前に言うから心配するな」なのだ。全てにおいて万全。

で、リングインした富平は、当然、秘策を金に尋ねる。すると、彼はあっけらかんとしてこう語った。「富平、倒しに行け」と。

当たり前である。だが、これでいい感じに肩の力が抜けた富平はスイッチがバチっと入って、ゴングと同時に猛ラッシュ。これを嫌った武蔵がクリンチにいくのも構わず、がむしゃらにパンチを打ち

# 中迫、ハードパンチャー藤本に真っ向、打撃戦で勝利

▲大石にKO勝ちした藤本、中迫にも正面から打ち合いを挑んでいった

## ガス欠前に行け〜っ！ 1Rから藤本はガンガン飛ばす！

▶中迫のフックがアゴを捕らえ、2度目のダウンを喫した藤本。万事休す

1回戦の野地、準決勝の藤本と打ち合いを制した中迫だが、表情には疲れが色濃く出ていた

★第7試合/K−1 JAPAN GPトーナメント準決勝（3分3R）
**○中迫剛（2R2分18秒、KO勝ち）藤本祐介●**
〈日本/ZEBRA244〉　〈日本/MONSTER FACTORY〉
※2ノックダウン。藤本は右フック、左フックでそれぞれダウン

### 富平のコメント

「現時点でやれることはあれで精一杯。前回はあの人（武蔵）のペースに合わせてしまって、悪く言えばスパーリングの延長みたいだったんで。今回は喧嘩のつもりで。倒されてもいいから、倒してやろうと思って。結果はこうなりましたけど、やれることはやったんで。金さんに『富平、倒しに行け！』って言われて、それでカーッと入りました」

▲ダメージがあろうとも、ただでは倒れない。富平は武蔵を道連れにするように倒れ込んでいったが、これでダウンをとられてしまう

★第8試合/K−1 JAPAN GPトーナメント準決勝（3分3R）
**○武蔵（3R判定3−0）富平辰文●**
〈日本/正道会館〉　〈日本/SQUARE〉
※30−26、30−25、30−26。1R、富平は武蔵の左アッパーでダウン1あり

▲判定は文句なく武蔵だったが、試合を面白くしたのは、間違いなく富平の気迫だった

▲セコンドについた金泰泳。金の一言で富平のスイッチが入った

まくり、レフェリーのブレイクの声すら耳に入らない。
　この富平のやる気に観客は大声援。武蔵の顔にも怒りが見え、試合は一気に熱くなる。
　だが、武蔵との技術の差は歴然。富平は武蔵の左フックを食らってグラつき、コーナーに詰められて連打を浴び続ける。見た目にはダウン寸前の富平だが、彼の目は死んでいない。そこから前に出て、パンチを返し、クリンチしたのはまたもや武蔵（さすがはCMでラガーマンに抱きつき、シャツを脱がせるだけのことはある）。
　レフェリーのブレイクがかかって分けられる両者。ここで富平は腫れ上がった顔でニヤリと笑う。ゾクゾクする瞬間の連続だ。観客の歓声は一層高まり、その声を背に富平はラッシュをかけ、左フックを武蔵のテンプルに叩き込む。そして、追い打ちの右フックが見事に顔面を捕らえて、武蔵の口からマウスピースが吹き飛ぶ！　凄ェ！　気合いが入るとはこういうことを言うのだ。
　だが、もともと身体がボロボロの富平。武蔵のヒザ蹴りをアゴに受け、さらにはアッパーで脳を揺さぶられて何度もヒザがガクガクとなる。
　ところがだ。富平は倒れない。スリップダウン気味のものをダウンに取られたのは別としてハッキリしたダウンは一度もなく、この壮絶な乱打戦を終えたのである。
　元極真の富平。意気地だけで3Rを闘い抜いた、その姿勢は、まさに極真男児の本懐！　見事な散り様だ。極真は後ろを見せないとはこれを言うのである。　（ブチ）

# 極真劇場!!

## 野地竜太、男の真っ向勝負!

▲グラブを合わせる両者。ともに気合い十分だ

▲渾身の力を込めて蹴りを打ち込む野地。空手家にとってローキックは最強の武器だ

▲序盤から積極的な中迫は、ガードの甘い野地の顔面にどんどんパンチをブチ込む

極真空手の野地竜太の試合は常に乱打戦となるから面白い!

もっとも、本人としてはなるべく打たせないで勝ちたい気持ちでいっぱいらしいが、どうにもガードが甘いんだから仕方ない。毎回毎回、ピンチを迎えては、そこから逆転勝ちするのが野地の真骨頂なのである。

というわけで、この日の野地もやっぱりよく打たれてた。見事にボコボコだ。なにしろ、相手は中迫。パンチのコンビネーションも、蹴りの鋭さも日本のトップクラス。特に1Rはアッパーがスコンスコン入って、野地にペースをつかませない。

ところが2R、野地のパンチが当たり始めると試合は一気にヒートアップ。あの中迫がロープに詰まり、防戦一方となってしまう。

キックの試合わずか6戦目で中迫を詰める、野地の素質は、やはり並ではない。観客も新たなスターの登場を願って、応援はガ然、野地コールに。

一方、中迫は、パンチのコンビネーションからハイキックなど持てる技術の全てを出して攻めたてる。もちろんガードが甘いからその攻撃は面白いように入っていく。だが、それでも野地は倒れるそぶりを見せない。それどころか、攻撃の手をゆるめれば、即座に息を吹き返して打って出てくる。

一体、野地に何発パンチが入ったのか? どう考えてもダウンしてもおかしくない量なのに、ヒザすら崩れる様子もない。凄いタフさだ。

そして3R。両者は意地になって打ち合い、野地がハイを出せば、

## 裏優勝候補・大石、最終Rで逆転失神KO負け！

▲〈1回戦〉顔は怖いがシュアーなテクニックで判定勝負に滅法強く、裏の優勝候補とも言われていた大石亨。ジャブ、ワンツー、ヒザとセオリーどおりの攻めを見せるが、対する藤本祐介も"ブンブン丸"の異名どおりの豪快な左右フックの乱打乱打乱打！　2R後半になるとバテてきたものの、それでも無闇にフックを振り回すと、左の一発が大石を直撃！　ダウンから立ち上がったがダメージの残る大石へ、藤本はトドメの左ハイキックを一閃。KOで準決勝に駒を進めた（3R 1分47秒）

## 執念のロー連打！富平がノブにリベンジ

◀〈1回戦〉富平辰文とノブ・ハヤシは昨年も1回戦で対決、富平が有利に試合を進めながらラスト10秒で逆転KO負けを喫しているが、今年は明暗が逆転。1Rから富平が右ローキックを中心にした組み立てでペースを握る。本戦はドローだったが、明らかにローを嫌がっているノブに、富平はさらにスピードの乗ったローを連打していく

◀延長Rになると、もはや差は明確。判定3—0で、富平がリベンジを果たした。「練習不足です。1Rに倒せると思った場面があったのに、体がついていかなかった」とノブ。本戦の時点で負けを覚悟していたという

### 野地のコメント

「中迫さんと試合した感じは試合前に思っていたとおりで、それに負けちゃうのは自分に問題があると思う。距離をとろうと考えていたんですけど、試合になると前に前にって気持ちが強くなっちゃってね。効いたってのは特にないですね。K－1をまだやりたい気持ちはありますけど、来年、極真の世界大会がありますから。終わってからですね」

▲乱打戦を制したのは中迫。文句なしの判定勝ちだった

# 野地のK－1挑戦 第1章 終幕

▲スロースターターの野地も、徐々にエンジンがかかり、2Rからは手数を見せる

▲寂しそうにリングをあとにする野地。東京ドーム行きの夢は消えた

★第2試合/K－1　JAPAN　GPトーナメント1回戦（3分3R）
○中迫剛（3R判定3—0）野地竜太●
〈日本/ZEBRA244〉　〈日本/極真会館〉
※30—29、30—28、30—28

▲中迫のハイキックが野地の頭を捕らえることもあったが、野地の受けは尋常でなく強い

中迫もハイを返し、バックハンドブローを出せば、バックキックを返すという、凄まじいつばぜり合い。結果は中迫が経験の差で判定勝ちをものにしたが、この打撃戦によって、このトーナメント全体が真っ向勝負の打ち合いとなる雰囲気を作り出したと言えるのだ。

つまり、今大会は極真空手家がトーナメントを盛り上げたと言っても過言ではない。

元極真の富平が武蔵戦で奇跡の打撃戦を見せ、現役極真の野地は、この中迫戦で激しい打ち合いを展開。武蔵にせよ、中迫にせよ、これまで打撃戦を嫌ってきたはずの選手が、彼らと闘うと、不思議と殴り合いに応じてしまう。

なぜなら、極真の精神の源はデタラメだからだ。マス大山の気まぐれな一言で牛と闘い、あるいはブラジルに永住するはめになるかつての極真勢を見れば分かるとおり、気付けば煮え湯が目の前におかれている。

中迫はそれを指して「根拠のないことに根性は出せない」と否定していたが、その〝根拠のないこと〟こそが極真空手家の根拠なのである。

野地自身、試合前は距離を取って、ちゃんとパンチをガードしてから攻撃する作戦を練っていた。なのに、相手の打撃が当たれば、前に出てしまう。それが身体に染みついた習性だからだ。

そして一番重要なのは中迫も野地と闘ううちに、そういう闘いに変わっていったこと。男と男同士の真っ向勝負に酔う感覚。それはロマンということで、極真魂とはロマンの塊なのである。　（ブチ）

# 武蔵流にはまった天田が怒りの激白！「俺は仕事を何をやっているのか分からない（怒）」（天田）

## 天田の1RKO宣言 武蔵流に敗れる！

### 天田のコメント

「もう、今日はしゃべる気がしないです。あれで引き分けだったら、何やったら勝てるんだか分からないし、本当に倒さなくちゃダメ。負けた理由はまったく分からない。2R終わった時点で勝ったと思っていたんで。1R、2R取った時点で勝ったと思って、3R見てしまったんですけど。あれで30－30だったら、俺は仕事を何をやっているか分からない」

▲天田は1RKOを宣言し、丁寧にボードまで用意。観客も、これにのせられて、大盛り上がりとなった

▶3R、天田のヒザが武蔵の金的に。クリンチの多い試合だったために、当たってしまうのもやむを得ないだろう

本戦はポイント差がなくドロー。そして、延長でようやく決着が付いたこの試合。2R終わった時点で勝ちを確信していた天田にはショックなことだろうが、とにかく長かった……

★第4試合/K－1 JAPAN GPトーナメント1回戦（3分3R）
○武蔵 （延長判定2－0） 天田ヒロミ●
〈日本/正道会館〉 〈日本/TENKA510〉
※10－9、10－9、10－10。本戦は0－0（30－30、30－30、30－30）でドロー。3Rにクリンチが多いため、両者に注意1、天田にはローブローによる注意1あり

## これぞ、武蔵流の蟻地獄！

## 「2R終わった時点で、勝ったと思った……」（天田）

▲角田レフェリーを開始早々からいらつかせたのがこのクリンチ。とにかく、2人を怒鳴りつけたが、最後まであまり効果はなかった

▲こんなハイキックを見せた武蔵だったが、やっぱり倒すまでには至らず。武蔵流が爆発した試合だった

▲「我が人生に蹴りはなし」の天田だったが、今回はローキックを使う作戦も考えてきた

▲1RKO宣言の天田は、初回からパンチをバンバンと打ち込み、武蔵を追い込んでいるような場面もあった

この試合は、天田が前日の会見で1RでのKOを宣言したため、試合前から、会場のファンは盛り上がっていた。期待度が高かったのだ。ところが、試合の結果は延長まで突入し、判定決着。武蔵がいつものように、何食わぬ顔で勝利をものにしてしまった。

これに怒ったのが天田。何に怒ったのか？ 判定の結果だ。本人曰く、「自分はボクサーなので計算ができる。2R終わった時点で勝ったと思った。これでは本当に倒さなくちゃダメ」と、インタビュースペースで判定に不満があることを激白した。

それにしても素晴らしいのは、武蔵の信念の貫き方。武蔵は、他流試合だろうがなんだろうが、自分のペース、〝武蔵流〟のペースを常に貫き通す。判定でも勝ちは勝ち。例え、倒しに行けるような状況でも、決して無理をせず、自分のペースを崩したりしない頑なな信念を持っている。

一方の天田は、KO宣言をしておきながら、試合中にポイントを計算したりして、初志貫徹を忘れていた。これでは、武蔵のペースにはまるばかり。天田は計算を始めた時点で、〝武蔵流〟の蟻地獄に引き込まれていたのだ。「本当に倒さなくちゃダメ」ではなく、宣言どおり倒しに行き、ファンの期待に応えないと、それこそダメだ。

天田は、「俺は仕事を何をやっているか分からない」と吐き捨てた。武蔵は仕事をキッチリと自覚している。〝武蔵流〟という信念をもって、試合をすること。この自覚の違いに、武蔵と天田の勝敗の分かれ目があったのだ。（小松）

## 石井館長のジャパンGP総括

# 「サップは10・5の開幕戦当確です。マッチメイクも組み替えようと思ってます」

—初めてのレフェリーはどうでしたか?

**石井**　サップは凄いですよ。1発だけアビディの右ストレートが思い切り入ったけど、サップは何にも効かずにそのまま攻撃してたから、アビディが引いちゃった。ブロックの上からでも効きますよ。クリーンヒットでなくても効く。あれで力抜いて打てば3倍になりますよ。僕自身もサップのパワーがK—1ファイターのテクニックで止まるのかなと。ぜひホーストとの試合を見てみたいなと。後頭部のパンチでアビディたちが抗議してくるのは分かってました。でも、アビディを真横に向けさせてしまうパワーがサップにはありますね。レフェリーは癖になりそうです（笑）。たぶん、レフェリーをやったら僕が一番うまいですよ。サップVSホーストとかのレフェリーをやってみたいなぁ。

—サップ選手は開幕戦は当確ですか?

**石井**　10・5は当確です。マッチメイクも組み替えようと思ってます。

—サップ選手は10・5の後に10・14の新日本ドーム大会も出るんですか?

**石井**　まだ本人には言ってないけども。

—サップは猪木さんとならやると言ってみたいですが……。

**石井**　猪木さんはやらないでしょう。でも、サップは連戦がきくタイプですからね。チャイナ（ジョーニー・ローラー）でもいいんですけど（笑）、できればライガーとかプロレスができる人がいいですね。

—サップ対策はどうしたらいいでしょうか?

**石井**　まっすぐ下がったらダメですね。

—対抗できるK—1ファイターは?

**石井**　ジェロムとかいいでしょうけど、相打ちになると分からないね。ホーストのテクニックしかないかも。ジェロムは正面から打ち合ったら危ないね。ホーストがもし負けたら今までK—1でやってきたことが無になる。ホント力の前では技は通用しないですよ。倒せるとしたらタイソンとかそういう選手のパンチですね。ホーストに止めてほしいなぁ。グランプリに出て優勝されたら大変ですよ。でも、今日は自信ついたと思いますよ、サップは。俺は一番近くで見てたけど、サップはホントに強いよ（笑）。今日の試合で俺が早く止めたと怒られるのはいいけど、あれは勝てないよ。■

▶今大会は当日午後9時から2時間、日本テレビ系で全国中継された。解説は石井館長、吉田秀彦、タレントの関根勤氏が務めた

# また凄い未知の強豪がやって来た！ボンドラチェック、こいつは◎

▶ラスベガス大会のトーナメントでは、1回戦でフランスのトニー・グレゴリーに逆転のKO負けを食らったものの、今回はパンチではなく、ものの凄い破壊力のローキックで、対戦相手のG・草津の足をくの字に曲げた

◀チェコのモデルで喧嘩屋のピーター・ボンドラチェックは、シリル・アビディを思わせるイケイケのイケメン・ファイターだ。この男、要チェック！

▲試合は2R1分32秒、ボンドラチェックのローキックで、草津は2度と立つことができなかった

# 伝説の黒澤浩樹、40歳の復活！対戦相手の18歳、須田もいい味してる

▶今年、なんと40歳を迎える元極真の伝説の空手家・黒澤が1年ぶりの復活。K—1史上最年少デビューの須田渉と対戦し、2R2分39秒、パンチのラッシュでTKO勝ちした

▶対戦相手の須田も体重113キロの巨漢で、伝統派空手の高校チャンピオン。黒澤のパンチを何発も浴びても倒れることはなかった。ブースカのような風貌はいい味している。でっかく育ってほしい！

# KID この男、凶暴につき

## 会場震撼!

## レフェリーのストップ聞かず、殴り続けたKIDに勝田陣営ぶちキレ! あわや、前代未聞の大乱闘に

▲入場にも個性が光る。KIDは着物のようなガウンを翻しながら颯爽と登場した

▲ランキング3位の勝田に対し、真正面からガンをつけるランキング8位のKID。「お〜っ」と歓声が上がった

▲レフェリーが止めても、拳を下ろし続けていたKIDを、勝田のセコンドが止めようとし、殺気立った両陣営入り乱れての小突き合いが始まった。あわや、大乱闘に発展か!?　場内に緊張が走った

▲見ていて怖くなるような表情で勝田を殴り続けたKID。勝田は完全に心を折られているようだった

★第6試合/ライト級(5分3R)
○山本"KID"徳郁(1R2分45秒、TKO勝ち)勝田哲夫●
〈日本/PUREBRED大宮〉　〈日本/SHOOTO GYM K'z FACTORY〉
※グラウンドでのパンチ連打で、セコンドよりタオル投入

ゾッとした。

〝身の毛がよだつ〟という表現は、こんな時に使うのだろう。

勝田を殴り続けていたKIDが、ニヤッと笑った瞬間だ。落ち着き払った表情。クールな目。そして、わずかに開いた口から見える、ギザギザ模様のマウスピース。

おそらく、殴られながらも反撃のチャンスをうかがっていた勝田も、あの表情で睨まれ、的確かつ強烈無比な拳を顔面に打ち込まれているうちに、徐々に戦意を奪われ、遂にはひたすら防御することしかできなくなってしまったのではないだろうか。ガードポジションも取れず、ただ身体を丸めるようにしながら、両手で必死に顔面をガードする勝田の表情には、明らかに〝恐怖〟が宿っていた。リングサイドの記者席から見ていても、戦慄を覚えずにはいられなかった。

修斗は格闘競技であり、ルールに則ったスポーツである。最近ではオシャレでカッコイイ、そんなイメージばかりが先行しているが、KIDの闘いを見ていたら、修斗がそんな甘っちょろいスポーツなんかではなく、本物の闘いであり、命を張った格闘技なのだということを改めて痛感させられた。

今回のKIDの闘い方には、賛否両論あるだろう。レフェリーが試合を止めた後も殴り続けた行為は、決して誉められることではないし、最悪の場合、相手の生命をも奪いかねない非常に危険なことであり、認められることではない。

しかし、相手を完膚無きまでに叩きのめそうとするのは、いわば格闘家の本能のようなもの。「やら

PROFESSIONAL SHOOTO in YOKOHAMA
9・16★横浜文化体育館

# 殴る！殴る！殴る！

## レフェリーが止めてもさらに殴る！殴る！

### KIDのコメント

「レフェリーがストップした時に、相手の目がまだ生きていて、俺のことずっと見てたから、これでやめたらまた立っちゃうと思って。相手はまだ失神していなかったんで。いっつもカッとなっちゃうんで……、まだ試合（経験）が浅くて。ちゃんと礼儀正しい試合をしなきゃいけないと思うけど、今はまだ自分のことで精一杯で。これからそういう練習もします。相手がビビッていたとかは、俺には分からないです。俺も必死だったんで」

▲開始早々、KIDの勢いに押されるように座り込んでしまった勝田に、KIDはすかさずヒザを突き立てる

▲仰向けになった勝田は頭を抱えて防御するのみ。KIDの圧力に押され、体勢を立て直すこともできない

▲為す術なく打たれ続ける勝田を見かねたセコンドがタオルを投入すると同時にレフェリーが試合をストップ。しかし、KIDの殴る手は止まらず、勝田は失神

▶緊張から解き放たれたKIDは、義兄であり師匠であるエンセンの胸に顔を埋め安堵の涙を見せた

## ニヤリッ

▶パンチを入れながら「ニヤリッ」と笑ったKID。リングサイドで見ていて、ゾッとする表情だった

▲落ち着き切った表情で、的確に顔面パンチを打ち込むKID

## 怖いほど強い！KIDから目を離すなっ！

▲こういうポーズがとにかく絵になる。人気があるわけだ

なければやられる。倒せる時に確実に仕留めなければ、次に倒されるのは自分」。言うまでもないが、これが勝負の鉄則だ。

たしかに冷静さを欠いていた部分はある。「何もあそこまでやらなくても」と周囲が非難するのももっともな話。試合後のKIDは「相手の目が生きていて、俺のことずっと見てたから。いつもカッとなっちゃうんで……」と、バツの悪そうな表情を見せた。

「これからは礼儀正しい試合をしなきゃいけないと思う」とも言っていたが、度さえ超すことがなければ、礼儀正しい試合を心掛ける必要なんてないと思う。KIDのファンは、ちょっと危険な香りのするKIDが見たいのであって、行儀の良いKIDなんて見たくないはずだ。KIDの魅力は、強さもさることながら、「やるかやられるか」の勝負ができる潔さ。お行儀の良いアスリートばかりだったら、修斗にしたって他の格闘技にしたって、人気なんて絶対に得られない。KIDのような、ひとつ間違えれば嫌味なほどに強烈な個性を持った選手が、ファンを熱くさせるのだ。

KIDがレフェリーストップ後も、勝田を殴り続けたため、勝田のセコンド陣が外側から止めに入り、そこから両陣営が入り乱れての大乱闘になりかけた。まさに一触即発の状態。不謹慎な言い方かもしれないが、この乱闘騒ぎのために、横浜大会は間違いなくファンやマスコミにとって心に残る大会となった。そして、KIDが今まで以上に気になる存在になったことも事実である。（ハヤシ）

# 派手さはないけどコクはたっぷり『キャラじゃない』2人のメインを堪能！

## 「地味すぎ」なんて誰が言った？ 今大会のベストバウトは大石VS池田！

▲どーよ、この顔！　メインを張るには地味かとも思われた大石真丈VS池田久雄のフェザー級チャンピオンシップだが、技と技、意地と意地がぶつかり合う素晴らしい試合になった。閉会式でも、両者は健闘を称え合うように隣同士に並ぶ

「これ、ビッグマッチのメインにしちゃ地味すぎない？」

試合前にはそんな声も聞こえた、大石真丈VS池田久雄のフェザー級チャンピオンシップ。たしかに、華というか派手さに欠ける2人ではある。まず顔だけ見たら、大石は格闘家というより下町の職人であり、池田にいたっては高校の美術部員というか、痴女モノAVに出てくる童貞男優っぽい。大石本人さえ、大会場でのメインを「キャラじゃない」と言う。

だけど、そんな男たちが、この日出場したどの選手よりも会場を沸かせる試合をしたのだ。

大石と池田は過去に2度闘っていて、戦績は大石の1敗1分け。大石も別の意味でチャレンジャーだったわけだ。そのせいか、両者は1Rから尋常じゃなくアグレッシブな、テンションの高い攻防を繰り広げていった。グラウンドで上から攻めるのはもちろん、下からも一瞬のスキさえあれば三角、十字を狙う。スタンドでも、打撃を得意とする池田に対して大石もヒザで対抗、一歩も譲らない打ち合いが展開される。

闘志とテクニックが高いレベルで噛み合った、濃密なる5分3R。地味だと言われた2人が、誰よりも輝いて見えた。ドローという判定に文句はない。両者とも本当に素晴らしかった。ただ、そうなるとタイトルマッチの残酷さが浮き彫りにされる。負けてはいないのに、ベルトを奪えなかった挑戦者は〝敗者〟となってしまうのだ。

「挑戦して引き分けで終わるってことほど悔しいことはないでしょう」と大石は言う。

PROFESSIONAL SHOOTO in YOKOHAMA
9・16★横浜文化体育館

# 息つく暇もない極めの攻防！

### 大石のコメント

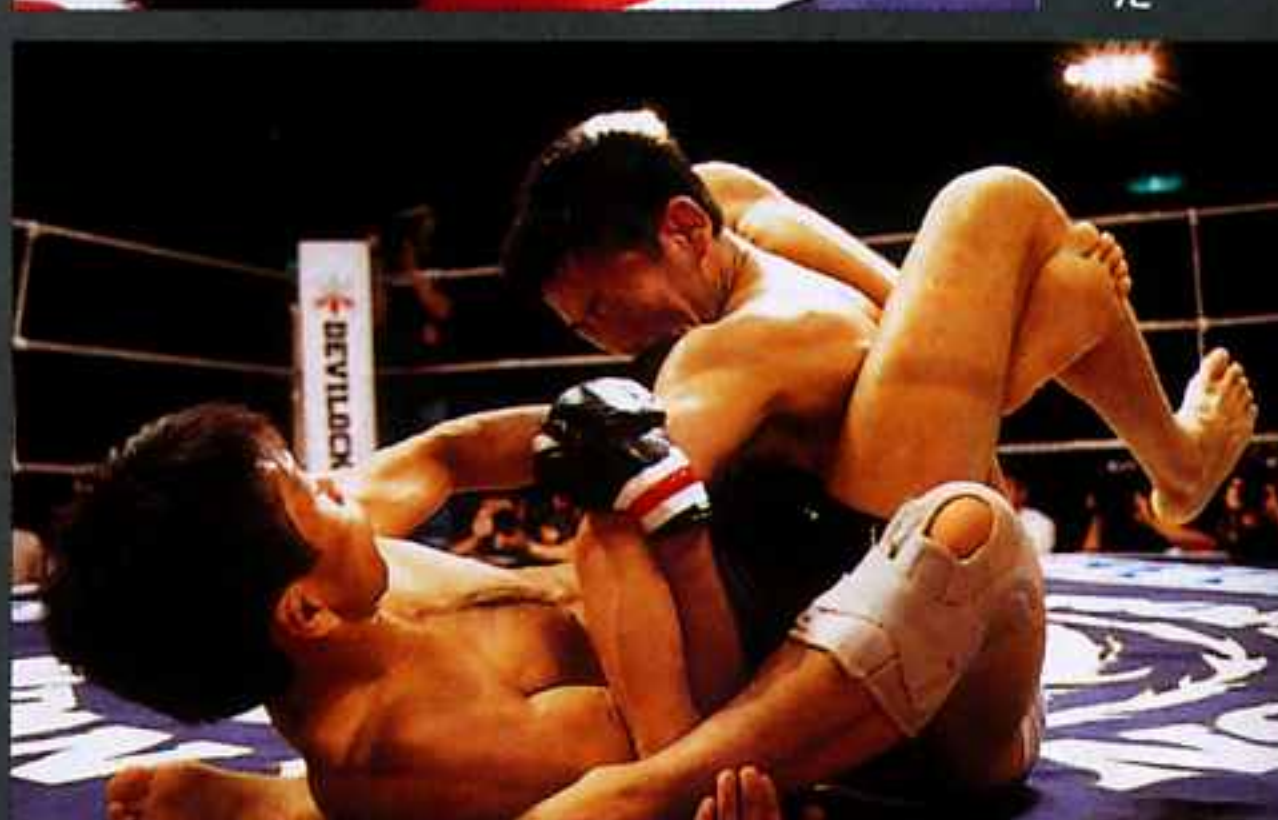
「やっぱり（池田は）強い。気持ちの張りが、挑戦する立場と受ける立場じゃ全然違うから。トーナメントに関しては、オレは優勝者とやるとは一言も言ってない。それを言いたくて今回は頑張ったと。それで、周りが許してくれるなら（秋本）じんさんとやりたい。長い付き合いだし、恨みっこなしでできればいいなと」

### 池田のコメント

「またやり直すしかないですね。3Rに“やっちゃったな”ってのがあったんで、負けを確信しながら判定を待ってたっていうか。3Rは自分のミスですね。声援が聞こえたんで、あきらめないことだけで。それまでは間違ってなかったと思うんですけど。再戦？　してくれるんならやりたいっすねぇ」

▲インサイドガードから池田の左腕を殺し、次の一手を探る大石。グラウンドでのパンチも抜群の威力、タイミングで決まっていた

◀何度も三角絞めや十字を仕掛けていった池田。1Rに見せた変型の十字には「キャッチ」がコールされた

▲最終3R後半、大石はバックを取って横三角、さらに腕を取りにいくが、池田は足まで使ってディフェンス。その後、三角絞めも深くクラッチが入ったが、極まりきらないまま試合終了となった

▲大石も一本を取ることしか頭にない。三角絞めからヒジを極める三角固めを連発

▲試合を中継するJスカイ・スポーツがスポンサーとなって、賞金100万円と次期王座挑戦権をかけた『フェザー級サバイバー・トーナメント』（8名参加）が開幕。今大会ではABKZ（アベカズ。パレストラ東京）と今泉堅太郎（SKアブソリュート）が対戦。打撃のABKZ対サンボの今泉という対決だったが、逆に今泉が差し合いからの上段ヒザ蹴りでダウンを奪い、その勢いのままパンチを連打してタオル投入によるTKO勝ちをもぎ取った（1R2分6秒）

▲大石は試合後、次の挑戦者に同門の秋本じんを指名。秋本も「やりますよ、もちろんです！」

## 大石真丈、33歳。今日はこの顔が最高にカッコよく見える！

▶「メインでタイトルマッチなんてキャラじゃないんだけど」と言うが、この日、誰よりもカッコよかったのは、間違いなくこの大石だ

▲池田の大きな武器となったのはローキック。大石はこれに首相撲からのヒザ蹴りで対抗

◀スタンドでの打撃を得意とする池田。前回の対戦では、パンチでダウンを奪って勝っている。今回も要所でラッシュを仕掛けていたが、大石もひるまない

★第8試合・メインイベント/フェザー級チャンピオンシップ（5分3R）

**△大石真丈（3R判定1-0ドロー）池田久雄△**

〈日本/SHOOTO GYM K'z FACTORY〉　〈日本/PUREBRED大宮〉

※採点…29-29、30-28（大石）、29-29。大石のドロー初防衛

▶試合終了のゴングが鳴ると、池田は大石に深々と頭を下げた。判定はドローで大石が初防衛に成功

「アイツだって、いろいろ捨ててきてるんだから。ここまで、それはオレも分かるし」

タイトルを取れば「2年間休もうかな」と言い出したり、試合で鼻血が出れば鼻の両穴にティッシュを突っ込んで会見場に現れたりと、カッコよく見られようって気がまるでない大石なのだが、いきなりグッとくる台詞をもらすことがある。今回もそうだった。

「（試合前）緊張感がなくて〝こりゃ潮時か〟と思ったんだけどね、でもブザマな試合だけはしたくなかったんで……」

そして、今大会から鳴り物入りで始まった、次期王座挑戦権をかけたトーナメントには「オレは優勝者とやるなんて一言も言ってないから」と王者のプライドをチラリと覗かせ、自らは挑戦者に同門の秋本じんを指名。

「このままじゃ、あの人チャンスなくて沈んでっちゃうから。ずっと勝ってるんだから（挑戦の）資格あるでしょ？」

今回の試合も「池田の挑戦を受けなきゃいけない」と最初に言ったのは大石だった。目立たないけど頑張って結果を出している者を、大石はマスコミよりもプロモーターよりも先に高く評価するのだ。それは、自分もそんな境遇から這い上がってきたという自負があるからに違いない。エリートには目の届かない場所というのも、確実にある。

大石真丈、33歳。人呼んで〝いぶし銀〟。ベテランならでは、苦労人ならではのコク深い味わいが、修斗の世界をより豊かなものにしている。　（橋本）

# 五味、三島戦〈12・14NK大会〉を前に思わぬ大苦戦！

### 五味のコメント

「いやぁ、一本取りたかったですね、それだけです。負けはないと思いましたけど、チョークでも腕十字でも一本取れたと思うんですよね。KIDさん並にやりたかったですけど、KIDさんのほうがインパクトありましたね。情けない。お客さんに申し訳なかったです。また、勝ちに徹する試合になっちゃったんで。いいところ見せたかったですね。NKでは、こんなもんじゃないということを、今日来てくれたお客さんと友達に見せたいです」

▲2R、ブレナンのタックルを切った五味は、力のあるパンチを顔面にヒットさせた

▶判定で勝利を収めた五味は、納得いかない試合内容に表情を曇らせていた

▶3R終了間際、五味は最後のチャンスとばかり、渾身の力でブレナンの首を絞り上げたが、ブレナンは小外掛けで五味を倒して回避

## 「今日はだらしなかったです、スミマセン」

## ヤバイッ！五味、絶体絶命のピンチ

▶3Rには、十字固め、さらに腕がらみと「あわや」のピンチを迎えた五味だったが、身体を回転させてなんとか難を逃れた

◀試合後マイクを持った五味は「今日はちょっとだらしなかったです。年末まで2カ月半あるんで、しっかり練習して三島選手と闘って防衛します。スミマセンでした」と頭を下げた

★第7試合/ウェルター級（5分3R）
**○五味隆典（3R判定3-0）クリス・ブレナン●**
〈日本/木口道場レスリング教室〉　〈アメリカ/ネクストジェネレーション・ファイティング・アカデミー〉
※採点…30-29、30-28、30-29

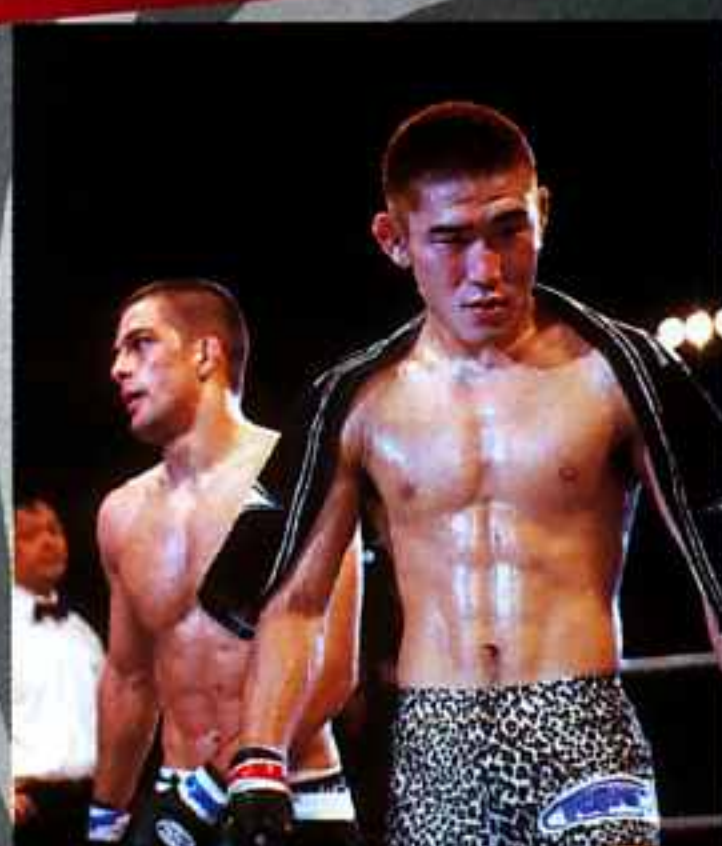
12月のNK大会で、三島☆ド根性ノ助の挑戦を受けることが、ほぼ決定的となっているチャンピオン五味にとって、前哨戦とも言うべきこの一戦は絶対に勝たなければならない試合。しかも、9月7日のDEEPで、三島がパンクラスの伊藤崇文を秒殺し、圧倒的な強さを見せ付けているだけに、それに負けないくらいインパクトのある内容で、しっかりと王者の力を見せておかなくては。おそらく五味はそう考えていたはずだ。

しかも、相手のクリス・ブレナンは日本では無名。前KOTCミドル級王者という肩書きはあるものの、実力からすればそれほどの難敵ではないはず、観客同様、五味自身もそう思っていただろう。

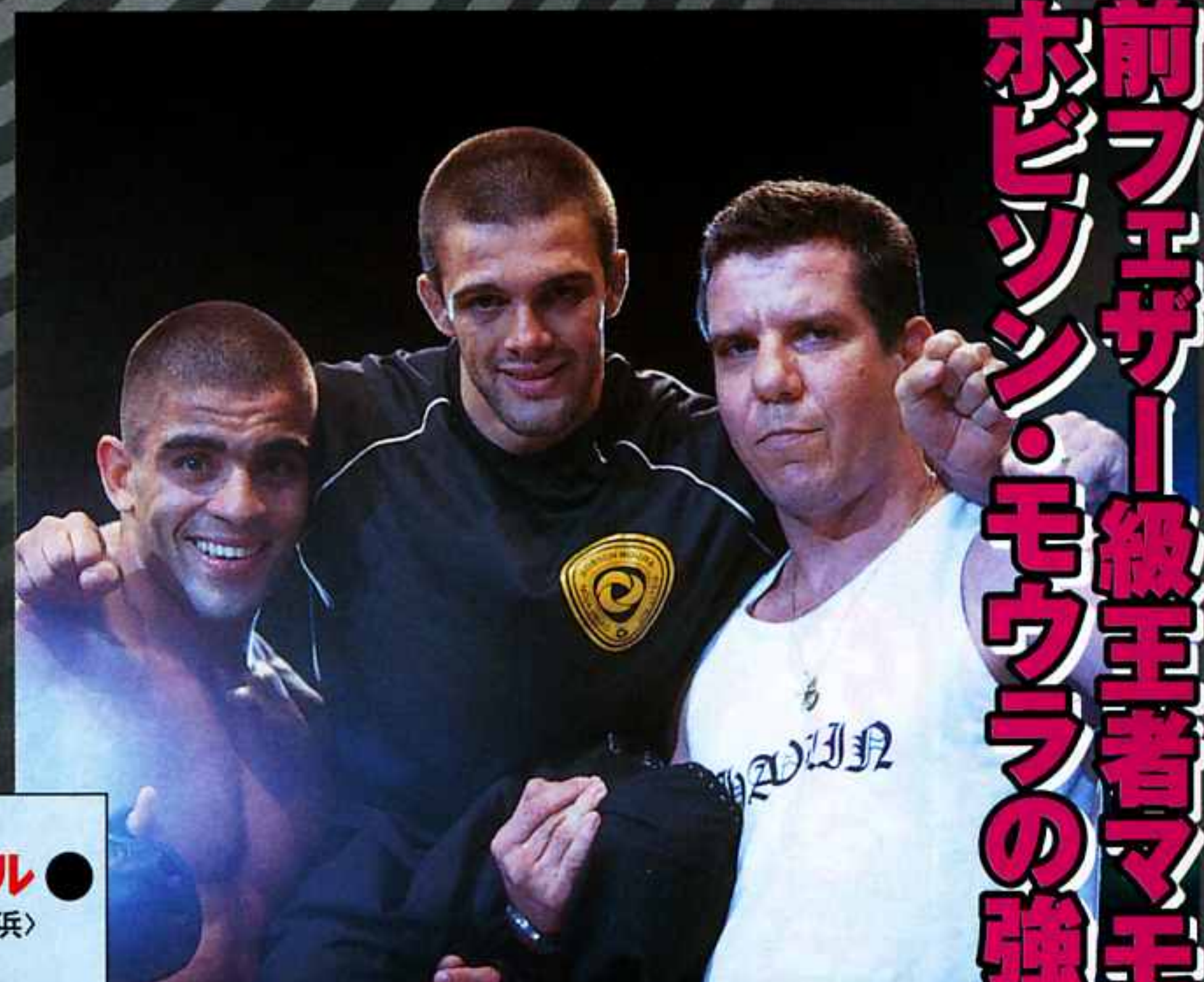
しかし、このブレナンが予想をはるかに上回る実力者。修斗の初登場外国人選手にありがちな、あまり有名じゃないのにとっても強い、いわゆる"タチの悪い"選手だったのだ。

1R開始早々、五味のストレートがいきなりブレナンの顔面を捕らえた時には、「おっ、秒殺か！」と思わせたが、このブレナンの柔術黒帯はダテじゃなく、柔らかい動きで危機を回避するや一瞬のスキを突いては反撃を仕掛ける。3Rには、十字から腕がらみを極めかけ、五味に絶体絶命のピンチを味わわせたほどだ。テイクダウンを4度も奪われるなど、精彩は欠いたものの、そんな強敵からもきっちり勝利をものにした五味は、さすがと言っていいだろう。

いよいよ次は12・14NK決戦。今度こそ、両者最高の状態で最高の試合を見せてほしい！　（林）

# 前フェザー級王者マモルを子供扱い！ホビソン・モウラの強さに大然……

▲バンタムに階級を下げての初戦で、とてつもないショッキングな敗北を喫してしまったマモル。「ポジションに関しては、本物の寝技を体験したなって感じです。タイトルを取られた時より悔しい。こんなに殴られたのは初めてですよ」

▶下になればなったで、立っているマモルの足を絡めて転がしたり、オモプラッタから腕を極めにかかったりと、モウラはやはりアグレッシブ

★第4試合/バンタム級（5分3R）
○ホビソン・モウラ（3R判定3-0）マモル●
〈ブラジル/ノヴァ・ウニオン〉　〈日本/シューティングジム横浜〉
※採点…30-28、30-27、30-28

▲圧倒的な力を見せたノヴァ・ウニオン勢。中央がモウラ

▶サクサクとポジションを進め、いとも簡単にマウントを奪取してしまうモウラ。想像を上回る、恐るべきテクニックだった

「そんなことを言われても困るけどさぁ……」

試合後のインタビューで、モウラが思わず答えに窮した質問があった。それは「マモル選手があんなにやられるのは初めて見ました」というもの。聞かれたモウラは困っただろうが、我々からすると目を疑うような試合だったのだ。前フェザー級王者、打・投・極を高レベルで兼ね備えたマモルが、まるで相手にならない。モウラは、まるで白帯相手のスパーリングのようにサクサクといいポジションを奪い、パンチを打ち込んでいく。ムンジアル（柔術世界大会）5度優勝の技術には「なんでこんなことができるんだ？」とア然とするしかなかった。それでいて「次に来た時は、今回見せられなかったテクニックをたくさん出したい」などと言うのだから……。「柔術ではやることがなくなった」と修斗に参戦してきたモウラだが、このままではそう遠くないうちに「修斗でもやることがなくなった」と言い出してしまうかもしれない。（橋本）

# 植松に覇気なし！まさかの敗戦

▶〈第2試合〉ライト級6位の植松直哉（K'zファクトリー）だが、今回は相手のパオ・クァーチ（ネクスト・ジェネレーション・ファイティング・アカデミー）が修斗2戦目のクラスBということで2回戦に出場。当然、完勝しなければいけない相手だったが、なんと判定3－0でまさかの敗北！

▼テクニックで上回る植松は、相手のタックルに逆らわず、下からの攻めを選択。1R序盤には鮮やかなスイープを決めたが、その後はガードポジションからの仕掛けをことごとく潰されて殴られ、試合終了直前には十字の体勢にも入られてしまう。この日の植松には、技術以外の全てが欠けていたように思えてならない

# シャオリンも鶴屋浩を完封！

▲〈第5試合〉ウェルター級3回戦では、ついにビトー"シャオリン"ヒベイロが日本での修斗公式戦に初登場。柔術で数々の優勝歴を誇り、99年の『バリ・ジャパ』での柔術マッチで中井祐樹を圧倒。アメリカで行われた修斗公式戦では中山巧（現・タクミ）に一本勝ちしているシャオリン。今回も鶴屋浩（パレストラ松戸）の必死のディフェンスに一本こそ逃したが、終始バックを取るなど攻め続けての快勝だった（判定3－0）

◀「今回が最後の試合になるかも」と、自ら柔術世界王者との対戦を望んだ鶴屋浩。差し合いの最中にも、この気合いの表情だ。アマチュア時代から得意とする首投げにトライ、打撃でも果敢に一発を狙っていった鶴屋だが、シャオリンは全て封じてしまう。最高の相手と闘って「完全燃焼しました」という鶴屋は、試合後に修斗引退を宣言

# 待ってろ、極真！

## 進化し続ける〝新・ミスターー正道カラテ〟加藤達哉、重量級2連覇達成！

▶重量級の決勝戦は昨年と同じ加藤達哉VSハリス・ライツの闘いに。序盤からハイペースで攻めまくった加藤が本戦で勝利をものにした

★重量級/決勝戦
○加藤達哉（本戦5-0優勢勝ち）ハリス・ライツ●
〈東京本部〉　〈スイス支部〉

正道会館の全日本大会は、ここ数年いつも9月最初の日曜日に開催されている。たしかに、秋は空手のシーズン。各流派の全日本大会が集中して行われる時期ではあるのだが、それにしてもかなり早いほうだ。でも、それには理由がある。

打倒・極真。そう、フルコンタクト空手の最高峰、毎年11月初めに開かれる極真全日本大会に代表選手を送り出すためもあって、正道の全日本大会はその2カ月前に行われるのだ。正道会館の代表となった選手たちが試合のダメージを抜き、さらに極真勢と闘うための稽古を積むためには、どうしてもそれだけの時間が必要になってくる。

そんな正道会館の打倒・極真の歩みの中で最大の成果を残したのが、加藤達哉である。昨年、正道全日本の重量級で初優勝を果たした加藤は、続く極真全日本でもベスト8に食い込む活躍。正道会館の歴史の中で、極真（無差別）の表彰式に出たのは加藤だけだ。

そして今年も、加藤は正道の重量級王座を獲得。去年はまだ〝若手のホープが念願の初優勝〟といった雰囲気だったのだが、今年は王者の風格というか、実に堂々とした闘いぶりでの連覇達成だったと言える。

初戦から本戦5―0で危なげなく勝ち上がり、準決勝では東京本部の先輩、「黄帯の頃から目をかけてもらっていた」という出畑力也に再延長にわたる激闘の末、勝利を収める。そして圧巻は決勝戦。苦戦が予想されたハリス・ライツに、本戦であっさり勝ってしまっ

正道会館
第4回ウェイト制
全日本空手道選手権大会
9.1★大阪府立体育会館

# 去年は極真ベスト8　今年はもっとイケるぞ！

## 軽量級、中量級はそれぞれ本命が制す！

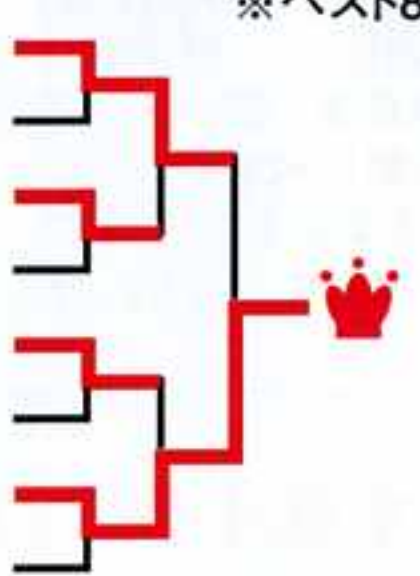
◀軽量級は大渡博之（右・東京本部）が優勝。決勝も昨年と同じ高雄文男（南大阪本部）との対戦だったが、延長4－0で勝利した。アクシデントの顔面殴打などもあってすんなりと勝ち上がったわけではなかったが、確かな実力を発揮しての連覇だ

▶前年優勝者の村尾健司が軽重量級に移ったため優勝争いが混沌状態だった中量級。その中で一歩抜けた存在と見られていた工藤健太郎（右・埼玉支部）が、決勝で石塚一睦（東京本部）を下して優勝。一昨年3位、昨年は準優勝だった工藤。4年目のウェイト制でついに初優勝となった

◀今大会、各階級の優勝者たち。左から大渡博之（軽量級）、工藤健太郎（中量級）、外岡真徳（軽重量級）、加藤達哉（重量級）

### 《重量級トーナメント表》

※ベスト8

ハリス・ライツ〈スイス支部〉
中田太郎〈総本部〉
沢田秀男〈東大阪本部〉
谷村光教〈士道館〉
出畑力也〈東京本部〉
高原信好〈中部本部〉
加藤達哉〈東京本部〉
神谷友和〈士道館〉

▶左の中段回し蹴りとヒザ、突きの連打を効かせていった加藤

▶「途中で効いたのが分かったんで、本戦で決めようと思った」という加藤。一気にラッシュをかけていく

▶豪快な連打で、ライツを場外まで押し出す。試合終盤は、一方的な加藤のペースになった

▲軽重量級、重量級の決勝戦では、石井館長が主審を務めた

## なんと本職は高校教師！

◀2連覇を達成した加藤。本業は高校の英語教師で、「7月、8月は時間がたっぷりあったんでいい練習ができました」。次の目標は、過去に佐竹雅昭が成し遂げた3連覇を超えること、そして打倒・極真だ。「11月（の極真全日本）に向けて、1週間だけ休んで、またすぐに追い込んだ練習をします」

◀もう一つの準決勝では、ライツと沢田秀男が対戦。沢田は昨年の軽重量級王者だが、アメリカ大会でライツに負け、雪辱を期して重量級に上がってきた。試合はやや沢田が優勢だったが決着が付かず、試割りでライツが勝利した（ライツ17枚、沢田12枚）

▶加藤は準決勝で、東京本部の先輩である出畑力也に再延長4－0で勝利。「出畑先輩には黄帯の頃から目をかけてもらってたんで、感慨無量です」と加藤。2年ぶりの王座奪回はならなかった出畑も、加藤の成長ぶりをよく知っているだけに、納得の表情だった

たのだ。

ハリスは3年前の初出場以来、連続して最優秀選手賞を獲得し続けているスイス支部の強豪（つまりアンディ・フグの弟子ということになる）。今年も巧みな足技とパワフルな突きのラッシュで決勝まで勝ち上がってきた。

が、加藤はそのライツを、時には場外まで押し出すほどのラッシュで圧倒し、優勝を決めた。普通、日本人が外国人に勝つ時のパターンといえば、うまさ、器用さを武器にするもの。だがそれは加藤の組手には当てはまらない。

そしてこの試合内容は、2カ月後に待っている極真との闘いにも大きな、それこそ去年以上の期待を抱かせる内容だった。というのも、極真に挑む際の正道勢の最大の課題が、このラッシュ力だからだ。技の多彩さや試合運びという面では決して極真に負けていないのだが、ここ一番（例えば試合のラスト30秒）での強引な連打に押されて敗れる、という場面が正道会館の選手たちには多い。

その意味で、今回の加藤が見せた突きとヒザでの突進力は、打倒・極真へ向けて加藤がまた一歩進化したことを証明するものではないだろうか。加藤自身も「（ライツに）当たり負けしなかったのは自信になりました」と言う。

「去年の（極真）ベスト8は、心のよりどころになってますね。それまでとは意識が変わったというか」

11月。成長を続ける正道カラテの担い手が、さらに高いレベルの〝よりどころ〟を得ている可能性は充分にある。（橋本）

正道会館
第4回ウェイト制
全日本空手道選手権大会
9.1★大阪府立体育会館

# 子安を襲った試割り地獄！されど久々の〝空手〟を満喫

## ムチャですよぉおお！積みも積んだり瓦30枚！

▶▲準々決勝、準決勝と連続で試割り判定まで試合がもつれた子安。準々決勝では25枚、そして準決勝では30枚にトライした。が、それでも決着が付かず、2試合とも再々延長での勝利となった。準決勝では、試割り後に腕から出血してしまう

◀もつれにもつれた試合が続いた子安だが、組手そのものは悪くなかった。ここ一番の勝負どころでは子安キックも繰り出していた。「準決勝までは、やってて本当に楽しかったです」という（写真は準決勝・春山成千戦）

▲僅差だったものの、審判の旗は外岡に上がった。「不完全燃焼でした」と子安。外岡にとっては「途中で向こうの動きが止まったんで、勝てる時に勝っておこうと」と、狙いどおりの勝利だった

▶一昨年は中量級で優勝、昨年は軽重量級で準優勝だった外岡。今回も準々決勝で合わせ一本勝ちするなど、充実した試合内容での勝ち上りだった

▲決勝戦は子安と外岡真徳の闘いに。子安は去年、準決勝で試割り判定で外岡に敗れているが、今年は本戦決着。「ジャブ的に使った」という外岡の左上段回し蹴りが冴えていた

### 《軽重量級トーナメント表》

※ベスト8

外岡真徳〈阿倍野支部〉
松本隼也〈東京本部〉
福永規男〈中部本部〉
鈴木修司〈東京本部〉
村尾健司〈南大阪本部〉
春山成千〈総本部〉
子安慎悟〈東京本部〉
地主正孝〈総本部〉

★軽重量級/決勝戦
○外岡真徳（本戦4-0優勢勝ち）子安慎悟●
〈阿倍野支部〉　〈東京本部〉

過去4回の優勝を誇る子安慎悟でも、さすがに今大会は地獄のようなトーナメントじゃなかっただろうか。なにせ準々決勝、準決勝と2試合連続で試割り判定までもつれ込んだのだ。

準々決勝、地主正孝戦では瓦25枚を積んで17枚を割ったが、相手も同枚数でさらに延長。準決勝の春山成千戦では、なんと30枚を申告。去年も同じ枚数にトライして、結果的に外岡真徳に負けているのに、だ。だが今回は春山が割ったのも12枚で、またまた特別延長戦へと突入してしまった。

どちらの試合も、決して動きは悪くなかった。だけど相手との噛み合わせなのかなんなのか、なぜか旗が上がらない。それでいて外岡真徳との決勝では、エンジンがかかる前に判定で敗れてしまった。

これじゃさぞかし悔しいだろうなと思ったが、試合後の子安は意外にスッキリした表情をしていた。やはり決勝戦は不完全燃焼だったようだが、それ以外の試合は「やってて楽しかった」というのだ。

「久々の空手で、足元を見つめ直したというか」

去年の全日本大会以降、子安はK―1はもちろん、『猪木祭』で総合にもチャレンジしている。いろんなことをやってきて、そして戻ってきた〝本業〟の空手を、結果はともかく満喫できた充実感があったんだろう。瓦30枚というムチャなチャレンジも「どうせなら、とことん空手を味わい尽くしてやろう」という気持ちの表れだったということか。子安は今大会で、また新たな闘いへと赴く鋭気を養ったのだ。

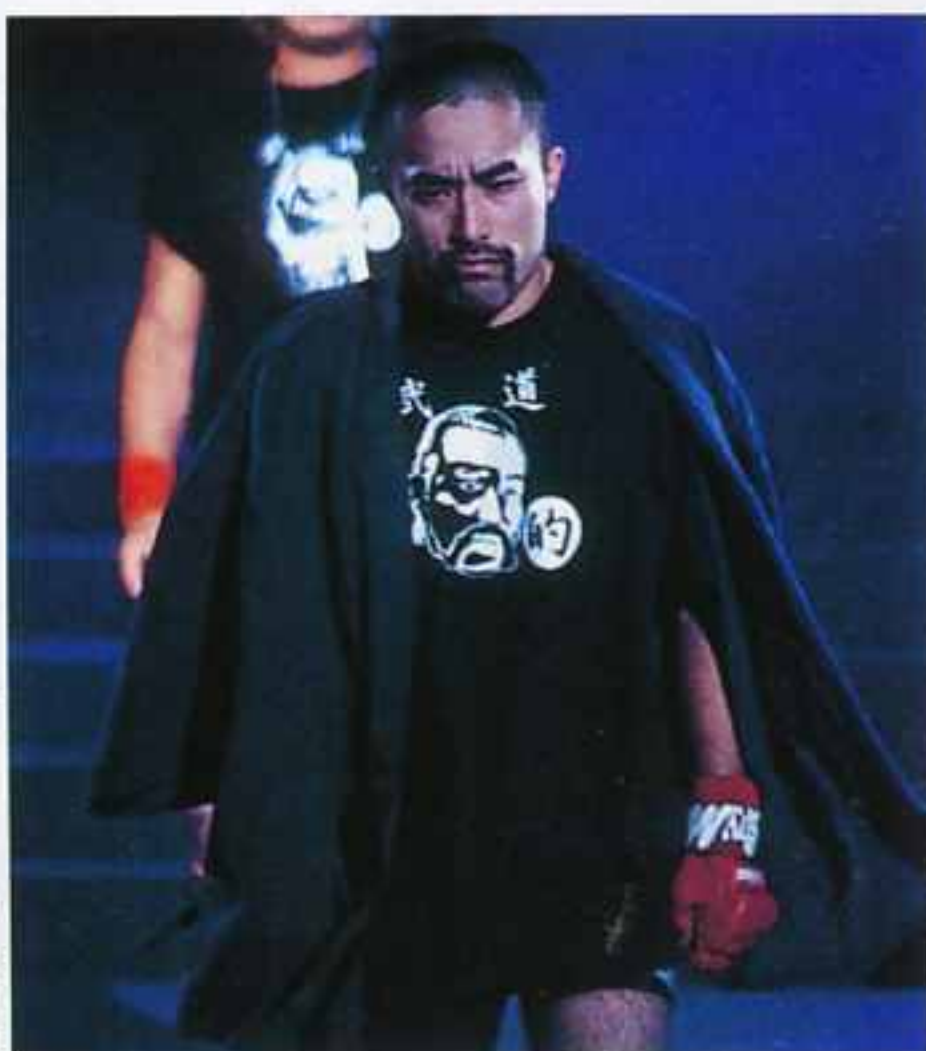
（橋本）

# TOPICS

## リングスKoKルールが復活！ 11・23『ZST（ゼスト）』ディファ有明で旗揚げ！

▲9月11日、TBSでTHE BATTLE FIELD『ZST』の旗揚げ記者会見が行われた。記者会見に出席したメンバーは、右から元リングスの古田リングアナ、レフェリーの和田良覚、『ZST』事務局代表の日置幸輝氏、元リングスの上原譲氏、野呂田秀夫リングドクターと、日置氏以外は元リングスのスタッフと関係者だ。ホームページのアドレスはhttp://www.zst.jp/

今年、2月15日の大会をもって活動を休止したリングス。このリングスの関係者・スタッフを中心として新たにTHE BATTLE FIELD『ZST（ゼスト）』という大会が、11月23日にディファ有明で開催される。この大会は、リングスで使用していたKoKルールを基軸としたルールで行われ、参加選手も中・軽量級の選手が中心となる新しい格闘技イベントだ。『ZST』というのは造語だが、基本となったのは「ZEST」という英単語で「興味、惹き付ける」という意味がある。また、ノアでのプロレス復帰が報道されたこともあって、前田日明が『ZST』にどう関わるかが注目されたが、リングスネットワークの外国人選手の派遣は許可したものの、『ZST』自体には関わらないことになった。そして、気になる参戦予定選手だが、今のところ決定しているのは矢野卓見（烏合会）、小谷直之（ロデオスタイル）、今成和正（TEAM ROKEN）、所英男（チームPOD）の4選手。その他に、リングスネットワークから外国人選手、特にリングス・リトアニアには中・軽量級で有望な選手がたくさんいるため、所属選手の参戦が濃厚とのこと。また、旧リングス・ジャパンの選手に関しても、できるかぎり交渉していくという。来年も2月と5月にディファ有明、8月にも都内での大会開催を予定。KoKルールを採用した新格闘技イベント『ZST』に期待だ。■

▶ノアでのプロレス復帰が噂された前田だが、『ZST』には基本的には関わっていかない。しかし、旧リングスネットワークからの『ZST』への参戦の許可は出したようだ

▶今のところ参戦が決定している選手は、この矢野卓見（烏合会）、リングスに参戦していた小谷直之（ロデオスタイル）、所英男（チームPOD）、そして〝足関十段〟今成和正（TEAM ROKEN）の4人だ

## 島田裕二vsブッカーKがプロデュース対決！ 10・20『THE BEST』開催決定！

### 島田裕二早くも動く！出場選手を募集！

▼10・20『THE BEST』ディファ有明大会で、プロデュース対決を行う島田裕二ルールディレクターとブッカーKこと川崎浩市氏。握手を嫌がったブッカーKは、なぜか目を瞑ってしまった

10月20日、ディファ有明で、『THE BEST』の第3弾興行が開催されることが決定。今回はなんと全8試合中4試合ずつを、『プライド』やK—1でルールディレクターを務める島田裕二レフェリーとブッカーKこと川崎浩市氏の2人が、それぞれプロデュースすることになった。そこで、早くも島田レフェリーは出場選手を募集。プロレスラー及び格闘家で出場したい選手は履歴書を書いて、島田レフェリーが主宰するジムBCGまで応募のこと。島田プロデュースで、一攫千金を狙う猛者はすぐさま応募だ！

◆応募方法　履歴書に必ず写真を貼付し、必ず連絡できる連絡先を記入のうえ、下記のあて先まで送付。所属団体は問いません。

◆あて先　〒106-0044　東京都港区東麻布3-3-1　アイザック東麻布B1F「BCG島田プロデュース」係　☎03-3560-7911

▲この八角形のリングに立ちたいプロレスラー及び格闘家はBCGまで即応募だ！

### 前田憲作クラス大人気でBCGも変わらず絶好調！

▲10月11日にK—1中量級大会で引退試合を行うことになった前田憲作が教えるBCGの打撃クラス。伝説のキックボクサーの技術を身に付けたい人は、BCGに即入会だ

▲バトラーツ時代の盟友で、WWEで活躍するプロレスラーショー・フナキもBCGを表敬訪問。正道空手麻布教室も絶好調だ

# 衝撃！小林聡が挑戦したのは、ボブ・サップ級の怪物だった!!

## ルンピニー王者サムゴーに挑戦も全身ボロボロの公開処刑！

リングを降りると医務室に直行、かなり長い時間の後で出てきた小林は、無惨にも右腕を吊った状態だった。幸い骨に異常はないが、重度の打撲で1カ月は練習ができないという

入場の時点で、醸し出すオーラがケタ違いだったサムゴー

撮影◎吉澤晃

『Dynamite!』でのノゲイラVSボブ・サップ戦に思いっきり興奮し、驚愕し、感動させられた後で、一つ心配になったことがあった。こんな凄いもんを見た後では、どんな試合を見ても何も感じなくなってしまうんじゃないか、ってことだ。

だけど、その9日後に全日本キックのリングで凄まじい選手を見た。小林聡と闘ったサムゴー・ギャットモンテープ。ムエタイの殿堂ルンピニー・スタジアムのJrライト級チャンピオンである。体重はたった60キロちょっと。でも、強さのインパクトはボブ・サップ級の、まさに怪物だった。

ラジャダムナン、ルンピニーの各階級に君臨する王者たちの中でも、とりわけ人気があり、実力を評価されているのが、このサムゴーだという。ファイトマネーも、ムエタイ戦士の中で最高額を稼いでいるとか。

そんなムエタイ最高峰の男に、日本キック界のエースが挑む大一番。平日、しかも雨が降っていたのだが、当日券は全日本キックにおける今年最高の売り上げを記録した。〝小林の試合には何かある〟。それを分かっている者は、後楽園ホールに足を運ばずにはいられなかったのだ。

第12試合、メインイベント。いよいよ決戦。セコンドについた藤原敏男会長が小林の頬を張る。小林はゴングとともに相手コーナーへ突進し、いきなりローを2発！　ケンカに持

Golden Trigger

全日本キック｜9.6★後楽園ホール

# セコンド・藤原敏男の存在がムエタイ王者に火をつけた!?

# 想像を絶する左ミドル!!! 真正面からの潰し合い、小林の腕が壊されたっ！

▶今回は大一番とあって、師匠・藤原敏男会長がセコンドに。試合前、野口レフェリーに「止めるなよ」と耳打ちしたという。この、ムエタイの牙城を崩した最強の日本人の存在がサムゴーを本気にさせたのか？

サムゴーの攻撃はミドルを中心に左一本。「ドスッ！」という鈍い音とともに、小林の腕やワキ腹を襲う

▶シャープな内股へのローキックでサムゴー攻略にかかる小林。敵を倒すことに100％集中しきった、精悍ないい表情だった

▶タイ人には珍しく、サムゴーはローも多用。小林のパンチへの対策だった

▶「蹴りが強いのは想像してたけど……」。途中からガードの腕が上がらなくなってしまった小林

▲「コバヤシのパンチは強かった。もらう可能性もあるなと思った」とサムゴー。しかしかなり警戒していたようで、ガードは高かった

ち込む気だ。サムゴーもそれを受けて立った。あるいは、対角線上にいる伝説の男、藤原敏男の存在がそうさせたのかもしれない。サムゴーは、最初から本気だった。

タイ人の試合にしては、異常に間合いが近い。全ての攻撃が、フルパワーでヒットする距離に見えた。様子見やスカしたり、かわしたりといった小細工の必要がない、真っ向からの潰し合いだ。サムゴーが左ミドルをフルスイングする。

ドスッ！

今まで聞いたことのない音が響いた。体幹部まで食い込みそうな重たい蹴りだ。この最初の一発だけで、サムゴーの怪物ぶりがいやってほど分かった。いや、分からされた。

ボブ・サップの怪物ぶりは、体格という先天的才能だが、サムゴーは後天的。自分の体を徹底的に鍛え上げることで得たものだ。鍛え、磨き抜くことで、人間の体は凶器にもなる。サムゴーという怪物はその生きた証拠なのだ。

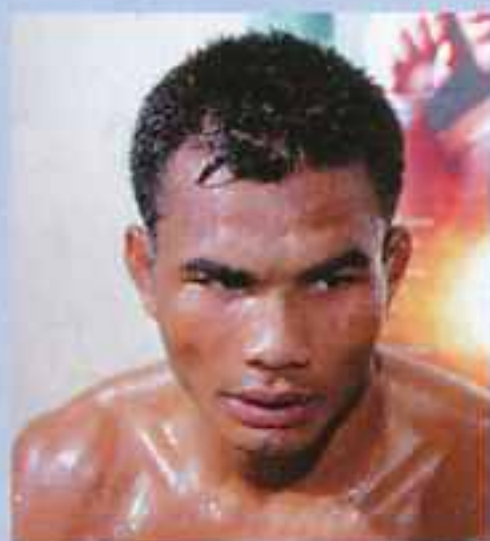
凶器と化したミドルやハイキックを浴びながらも、小林はサムゴーが蹴り終わった瞬間の軸足を狙ってローを打っていく。この時の感触を、小林は「堅い木を蹴ってるみたいだった」という。人間の体を蹴っているのに、なんの反応もなく、ただ簡単にはね返されてしまうのだ。

2Rに入ると、小林の手数、足数が極端に減っていった。ダメージは明らか。あとはもう試合ではなく、公開処刑だった。ミドルで体ごとアオられる。ローで〝く〟の字にされる。サムゴーはさらにヒザ、ヒジでも追撃してきた。

3R。気が付けば小林の右腕がほとんど上がらなくなっていた。ガー

▶花戸忍（左）がJ−NETのタフガイ、蔵満誠を圧倒、判定勝ちで無傷の14連勝を飾った。角度、タイミングを変えた様々なキックにパンチ、ヒジ、ヒザと花戸の技の品揃えは、まさにコンビニだった

▶全日本フェザー級王座決定戦出場をかけたサドンデスマッチ、石川直生（左）の果敢な攻撃に劣勢に立った前田尚紀だったが、3R終盤、パンチの猛攻。一気に逆転KOに持ち込んだ

▶総合でも活躍するキックボクサー同士の対戦。WINDY智美（左）は正確なパンチで、ジェット・イズミを圧倒。判定は2−0だったが、内容的にはWINDYの圧勝だった

## サムゴーのコメント

「100％勝つ自信を持ってリングに上がり、1Rが終わった時、80％勝てると思った。残りの20％は、コバヤシのパンチが非常に強かったから。もらう可能性もあるな、と。ローを蹴ったのは相手の闘い方に合わせたまでのこと。自分はそんなに強いわけではなく、一生懸命練習し、準備を十分にしただけ。強いというのはそういうことだ」

## 小林のコメント

「完敗ですね。サムゴーは想像してたとおり蹴りが強かったですけど、まあ……、何もできなかったですね。（右腕が上がらなくなった？）やってる時はアレでしたけど……よく分かんないですね。完敗ということです、そのままです。（自分のパンチやローに手応えは？）ないんじゃないですかね。完敗です」

# 我々は、見てはいけないものを見てしまったのだろうか——

▼惨敗。うまさではなく、強さで圧倒されただけにショックも大きい。一度は立ってリングを降りようとした小林だったが、エプロンで再び崩れ落ちてしまった

▲ローでバランスを崩す。そのままでも小林は倒れそうだったが、そこへ非情のヒザをぶち込んだサムゴー。これで2度目のダウン

▲3Rに入ると、もうリンチ状態。まずはミドルでガードごと吹っ飛ばしてダウン1

▶そして最後はローキック。上から下まで全身ボロボロにされての3ノックダウンだった

★第12試合/メインイベント（3分5R）
○サムゴー・ギャットモンテーブ（3R2分10秒、KO勝ち）小林聡●
〈タイ〉 〈藤原ジム〉
※3ノックダウン。小林は3Rに左ミドルキック、顔面への左ヒザ蹴り、左ローキックでダウン

ドのはずの腕が、蹴り潰されてしまったのだ。そこへさらに強烈なミドル。小林、ダウン。ローでバランスを崩したところへヒザをもらってまたダウン。そして最後は、ローキックを直撃されて力尽きた……。

あまりにも圧倒的な力の差だった。ムエタイ特有の巧さやずるさにやられたんじゃない。強さでねじ伏せられたのだ。これまで小林がやってきた、命を削るような倒し合いすら「そんなもんレベルが違う」と一笑にふされた感じだ。こうなると小林が負けた悔しさよりも「凄いもん見せてもらったな」という満足感を抱いてしまう。ターザン山本さんは「やること自体がムチャですよぉぉ！」と言っていた。

この試合は「巧さで勝てないなら強さで勝てばいい。判定で勝てないならKOすればいい。打ち合いに持ち込めば、イチかバチかのチャンスが生まれる」という、これまでの〝打倒ムエタイ〟の常識を覆すものだった。本当のホンモノを相手にしたら、そういうことでは通用しないのだ。だったら、どうすればいい？

「ヤツらも見たことのない領域まで行くしかないでしょう」

試合から10日ほどたった頃に会った小林はそう言った。人間、鍛えればあそこまで強くなれるんだってサムゴーを見て分かった。なら、それ以上になるまで練習で自分を追い込むしかない、と。

誰よりも屈辱に打ちひしがれた小林だが、同時に誰よりも高い目標を掲げるようにもなったのだ。それが本当に達成できるのかは分からない。ただ、少なくとも信じてみる価値はある。小林なら……と、こりずにまた思ってしまうのだ。

（橋本）

# ISAMI

SINCE 1932

イサミホームページ | http://www.isami.co.jp/ | e-mail | isami@isami.co.jp

24時間受付 パソコン・携帯・FAXでのご注文・お問合せは24時間受付中!!

●サポーターのみ各種混合で5組まで、同一送料600円となります。

## ハンドパット

組技の練習に最適

L-3056W(白) L-3056B(黒) 大人用 ¥1,300

L-3056JW(白) L-3056JB(黒) 少年用 ¥1,300

## ニーパット(F)

L-124R

1組¥1,800 ●中国製

## イージーレガース L-289

1組¥2,000

特許申請中
意匠登録申請中

マジックテープ式

素材／ポリエステル、レーヨン

●中国製

参考サイズ表(cm)

| サイズ | JS | JM | L | L | XL |
|---|---|---|---|---|---|
| ふくらはぎ回り | 27~33 | 30~36 | 33~39 | 36~41 | 38~44 |

## レッグ&アンクル

D-548 ●スポンジが通常品に比べ倍厚(20mm厚)

1組¥6,000 サイズ:F・LL 色:白・黒

日本製

## ニーガード L-1103

白のみ少年用もあり

サイズ:F・L 色:白・黒

1組¥2,000 ●中国製

## ニープロテクター

L-163 サイズ:フリー

1組¥3,500

## キックアンクル

L-5035

1組¥950

●中国製

サイズ:フリー

## レッグ&アンクル

値下げしました!

●中国製

L-227(大人用) L-227J(少年用)

1組¥1,800

## レガース D-2000

ネオプレーン製

(プロレスタイプ)

1組¥6,500

●台湾製

## キッズセット

値下げしました!

L-10J ●中国製

¥2,800

子供用のサポーターセット。レッグ&アンクルと金的サポーターにメッシュ袋もついて持ち運びも楽々。

## 金的ブリーフ

(カップ付き)

D-750(大人用)

¥2,000

D-750J(少年用)

¥1,800

日本製

## 金的サポーター

(カップ付き)

L-672(大人用)

¥1,500

L-672J(少年用)

¥1,500 ●中国製

## アウトカップサポーター

(カップ付き)

直販のみ

L-646 ●中国製

定価¥2,500を¥980

さらに値下げして¥700

## ニーガード L-400

1組¥2,000

サイズ:フリー

## 試割ブロック CB-2

NEW

モデル/大野崇 96年全九州大会優勝 ISKA世界ミドル級チャンピオン K-1 WORLD MAX日本代表決定トーナメン

1ケ ¥600

3ケ¥1,800 ●ご注文は3ケセットとなります。
送料¥1,500

●サイズ:高さ39cm×幅19cm

●厚さ10cm

●重さ:約4.9kg

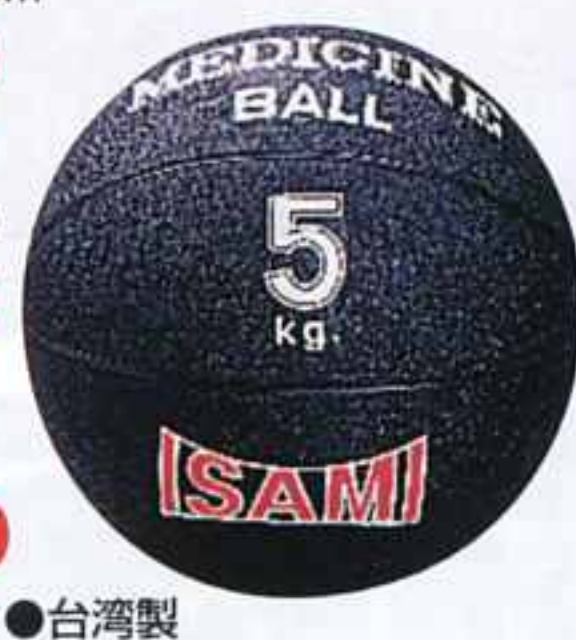
通常のブロックより6割割れやすい!

日本製

## メディシンボール

CN-3K直径約23cm ¥3,200 送料¥600

CN-5K直径約27cm ¥5,500 送料¥800

CN-7K直径約27cm ¥6,500 送料¥1,000 ●台湾製

ゴム製なので持ち易く、滑りにくい構造。

日本製

## マウスピース

US-120

¥1,200 送料¥600

●上下の歯や、顎を高度に保護します。

●アメリカ製

※実物のケースは模様ありません。

武道・トレーニング用品の総合メーカー

株式会社イサミⓈ係

〒346-0015 埼玉県久喜市西528-2

TEL.0480-24-0711(代) FAX.0480-24-0713

| 注文受付時間 | |
|---|---|
| 平日 | 9:00~21:00 |
| 土・日・祝日 | 9:00~18:00 |

★ 総合カタログご希望の方は切手¥160分をご送付下さい。

イサミの商品は、通信販売の他、お近くの代理店でも、お求めいただけます。

●(株)建武堂(東京池袋)…TEL 03-3986-5255

●尚武堂産業(東京水道橋)……TEL03-3815-0411

●神奈川八光堂(横浜市)……TEL045-261-6834

●赤心堂(大阪市難波・東大阪市)…TEL06-6649-7111

●(株)公武堂(名古屋市)……TEL052-241-2511

●林藤武道具(石川県金沢市)……TEL0762-52-2220

●(有)東京武道具(札幌市)……TEL011-241-6345

●(株)いさご武道具(仙台市)……TEL022-262-2562

●(株)マルシン(京都市)……TEL075-841-1523

●(株)三恵(長崎県諫早市)……TEL0957-22-5210

●ケイ・ワールド(札幌市)……TEL011-818-7885

●タネイ豊橋店(愛知県)……TEL0532-55-8581

取扱店

◆正春武道具(株)(京都市)……TEL0757-51-0219

◆成松武道具(福岡県飯塚市)……TEL0948-22-2593

◆北九州武道具(有)(北九州市)……TEL093-521-5723

◆九州武道具(株)(久留米市)……TEL0942-33-5927

◆廣武堂(横須賀市)……TEL0468-51-0412

◆(有)鈴江武道具店(徳島市)……TEL0886-31-8268

◆山添武道具店(岡山市)……TEL086-225-5471

### ご注文方法

| | |
|---|---|
| 代引 | TEL又はFAXにてご注文下さい。お支払いは商品到着時に配達員へお支払い下さい。商品代金+送料+代引手数料+消費税 |
| 現金書留 | TELにてお問い合わせの上、注文書と商品代金+送料+消費税をご送金下さい。 |
| カード | TELにてご注文下さい。合計¥10,000よりご利用できます。合計¥20,000より2回払いも承ります。 |
| 分割 | 合計¥50,000よりご利用できます。詳細はTELにてお問い合わせ下さい。 |

セントラルファイナンス

### ご注意

★沖縄県、北海道、及び離島の方は送料をお問い合わせ下さい。

★代引手数料

総額 ¥10,000未満→ ¥300

総額 ¥30,000未満→ ¥400

総額 ¥100,000未満→ ¥600

総額 ¥100,000以上→ ¥1,000

★表示の価格及び送料には消費税が含まれておりません。

★万一、不良品があった場合は送料当社負担にて交換します。お客様ご都合による返品は未使用に限り可。着品後、1週間以内に電話連絡の上ご返却下さい。その際の返送料はお客様負担となります。

ご使用いただけるカード ディーシー ビザ マスター ミリオン ジェーシービー

# 最終販売！はやくも伝説の8・28『Dynamite!』記念グッズ！

●『Dynamite!』大会記念TシャツA（カラー黄・白・ターコイズ／サイズS・M・L・XL）※カラー白/Sサイズは完売

¥3,000（税別）

●『Dynamite!』大会記念チューリップハット

¥1,800（税別）

●『Dynamite!』大会記念タオル（ダイナマイト筒に封入）

¥2,000（税別）

## ご注文方法

**ご注文は電話 or サイト受付のみです**

『グレート・アントニオ』&『ヤマダ元気』通販専用NAVIダイヤル

☎ 0570-007800 ※携帯電話からは掛かりません。

☎ 03-3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。

【受付曜日・時間】月曜日～土曜日 AM10:00～PM6:00

グレート・アントニオ

http://www.great-antonio.jp

ヤマダ元気

http://www.yamadagenki.com

【24時間受付】

**商品お渡し方法**

代金引換でのお受け取りとなります。

◎商品代金のほかに送料約700円（ゆうパック）、代引手数料約250円（いずれも地域によって異なります）がかかります。

◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で（株）ジャンボ（大阪）より郵送いたします。（ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください）

**ご注意**

◎代金、送料の先払いはお受けできません。

◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。（期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます）

◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、通販のご注文は受け付けておりません。

## ACCESS MAP

とうふパン専科 グレート・アントニオ

◎神保町駅（半蔵門線/都営新宿線/都営三田線）より徒歩5分
◎小川町駅（都営新宿線）より徒歩5分
◎淡路町駅（丸ノ内線）より徒歩6分
◎竹橋駅（東西線）より徒歩8分

OPEN 11:00～20:00（月曜定休）
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

# たっつぁん万座ビーチ

読書の秋なので格闘技ファン必読書あり
人恋しい季節なので、『●●●●●』も

読者プレゼント

### 【伊藤忠ファッションシステム提供】

元気があれば何度でも……できないんだよなぁ、最近……

**INOKIX コンドーム**　各2名様

**INOKIX ウォッチ**　各1名様

※コンドームのほうは、もうすでに販売しているので、さっそく使用した人もいるかもしれませんが、まだ、という人のためにプレゼント！「元気があれば何度でもできる」2,000円、「いつ何時　誰の挑戦でも受ける！」1,000円、迷わず使えよ、使えばわかるさ」1,000円（全て税別）。ウォッチはスウォッチ系（4,000円）、ミリタリー系（1～2万円）、ダイバーズ系（3万円～）今月より随時発売予定（プレゼント商品は写真と異なる場合があります、ご了承願います）。http/:inokix.excite.co.jp/

### 【吉田道場提供】

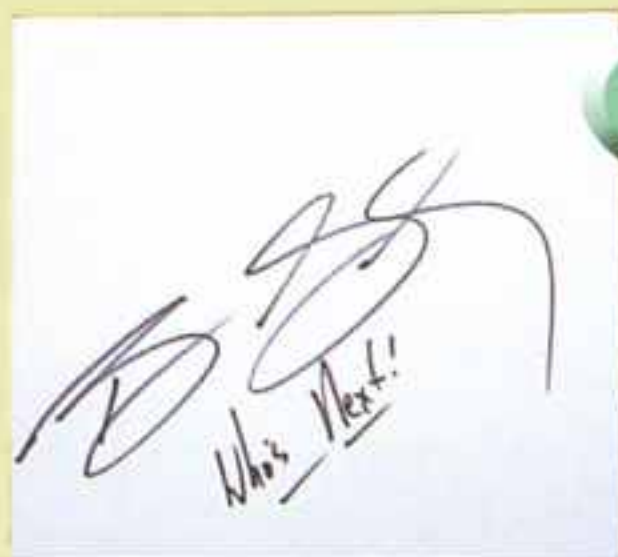
最近すっかり涼しくなってきちゃったけど、
まだまだ暑い日もあるよ！

**吉田秀彦326イラストうちわ**　5名様

表　裏

※100円。吉田秀彦グッズは吉田秀彦ホームページでご購入できます。詳しくは http://www.hidehiko.jp/index.html

### 【本誌編集部提供】

超"お宝"大放出！　2度とないチャンスだゾ！

**ゴールドバーグ直筆サイン**　2名様

※前号でインタビューをお届けしたビル・ゴールドバーグに、実はサインをいただいていたのだ。当たったらすぐに額に入れて家宝にしろ！

### 【本誌編集部ハッシー提供】

編集部ハッシー記者のNY土産です！

**ロック様 水筒**　2名様

**ロック様 キーチェーン**　2名様

※編集部のハッシー記者が、お休みにニューヨークに行って来ました。心優しきハッシーが読者の皆さんにお土産を買ってきましたので、プレゼントしま～す！　せっかくなのでもらったってください。

### 【河出書房提供】

柔道家・吉田秀彦が全て分かる！

**『攻める。』**
（吉田秀彦著）　5名様

※定価1,500円（税別）。全国の書店で好評発売中！

### 【角川文庫提供】

涙なしには読めない。感動の物語！

**『大山倍達、世界制覇の道』**
（大山倍達著）　5名様

**『わが夫、大山倍達』**
（大山智弥子著）　5名様

※『大山倍達、世界制覇の道』定価438円（税別）、『わが夫、大山倍達』定価552円（税別）。全国の書店で好評発売中！

### 応募方法

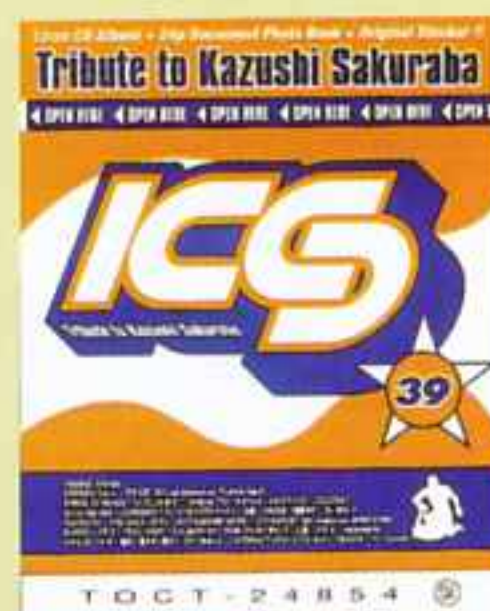
**ハガキには必ず応募券を貼ろう！**

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼本誌に対するご意見・ご感想
を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先は　〒101-0054　東京都千代田区
神田錦町3-14-12　神田NSビル8F
SRS・DX編集部『たっつぁん万座ビーチ⑲』係まで
締め切り…2002年10月17日（木）当日消印有効。

### 【高田道場提供】

桜庭和志応援アルバムが遂に実現！

**CD『KS-Tribute to Kazushi Sakuraba』**　2名様

※桜庭を、格闘技を愛するジャンルを超えた総勢13アーティストが結給！　24P撮り下ろしドキュメンタリーブックレット仕様。さらに初回盤限定特典として、KSロゴがデザインされた「サク」ケース、ロゴ、ジャケットなどが切り取れるステッカー入り。応募抽選で100名様にオリジナルTシャツプレゼント。9/26 ON SALE!　定価3,000円（税込）。
お問い合わせは東芝EMI（株）Virgin Tokyo
☎03-3587-9039

### 【東邦出版提供】

ぼくらのサクはまた必ず帰ってくる！

**『帰ってきた ぼく。』**
（桜庭和志著）　5名様

※定価1,500円（税別）。全国の書店で好評発売中！

応募券
たっつぁん万座ビーチ
79